

# 西宮市障害者等実態調査

## 【結果報告書】

令和5年8月

西宮市

# 目次

I	調査の概要（身体・療育・精神・難病・障害児）	1
1.	調査の目的	1
2.	調査概要	1
3.	報告書の見方	1
II	調査結果（身体・療育・精神・難病）	2
1.	回答者について	2
2.	暮らしについて	13
3.	スポーツについて	34
4.	仕事のことについて	36
5.	地域での行事などのことについて	54
6.	災害が起こったときのことについて	56
7.	医療的ケアのことについて	62
8.	障害のある人に対する理解と権利を守るためのしくみについて	65
9.	相談や福祉などの情報のことについて	77
10.	障害福祉サービスの使い方のことについて	95
11.	西宮市の障害のある人への取り組みについて	100
12.	あなたを介助・支援している人のことについて	107
13.	封筒のあて名のご本人を介助・支援しているご家族の方にお聞きします。	109
III	調査結果（障害児）	115
1.	回答者について	115
2.	ふだんの暮らしについて	120
3.	学校のこと、将来のことについて	122
4.	スポーツのことについて	127
5.	災害が起こったときのことについて	128
6.	医療的ケアのことについて	133
7.	障害のある人に対する理解について	135
8.	障害福祉サービスなどの使い方のことについて	139
9.	西宮市の障害のある人への取り組みについて	148
10.	あなたを介助・支援している人のことについて	151
11.	封筒のあて名のご本人のご家族の方にお聞きします。	152

IV	調査の概要（企業・サービス提供事業所・関係団体）	169
1.	調査の目的	169
2.	調査概要	169
3.	報告書の見方	169
V	調査結果（企業）	170
1.	事業所について	170
2.	今後の障害者雇用について	185
3.	合理的配慮について	192
4.	障害のある人の社会参加について	194
VI	調査結果（サービス提供事業所）	199
1.	事業所について	199
2.	障害のある人の暮らしについて	217
3.	合理的配慮について	221
4.	連携・協働について	223
5.	防災について	227
VII	調査結果（関係団体）	232
1.	団体について	232
2.	地域での生活について	233

# I 調査の概要（身体・療育・精神・難病・障害児）

## 1. 調査の目的

本調査は、「西宮市障害福祉推進計画」を策定するにあたり、障害のある人の生活状況やサービスの利用意向などを把握し、計画策定のほか、施策推進のための基礎資料とすることを目的に実施しました。

## 2. 調査概要

- 調査地域 : 西宮市全域
- 調査対象者 : 身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、特定医療費（指定難病）受給者証所持者
- 抽出方法 : 無作為抽出
- 調査期間 : 令和4年11月29日～12月20日
- 調査方法 : 郵送配布・郵送回収／インターネット回答
- ◆ 調査票配布数

	配布数	回収数	回答率
身体障害者手帳所持者	1,500	658	43.9%
療育手帳所持者	1,000	457	45.7%
精神障害者保健福祉手帳所持者	1,000	411	41.1%
障害児 (18歳未満の身体障害者手帳所持者、または療育手帳所持者)	1,000	443	44.3%
特定医療費(指定難病)受給者証所持者	500	235	47.0%
合計	5,000	2,203	44.1%

## 3. 報告書の見方

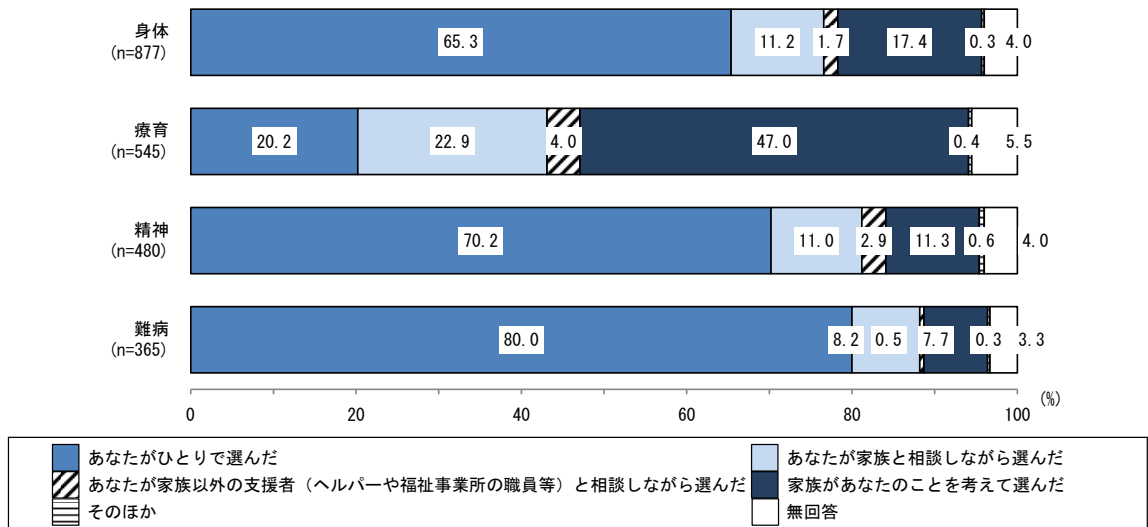
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 表・グラフ及びその説明について、【身体】【療育】【精神】【難病】はそれぞれ、アンケートの回答に基づく身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、難病認定を受けた者を指します。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- グラフ中の「0.0%」については、表示上で省略している場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- グラフ中の回答割合について、グラフが見づらくなる場合は省略しています。

## Ⅱ 調査結果（身体・療育・精神・難病）

### 1. 回答者について

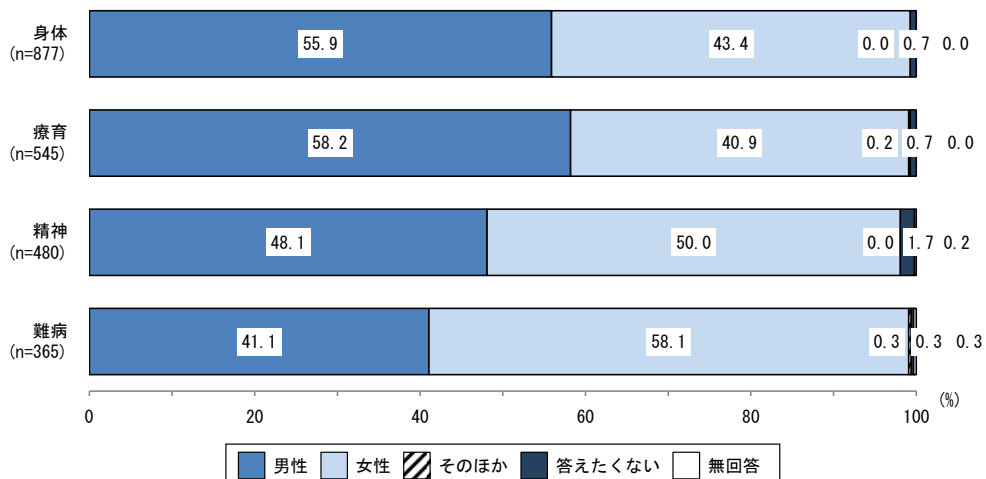
#### 1 回答者（単数回答）

【身体】、【精神】、【難病】は「あなたひとりで選んだ」が最も高い一方で、【療育】は「家族があなたのことを考えて選んだ」が最も高く、47.0%となっています。



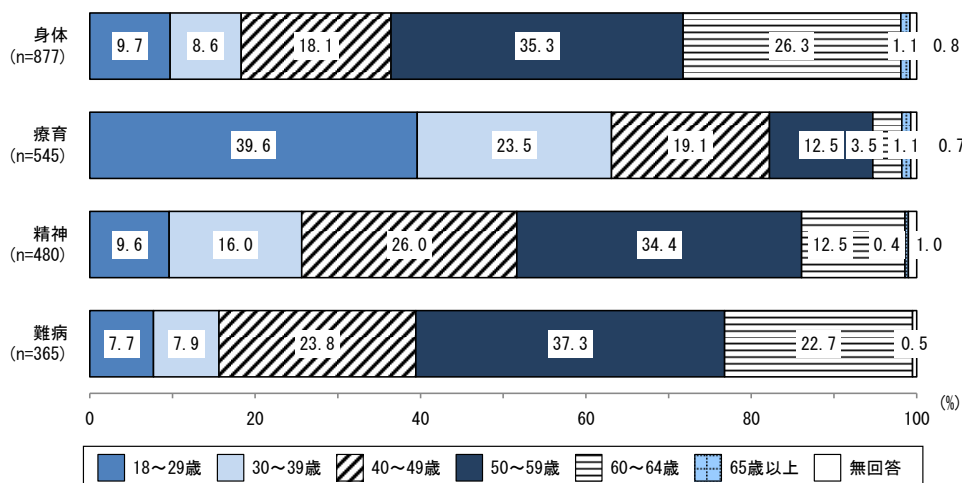
#### 2 性別（単数回答）

【身体】【療育】は男性が女性を上回り、【精神】はほぼ同数、【難病】は女性が男性を上回っています。



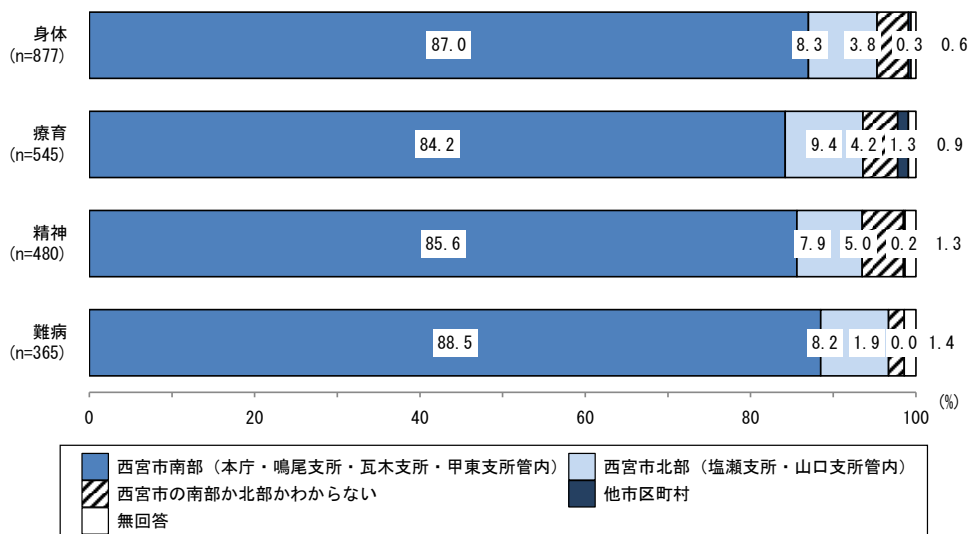
### 3 年齢（数量回答）

【身体】【精神】【難病】は「50～59歳」が最も高く、【療育】は「18～29歳」が39.6%と最も高くなっています。



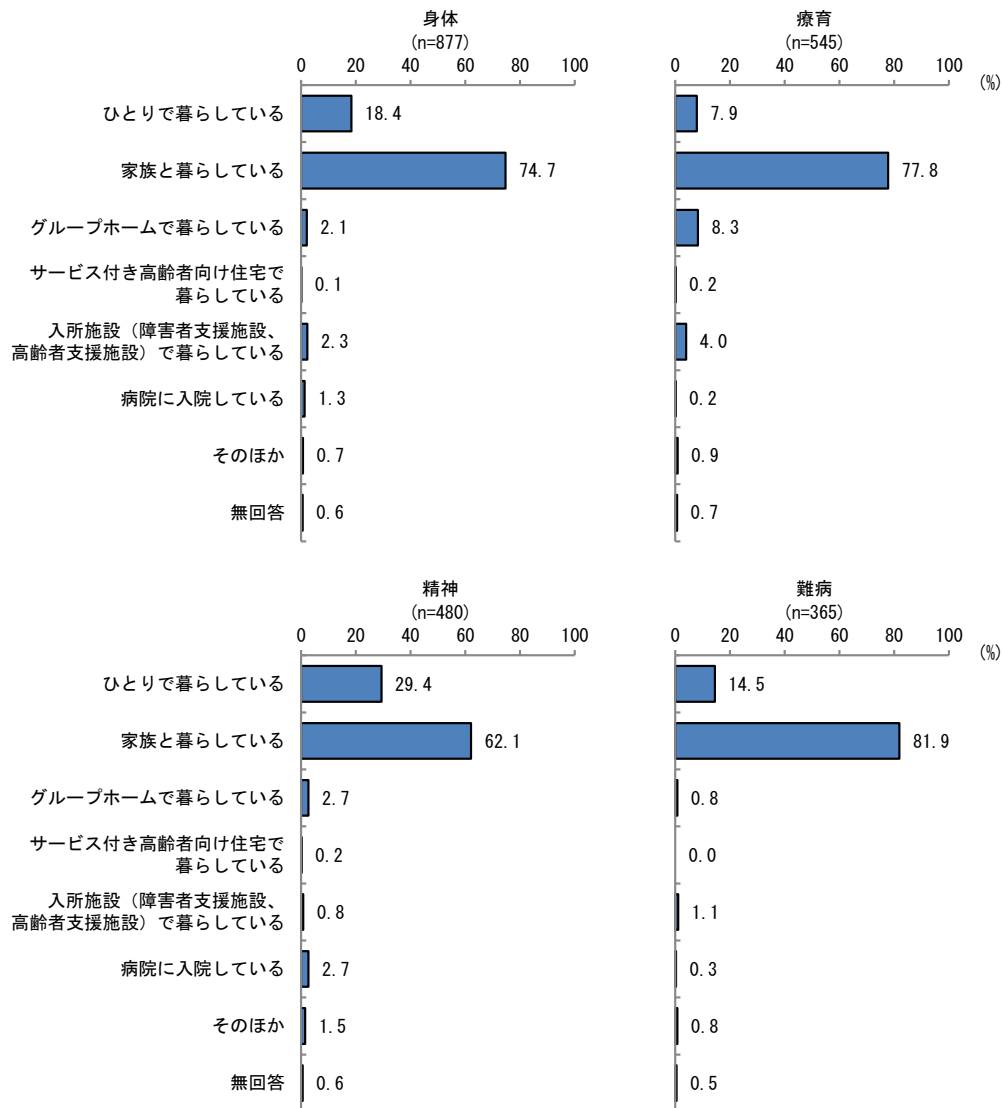
### 4 住まい（単数回答）

4 障害ともに「西宮市南部（本庁・鳴尾支所・瓦木支所・甲東支所管内）」が最も高くなっています。



## 5 現在どのように暮らしているか（単数回答）

4 障害ともに「家族と暮らしている」が最も高くなっています。



### ◇現在どのように暮らしているか×年齢別

4障害ともに年齢にかかわらず「家族と暮らしている」が高い傾向にあります。【療育】は30歳以上になると「グループホームで暮らしている」や「入所施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている」の回答がおよそ1割となっています。

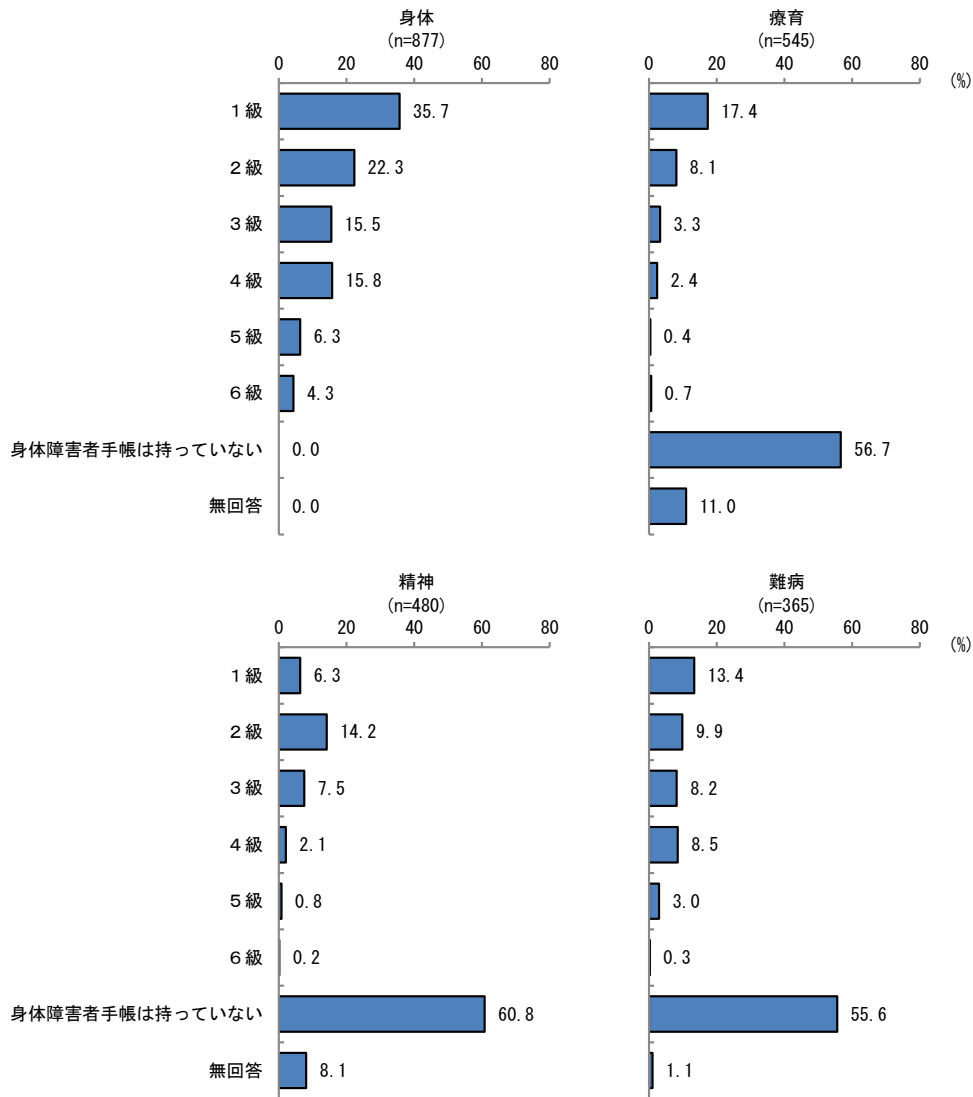
		回答数	ひとりで暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	サービス付き高齢者向け住宅で暮らしている	入所施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている	病院に入院している	その他	無回答
身体	18～29歳	85	8.2	85.9	1.2	0.0	2.4	0.0	1.2	1.2
	30～39歳	75	6.7	84.0	2.7	0.0	1.3	1.3	1.3	2.7
	40～49歳	159	12.6	78.6	1.9	0.0	3.8	1.9	0.6	0.6
	50～59歳	310	23.2	70.0	2.6	0.3	1.6	1.3	1.0	0.0
	60～64歳	231	24.2	71.0	1.7	0.0	1.3	1.3	0.0	0.4
	65歳以上	10	0.0	80.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
療育	18～29歳	216	5.6	90.7	1.4	0.0	1.9	0.0	0.0	0.5
	30～39歳	128	3.9	84.4	10.2	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8
	40～49歳	104	6.7	67.3	15.4	0.0	7.7	1.0	1.0	1.0
	50～59歳	68	14.7	54.4	14.7	1.5	8.8	0.0	4.4	1.5
	60～64歳	19	47.4	31.6	10.5	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	6	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
精神	18～29歳	46	10.9	78.3	6.5	0.0	0.0	2.2	0.0	2.2
	30～39歳	77	23.4	70.1	2.6	0.0	0.0	2.6	1.3	0.0
	40～49歳	125	32.8	58.4	0.8	0.0	1.6	2.4	2.4	1.6
	50～59歳	165	30.3	62.4	3.0	0.0	1.2	1.8	1.2	0.0
	60～64歳	60	43.3	43.3	3.3	1.7	0.0	6.7	1.7	0.0
	65歳以上	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病	18～29歳	28	3.6	92.9	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	29	13.8	79.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	3.4
	40～49歳	87	9.2	83.9	1.1	0.0	3.4	1.1	0.0	1.1
	50～59歳	136	18.4	80.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0
	60～64歳	83	18.1	80.7	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



## 6 「身体障害者手帳」の等級（単数回答）

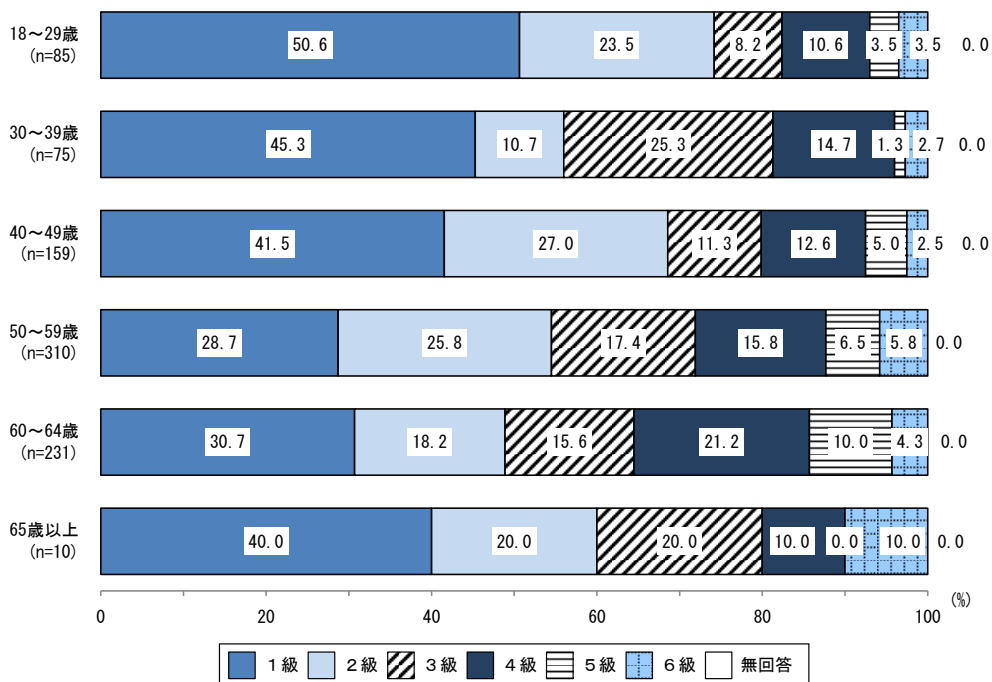
【身体】は「1級」が35.7%と最も高く、次いで「2級」が22.3%と重度の割合が高くなっています。

【療育】【精神】【難病】に該当し、身体障害者手帳を持っている人も「1級」や「2級」が高い傾向にありますが、【精神】のみ「2級」に次いで「3級」が高くなっています。



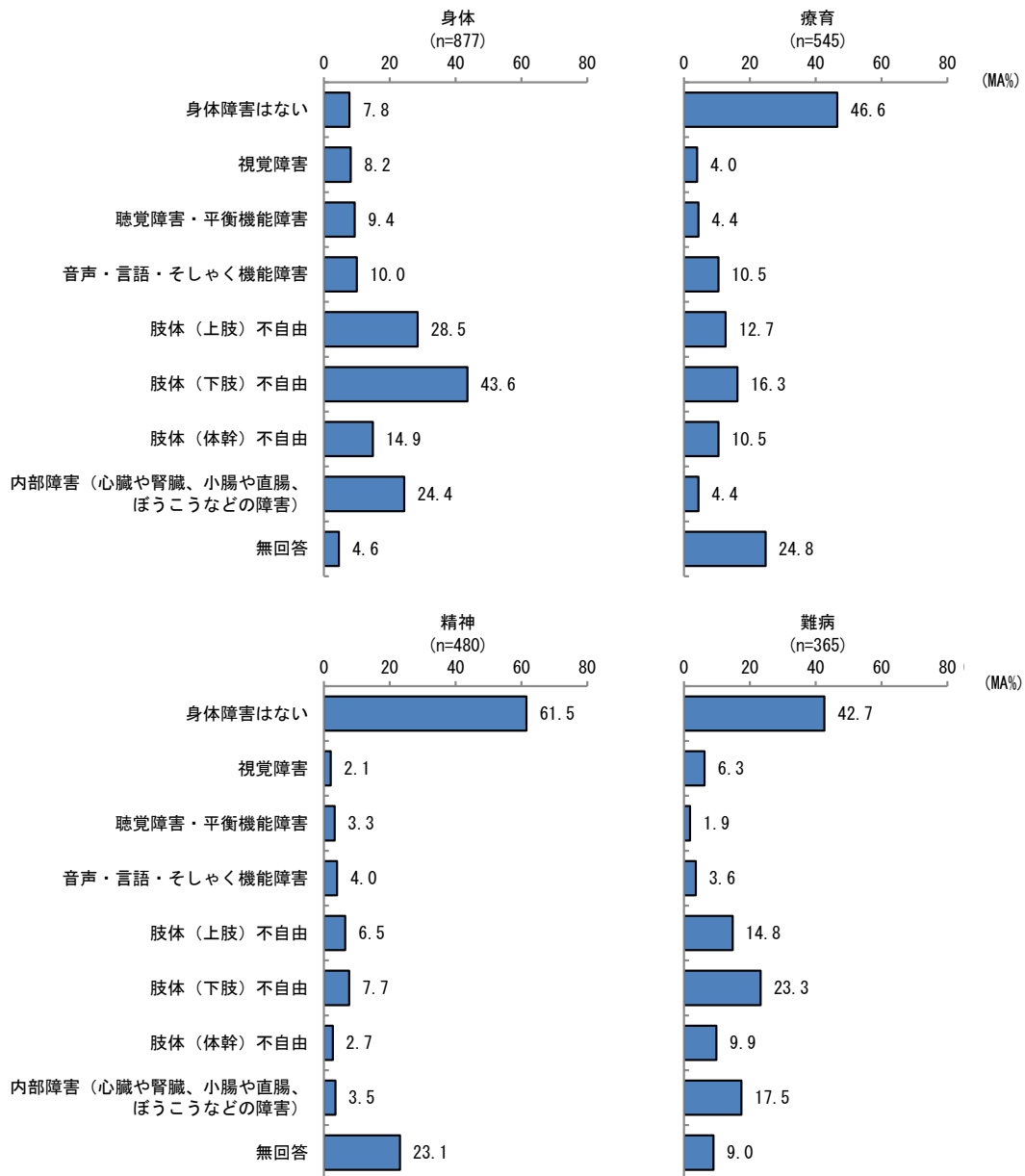
◇ 「身体障害者手帳」の等級×年齢別

いずれの年齢においても「1級」が最も高く、「50～59歳」までは年齢が高くなるほど「1級」の割合が減少しますが、それ以降、年齢が高くなるにつれて「1級」の割合が増加しています。



## 7 身体障害の種類（複数回答）

【身体】は「肢体（下肢）不自由」が43.6%と最も高く、次いで「肢体（上肢）不自由」が28.5%となっています。



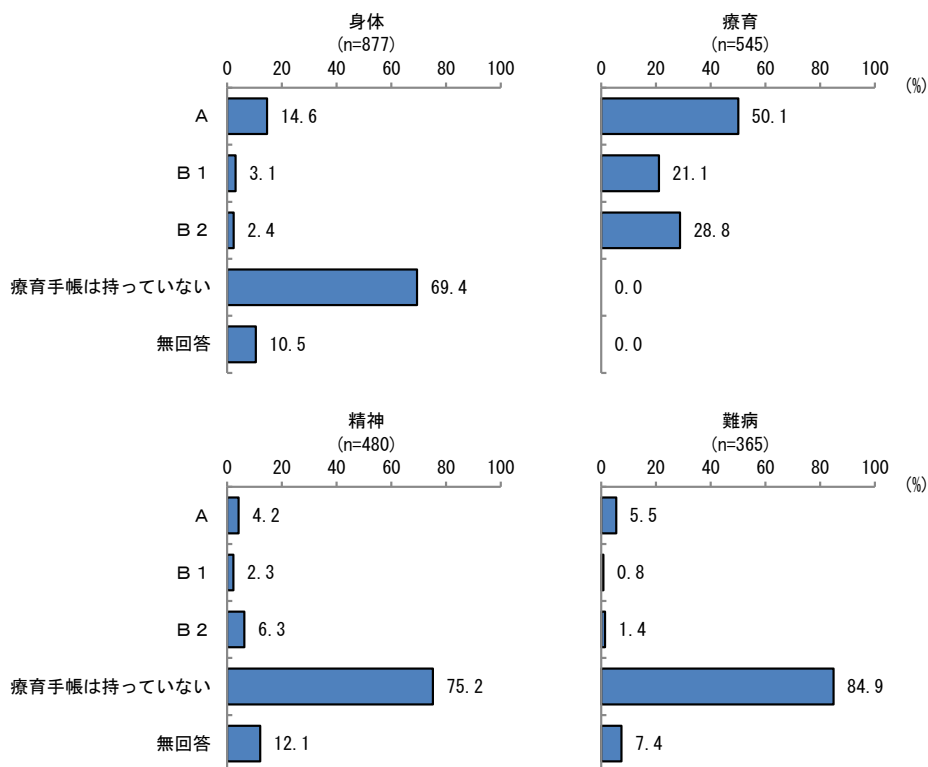
### ◇身体障害の種類×等級

1級は「内部障害（心臓や腎臓、小腸や直腸、ぼうこうなどの障害）」が45.7%と最も高く、2級から6級では「肢体（下肢）不自由」が最も高くなっています

身体	回答数	身体障害 はない	視覚障害	聴覚障 害・平衡 機能障害	音声・言 語・そしゃ く機能障 害	肢体(上 肢)不自 由	肢体(下 肢)不自 由	肢体(体 幹)不自 由	内部障害 (心臓や 腎臓、小 腸や直 腸、ぼう こうなど の障 害)	無回答	
	1級	313	3.8	8.6	4.5	16	36.7	44.7	25.6	45.7	1.9
	2級	196	16.8	11.2	14.8	7.7	29.1	38.8	12.8	4.6	11.2
	3級	136	15.4	6.6	10.3	8.1	24.3	29.4	11.8	19.1	5.9
	4級	139	1.4	2.9	7.9	7.9	15.1	54.7	2.2	25.2	1.4
	5級	55	0	14.5	3.6	0	20	58.2	10.9	1.8	3.6
	6級	38	0	5.3	31.6	2.6	34.2	47.4	2.6	0	0

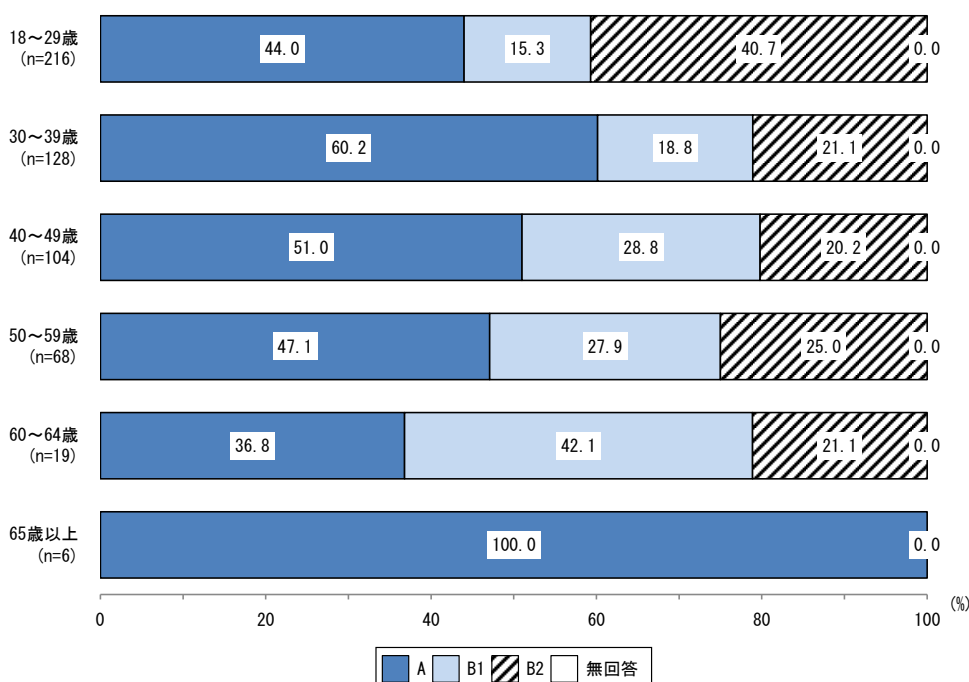
## 8 「療育手帳」の判定（単数回答）

【療育】では「A」が50.1%と最も高く、次いで「B 2」が28.8%、「B 1」が21.1%となっています。



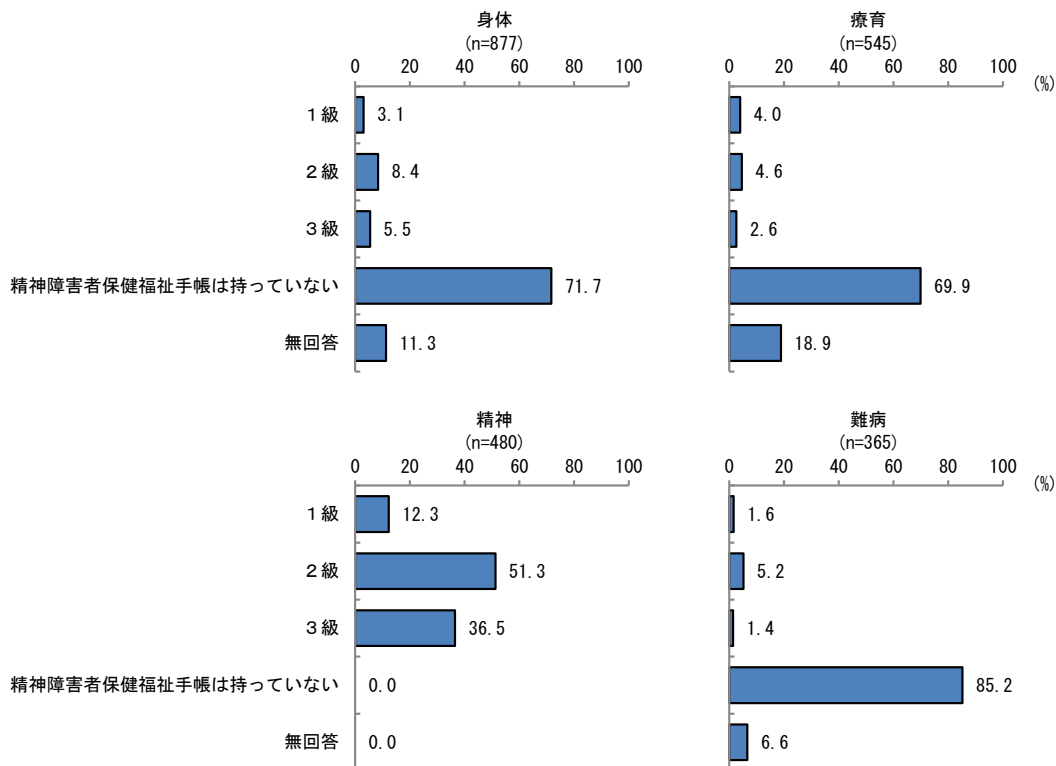
### ◇ 「療育手帳」の判定×年齢別

30～39 歳から 60～64 歳にかけて「A」の割合が減少し、「B 1」の割合が増加しています。また、「18～29 歳」は、「A」と「B 2」がそれぞれおよそ 4 割と同程度となっています。



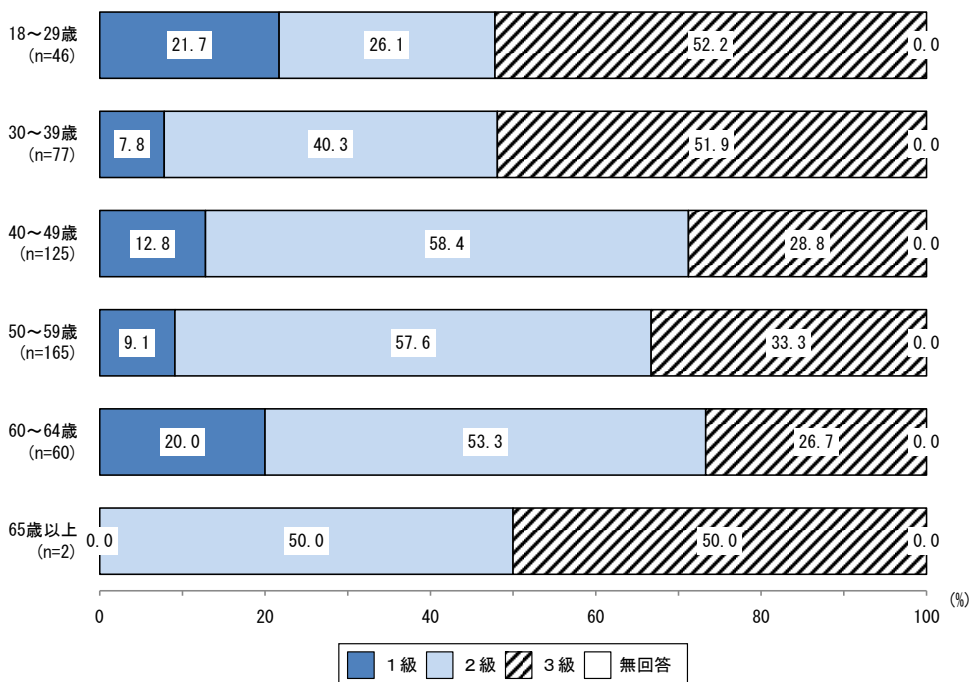
## 9 「精神障害者保健福祉手帳」の等級（単数回答）

【精神】は「2級」が51.3%と最も高く、次いで「3級」が36.5%、「1級」が12.3%となっています。



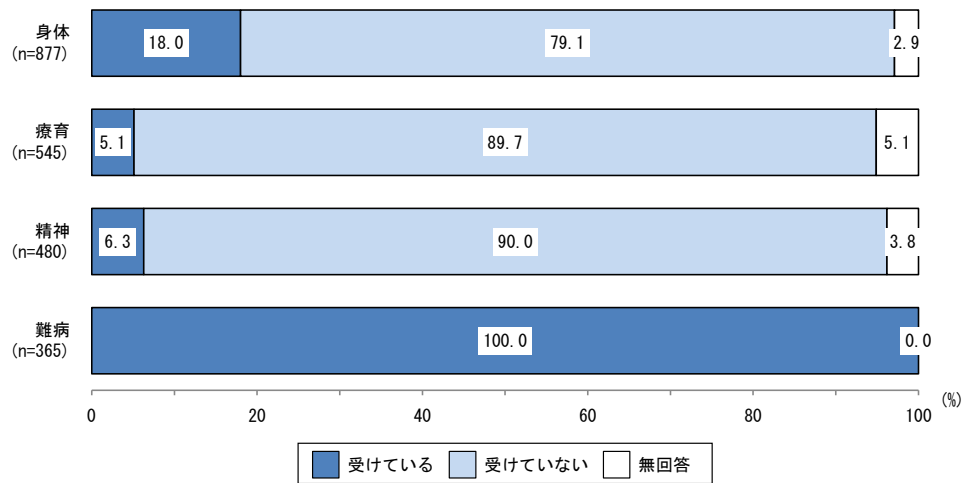
### ◇ 「精神障害者保健福祉手帳」の等級×年齢別

40歳未満では「3級」がおよそ5割ですが、40歳以上になると「2級」が5割以上を占めています。



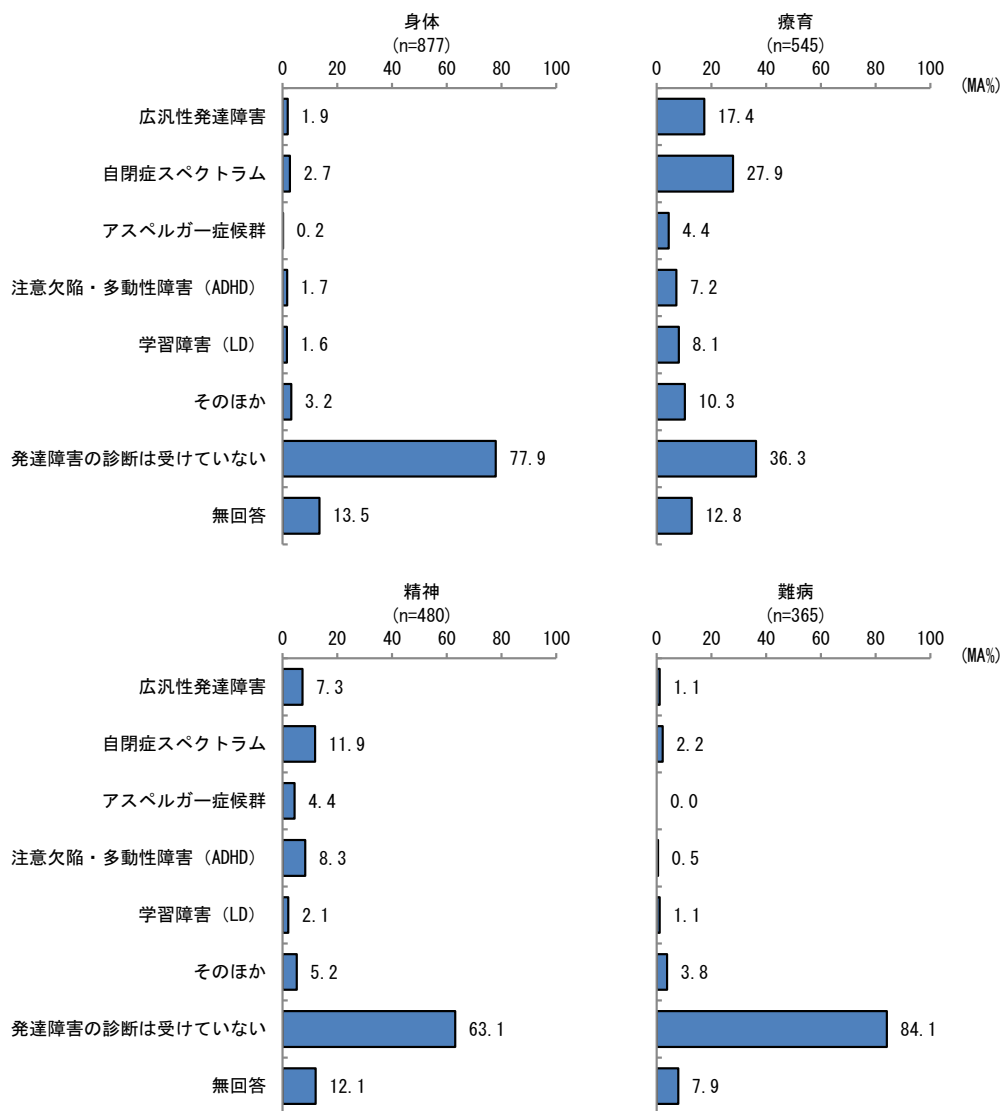
## 10 難病（特定疾患）の認定（単数回答）

【身体】で「受けている」が18.0%と【療育】【精神】に比べて高くなっています。



## 11 発達障害の診断（複数回答）

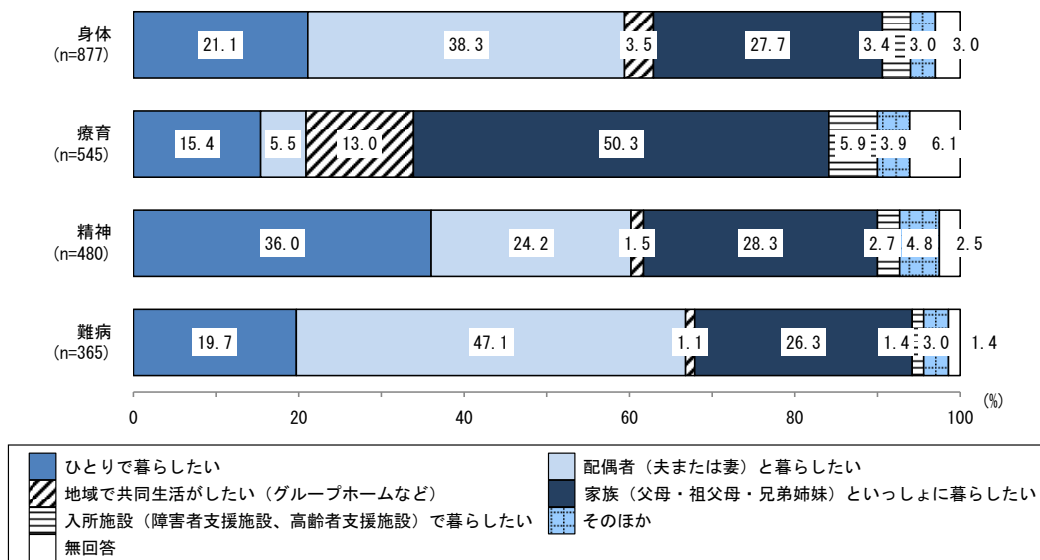
【療育】は「自閉症スペクトラム」が27.9%、「広汎性発達障害」が17.4%となっています。



## 2. 暮らしについて

### 1 どのような暮らし方をしたいか（単数回答）

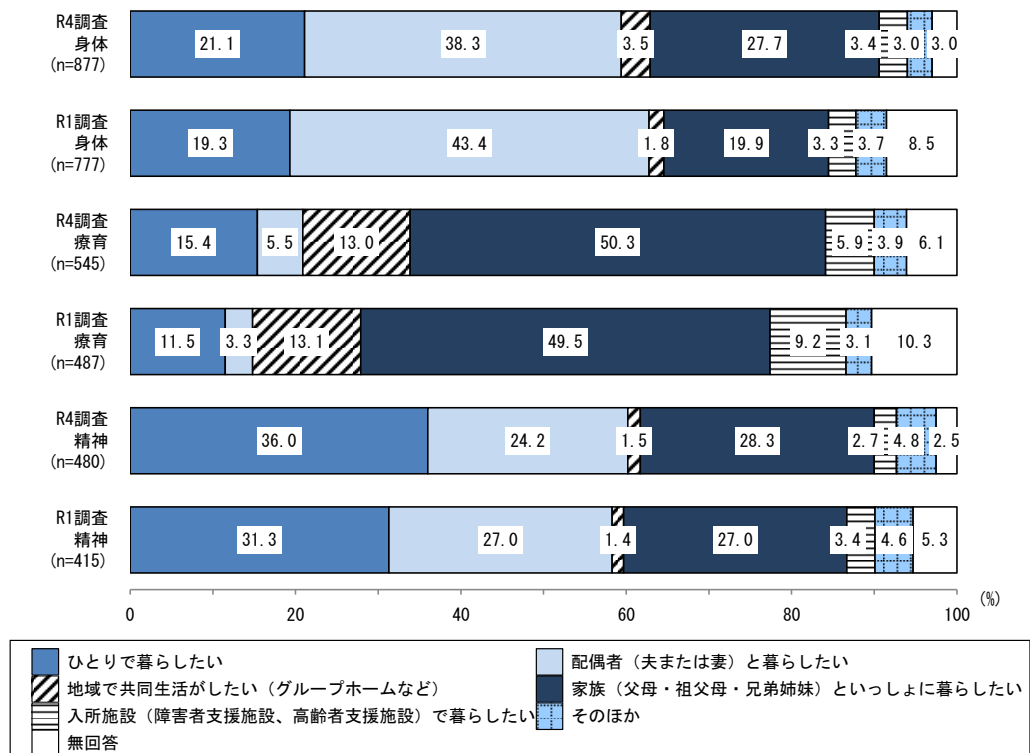
【身体】【難病】は「配偶者（夫または妻）と暮らしたい」、【療育】は「家族（父母・祖父母・兄弟姉妹）といっしょに暮らしたい」、【精神】は「ひとりで暮らしたい」が最も高くなっています。



### ◇どのような暮らし方をしたいか×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較すると、3障害ともに「ひとりで暮らしたい」「家族（父母・祖父母・兄弟姉妹）といっしょに暮らしたい」が増加傾向にあります。特に「家族（父母・祖父母・兄弟姉妹）といっしょに暮らしたい」において、【身体】は19.9%から27.7%と7.8ポイントの増加が見られます。

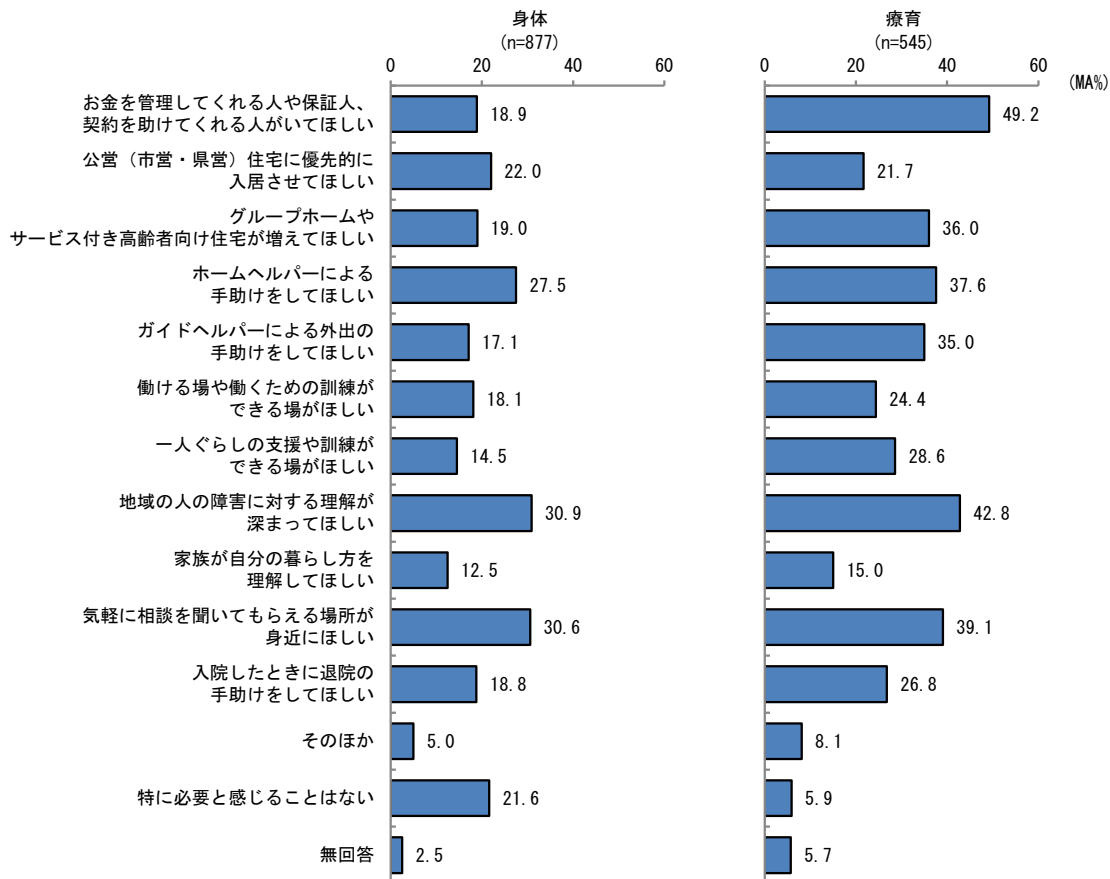
#### 【前回調査との比較】

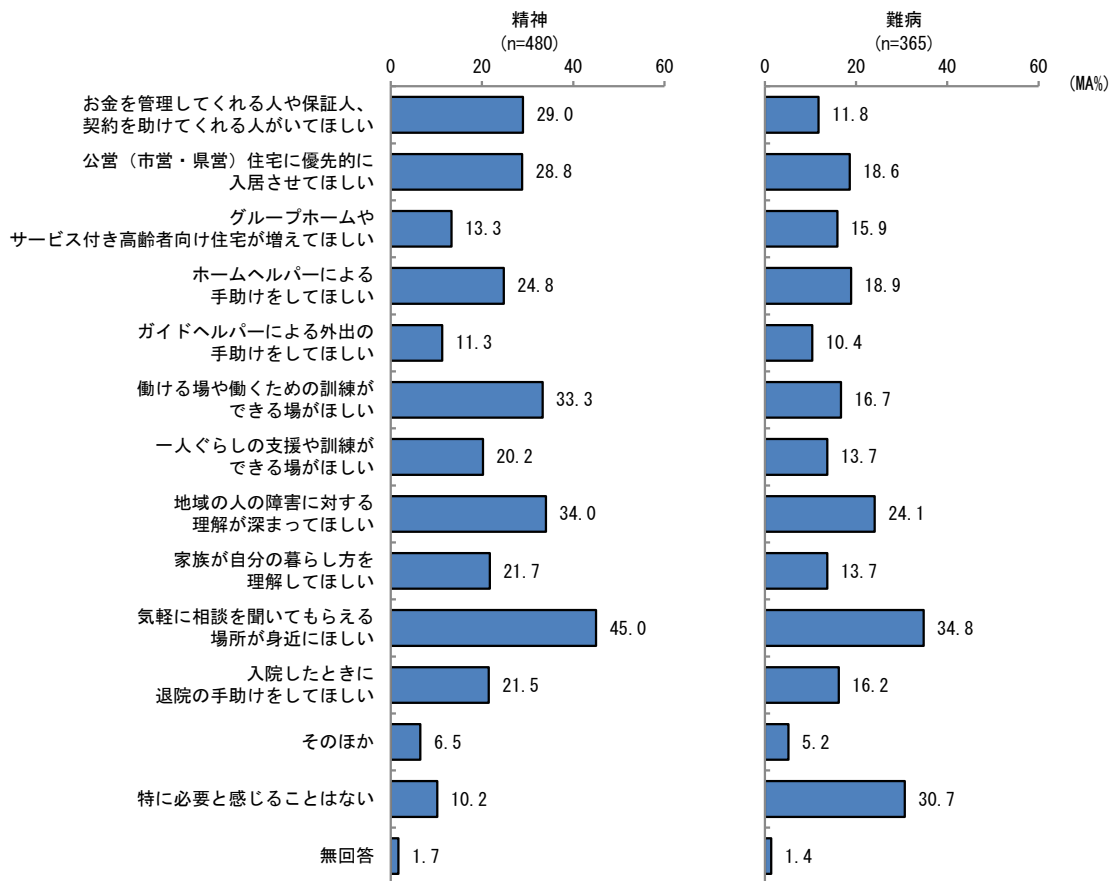




## 2 地域で自立した生活をするにあたって必要なこと（複数回答）

【身体】は「地域の人の障害に対する理解が深まってほしい」、【療育】は「お金を管理してくれる人や保証人、契約を助けてくれる人がいてほしい」、【精神】【難病】は「気軽に相談を聞いてもらえる場所が身近にほしい」が最も高くなっています。





◇地域で自立した生活をするにあたって必要なこと×年齢別

【身体】【療育】は年齢が低いほど「地域の人への障害に対する理解が深まってほしい」が高く、【身体】は「お金を管理してくれる人や保証人、契約を助けてくれる人がいてほしい」「ガイドヘルパーによる外出の手助けをしてほしい」「一人ぐらしの支援や訓練ができる場がほしい」も同様の傾向がみられます。

【精神】は他の障害に比べて「気軽に相談を聞いてもらえる場所が身近にほしい」と「働ける場や働くための訓練ができる場所がほしい」が特に若い世代で高くなっています。

【難病】はいずれの年齢でも「特に必要と感ずることではない」と「気軽に相談を聞いてもらえる場所が身近にほしい」がおよそ3割となっています。

		回答数	お金を管理してくれる人や保証人、契約を助けてくれる人がいてほしい	公営(市営・県営)住宅に優先的に入居させてほしい	グループホームやサービス付き高齢者向け住宅が増えてほしい	ホームヘルパーによる手助けをしてほしい	ガイドヘルパーによる外出の手助けをしてほしい	働ける場や働くための訓練ができる場がほしい	一人ぐらしの支援や訓練ができる場がほしい
身体	18～29歳	85	43.5	21.2	31.8	45.9	41.2	18.8	30.6
	30～39歳	75	26.7	20.0	22.7	29.3	25.3	24.0	21.3
	40～49歳	159	20.8	25.2	18.9	23.9	17.0	19.5	13.2
	50～59歳	310	13.2	24.5	15.8	28.7	13.5	21.3	11.9
	60～64歳	231	13.9	17.7	17.7	20.8	9.5	10.8	10.8
	65歳以上	10	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0
療育	18～29歳	216	55.6	25.0	33.8	38.9	35.6	31.9	40.7
	30～39歳	128	52.3	18.8	39.8	39.1	39.8	18.0	24.2
	40～49歳	104	39.4	23.1	35.6	28.8	33.7	22.1	24.0
	50～59歳	68	39.7	11.8	33.8	39.7	29.4	23.5	8.8
	60～64歳	19	52.6	26.3	47.4	57.9	26.3	10.5	26.3
	65歳以上	6	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0
		回答数	地域の人への障害に対する理解が深まってほしい	家族が自分の暮らし方を理解してほしい	気軽に相談を聞いてもらえる場所が身近にほしい	入院したときに退院の手助けをしてほしい	その他	特に必要と感ずることではない	無回答
身体	18～29歳	85	50.6	15.3	42.4	23.5	10.6	12.9	2.4
	30～39歳	75	40.0	13.3	32.0	20.0	9.3	17.3	0.0
	40～49歳	159	30.8	11.3	26.4	18.9	5.0	23.3	2.5
	50～59歳	310	30.0	13.2	33.2	19.4	2.6	18.1	2.3
	60～64歳	231	22.9	11.7	26.0	16.0	3.9	29.9	1.7
	65歳以上	10	10.0	0.0	20.0	20.0	20.0	30.0	30.0
療育	18～29歳	216	51.9	15.3	47.2	25.9	9.7	4.2	2.8
	30～39歳	128	48.4	13.3	41.4	26.6	7.0	8.6	2.3
	40～49歳	104	33.7	18.3	32.7	26.9	7.7	5.8	12.5
	50～59歳	68	27.9	16.2	25.0	26.5	4.4	4.4	10.3
	60～64歳	19	21.1	10.5	31.6	42.1	5.3	10.5	0.0
	65歳以上	6	16.7	0.0	16.7	16.7	33.3	0.0	33.3

		回答数	お金を管理してくれる人や保証人、契約を助けてくれる人がいてほしい	公営(市営・県営)住宅に優先的に入居させてほしい	グループホームやサービス付き高齢者向け住宅が増えてほしい	ホームヘルパーによる手助けをしてほしい	ガイドヘルパーによる外出の手助けをしてほしい	働ける場や働くための訓練ができる場がほしい	一人ぐらしの支援や訓練ができる場がほしい
精神	18～29歳	46	52.2	19.6	8.7	17.4	8.7	41.3	23.9
	30～39歳	77	19.5	24.7	9.1	15.6	10.4	54.5	33.8
	40～49歳	125	30.4	32.8	12.8	24.0	13.6	32.8	18.4
	50～59歳	165	26.1	29.1	15.8	28.5	10.9	27.3	17.6
	60～64歳	60	26.7	30.0	16.7	35.0	10.0	18.3	11.7
	65歳以上	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
難病	18～29歳	28	39.3	25.0	25.0	25.0	25.0	17.9	25.0
	30～39歳	29	17.2	20.7	10.3	3.4	0.0	27.6	24.1
	40～49歳	87	8.0	23.0	17.2	12.6	11.5	19.5	11.5
	50～59歳	136	6.6	16.9	14.7	25.0	11.0	16.2	11.0
	60～64歳	83	13.3	14.5	15.7	19.3	7.2	10.8	13.3
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		回答数	地域の人の障害に対する理解が深まってほしい	家族が自分の暮らし方を理解してほしい	気軽に相談を聞いてもらえる場所が身近にほしい	入院したときに退院の手助けをしてほしい	そのほか	特に必要と感ずることはない	無回答
精神	18～29歳	46	43.5	21.7	67.4	17.4	6.5	4.3	0.0
	30～39歳	77	41.6	22.1	51.9	16.9	14.3	9.1	1.3
	40～49歳	125	31.2	21.6	43.2	23.2	7.2	7.2	0.0
	50～59歳	165	36.4	22.4	37.6	23.0	4.8	11.5	2.4
	60～64歳	60	16.7	18.3	43.3	25.0	0.0	20.0	3.3
	65歳以上	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
難病	18～29歳	28	35.7	3.6	32.1	14.3	0.0	28.6	0.0
	30～39歳	29	34.5	13.8	34.5	27.6	10.3	27.6	0.0
	40～49歳	87	28.7	14.9	37.9	14.9	11.5	26.4	2.3
	50～59歳	136	19.1	15.4	33.8	16.9	2.9	35.3	0.0
	60～64歳	83	20.5	13.3	34.9	13.3	2.4	28.9	2.4
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

◇地域で自立した生活をするにあたって必要なこと×判定・等級

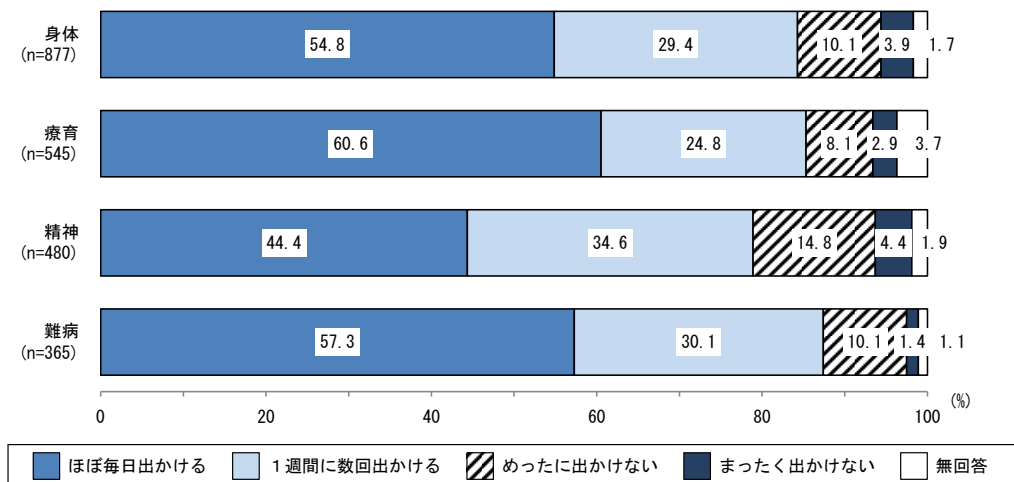
【療育】は「ガイドヘルパーによる外出の手助けをしてほしい」「ホームヘルパーによる手助けをしてほしい」「グループホームやサービス付き高齢者向け住宅が増えてほしい」がA（重度）になるほど高くなる傾向にあります。

【精神】は「ホームヘルパーによる手助けをしてほしい」「お金を管理してくれる人や保証人、契約を助けてくれる人がいてほしい」「入院したときに退院の手助けをしてほしい」「ガイドヘルパーによる外出の手助けをしてほしい」「グループホームやサービス付き高齢者向け住宅が増えてほしい」が1級（重度）になるほど高くなる傾向にあります。

		回答数	お金を管理してくれる人や保証人、契約を助けてくれる人がいてほしい	公営(市営・県営)住宅に優先的に入居させてほしい	グループホームやサービス付き高齢者向け住宅が増えてほしい	ホームヘルパーによる手助けをしてほしい	ガイドヘルパーによる外出の手助けをしてほしい	働ける場や働くための訓練ができる場がほしい	一人ぐらしの支援や訓練ができる場がほしい
身体	1級	313	24.9	27.5	21.4	37.4	30.0	15.3	16.9
	2級	196	21.4	17.9	16.8	29.1	12.8	18.4	13.8
	3級	136	15.4	21.3	18.4	23.5	9.6	24.3	14.0
	4級	139	9.4	14.4	13.7	10.1	6.5	12.9	8.6
	5級	55	14.5	27.3	29.1	20.0	9.1	20.0	16.4
	6級	38	10.5	21.1	18.4	26.3	10.5	34.2	18.4
療育	A	273	45.1	19.4	47.3	47.6	53.5	17.2	22.7
	B1	115	55.7	19.1	31.3	39.1	27.8	30.4	32.2
	B2	157	51.6	27.4	19.7	19.1	8.3	32.5	36.3
精神	1級	59	33.9	16.9	22.0	40.7	27.1	18.6	15.3
	2級	246	32.9	32.9	15.0	26.0	13.0	35.0	22.4
	3級	175	21.7	26.9	8.0	17.7	3.4	36.0	18.9
		回答数	地域の人の障害に対する理解が深まってほしい	家族が自分の暮らし方を理解してほしい	気軽に相談を聞いてもらえる場所が身近にほしい	入院したときに退院の手助けをしてほしい	そのほか	特に必要と感ずることはない	無回答
身体	1級	313	33.9	13.7	25.9	22.4	5.4	22.7	2.6
	2級	196	29.6	13.8	35.2	17.3	7.1	15.3	3.6
	3級	136	33.8	9.6	31.6	16.9	1.5	17.6	2.2
	4級	139	28.1	10.8	32.4	15.1	5.8	29.5	1.4
	5級	55	21.8	14.5	36.4	21.8	1.8	25.5	1.8
	6級	38	26.3	10.5	26.3	13.2	5.3	23.7	2.6
療育	A	273	46.2	10.3	31.5	26.7	11.4	3.3	7.7
	B1	115	37.4	15.7	42.6	26.1	7.0	7.0	4.3
	B2	157	40.8	22.9	49.7	27.4	3.2	9.6	3.2
精神	1級	59	33.9	18.6	35.6	30.5	5.1	13.6	1.7
	2級	246	35.0	21.5	46.3	24.0	5.3	8.9	1.2
	3級	175	32.6	22.9	46.3	14.9	8.6	10.9	2.3

### 3 1週間にどれくらい外出するか（単数回答）

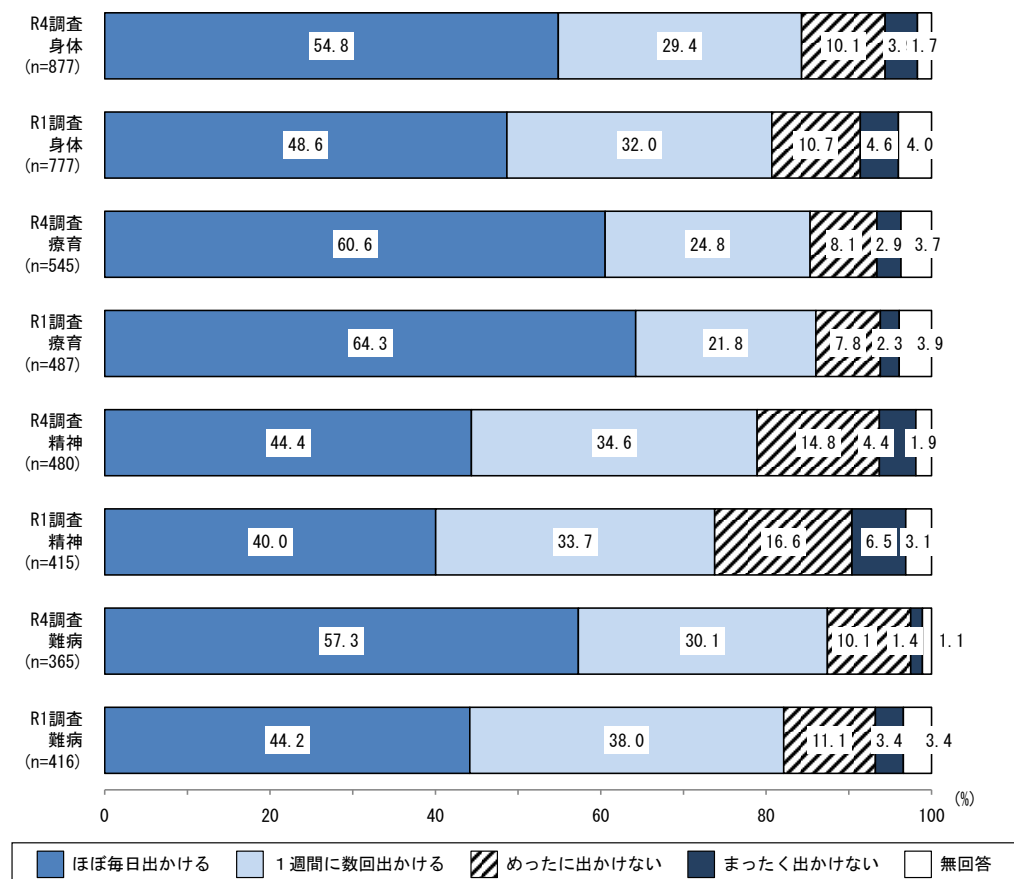
4障害ともに「ほぼ毎日出かける」が最も高くなっていますが、【精神】は44.4%と他の障害に比べると低くなっています。



#### ◇ 1週間にどれくらい外出するか×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較すると、【療育】以外は「ほぼ毎日出かける」が増加傾向にあります。特に【難病】は44.2%から57.3%と10ポイント以上の増加が見られます。

##### 【前回調査との比較】



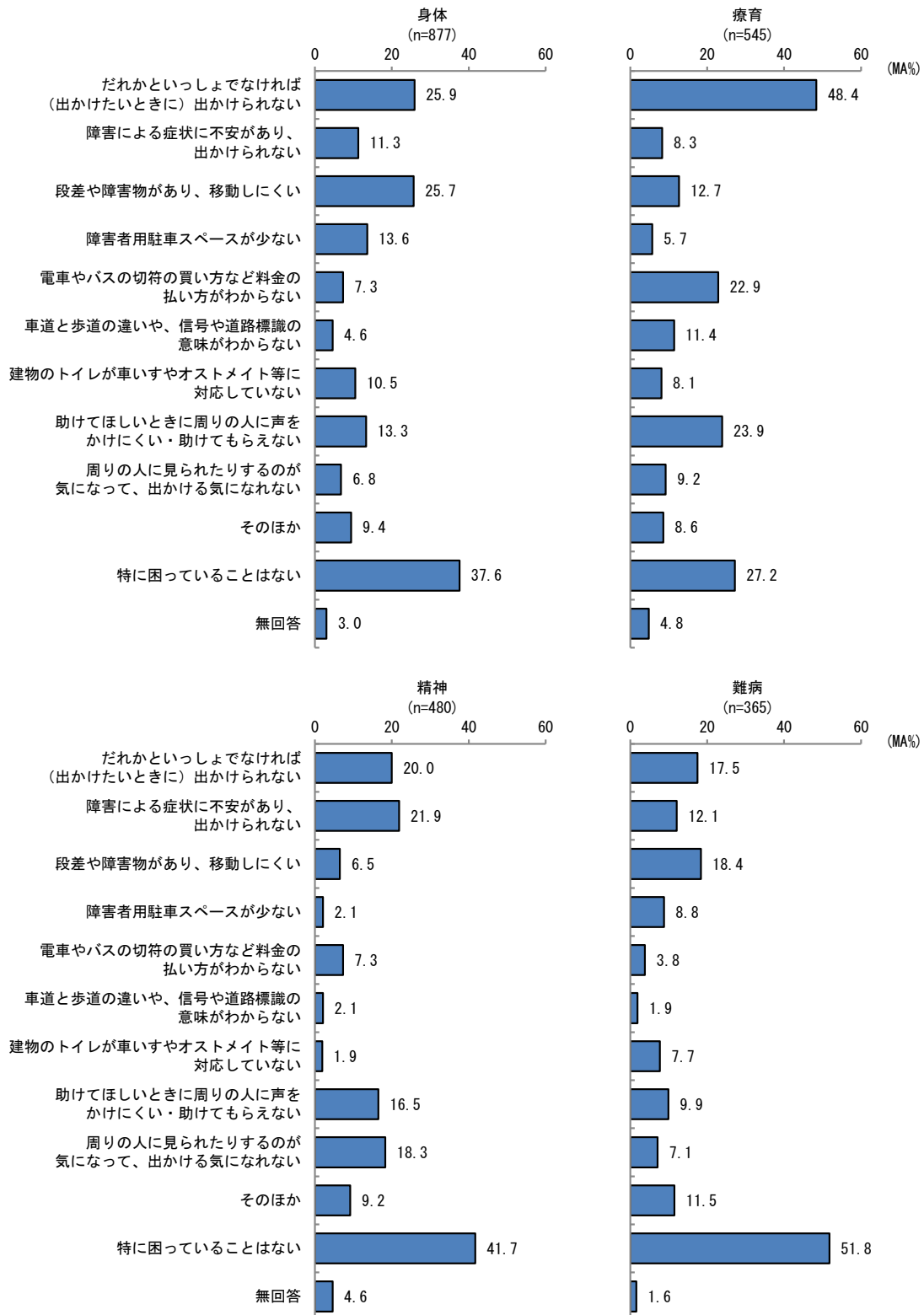
◇ 1週間にどれくらい外出するか×身体障害の種類

身体障害の「音声・言語・そしゃく機能障害」「肢体（体幹）不自由」は、他に比べると「ほぼ毎日出かける」が低くなっています。

身体		回答数	割合				無回答
			ほぼ毎日出かける	1週間に数回出かける	めったに出かけない	まったく出かけない	
	視覚障害	72	50.0	29.2	13.9	5.6	1.4
	聴覚障害・平衡機能障害	82	52.4	28.0	11.0	7.3	1.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	88	38.6	29.5	15.9	11.4	4.5
	肢体(上肢)不自由	250	50.4	28.4	11.6	7.6	2.0
	肢体(下肢)不自由	382	50.8	30.4	11.3	6.3	1.3
	肢体(体幹)不自由	131	40.5	32.1	15.3	8.4	3.8
	内部障害	214	57.5	29.9	9.3	2.3	0.9

#### 4 外出するとき困ること（複数回答）

「特に困っていることはない」を除くと、【身体】【療育】は「だれかといっしょでなければ（出かけたときに）出かけられない」が最も高く、【精神】は「障害による症状に不安があり、出かけられない」、【難病】は「段差や障害物があり、移動しにくい」が高くなっています。





## ◇外出するときに困ること×身体障害の種類

視覚障害、肢体（下肢）不自由は、「段差や障害物があり、移動しにくい」、それ以外は「だれかといっしょでなければ（出かけたときに）出かけられない」が最も高くなっています。

身体	障害の種類	回答数	困ること						
			だれかといっしょでなければ（出かけたときに）出かけられない	障害による症状に不安があり、出かけられない	段差や障害物があり、移動しにくい	障害者用駐車スペースが少ない	電車やバスの切符の買い方など料金の払い方がわからない	車道と歩道の違いや、信号や道路標識の意味がわからない	その他
	視覚障害	72	37.5	19.4	52.8	11.1	12.5	13.9	
	聴覚障害・平衡機能障害	82	26.8	12.2	19.5	8.5	6.1	3.7	
	音声・言語・そしゃく機能障害	88	60.2	12.5	39.8	14.8	20.5	14.8	
	肢体（上肢）不自由	250	45.2	11.6	42.4	19.6	7.6	4.0	
	肢体（下肢）不自由	382	35.9	13.1	42.1	22.8	6.8	3.7	
	肢体（体幹）不自由	131	59.5	18.3	52.7	28.2	10.7	7.6	
	内部障害	214	15.4	9.3	8.9	10.7	3.3	1.4	
		回答数	建物のトイレが車いすやオストメイト等に対応していない	助けてほしいときに周りの人に声をかけにくい・助けてもらえない	周りの人に見られたりするのが気になって、出かける気になれない	そのほか	特に困っていることはない	無回答	
	視覚障害	72	13.9	25.0	11.1	18.1	12.5	2.8	
	聴覚障害・平衡機能障害	82	7.3	15.9	4.9	17.1	36.6	2.4	
	音声・言語・そしゃく機能障害	88	22.7	17.0	9.1	6.8	18.2	4.5	
	肢体（上肢）不自由	250	22.8	16.0	6.8	10.4	23.6	2.4	
	肢体（下肢）不自由	382	18.6	15.7	7.3	9.2	24.6	2.1	
	肢体（体幹）不自由	131	30.5	17.6	9.2	10.7	6.9	3.1	
	内部障害	214	6.1	10.3	3.7	7.5	55.6	2.8	

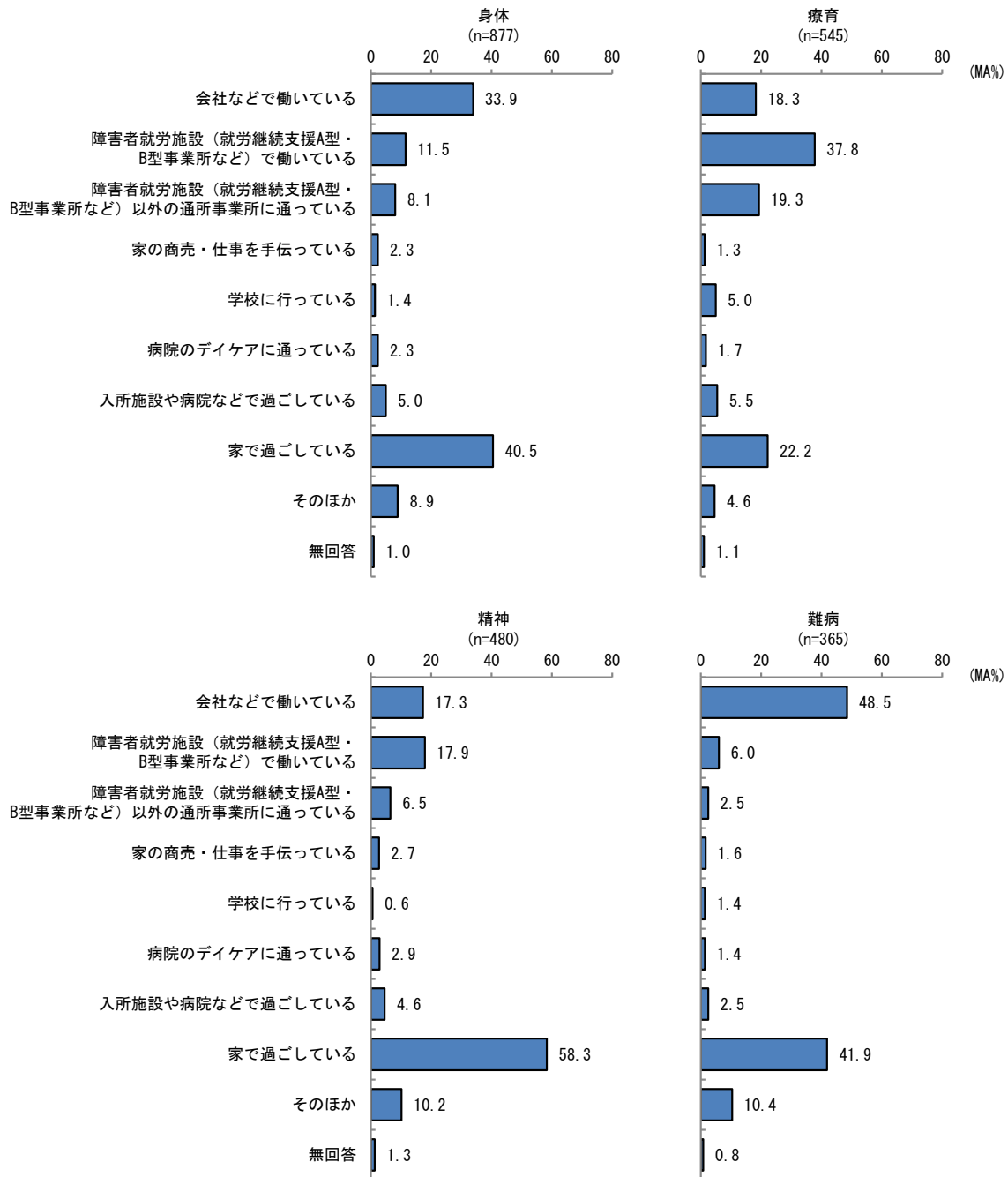
◇外出するときに困ること×判定・等級

【療育】のA、【精神】の1級といった重度の場合、「だれかといっしょでなければ（出かけたときに）出かけられない」や「電車やバスの切符の買い方など料金の払い方がわからない」が特に高い傾向にあります。

		回答数	だれかといっしょでなければ(出かけたときに)出かけられない	障害による症状に不安があり、出かけられない	段差や障害物があり、移動しにくい	障害者用駐車スペースが少ない	電車やバスの切符の買い方など料金の払い方がわからない	車道と歩道の違いや、信号や道路標識の意味がわからない
療育	A	273	76.6	8.8	20.5	9.5	37.4	20.5
	B1	115	32.2	7.8	5.2	1.7	11.3	2.6
	B2	157	11.5	7.6	4.5	1.9	6.4	1.9
精神	1級	59	45.8	20.3	18.6	3.4	23.7	6.8
	2級	246	17.5	24.8	5.3	2.0	5.7	1.2
	3級	175	14.9	18.3	4.0	1.7	4.0	1.7
		回答数	建物のトイレが車いすやオストメイト等に対応していない	助けてほしいときに周りの人に声をかけにくい・助けてもらえない	周りの人に見られたりするのが気になって、出かける気になれない	そのほか	特に困っていることはない	無回答
療育	A	273	13.2	27.5	7.3	8.8	6.2	4.0
	B1	115	3.5	20.0	10.4	7.0	42.6	6.1
	B2	157	2.5	20.4	11.5	9.6	52.2	5.1
難病	1級	59	8.5	23.7	10.2	8.5	23.7	3.4
	2級	246	1.2	17.5	23.6	9.3	39.0	5.3
	3級	175	0.6	12.6	13.7	9.1	51.4	4.0

## 5 「平日の昼間」の過ごし方（複数回答）

【身体】【精神】は「家で過ごしている」、【療育】は「障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）で働いている」、【難病】は「会社などで働いている」が最も高くなっています。



◇「平日の昼間」の過ごし方×年齢

【身体】は、40歳未満では「障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）で働いている」「障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）以外の通所事業所に通っている」が高くなっていますが、40歳からは「会社などで働いている」が3割以上となっています。

【療育】は、40歳代まで「障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）で働いている」が高く、50歳以上になると「家で過ごしている」割合が高くなります。

【精神】は、いずれの年齢でも「家で過ごしている」が高くなっています。

【難病】は、18～29歳では「障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）で働いている」「障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）以外の通所事業所に通っている」「会社などで働いている」がおよそ2割となっていますが、30歳以上は「会社などで働いている」が5割以上となっています。

		回答数	障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)で働いている		障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)以外の通所事業所に通っている		家の商売・仕事を手伝っている	学校に行っている	病院のデイケアに通っている
			会社などで働いている						
身体	18～29歳	85	21.2	20.0	29.4	0.0	10.6	3.5	
	30～39歳	75	28.0	25.3	22.7	1.3	1.3	0.0	
	40～49歳	159	35.8	17.6	5.0	1.3	0.0	1.9	
	50～59歳	310	39.0	8.4	5.2	3.2	0.6	1.9	
	60～64歳	231	34.6	3.9	1.3	3.0	0.0	3.5	
	65歳以上	10	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	
療育	18～29歳	216	21.8	31.0	21.3	1.9	12.5	1.4	
	30～39歳	128	20.3	46.1	19.5	1.6	0.0	0.0	
	40～49歳	104	14.4	46.2	16.3	0.0	0.0	2.9	
	50～59歳	68	16.2	38.2	17.6	0.0	0.0	2.9	
	60～64歳	19	5.3	21.1	5.3	5.3	0.0	5.3	
	65歳以上	6	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	
		回答数	入所施設や病院などで過ごしている	家で過ごしている	そのほか	無回答			
身体	18～29歳	85	2.4	21.2	2.4	2.4			
	30～39歳	75	1.3	25.3	8.0	0.0			
	40～49歳	159	5.0	36.5	11.3	0.6			
	50～59歳	310	5.5	41.0	10.0	0.6			
	60～64歳	231	4.8	53.7	8.2	1.7			
	65歳以上	10	30.0	50.0	20.0	0.0			
療育	18～29歳	216	2.8	22.2	2.8	1.4			
	30～39歳	128	1.6	17.2	7.0	1.6			
	40～49歳	104	8.7	21.2	4.8	1.0			
	50～59歳	68	11.8	29.4	0.0	0.0			
	60～64歳	19	10.5	42.1	15.8	0.0			
	65歳以上	6	50.0	16.7	33.3	0.0			

		回答数	会社などで働いている	障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)で働いている	障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)以外の通所事業所に通っている	家の商売・仕事を手伝っている	学校に行っている	病院のデイケアに通っている
精神	18～29歳	46	23.9	37.0	4.3	4.3	6.5	2.2
	30～39歳	77	35.1	20.8	5.2	0.0	0.0	2.6
	40～49歳	125	12.8	15.2	5.6	2.4	0.0	1.6
	50～59歳	165	15.2	15.2	10.3	4.2	0.0	3.6
	60～64歳	60	3.3	13.3	1.7	0.0	0.0	5.0
	65歳以上	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病	18～29歳	28	25.0	17.9	28.6	0.0	17.9	3.6
	30～39歳	29	65.5	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0
	40～49歳	87	52.9	5.7	0.0	2.3	0.0	1.1
	50～59歳	136	54.4	8.1	0.0	2.9	0.0	0.0
	60～64歳	83	36.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		回答数	入所施設や病院などで過ごしている	家で過ごしている	そのほか	無回答		
精神	18～29歳	46	0.0	37.0	6.5	2.2		
	30～39歳	77	0.0	49.4	10.4	0.0		
	40～49歳	125	4.0	66.4	10.4	0.0		
	50～59歳	165	6.1	60.0	11.5	1.8		
	60～64歳	60	11.7	66.7	10.0	3.3		
	65歳以上	2	0.0	50.0	0.0	0.0		
難病	18～29歳	28	3.6	17.9	0.0	3.6		
	30～39歳	29	0.0	24.1	13.8	0.0		
	40～49歳	87	4.6	37.9	12.6	0.0		
	50～59歳	136	1.5	43.4	11.0	0.0		
	60～64歳	83	1.2	59.0	9.6	2.4		
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0		

◇「平日の昼間」の過ごし方×身体障害の種類

内部障害、聴覚障害・平衡機能障害は、「会社などで働いている」が高く、その他の障害部位では、「家で過ごしている」が高くなっています。

身体	「平日の昼間」の過ごし方×身体障害の種類							
	回答数	会社などで働いている	障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)で働いている	障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)以外の通所事業所に通っている	家の商売・仕事を手伝っている	学校に行っている	病院のデイケアに通っている	
視覚障害	72	27.8	18.1	11.1	1.4	1.4	2.8	
聴覚障害・平衡機能障害	82	36.6	11.0	9.8	0.0	2.4	2.4	
音声・言語・そしゃく機能障害	88	14.8	17.0	25.0	0.0	1.1	2.3	
肢体(上肢)不自由	250	25.2	7.6	17.6	1.6	0.8	3.2	
肢体(下肢)不自由	382	31.4	9.2	12.0	1.3	1.0	2.4	
肢体(体幹)不自由	131	14.5	9.9	29.0	0.0	0.8	1.5	
内部障害	214	41.6	6.5	1.9	3.7	1.9	1.9	
身体	「家で過ごしている」の割合					「入所施設や病院などで過ごしている」の割合		
	回答数	家で過ごしている	入所施設や病院などで過ごしている	その他	無回答			
視覚障害	72	38.9	2.8	4.2	2.8			
聴覚障害・平衡機能障害	82	34.1	6.1	8.5	1.2			
音声・言語・そしゃく機能障害	88	31.8	14.8	6.8	1.1			
肢体(上肢)不自由	250	41.6	8.0	10.4	0.4			
肢体(下肢)不自由	382	41.6	6.5	11.0	0.3			
肢体(体幹)不自由	131	39.7	7.6	13.0	1.5			
内部障害	214	38.3	6.5	12.1	0.9			

◇「平日の昼間」の過ごし方×判定・等級

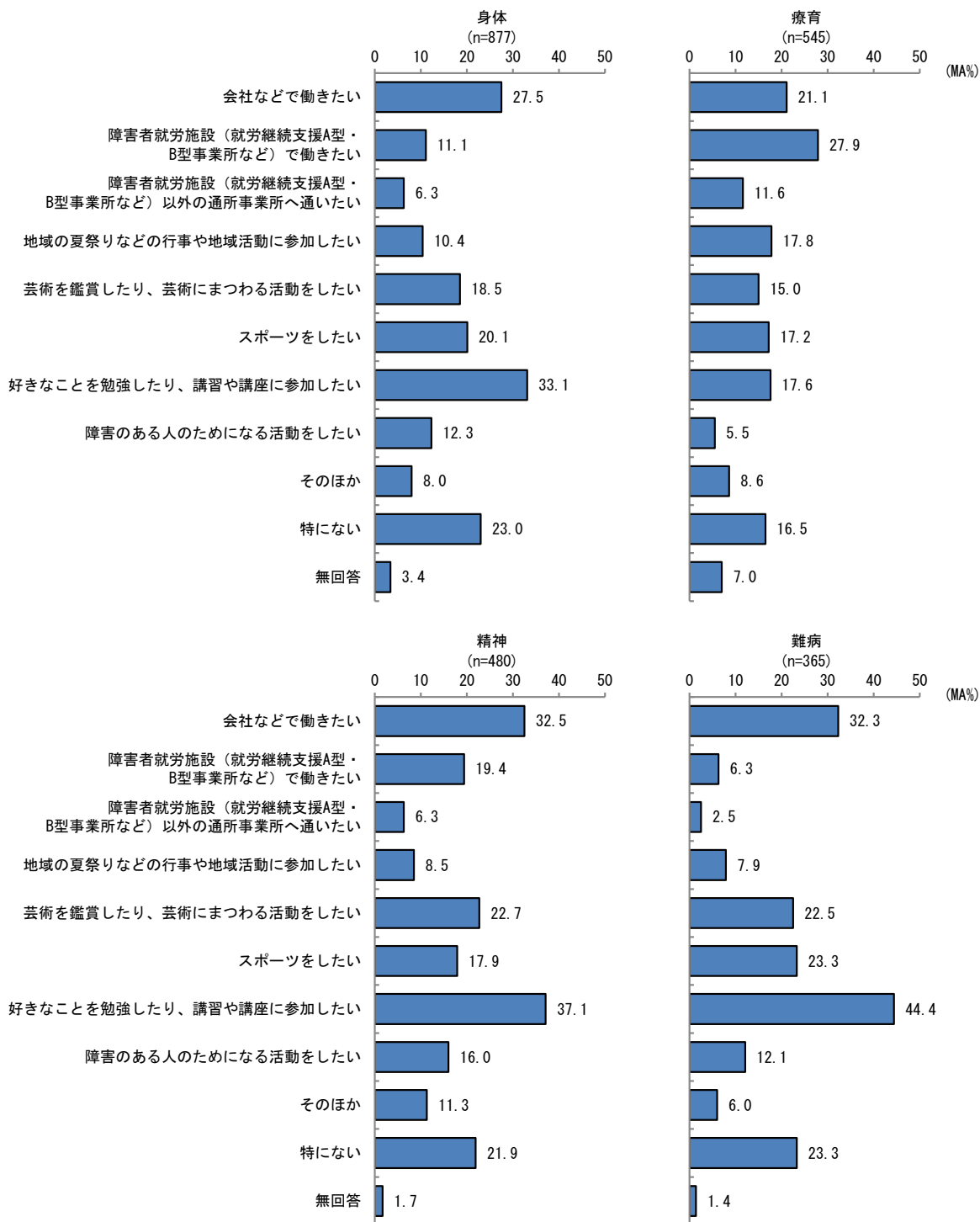
【療育】は軽度になるほど「会社などで働いている」が高く、AとB1は「障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）で働いている」が高い傾向にあります。

【精神】は、等級にかかわらず「家で過ごしている」が最も高くなっていますが、3級では「会社などで働いている」が32.6%となっています。

		回答数	会社などで働いている	障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）で働いている	障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）以外の通所事業所に通っている	家の商売・仕事を手伝っている	学校に行っている	病院のデイケアに通っている
療育	A	273	2.6	41.8	33.3	0.4	0.7	1.8
	B1	115	27.8	46.1	3.5	0.9	2.6	2.6
	B2	157	38.9	24.8	6.4	3.2	14.0	0.6
精神	1級	59	3.4	22.0	6.8	3.4	0.0	5.1
	2級	246	9.8	21.1	8.1	2.4	0.0	3.3
	3級	175	32.6	12.0	4.0	2.9	1.7	1.7
		回答数	入所施設や病院などで過ごしている	家で過ごしている	そのほか	無回答		
療育	A	273	8.8	18.3	5.5	0.7		
	B1	115	2.6	26.1	3.5	2.6		
	B2	157	1.9	26.1	3.8	0.6		
精神	1級	59	15.3	52.5	6.8	1.7		
	2級	246	4.5	65.4	9.8	0.8		
	3級	175	1.1	50.3	12.0	1.7		

## 6 今後、毎日の暮らしの中でやりたいこと（複数回答）

【身体】【精神】【難病】は「好きなことを勉強したり、講習や講座に参加したい」、【療育】は「障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）で働きたい」が最も高くなっています。





◇今後、毎日の暮らしの中でやりたいこと×年齢別

【身体】は64歳までは「好きなことを勉強したり、講習や講座に参加したい」が高くなっています。

【療育】は30～59歳で「障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）で働きたい」が高くなっています。

【精神】は年齢が低いほど「会社などで働きたい」が高くなっています。

【難病】は年齢が高くなるほど「スポーツをしたい」が高くなっています。

		回答数	障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)で働きたい		障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)以外の通所事業所へ通いたい		地域の夏祭りなどの行事や地域活動に参加したい		芸術を鑑賞したり、芸術にまつわる活動をしたい		スポーツをしたい	
			会社などで働きたい									
身体	18～29歳	85	24.7	15.3	16.5	24.7	24.7	22.4				
	30～39歳	75	20.0	13.3	13.3	21.3	20.0					
	40～49歳	159	27.7	14.5	9.4	11.3	20.1					
	50～59歳	310	32.3	11.0	2.9	7.4	20.6					
	60～64歳	231	25.5	6.5	1.3	7.4	18.2					
	65歳以上	10	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0					
療育	18～29歳	216	29.2	23.6	12.0	18.5	24.1					
	30～39歳	128	16.4	32.8	13.3	16.4	20.3					
	40～49歳	104	16.3	30.8	12.5	16.3	7.7					
	50～59歳	68	17.6	32.4	5.9	25.0	10.3					
	60～64歳	19	10.5	15.8	5.3	5.3	0.0					
	65歳以上	6	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7					
		回答数	好きなことを勉強したり、講習や講座に参加したい	障害のある人のためになる活動をした	そのほか	特にな	無回答					
身体	18～29歳	85	22.4	7.1	9.4	11.8	5.9					
	30～39歳	75	28.0	10.7	9.3	22.7	5.3					
	40～49歳	159	34.6	13.8	7.5	18.2	5.0					
	50～59歳	310	32.6	13.2	6.8	22.9	2.3					
	60～64歳	231	39.8	12.6	7.4	30.7	1.7					
	65歳以上	10	10.0	0.0	30.0	40.0	10.0					
療育	18～29歳	216	23.6	9.3	7.4	13.4	3.7					
	30～39歳	128	14.1	4.7	10.2	16.4	7.0					
	40～49歳	104	10.6	0.0	12.5	19.2	8.7					
	50～59歳	68	16.2	5.9	5.9	11.8	14.7					
	60～64歳	19	21.1	0.0	0.0	47.4	5.3					
	65歳以上	6	16.7	0.0	16.7	33.3	16.7					

		回答数	会社などで働きたい	障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)で働きたい	障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)以外の通所事業所へ通いたい	地域の夏祭りなどの行事や地域活動に参加したい	芸術を鑑賞したり、芸術にまつわる活動をしたい	スポーツをしたい
精神	18～29歳	46	54.3	23.9	4.3	13.0	4.3	23.9
	30～39歳	77	48.1	20.8	5.2	9.1	31.2	18.2
	40～49歳	125	32.0	21.6	8.0	9.6	22.4	13.6
	50～59歳	165	27.3	17.0	6.7	7.3	24.8	22.4
	60～64歳	60	11.7	18.3	5.0	6.7	20.0	11.7
	65歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
難病	18～29歳	28	35.7	17.9	10.7	17.9	39.3	17.9
	30～39歳	29	48.3	3.4	0.0	24.1	41.4	20.7
	40～49歳	87	35.6	8.0	4.6	5.7	17.2	20.7
	50～59歳	136	30.1	6.6	0.7	2.9	16.9	24.3
	60～64歳	83	26.5	1.2	1.2	8.4	25.3	26.5
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		回答数	好きなことを勉強したり、講習や講座に参加したい	障害のある人のためになる活動をした	そのほか	特にな	無回答	
精神	18～29歳	46	39.1	21.7	10.9	6.5	0.0	
	30～39歳	77	40.3	26.0	15.6	13.0	0.0	
	40～49歳	125	41.6	12.8	12.8	22.4	0.0	
	50～59歳	165	33.3	13.3	11.5	25.5	3.6	
	60～64歳	60	30.0	11.7	1.7	35.0	1.7	
	65歳以上	2	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	
難病	18～29歳	28	32.1	7.1	7.1	14.3	0.0	
	30～39歳	29	51.7	13.8	6.9	20.7	0.0	
	40～49歳	87	39.1	14.9	10.3	16.1	1.1	
	50～59歳	136	41.2	13.2	3.7	32.4	0.0	
	60～64歳	83	57.8	8.4	4.8	19.3	4.8	
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

◇今後、毎日の暮らしの中でやりたいこと×身体障害の種類

視覚障害、聴覚障害・平衡機能障害、肢体（上肢）不自由、肢体（下肢）不自由、内部障害は、「好きなことを勉強したり、講習や講座に参加したい」、聴覚障害・平衡機能障害は「好きなことを勉強したり、講習や講座に参加したい」と同率で「会社などで働きたい」、音声・言語・そしゃく機能障害、肢体（体幹）不自由は「地域の夏祭りなどの行事や地域活動に参加したい」が高くなっています。

身体		回答数	会社などで働きたい	障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)で働きたい	障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)以外の通所	地域の夏祭りなどの行事や地域活動に参加したい	芸術を鑑賞したり、芸術にまつわる活動をしたい	スポーツをしたい
	視覚障害	72	29.2	13.9	11.1	11.1	16.7	23.6
	聴覚障害・平衡機能障害	82	32.9	7.3	6.1	18.3	25.6	24.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	88	15.9	20.5	13.6	23.9	14.8	12.5
	肢体(上肢)不自由	250	22.0	11.2	9.6	14.4	22.4	20.8
	肢体(下肢)不自由	382	23.6	11.8	6.8	12.6	16.2	18.6
	肢体(体幹)不自由	131	15.3	8.4	15.3	22.9	19.8	15.3
	内部障害	214	30.8	8.4	1.9	7.5	24.3	22.0
		回答数	好きなことを勉強したり、講習や講座に参加したい	障害のある人のためになる活動をしたい	そのほか	特にない	無回答	
	視覚障害	72	36.1	11.1	4.2	15.3	9.7	
	聴覚障害・平衡機能障害	82	32.9	12.2	12.2	13.4	3.7	
	音声・言語・そしゃく機能障害	88	20.5	5.7	17.0	21.6	5.7	
	肢体(上肢)不自由	250	28.0	15.2	12.0	21.6	3.6	
	肢体(下肢)不自由	382	30.9	11.5	9.7	23.3	2.4	
	肢体(体幹)不自由	131	21.4	11.5	14.5	16.8	7.6	
	内部障害	214	36.4	12.1	5.1	26.6	3.7	

◇今後、毎日の暮らしの中でやりたいこと×判定・等級

【療育】は、判定が軽度であるほど「会社などで働きたい」「好きなことを勉強したり、講習や講座に参加したい」「障害のある人のためになる活動をしたい」が高い傾向となっています。一方、判定が重度であるほど「障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）以外の通所事業所へ通いたい」「地域の夏祭りなどの行事や地域活動に参加したい」が高くなっています。

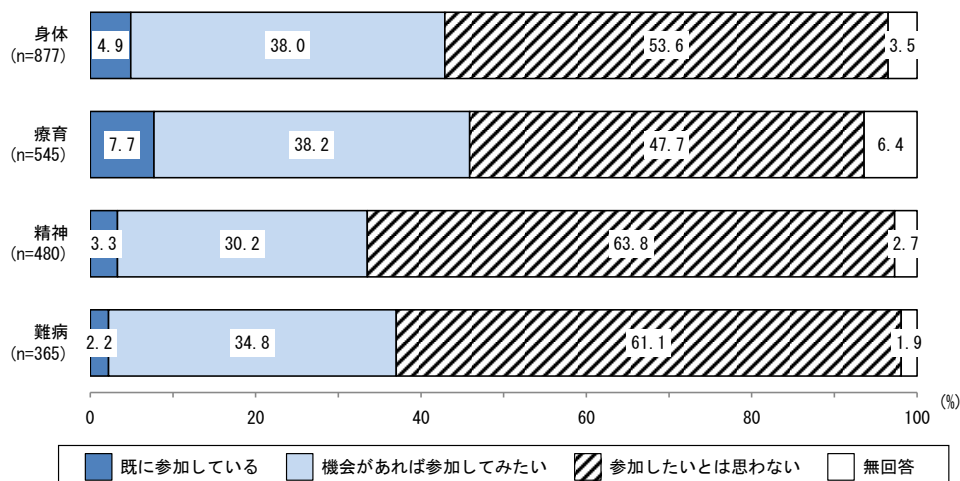
【精神】は、等級が軽度であるほど「会社などで働きたい」「スポーツをしたい」が高く、等級が重度であるほど「障害者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）で働きたい」「地域の夏祭りなどの行事や地域活動に参加したい」が高くなっています。

		回答数	会社などで働きたい	障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)で働きたい	障害者就労施設(就労継続支援A型・B型事業所など)以外の通所事業所へ通いたい	地域の夏祭りなどの行事や地域活動に参加したい	芸術を鑑賞したり、芸術にまつわる活動をしたい	スポーツをしたい
療育	A	273	2.6	31.5	19.4	22.3	14.3	16.5
	B1	115	30.4	33.0	4.3	18.3	15.7	15.7
	B2	157	46.5	17.8	3.2	9.6	15.9	19.7
精神	1級	59	15.3	25.4	6.8	18.6	10.2	11.9
	2級	246	30.1	24.0	6.9	7.7	28.0	18.3
	3級	175	41.7	10.9	5.1	6.3	19.4	19.4
		回答数	好きなことを勉強したり、講習や講座に参加したい	障害のある人のためになる活動をした	そのほか	特にな	無回答	
療育	A	273	10.6	2.2	12.1	15.0	9.2	
	B1	115	18.3	5.2	5.2	18.3	7.8	
	B2	157	29.3	11.5	5.1	17.8	2.5	
精神	1級	59	22.0	5.1	6.8	23.7	1.7	
	2級	246	42.3	17.9	9.8	21.1	1.6	
	3級	175	34.9	17.1	14.9	22.3	1.7	

### 3. スポーツについて

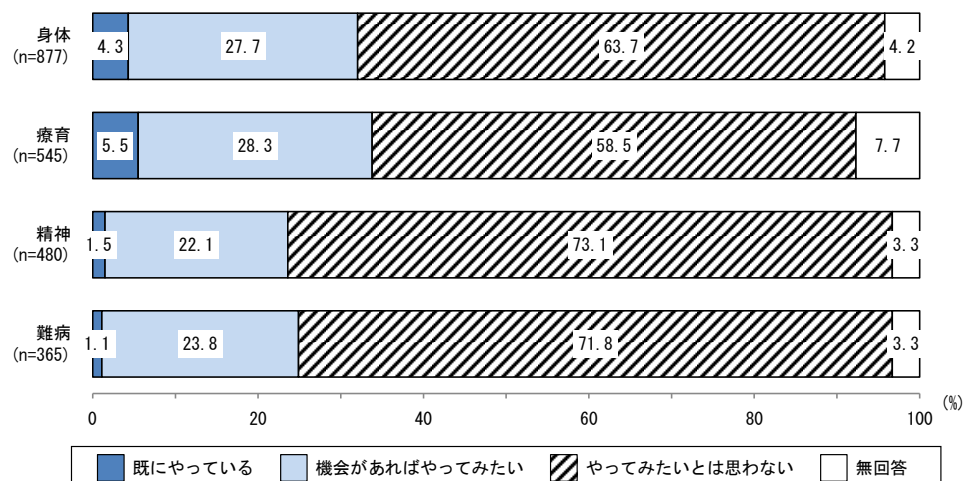
#### 1 障害のある人を対象とした運動の教室や体験会への参加意向（単数回答）

4 障害ともに「参加したいとは思わない」が最も高く、【精神】【難病】は特に高い傾向にあります。



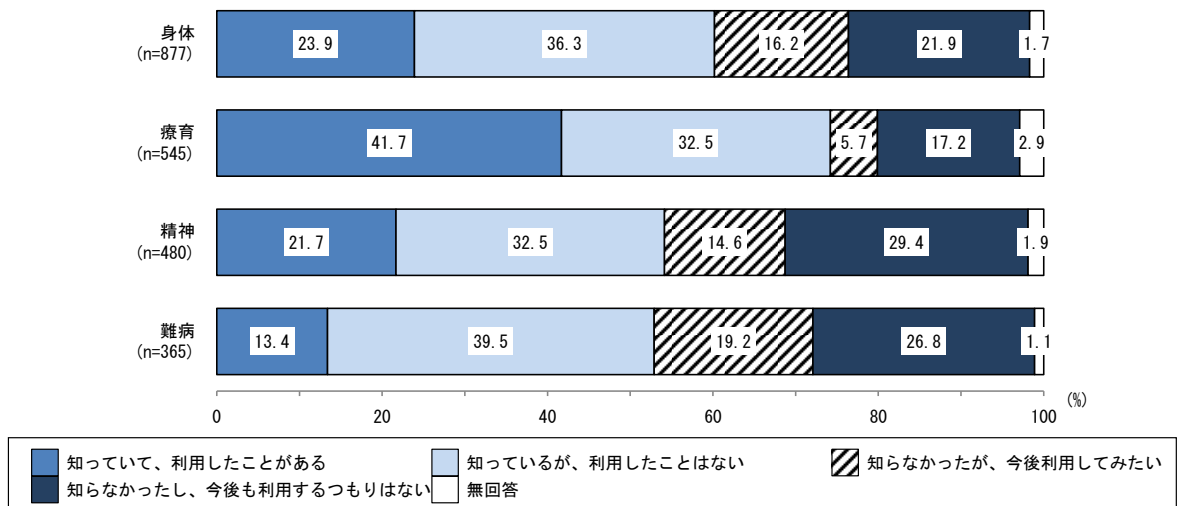
#### 2 障害者スポーツの体験意向（単数回答）

4 障害ともに「やってみようとは思わない」が最も高く、【精神】【難病】は特に高い傾向にあります。



### 3 西宮市総合福祉センターのスポーツ施設の認知度（単数回答）

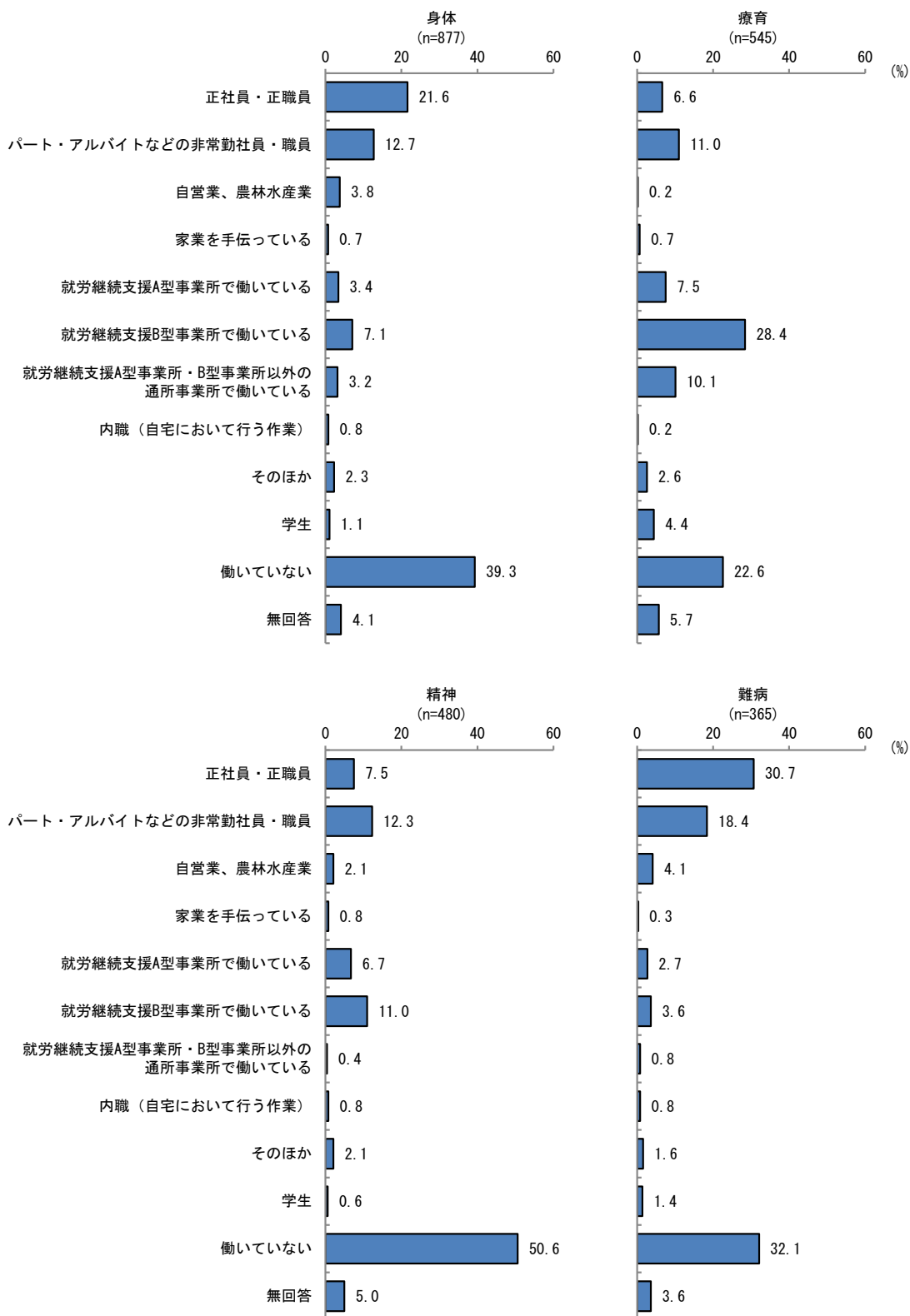
【身体】【精神】【難病】は「知っているが、利用したことはない」が最も高く、【療育】は「知っていて、利用したことがある」が高く、「知らなかったが、今後利用してみたい」が他の障害よりも低くなっています。



## 4. 仕事のことについて

### 1 現在の働き方について（単数回答）

【身体】【難病】は「正社員・正職員」、【療育】は「就労継続支援B型事業所で働いている」、【精神】は「パート・アルバイトなどの非常勤社員・職員」が高くなっています。



◇現在の働き方について×年齢別

【身体】【難病】は「正社員・正職員」が高く、年齢が高くなるについて「働いていない」が増加する傾向にあります。

【療育】は「就労継続支援B型事業所で働いている」が高く、30～39歳をピークとし、年齢が高くなるにつれて「働いていない」が増加する傾向にあります。

【精神】は「パート・アルバイトなどの非常勤社員・職員」と「就労継続支援B型事業所で働いている」が高く、年齢が高くなるについて「働いていない」が増加する傾向にあります。

		回答数	正社員・正職員	パート・アルバイトなどの非常勤社員・職員	自営業、農林水産業	家業を手伝っている	就労継続支援A型事業所で働いている	就労継続支援B型事業所で働いている
身体	18～29歳	85	11.8	10.6	0.0	0.0	4.7	12.9
	30～39歳	75	20.0	9.3	2.7	0.0	5.3	16.0
	40～49歳	159	27.7	8.8	1.3	0.6	5.0	11.3
	50～59歳	310	25.2	13.5	4.8	1.0	3.2	4.5
	60～64歳	231	18.2	16.9	6.1	0.9	1.3	2.6
	65歳以上	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
療育	18～29歳	216	8.8	13.0	0.0	1.4	6.5	22.7
	30～39歳	128	6.3	12.5	0.0	0.0	8.6	35.2
	40～49歳	104	2.9	9.6	0.0	0.0	7.7	34.6
	50～59歳	68	7.4	7.4	0.0	1.5	10.3	27.9
	60～64歳	19	5.3	5.3	5.3	0.0	5.3	15.8
	65歳以上	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
		回答数	就労継続支援A型事業所・B型事業所以外の通所事業所で働いている	内職(自宅において行う作業)	その他	学生	働いていない	無回答
身体	18～29歳	85	15.3	0.0	0.0	9.4	28.2	7.1
	30～39歳	75	4.0	2.7	1.3	1.3	32.0	5.3
	40～49歳	159	1.9	1.9	3.1	0.0	35.2	3.1
	50～59歳	310	1.9	0.6	2.9	0.3	38.1	3.9
	60～64歳	231	0.9	0.0	1.7	0.0	48.5	3.0
	65歳以上	10	0.0	0.0	10.0	0.0	70.0	10.0
療育	18～29歳	216	12.0	0.0	1.4	11.1	17.1	6.0
	30～39歳	128	7.0	0.8	1.6	0.0	23.4	4.7
	40～49歳	104	9.6	0.0	4.8	0.0	24.0	6.7
	50～59歳	68	11.8	0.0	2.9	0.0	26.5	4.4
	60～64歳	19	0.0	0.0	5.3	0.0	52.6	5.3
	65歳以上	6	0.0	0.0	16.7	0.0	50.0	16.7



		回答数	正社員・正職員	パート・アルバイトなどの非常勤社員・職員	自営業、農林水産業	家業を手伝っている	就労継続支援A型事業所で働いている	就労継続支援B型事業所で働いている
精神	18～29歳	46	10.9	15.2	0.0	2.2	15.2	26.1
	30～39歳	77	13.0	24.7	0.0	0.0	5.2	13.0
	40～49歳	125	8.0	8.0	2.4	0.8	5.6	8.8
	50～59歳	165	5.5	10.9	3.6	0.6	7.3	7.3
	60～64歳	60	3.3	6.7	0.0	0.0	3.3	11.7
	65歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
難病	18～29歳	28	14.3	17.9	0.0	0.0	7.1	14.3
	30～39歳	29	51.7	17.2	3.4	0.0	0.0	3.4
	40～49歳	87	39.1	14.9	5.7	0.0	2.3	3.4
	50～59歳	136	30.9	19.9	6.6	0.7	4.4	2.9
	60～64歳	83	20.5	19.3	0.0	0.0	0.0	1.2
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		回答数	就労継続支援A型事業所・B型事業所以外の通所事業所で働いている	内職(自宅において行う作業)	その他	学生	働いていない	無回答
精神	18～29歳	46	0.0	0.0	0.0	6.5	21.7	2.2
	30～39歳	77	1.3	1.3	1.3	0.0	39.0	1.3
	40～49歳	125	0.0	0.8	1.6	0.0	60.0	4.0
	50～59歳	165	0.6	0.6	3.0	0.0	52.1	8.5
	60～64歳	60	0.0	0.0	3.3	0.0	70.0	1.7
	65歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
難病	18～29歳	28	10.7	0.0	0.0	17.9	14.3	3.6
	30～39歳	29	0.0	3.4	3.4	0.0	17.2	0.0
	40～49歳	87	0.0	0.0	2.3	0.0	27.6	4.6
	50～59歳	136	0.0	0.7	0.7	0.0	28.7	4.4
	60～64歳	83	0.0	1.2	2.4	0.0	53.0	2.4
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## ◇現在の働き方について×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較すると、4障害ともに「働いていない」が減少傾向にあります。

### 【前回調査との比較】

		正社員・正職員	パート・アルバイトなどの非常勤社員・職員	自営業、農林水産業	家業を手伝っている	就労継続支援A型事業所で働いている	就労継続支援A型事業所以外の障害者就労施設で働いている	就労継続支援B型事業所で働いている
身体	R4調査 (n=877)	21.6	12.7	3.8	0.7	3.4	0.0	7.1
	R1調査 (n=777)	18.0	10.6	3.6	1.7	0.9	3.1	0.0
療育	R4調査 (n=545)	6.6	11.0	0.2	0.7	7.5	0.0	28.4
	R1調査 (n=487)	3.9	14.4	0.0	0.2	10.1	34.5	0.0
精神	R4調査 (n=480)	7.5	12.3	2.1	0.8	6.7	0.0	11.0
	R1調査 (n=415)	5.3	10.8	0.7	0.5	3.9	6.3	0.0
難病	R4調査 (n=365)	30.7	18.4	4.1	0.3	2.7	0.0	3.6
	R1調査 (n=418)	13.0	13.2	3.1	0.7	0.5	0.5	0.0
		就労継続支援A型事業所・B型事業所以外の通所事業所で働いている	内職(自宅において行う作業)	そのほか	学生	働いていない	無回答	
身体	R4調査 (n=877)	3.2	0.8	2.3	1.1	39.3		4.1
	R1調査 (n=777)	0.0	0.6	1.4	0.8	51.6		7.7
療育	R4調査 (n=545)	10.1	0.2	2.6	4.4	22.6		5.7
	R1調査 (n=487)	0.0	0.0	1.8	3.9	25.7		5.5
精神	R4調査 (n=480)	0.4	0.8	2.1	0.6	50.6		5.0
	R1調査 (n=415)	0.0	0.5	2.2	1.0	63.9		5.1
難病	R4調査 (n=365)	0.8	0.8	1.6	1.4	32.1		3.6
	R1調査 (n=418)	0.0	0.2	2.2	0.5	61.3		4.8

R1年調査のみ	就労継続支援A型事業所以外の通所事業所で働いている
R4年調査のみ	就労継続支援B型事業所で働いている 就労継続支援A型・B型事業所以外の通所事業所で働いている

◇現在の働き方について×身体障害の種類

いずれも「働いていない」が最も高くなっていますが、聴覚障害・平衡機能障害と内部障害は「正社員・正職員」がおよそ3割となっています。

身体	障害の種類	回答数	働き方						
			正社員・正職員	パート・アルバイトなどの非常勤社員・職員	自営業、農林水産業	家業を手伝っている	就労継続支援A型事業所で働いている	就労継続支援B型事業所で働いている	働いていない
	視覚障害	72	16.7	8.3	4.2	1.4	5.6	12.5	
	聴覚障害・平衡機能障害	82	25.6	11.0	2.4	0.0	2.4	8.5	
	音声・言語・そしゃく機能障害	88	9.1	4.5	1.1	0.0	3.4	9.1	
	肢体(上肢)不自由	250	18.0	8.0	0.8	0.4	2.8	4.8	
	肢体(下肢)不自由	382	17.5	13.4	3.4	0.0	2.4	5.5	
	肢体(体幹)不自由	131	9.9	3.8	0.8	0.0	2.3	3.8	
	内部障害	214	31.8	12.6	5.6	1.4	1.4	4.7	
		回答数	就労継続支援A型事業所・B型事業所以外の通所事業所で働いている	内職(自宅において行う作業)	そのほか	学生	働いていない	無回答	
	視覚障害	72	5.6	0.0	2.8	1.4	40.3	1.4	
	聴覚障害・平衡機能障害	82	1.2	0.0	4.9	2.4	32.9	8.5	
	音声・言語・そしゃく機能障害	88	5.7	0.0	2.3	1.1	53.4	10.2	
	肢体(上肢)不自由	250	4.8	0.8	2.8	0.4	52.0	4.4	
	肢体(下肢)不自由	382	4.2	0.5	2.4	0.8	45.8	4.2	
	肢体(体幹)不自由	131	8.4	0.8	2.3	0.8	58.0	9.2	
	内部障害	214	1.9	0.9	0.9	1.4	36.0	1.4	

◇現在の働き方について×判定・等級

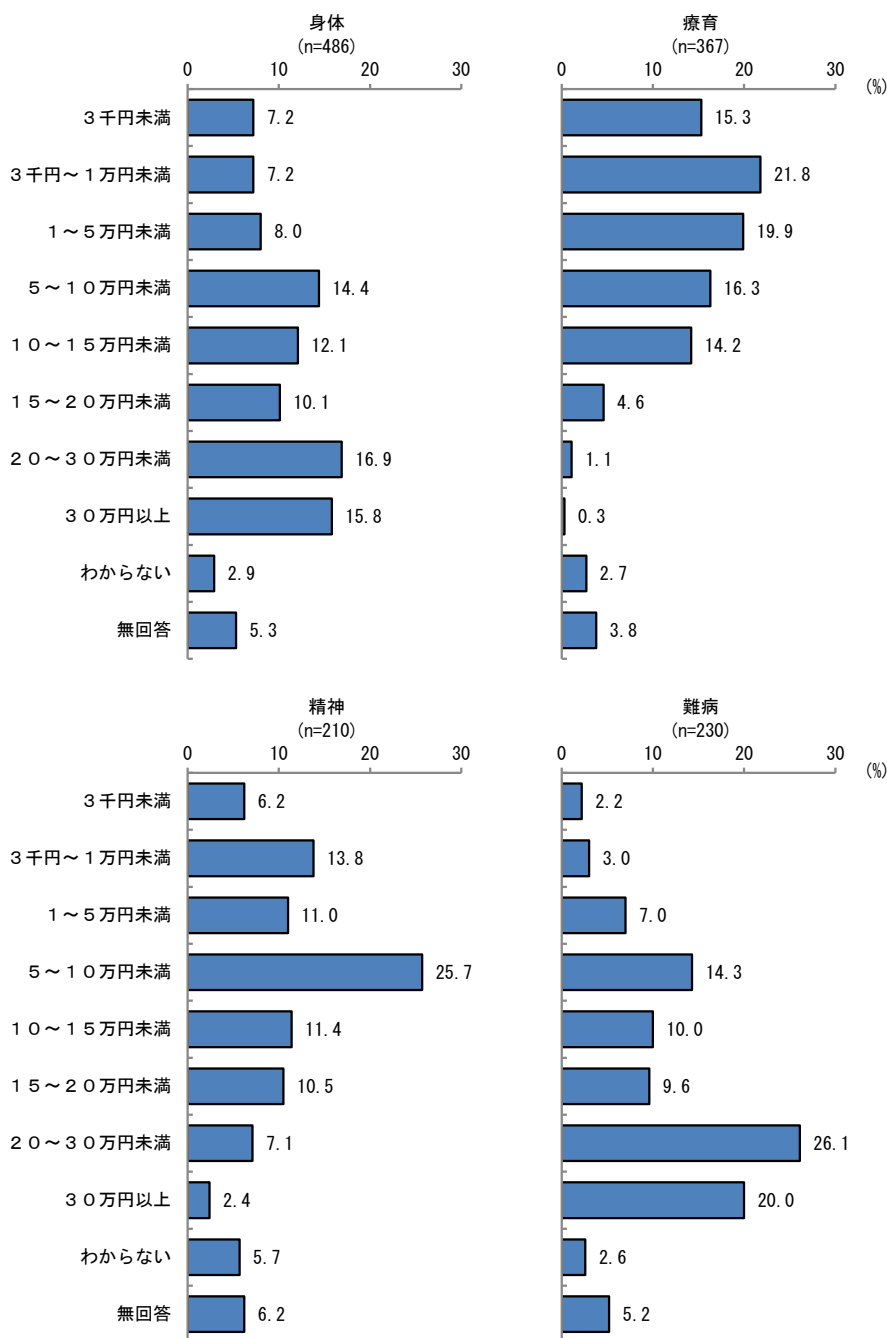
【療育】は、A、B 1は「就労継続支援B型事業所で働いている」、B 2は「パート・アルバイトなどの非常勤社員・職員」が最も高くなっています。

【精神】は「働いていない」と「就労継続支援B型事業所で働いている」が等級が重度であるほど高い傾向にあり、等級が軽度であるほど「パート・アルバイトなどの非常勤社員・職員」が高くなっています。

		回答数	正社員・正職員	パート・アルバイトなどの非常勤社員・職員	自営業、農林水産業	家業を手伝っている	就労継続支援A型事業所で働いている	就労継続支援B型事業所で働いている
療育	A	273	1.8	1.5	0.4	0.0	5.1	32.2
	B1	115	5.2	20.9	0.0	1.7	10.4	37.4
	B2	157	15.9	20.4	0.0	1.3	9.6	15.3
精神	1級	59	3.4	3.4	0.0	0.0	6.8	16.9
	2級	246	1.6	10.2	1.6	0.8	7.3	13.0
	3級	175	17.1	18.3	3.4	1.1	5.7	6.3
		回答数	就労継続支援A型事業所・B型事業所以外の通所事業所で働いている	内職(自宅において行う作業)	そのほか	学生	働いていない	無回答
療育	A	273	17.6	0.4	2.2	0.7	30.4	7.7
	B1	115	2.6	0.0	0.9	2.6	15.7	2.6
	B2	157	2.5	0.0	4.5	12.1	14.0	4.5
精神	1級	59	0.0	0.0	1.7	0.0	62.7	5.1
	2級	246	0.4	1.2	2.0	0.0	54.9	6.9
	3級	175	0.6	0.6	2.3	1.7	40.6	2.3

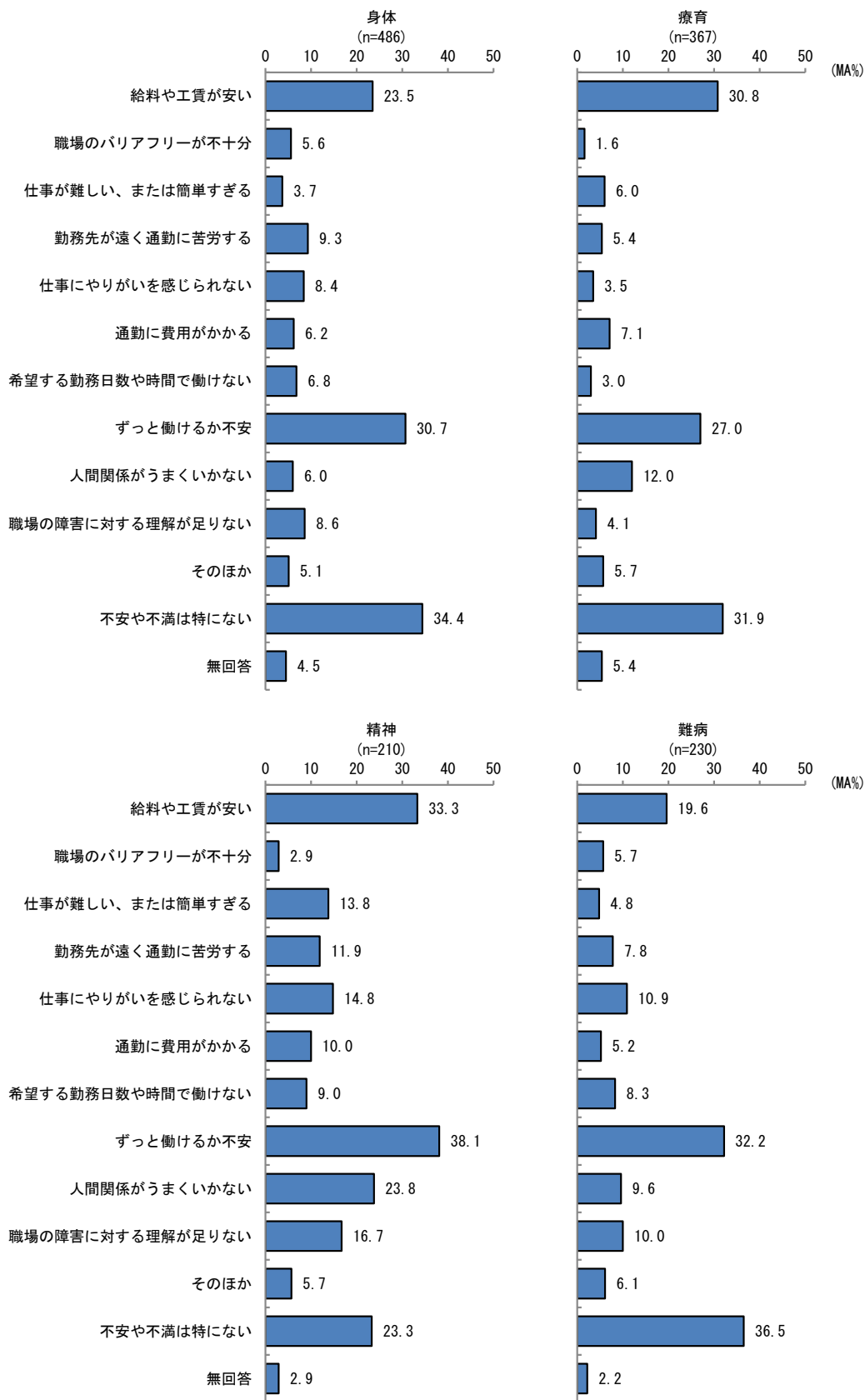
## 2 1か月の賃金（単数回答）

【身体】【難病】は「20～30万円未満」、【療育】は「3千円～1万円未満」、【精神】は「5～10万円未満」が最も高くなっています。



### 3 仕事への不満や配慮してほしいこと（複数回答）

【身体】【精神】【難病】は「ずっと働けるか不安」、【療育】は「給料や工賃が安い」が高くなっています。



## ◇仕事への不満や配慮してほしいこと×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較しても、【身体】【療育】は大幅な増減は見られません。

【精神】は「給料や工賃が安い」が42.4%から33.3%に減少し、「不安や不満は特にない」は13.6%から23.3%に増加しています。

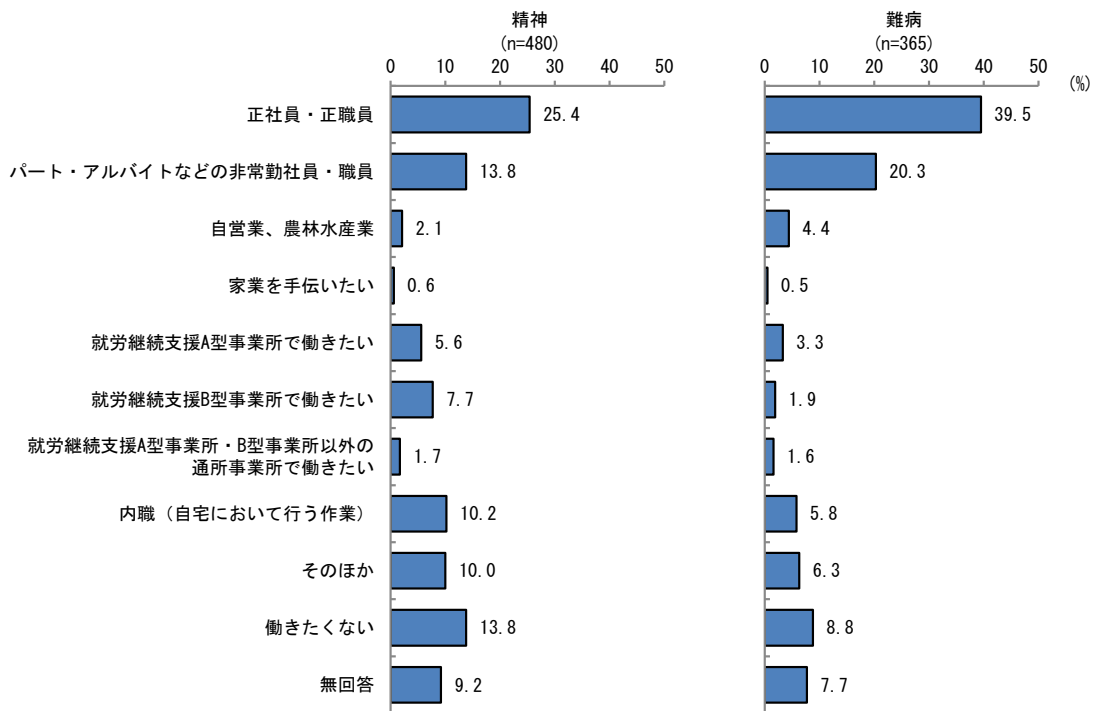
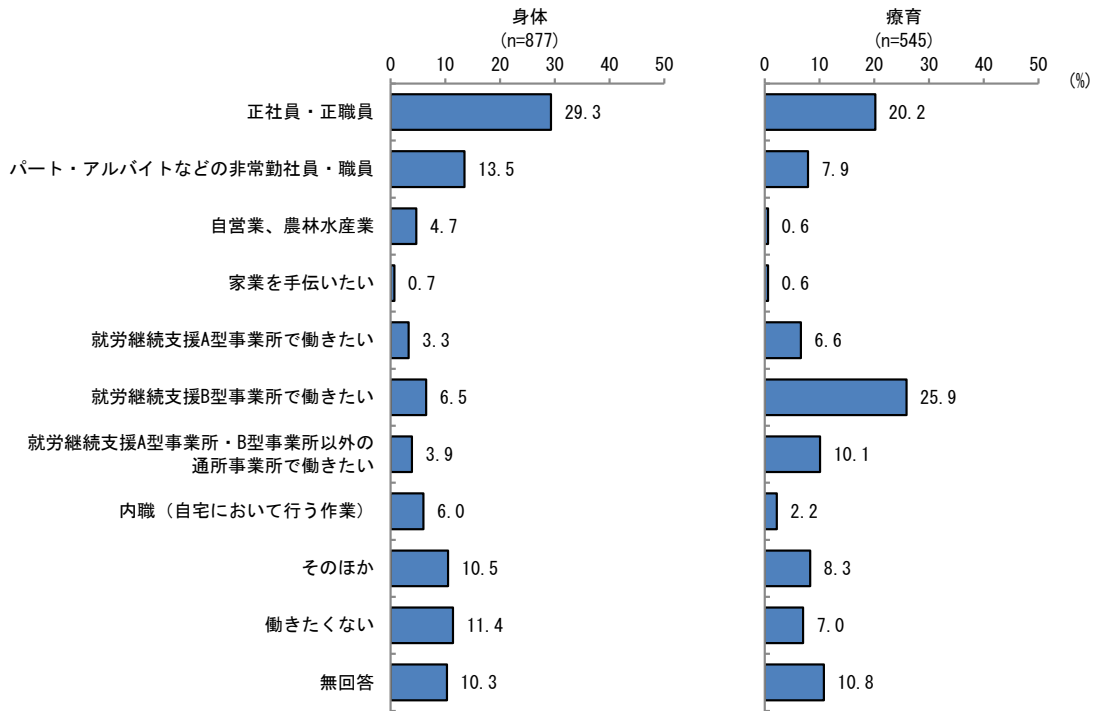
【難病】は、「ずっと働けるか不安」が42.4%から32.2%に減少しています。

### 【前回調査との比較】

		給料や工賃が安い	職場のバリアフリーが不十分	仕事が難しい、または簡単すぎる	勤務先が遠く通勤に苦勞する	仕事にやりがいを感じられない	通勤に費用がかかる	希望する勤務日数や時間で働けない
身体	R4調査 (n=486)	23.5	5.6	3.7	9.3	8.4	6.2	6.8
	R1調査 (n=310)	27.7	6.8	6.1	9.7	7.7	7.1	7.1
療育	R4調査 (n=367)	30.8	1.6	6.0	5.4	3.5	7.1	3.0
	R1調査 (n=316)	33.5	2.5	8.2	7.3	6.6	6.3	4.4
精神	R4調査 (n=210)	33.3	2.9	13.8	11.9	14.8	10.0	9.0
	R1調査 (n=125)	42.4	3.2	16.0	10.4	20.0	12.0	10.4
難病	R4調査 (n=230)	19.6	5.7	4.8	7.8	10.9	5.2	8.3
	R1調査 (n=139)	18.7	2.9	2.2	4.3	7.9	2.2	5.0
		ずっと働けるか不安	人間関係がうまくいかない	職場の障害に対する理解が足りない	そのほか	不安や不満は特にない	無回答	
身体	R4調査 (n=486)	30.7	6.0	8.6	5.1	34.4	4.5	
	R1調査 (n=310)	34.8	8.4	11.9	3.9	30.0	8.4	
療育	R4調査 (n=367)	27.0	12.0	4.1	5.7	31.9	5.4	
	R1調査 (n=316)	30.7	13.9	5.7	4.7	26.9	11.4	
精神	R4調査 (n=210)	38.1	23.8	16.7	5.7	23.3	2.9	
	R1調査 (n=125)	40.0	29.6	18.4	3.2	13.6	3.2	
難病	R4調査 (n=230)	32.2	9.6	10.0	6.1	36.5	2.2	
	R1調査 (n=139)	42.4	5.0	7.2	4.3	32.4	7.9	

#### 4 どのような働き方をしたいか（単数回答）

【身体】【精神】【難病】は、「正社員・正職員」、【療育】は「就労継続支援B型事業所で働きたい」が最も高くなっています。





### ◇どのような働き方をしたいか×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較すると、4障害ともに「働きたくない」大きく減少し、他の働き方の回答が増加しています。特に【身体】【難病】は、「正社員・正職員」が増加しています。

#### 【前回調査との比較】

		正社員・ 正職員	パート・ア ルバイトな どの非常 勤社員・ 職員	自営業、 農林水産 業	家業を手 伝いたい	就労継続 支援A型 事業所で 働きたい	就労継続 支援A型 事業所以 外の障害 者就労施 設で働き たい
身体	R4調査 (n=877)	29.3	13.5	4.7	0.7	3.3	0.0
	R1調査 (n=777)	19.9	11.8	3.3	1.2	1.2	2.4
療育	R4調査 (n=545)	20.2	7.9	0.6	0.6	6.6	0.0
	R1調査 (n=487)	15.8	10.5	0.4	0.0	9.9	27.7
精神	R4調査 (n=480)	25.4	13.8	2.1	0.6	5.6	0.0
	R1調査 (n=415)	20.7	14.0	1.4	0.5	5.8	2.9
難病	R4調査 (n=365)	39.5	20.3	4.4	0.5	3.3	0.0
	R1調査 (n=418)	13.9	14.7	3.4	1.0	0.2	0.2
		就労継続 支援B型 事業所で 働きたい	就労継続 支援A型 事業所・B 型事業所 以外の通 所事業所 で働きたい	内職(自 宅におい て行 う作業)	そのほか	働きたく ない	無回答
身体	R4調査 (n=877)	6.5	3.9	6.0	10.5	11.4	10.3
	R1調査 (n=777)	0.0	0.0	4.6	5.0	32.3	18.1
療育	R4調査 (n=545)	25.9	10.1	2.2	8.3	7.0	10.8
	R1調査 (n=487)	0.0	0.0	0.8	2.5	19.5	12.9
精神	R4調査 (n=480)	7.7	1.7	10.2	10.0	13.8	9.2
	R1調査 (n=415)	0.0	0.0	5.3	2.9	36.9	9.6
難病	R4調査 (n=365)	1.9	1.6	5.8	6.3	8.8	7.7
	R1調査 (n=418)	0.0	0.0	2.4	5.5	45.2	13.5

R1年調査のみ	就労継続支援A型以外の通所事業所で働きたい
R4年調査のみ	就労継続支援B型事業所で働きたい 就労継続支援A型事業所・B型事業所以外の通所事業所で働きたい

## ◇どのような働き方をしたいか×年齢別

【身体】【難病】は50歳代まで「正社員・正職員」が3割以上と高く、以降、「働きたくない」が高くなっています。

【療育】は18～29歳は「正社員・正職員」が高く、それ以降は「就労継続支援B型事業所で働きたい」が高くなっていますが、30～39歳をピークに年々減少していきます。

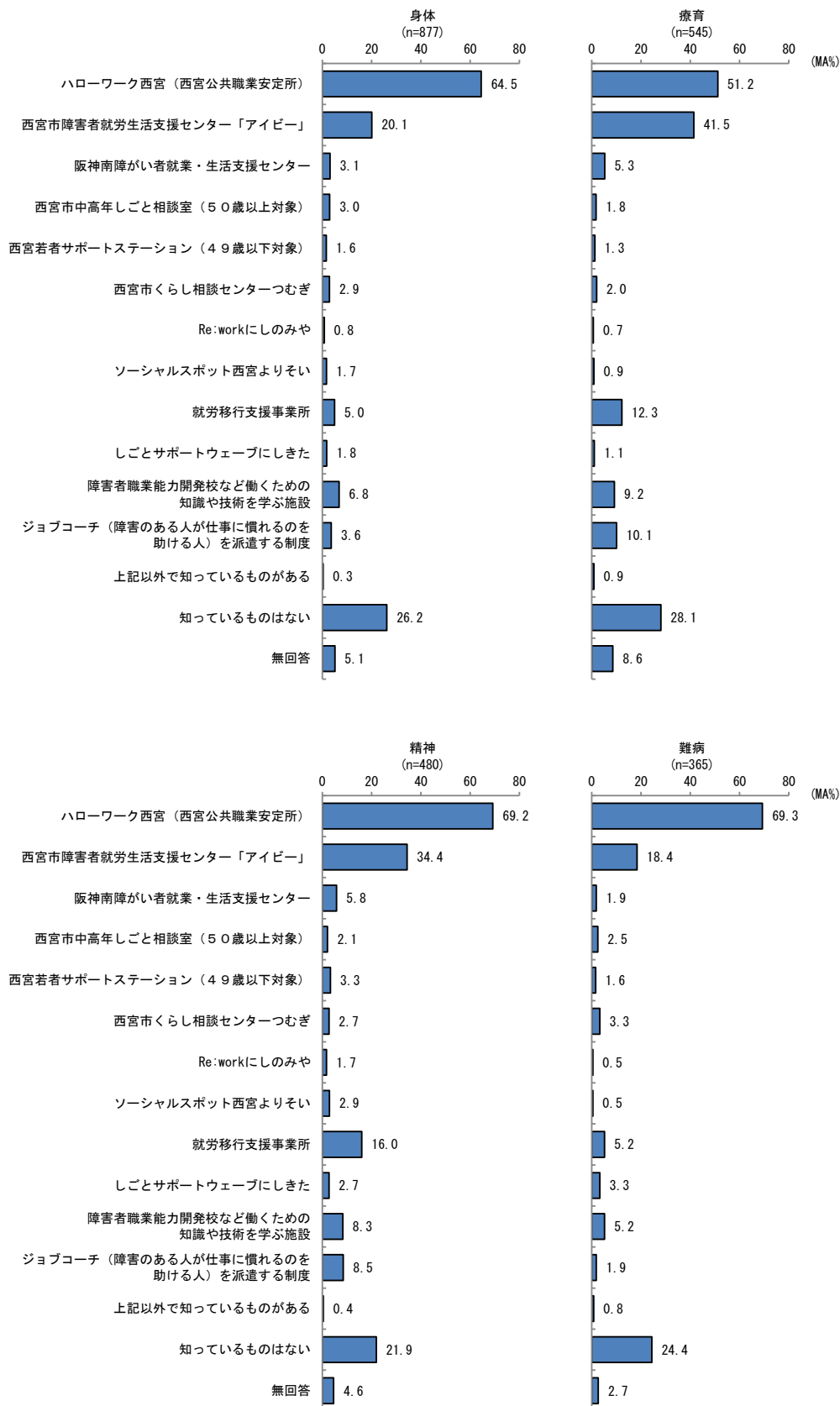
【精神】は「正社員・正職員」が高くなっていますが、年齢が上がるにつれて減少傾向にあります。

		回答数	正社員・正職員	パート・アルバイトなどの非常勤社員・職員	自営業、農林水産業	家業を手伝いたい	就労継続支援A型事業所で働きたい	就労継続支援B型事業所で働きたい
身体	18～29歳	85	31.8	3.5	0.0	0.0	4.7	11.8
	30～39歳	75	34.7	4.0	2.7	0.0	5.3	12.0
	40～49歳	159	36.5	6.9	5.0	0.0	3.8	10.7
	50～59歳	310	33.2	15.2	4.8	1.6	2.9	4.8
	60～64歳	231	18.2	22.9	6.9	0.4	2.6	2.2
	65歳以上	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
療育	18～29歳	216	32.9	8.8	0.5	0.9	7.4	19.0
	30～39歳	128	18.0	7.0	0.8	0.0	6.3	33.6
	40～49歳	104	7.7	7.7	0.0	0.0	5.8	30.8
	50～59歳	68	10.3	8.8	0.0	1.5	7.4	26.5
	60～64歳	19	5.3	5.3	5.3	0.0	5.3	21.1
	65歳以上	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
		回答数	就労継続支援A型事業所・B型事業所以外の通所事業所で働きたい	内職(自宅において行う作業)	そのほか	働きたくない	無回答	
身体	18～29歳	85	15.3	4.7	9.4	3.5	15.3	
	30～39歳	75	6.7	1.3	13.3	8.0	12.0	
	40～49歳	159	4.4	6.9	6.9	6.9	11.9	
	50～59歳	310	1.6	8.7	10.3	8.4	8.4	
	60～64歳	231	1.3	3.9	12.1	21.2	8.2	
	65歳以上	10	0.0	0.0	30.0	40.0	20.0	
療育	18～29歳	216	9.7	3.2	6.5	3.2	7.9	
	30～39歳	128	9.4	0.8	10.9	4.7	8.6	
	40～49歳	104	10.6	2.9	10.6	8.7	15.4	
	50～59歳	68	10.3	0.0	4.4	11.8	19.1	
	60～64歳	19	10.5	5.3	5.3	36.8	0.0	
	65歳以上	6	0.0	0.0	33.3	16.7	33.3	

		回答数	正社員・正職員	パート・アルバイトなどの非常勤社員・職員	自営業、農林水産業	家業を手伝いたい	就労継続支援A型事業所で働きたい	就労継続支援B型事業所で働きたい
精神	18～29歳	46	45.7	10.9	0.0	2.2	13.0	10.9
	30～39歳	77	36.4	19.5	0.0	0.0	3.9	9.1
	40～49歳	125	27.2	9.6	3.2	0.8	4.0	10.4
	50～59歳	165	18.8	16.4	3.0	0.6	6.7	4.8
	60～64歳	60	10.0	10.0	0.0	0.0	3.3	6.7
	65歳以上	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病	18～29歳	28	50.0	10.7	0.0	0.0	7.1	7.1
	30～39歳	29	62.1	10.3	6.9	0.0	3.4	0.0
	40～49歳	87	46.0	18.4	5.7	0.0	2.3	1.1
	50～59歳	136	38.2	19.1	5.1	1.5	4.4	2.9
	60～64歳	83	22.9	31.3	2.4	0.0	1.2	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		回答数	就労継続支援A型事業所・B型事業所以外の通所事業所で働きたい	内職(自宅において行う作業)	その他	働きたくない	無回答	
精神	18～29歳	46	2.2	8.7	2.2	2.2	2.2	
	30～39歳	77	3.9	9.1	5.2	6.5	6.5	
	40～49歳	125	3.2	17.6	8.0	11.2	4.8	
	50～59歳	165	0.0	4.8	15.2	13.3	16.4	
	60～64歳	60	0.0	11.7	13.3	40.0	5.0	
	65歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
難病	18～29歳	28	14.3	0.0	3.6	0.0	7.1	
	30～39歳	29	0.0	3.4	6.9	3.4	3.4	
	40～49歳	87	1.1	4.6	5.7	4.6	10.3	
	50～59歳	136	0.0	7.4	6.6	8.1	6.6	
	60～64歳	83	1.2	7.2	7.2	18.1	8.4	
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

## 5 就労支援策や就労支援窓口として知っているもの（複数回答）

4 障害ともに「ハローワーク西宮（西宮公共職業安定所）」が最も高く、次いで「西宮市障害者就労生活支援センター「アイビー」」が高くなっています。ただし、「西宮市障害者就労支援センター「アイビー」」は、【身体】【難病】に比べて【療育】【精神】の方が高い傾向にあります。



◇就労支援策や就労支援窓口として知っているもの×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較すると、4障害ともに「知っているものはない」がわずかに増加傾向にあります。

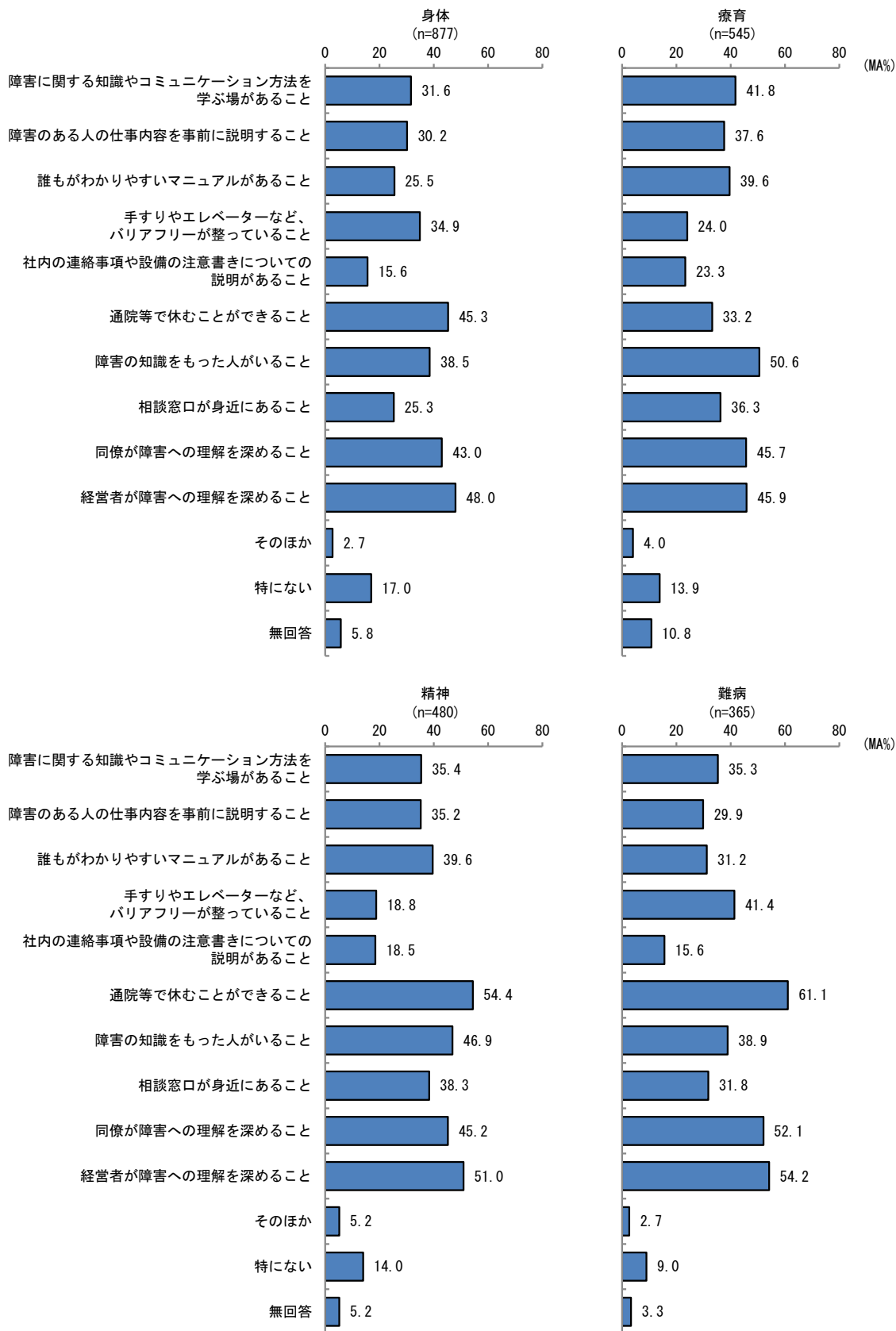
【前回調査との比較】

		ハローワーク 西宮(西宮公 共職業安定 所)	西宮市障害 者就労生活 支援センター 「アイビー」	阪神南障がい 者就業・生活 支援センター	西宮市中高 年しごと相談 室(50歳以 上対象)	西宮若者サ ポートステー ション(49歳 以下対象)	西宮市くらし 相談センター つむぎ	Re:work にし のみや	ソーシャルス ポット西宮より そい
身体	R4調査 (n=877)	64.5	20.1	3.1	3.0	1.6	2.9	0.8	1.7
	R1調査 (n=777)	61.4	18.0	0.0	5.4	1.7	0.0	0.0	1.2
療育	R4調査 (n=545)	51.2	41.5	5.3	1.8	1.3	2.0	0.7	0.9
	R1調査 (n=487)	46.8	42.9	0.0	2.7	2.7	0.0	0.0	0.4
精神	R4調査 (n=480)	69.2	34.4	5.8	2.1	3.3	2.7	1.7	2.9
	R1調査 (n=415)	72.8	35.9	0.0	5.1	4.1	0.0	0.0	2.2
難病	R4調査 (n=365)	69.3	18.4	1.9	2.5	1.6	3.3	0.5	0.5
	R1調査 (n=418)	64.9	12.5	0.0	6.5	1.0	0.0	0.0	0.5
		就労移行支 援事業所	しごとサポート ウェブにしき た	障害者職業 能力開発校 など働くた めの知識や技 術を学ぶ施設	ジョブコー チ (障害のある 人が仕事に慣 れるのを助け る人)を派遣 する制度	上記以外で 知っているも のがある	知っているも のはない	無回答	
身体	R4調査 (n=877)	5.0	1.8	6.8	3.6	0.3	26.2	5.1	
	R1調査 (n=777)	3.7	2.1	8.6	3.3	1.3	21.6	14.3	
療育	R4調査 (n=545)	12.3	1.1	9.2	10.1	0.9	28.1	8.6	
	R1調査 (n=487)	16.0	1.6	10.9	12.1	1.2	24.0	14.8	
精神	R4調査 (n=480)	16.0	2.7	8.3	8.5	0.4	21.9	4.6	
	R1調査 (n=415)	19.3	3.1	9.2	10.4	1.2	16.1	7.2	
難病	R4調査 (n=365)	5.2	3.3	5.2	1.9	0.8	24.4	2.7	
	R1調査 (n=418)	3.1	2.9	2.6	1.2	1.4	21.6	11.8	

R4年調査のみ	阪神南障がい者就業・生活支援センター 西宮市くらし相談センターつむぎ Re:work にしのみや
---------	--

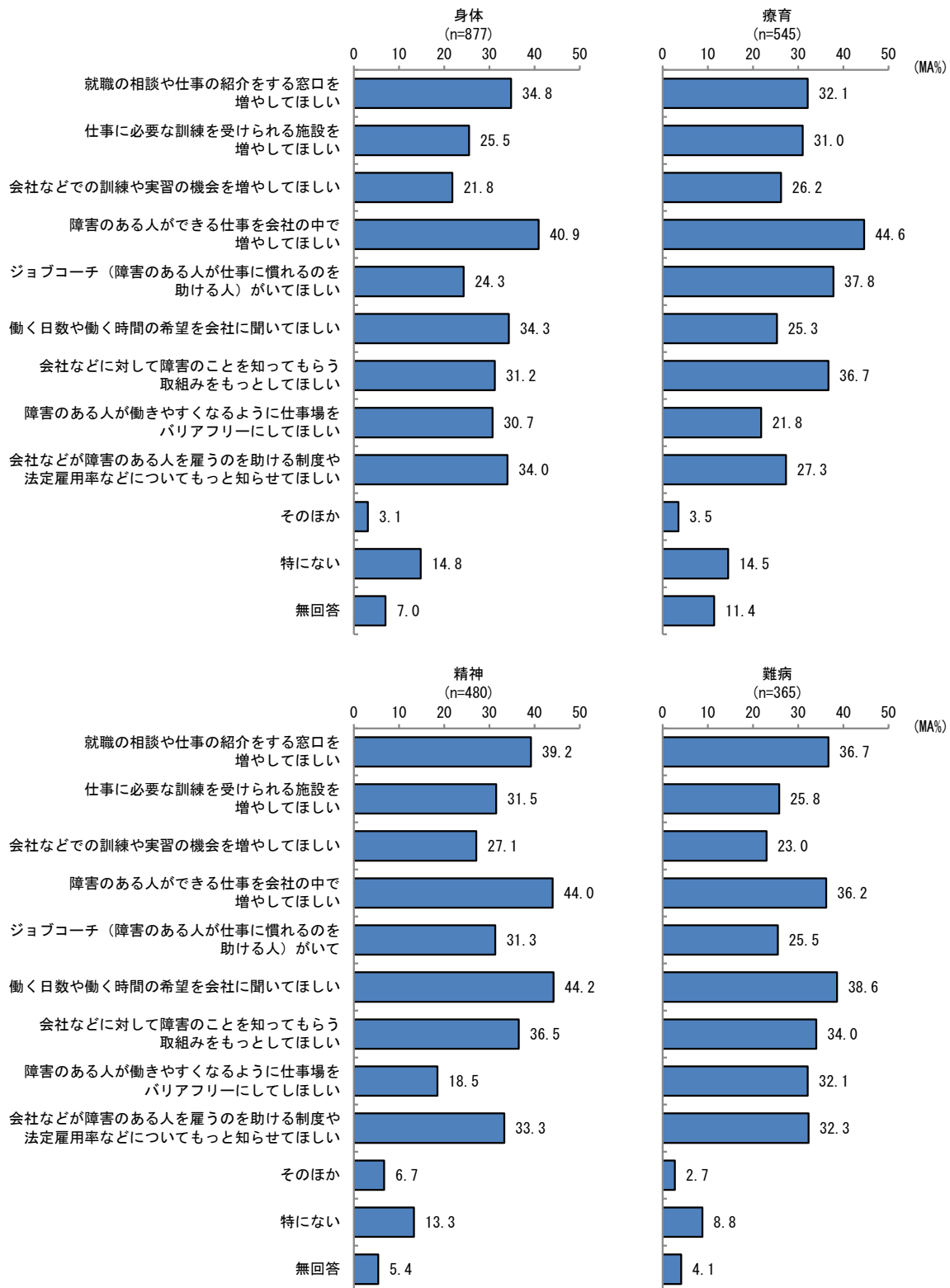
## 6 職場や一緒に働く人に希望すること（複数回答）

【身体】は「経営者が障害への理解を深めること」、【療育】は「障害の知識をもった人がいること」、【精神】【難病】は「通院等で休むことができること」が最も高くなっています。



## 7 安心して働ける環境づくりに向けて必要なこと（複数回答）

【身体】【療育】は「障害のある人ができる仕事を会社の中で増やしてほしい」、【精神】【難病】は「働く日数や働く時間の希望を会社に聞いてほしい」が最も高くなっています。



## ◇安心して働ける環境づくりに向けて必要なこと×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較すると、4障害ともに「会社などに対して障害のことを知ってもらう取り組みをもっとしてほしい」「会社などが障害のある人を雇うのを助ける制度や法定雇用率などについてもっと知らせてほしい」が増加傾向にあります。

【身体】【難病】は「ジョブコーチ（障害のある人が仕事に慣れるのを助ける人）がいてほしい」がおおよそ10ポイントの増加が見られます。

### 【前回調査との比較】

		就職の相談や仕事の紹介をする窓口を増やしてほしい	仕事に必要な訓練を受けられる施設を増やしてほしい	会社などでの訓練や実習の機会を増やしてほしい	障害のある人ができる仕事を会社の中で増やしてほしい	ジョブコーチ(障害のある人が仕事に慣れるのを助ける人)がいてほしい	会社などに対して障害のことを知ってもらう取り組みをもっとしてほしい
身体	R4調査 (n=877)	34.8	25.5	21.8	40.9	24.3	31.2
	R1調査 (n=777)	37.8	25.7	18.3	38.0	16.6	26.5
療育	R4調査 (n=545)	32.1	31.0	26.2	44.6	37.8	36.7
	R1調査 (n=487)	32.9	31.0	21.4	43.3	33.7	31.6
精神	R4調査 (n=480)	39.2	31.5	27.1	44.0	31.3	36.5
	R1調査 (n=415)	40.2	31.8	24.6	43.6	25.3	35.2
難病	R4調査 (n=365)	36.7	25.8	23.0	36.2	25.5	34.0
	R1調査 (n=418)	38.9	22.8	24.0	41.8	13.5	22.4
		働く日数や働く時間の希望を会社に聞いてほしい	障害のある人が働きやすくなるように職場をバリアフリーにしてほしい	会社などが障害のある人を雇うのを助ける制度や法定雇用率などについてもっと知らせてほしい	そのほか	特になし	無回答
身体	R4調査 (n=877)	34.3	30.7	34.0	3.1	14.8	7.0
	R1調査 (n=777)	24.6	21.4	26.3	4.9	18.4	18.4
療育	R4調査 (n=545)	25.3	21.8	27.3	3.5	14.5	11.4
	R1調査 (n=487)	22.4	15.0	25.5	3.9	14.4	15.6
精神	R4調査 (n=480)	44.2	18.5	33.3	6.7	13.3	5.4
	R1調査 (n=415)	35.2	18.1	31.3	8.0	13.3	13.0
難病	R4調査 (n=365)	38.6	32.1	32.3	2.7	8.8	4.1
	R1調査 (n=418)	0.0	0.0	25.0	3.8	10.6	16.6

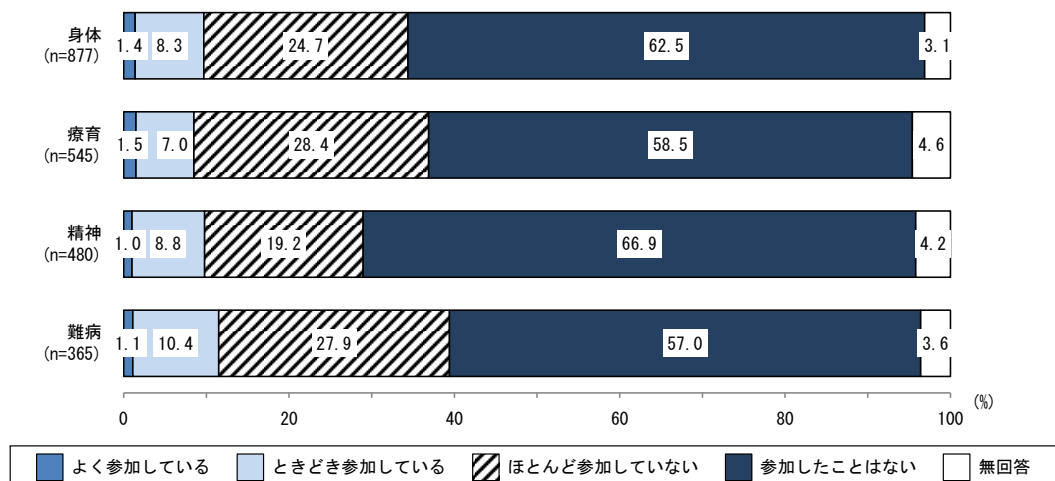
R4年調査のみ	働く日数や働く時間の希望を会社に聞いてほしい（難病のみ） 障害のある人が働きやすくなるように職場をバリアフリーにしてほしい（難病のみ）
---------	--



## 5. 地域での行事などのことについて

### 1 地域で行われている活動や行事への参加（単数回答）

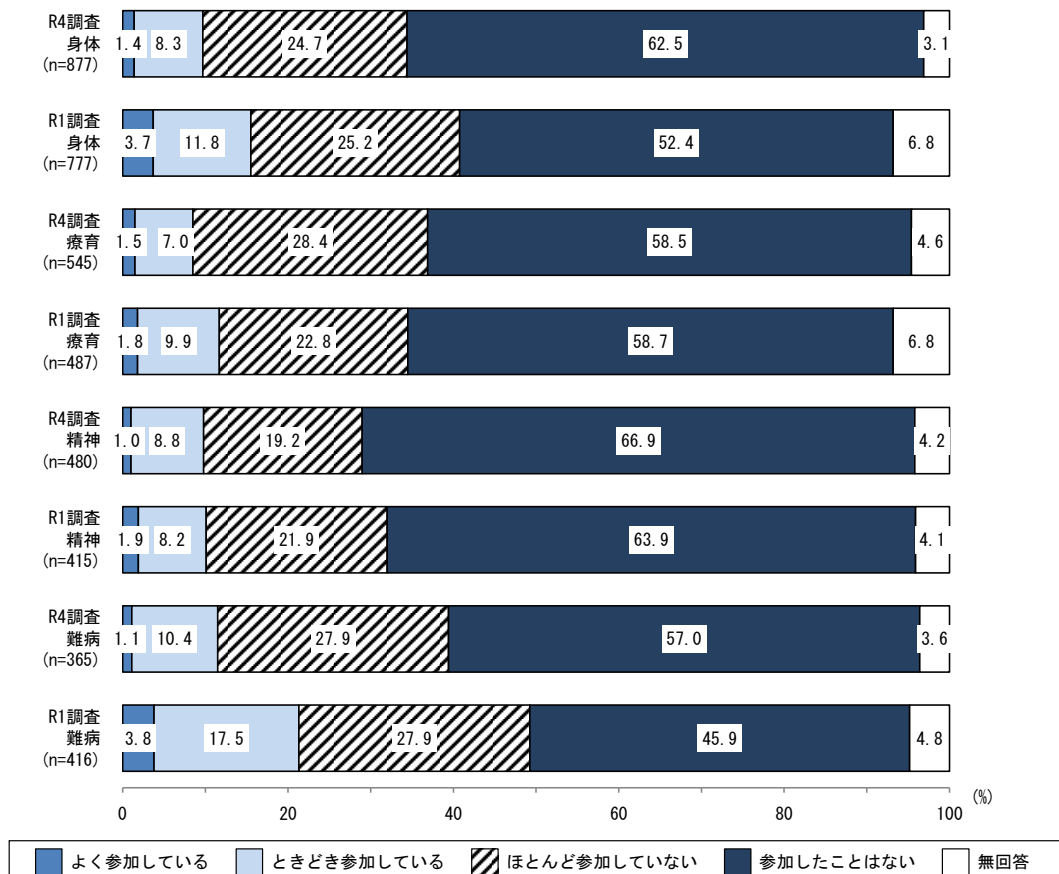
4 障害ともに「参加したことはない」が最も高く、【精神】は他の障害に比べて特に高くなっています。



### ◇地域で行われている活動や行事への参加×前回調査との比較

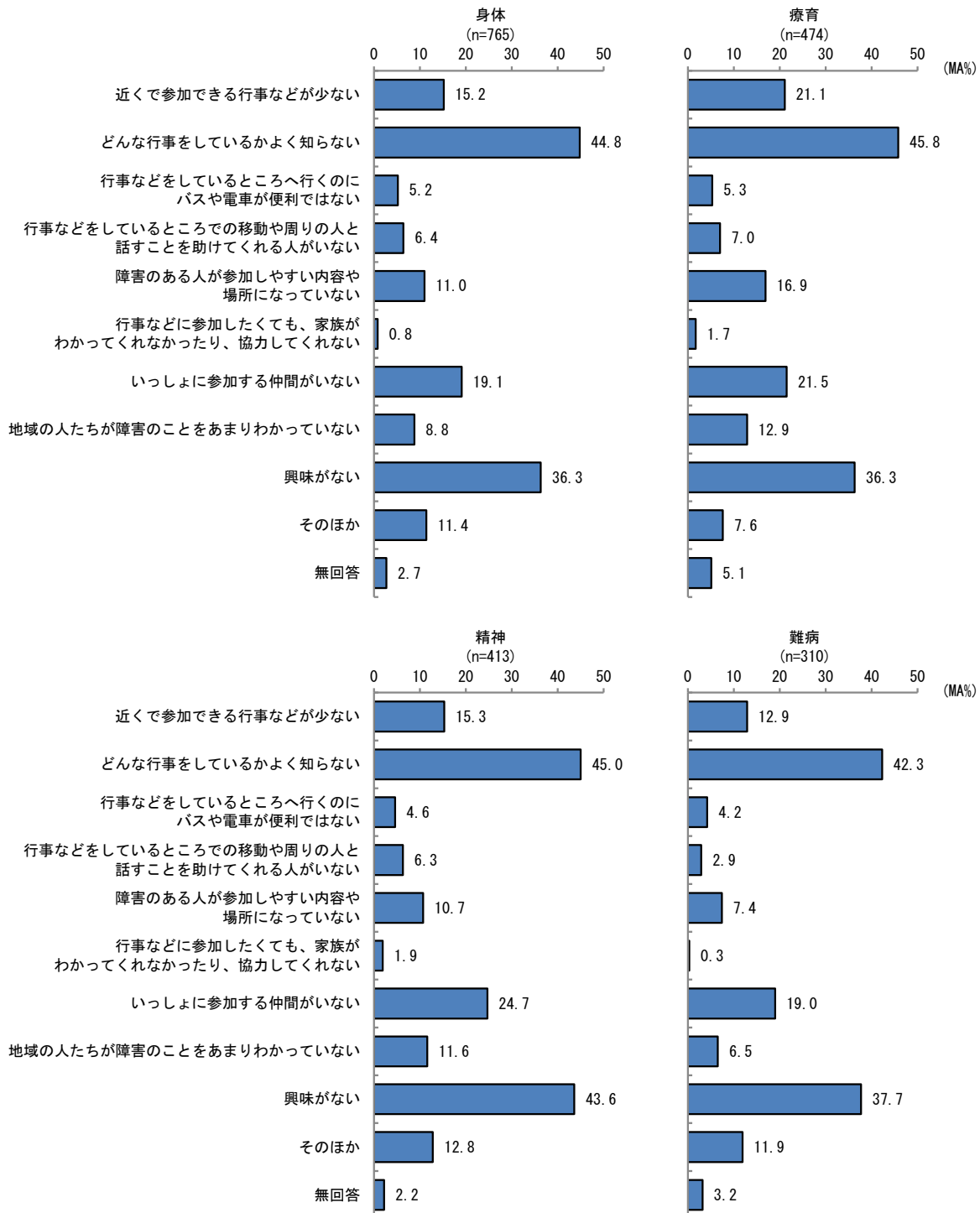
前回（3年前）の調査と比較すると、【身体】【難病】は「よく参加している」「ときどき参加している」が減少し、「参加したことはない」が大幅に増加しています。

#### 【前回調査との比較】



## 2 (5-1で「ほとんど参加していない」「参加したことはない」と回答された方) 参加しない理由 (複数回答)

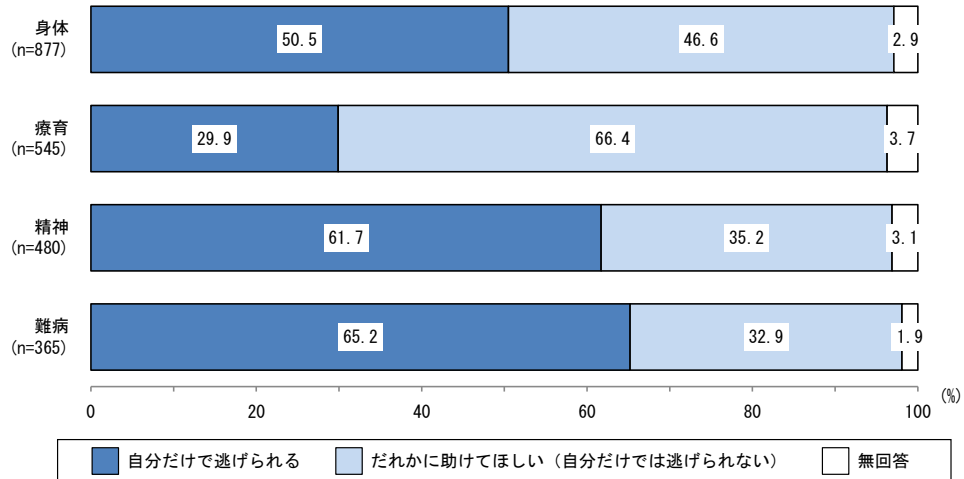
4障害ともに「どんな行事をしているのかよく知らない」が最も高く、次いで「興味がない」となっています。



## 6. 災害が起こったときのことについて

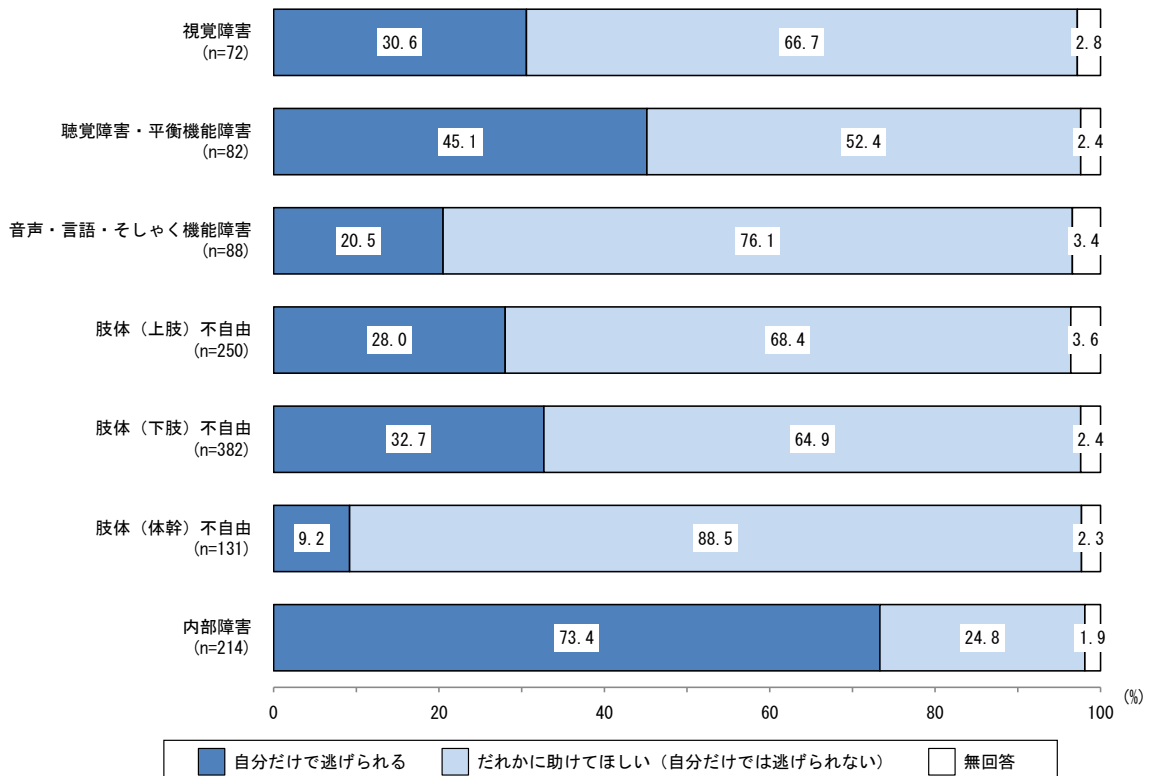
### 1 災害時の避難（単数回答）

【療育】を除くと「自分だけで逃げられる」が最も高く、【療育】は「だれかに助けてほしい（自分だけでは逃げられない）」が最も高くなっています。



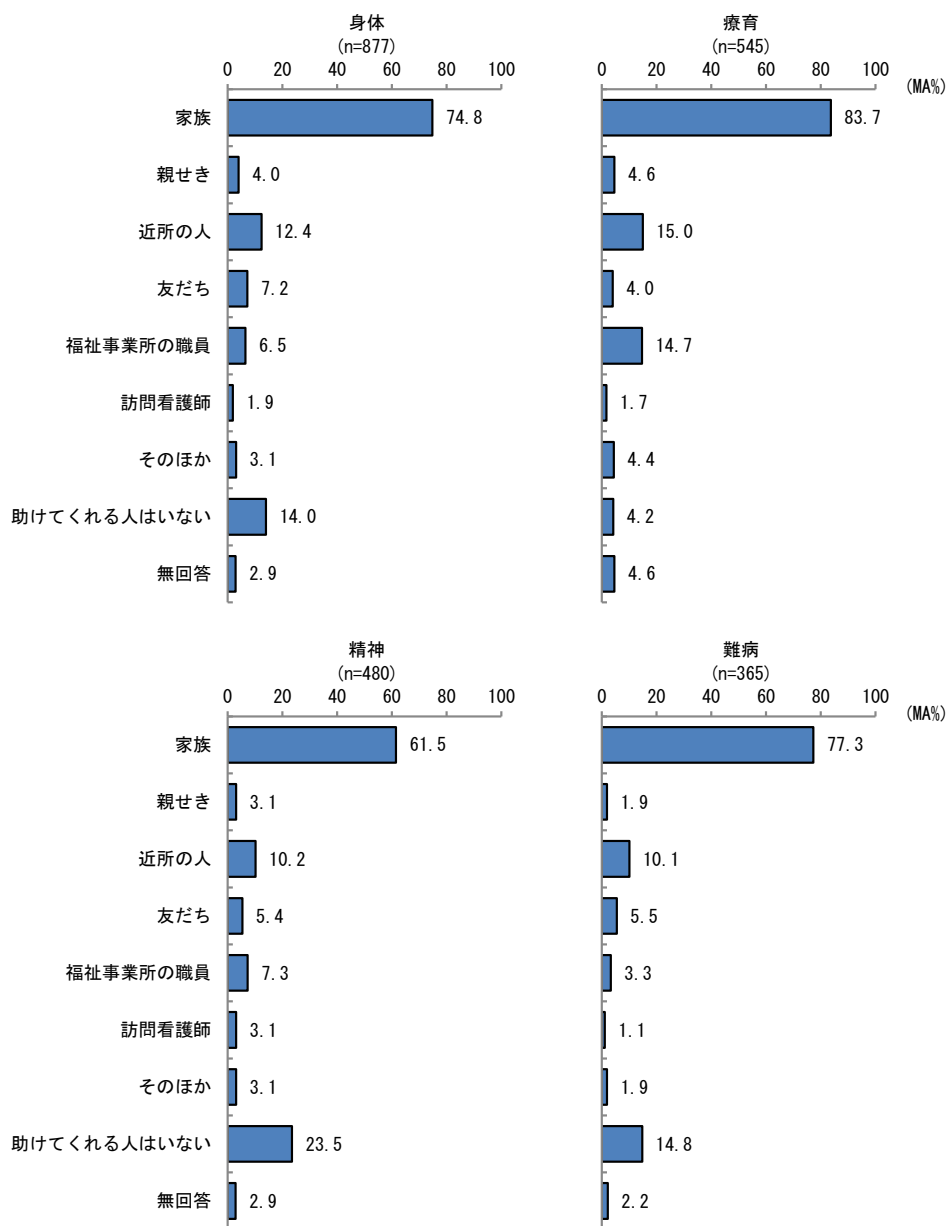
### ◇災害時の避難×身体障害の種類

内部障害を除くと「だれかに助けてほしい（自分だけでは逃げられない）」が最も高く、内部障害は、「自分だけで逃げられる」が最も高くなっています。



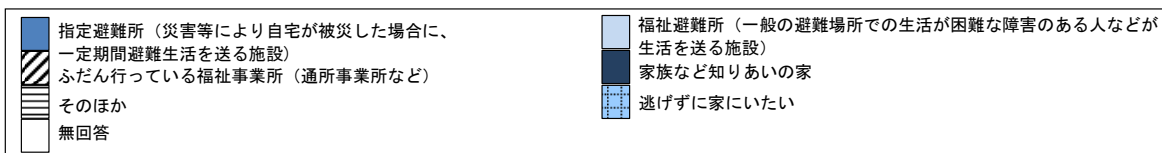
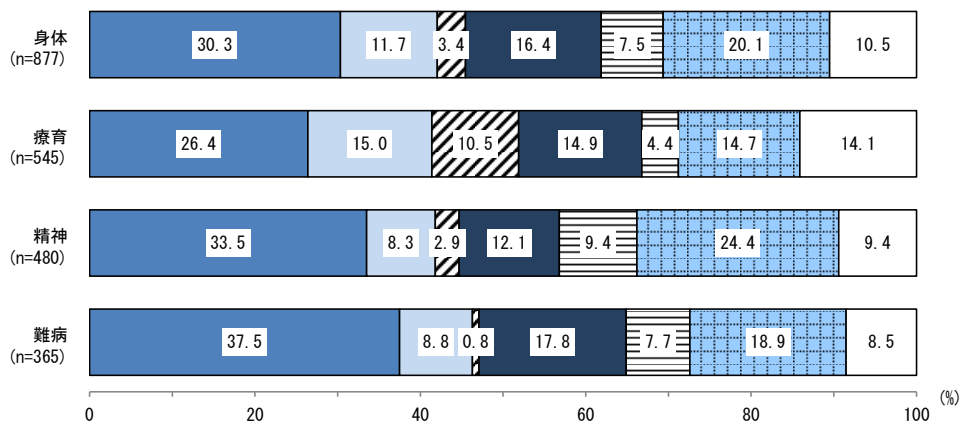
## 2 避難時に助けてくれる人（複数回答）

4障害ともに「家族」が最も高くなっています。【身体】【精神】【難病】は「助けてくれる人はいない」が次いで高くなっています。



### 3 避難場所（単数回答）

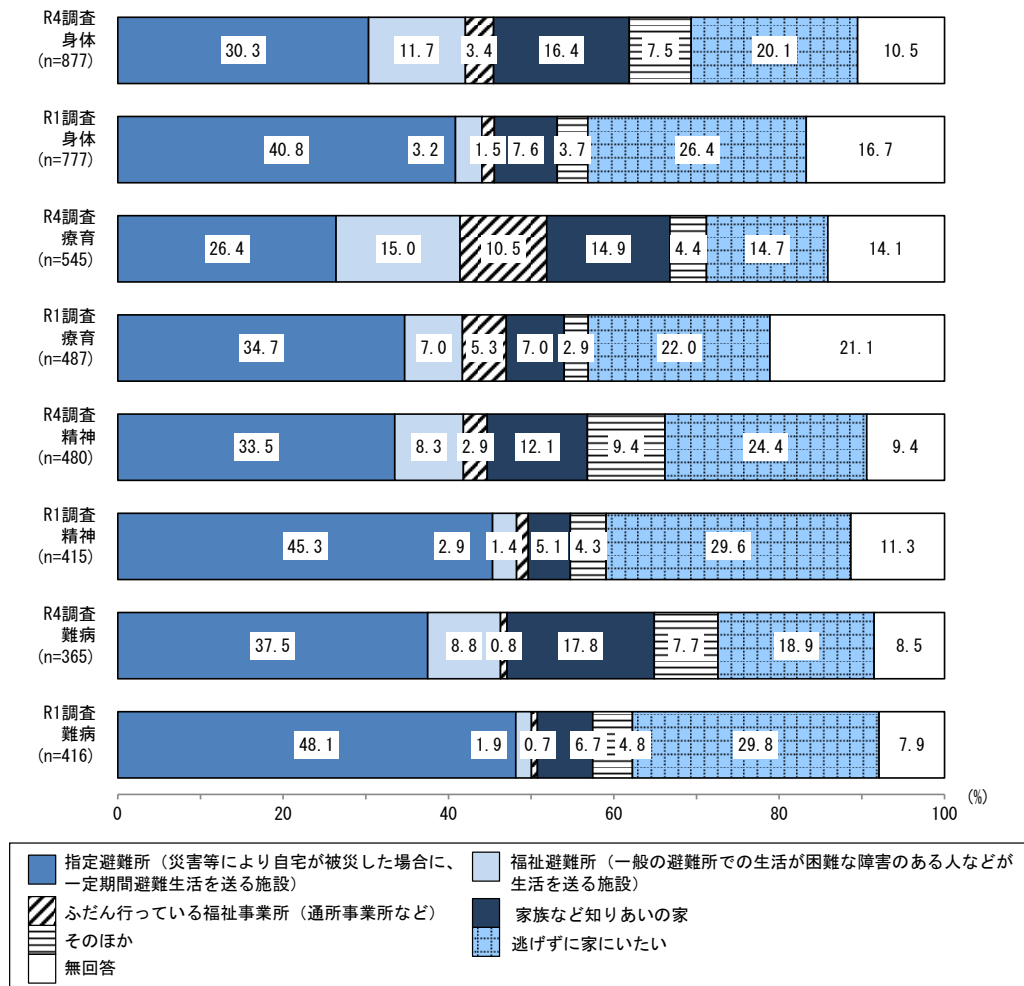
避難先として希望する場所は、4障害ともに「指定避難所（災害等により自宅が被災した場合に、一定期間避難生活を送る施設）」が最も高くなっています。【療育】は、他の障害に比べて「福祉避難所（一般の避難場所での生活が困難な障害のある人などが生活を送る施設）」や「ふだん行っている福祉事業所（通所事業所など）」が高くなっています。



## ◇避難場所×前回調査との比較

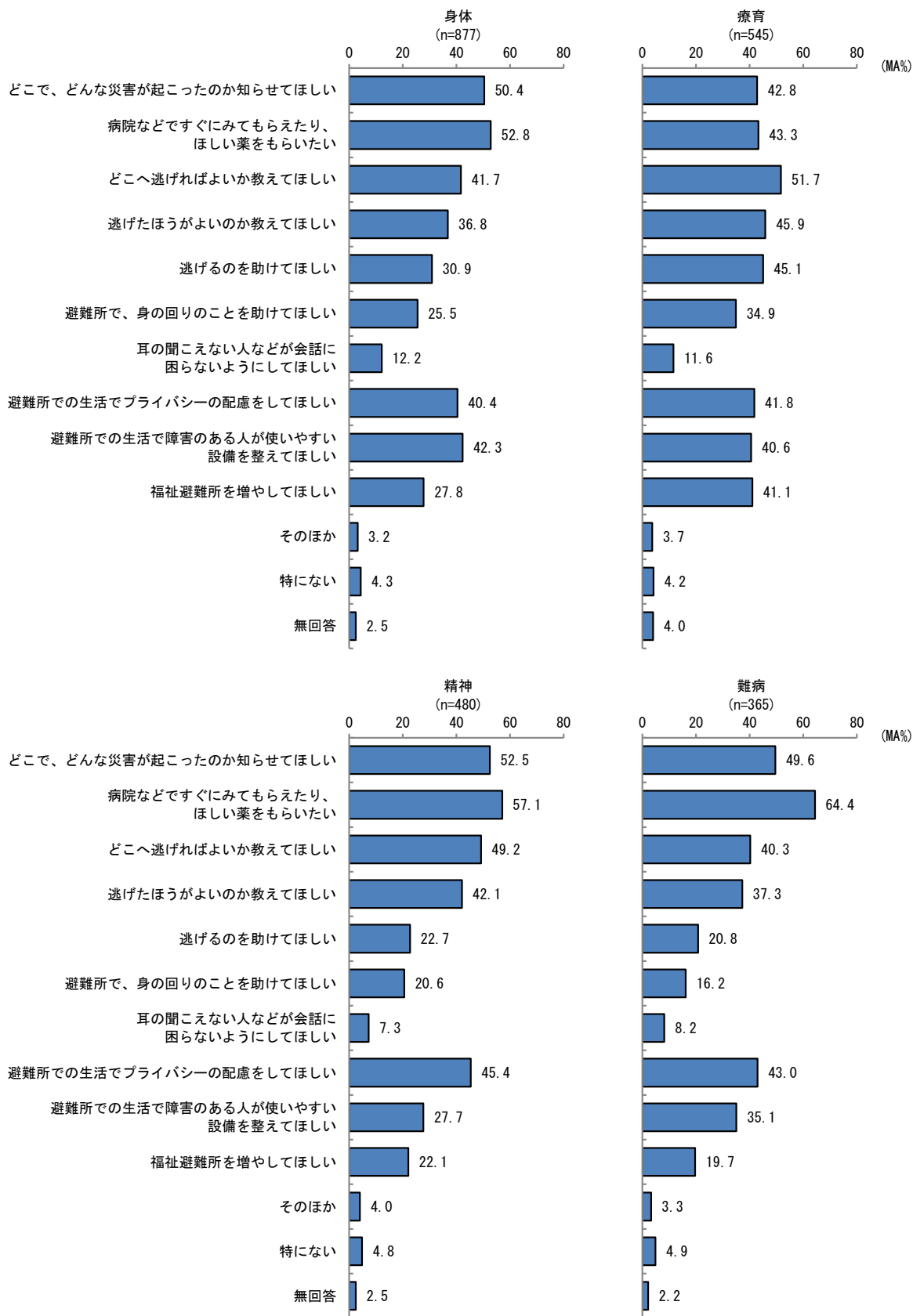
前回（3年前）の調査と比較しても、4障害ともに「指定避難所（災害等により自宅が被災した場合に、一定期間避難生活を送る施設）」「逃げずに家にいたい」が減少傾向にあり、「家族など知りあいの家」が増加傾向にあります。

### 【前回調査との比較】



#### 4 災害時に必要なこと（複数回答）

【身体】【精神】【難病】は「病院などですぐにみてもらえたり、ほしい薬をもらいたい」、【療育】は「どこへ逃げればよいか教えてほしい」が最も高くなっています。



### ◇災害時に必要なこと×身体障害の種類

視覚障害、肢体（上肢）不自由、肢体（下肢）不自由、内部障害は、「病院などですぐにもてらえたり、ほしい薬をもらいたい」が最も高く、視覚障害は「逃げるのを助けてほしい」が同率となっています。聴覚障害・平衡機能障害は「どこで、どんな災害が起こったのか知らせてほしい」、音声・言語・そしゃく機能障害は「逃げるのを助けてほしい」、肢体（体幹）不自由は「避難所での生活で障害のある人が使いやすい設備を整えてほしい」が最も高くなっています。

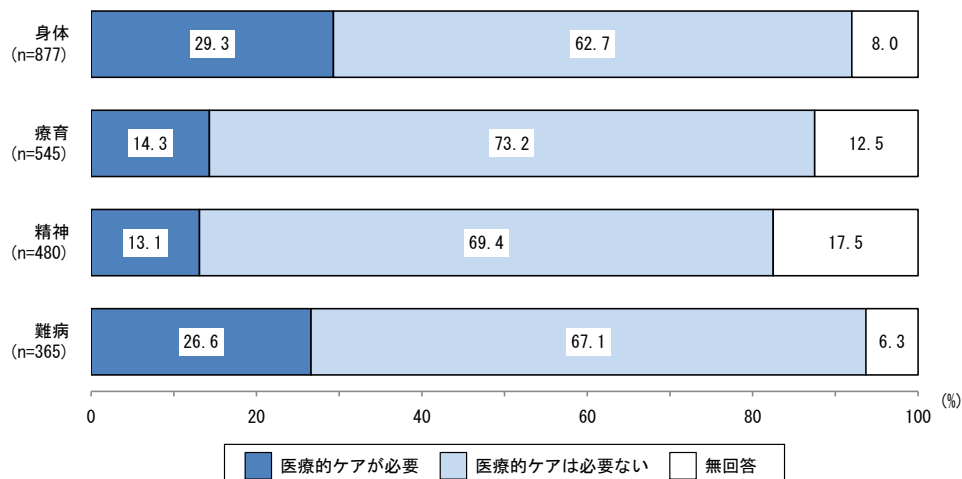
身体	障害の種類	回答数	どこで、どんな災害が起こったのか知らせてほしい		病院などですぐにもてらえたり、ほしい薬をもらいたい		どこへ逃げればよいか教えてほしい		逃げたほうがよいのか教えてほしい		逃げるのを助けてほしい		避難所で、身の回りのことを助けてほしい		耳の聞こえない人などが会話に困らないようにしてほしい	
			割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合		
	視覚障害	72	40.3	44.4	41.7	41.7	44.4	29.2	9.7							
	聴覚障害・平衡機能障害	82	62.2	42.7	54.9	42.7	32.9	28.0	54.9							
	音声・言語・そしゃく機能障害	88	39.8	46.6	43.2	35.2	55.7	44.3	15.9							
	肢体(上肢)不自由	250	49.2	54.4	43.6	42.0	47.6	38.0	10.4							
	肢体(下肢)不自由	382	47.4	50.5	41.9	40.3	43.2	31.9	9.9							
	肢体(体幹)不自由	131	40.5	57.3	43.5	42.7	57.3	48.9	10.7							
	内部障害	214	52.3	72.0	32.7	29.9	14.5	16.8	5.6							
		回答数	避難所での生活でプライバシーの配慮してほしい	避難所での生活で障害のある人が使いやすい設備を整えてほしい	福祉避難所を増やしてほしい	そのほか	特になし	無回答								
	視覚障害	72	36.1	41.7	29.2	4.2	5.6	4.2								
	聴覚障害・平衡機能障害	82	34.1	36.6	30.5	6.1	1.2	3.7								
	音声・言語・そしゃく機能障害	88	36.4	46.6	39.8	9.1	3.4	5.7								
	肢体(上肢)不自由	250	39.2	54.0	37.2	3.6	4.0	3.6								
	肢体(下肢)不自由	382	40.3	56.0	33.8	3.1	4.5	2.4								
	肢体(体幹)不自由	131	38.9	60.3	45.8	5.3	3.8	3.1								
	内部障害	214	43.5	33.2	21.0	3.7	2.8	0.5								



## 7. 医療的ケアのことについて

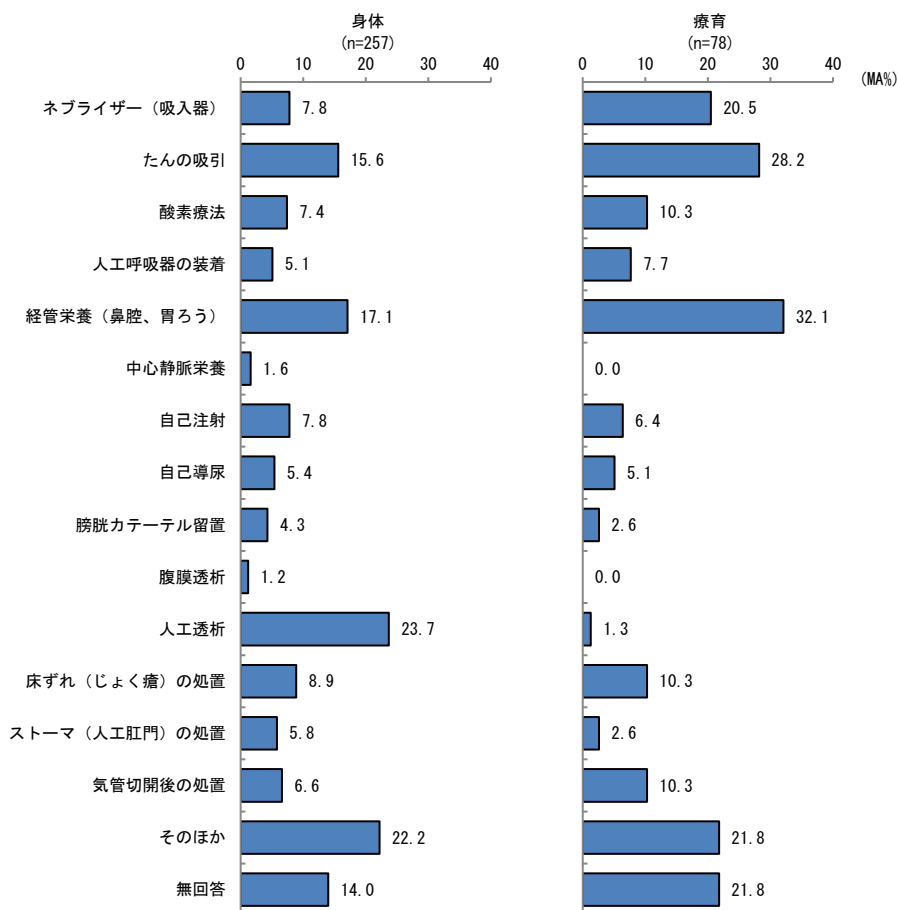
### 1 医療的ケアの必要性（単数回答）

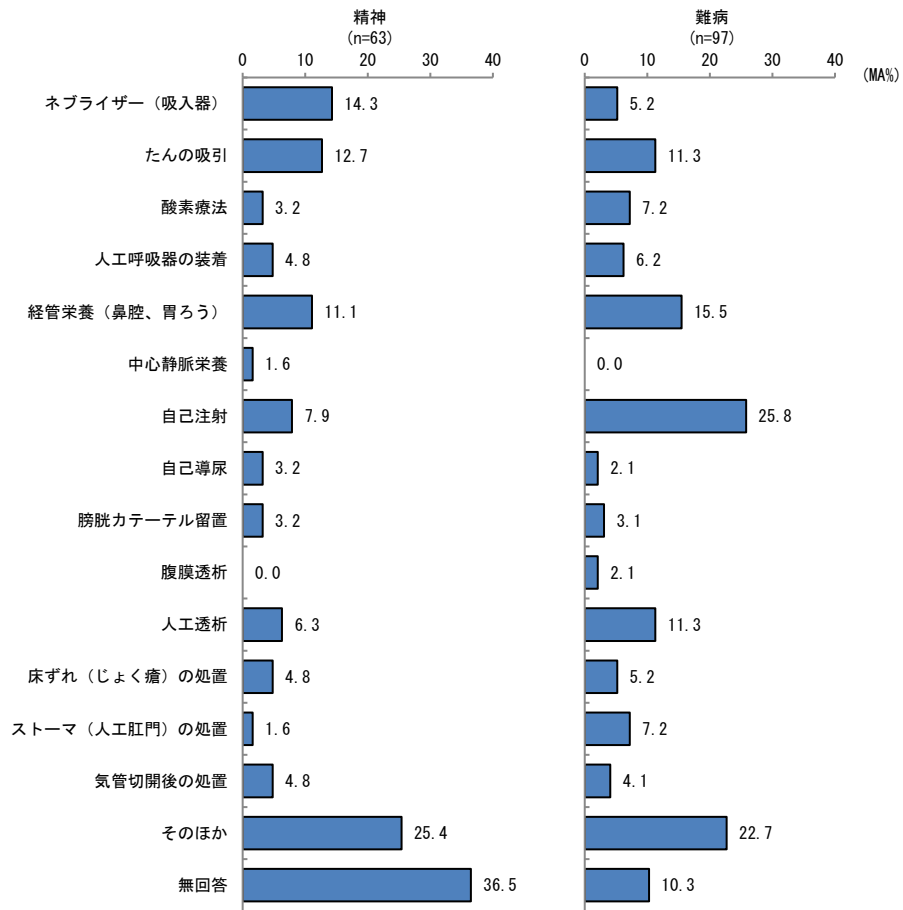
医療的ケアが必要な人は【身体】で29.3%、【療育】で14.3%、【精神】で13.1%、【難病】で26.6%となっています。



### 2 (7-1で「医療的ケアが必要」と答えた方) 必要としている医療的ケア（複数回答）

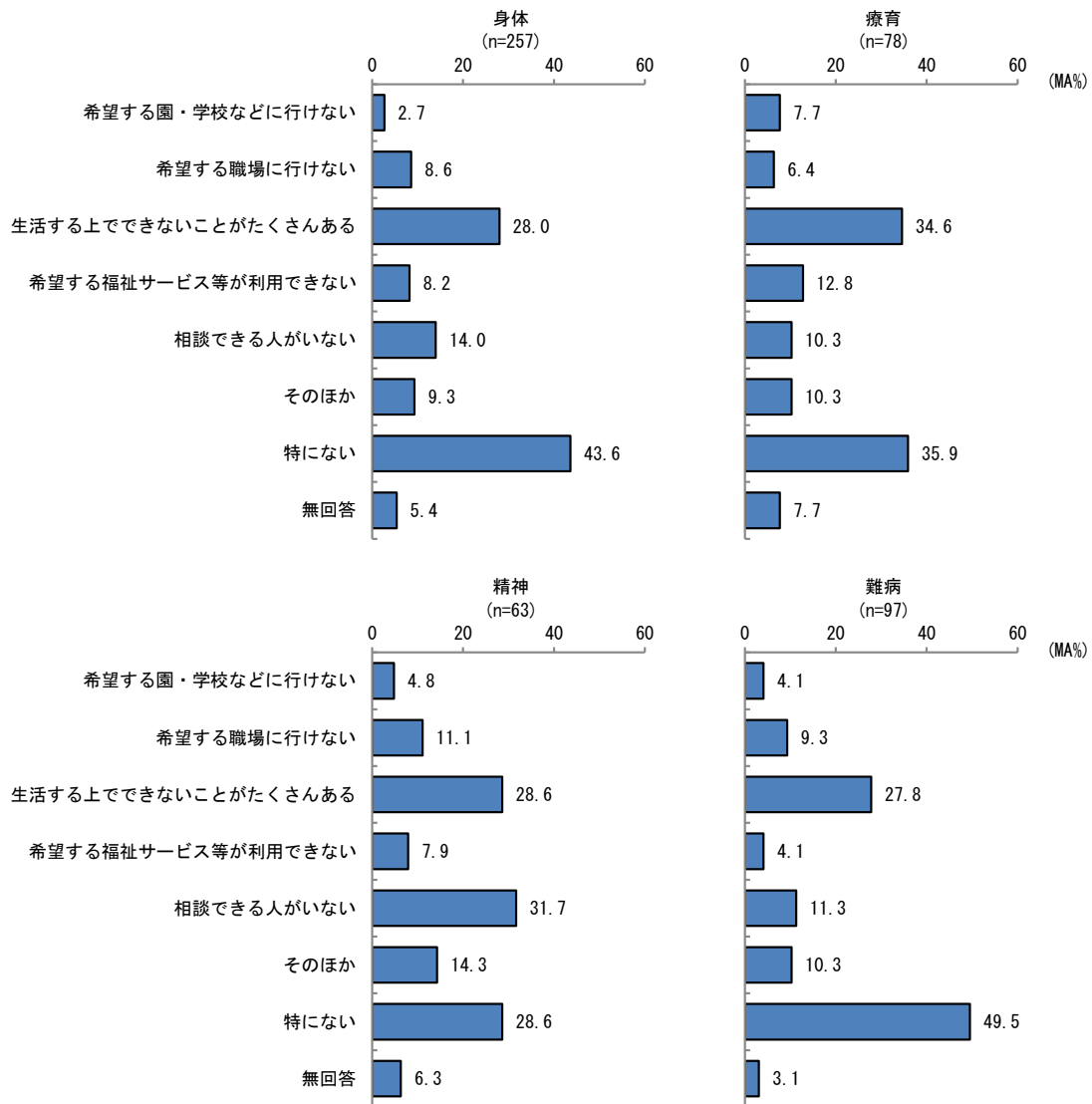
【身体】は「人工透析」、【療育】は「経管栄養（鼻腔、胃ろう）」、【精神】は「ネブライザー（吸入器）」、【難病】は「自己注射」が最も高くなっています。





### 3 (7-1で「医療的ケアが必要」と答えた方) 医療的ケアが必要なために困ったこと (単数回答)

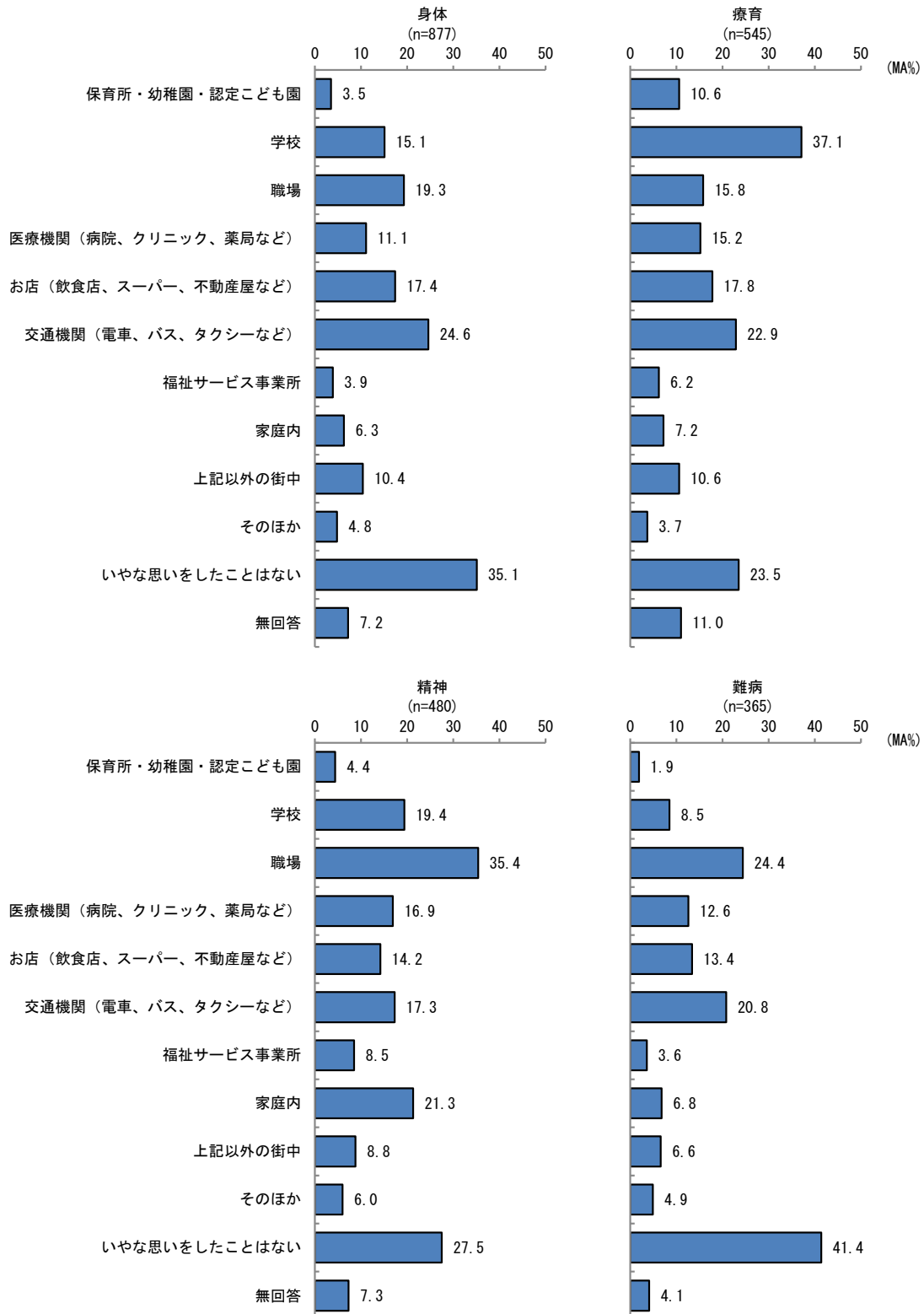
【身体】【療育】【難病】は「生活する上でできないことがたくさんある」、【精神】は「相談できる人がいない」が最も高くなっています。



## 8. 障害のある人に対する理解と権利を守るためのしくみについて

### 1 障害や難病があることで、ふだんの生活でいやな思いをした場面（複数回答）

【身体】は「交通機関（電車、バス、タクシーなど）」、【療育】は「学校」、【精神】【難病】は「職場」が最も高くなっています。



### ◇障害や難病があることで、ふだんの生活でいやな思いをした場面×性別

【身体】【療育】【精神】は、女性より男性の方が「いやな思いをしたことはない」が高くなっています。【身体】【療育】【精神】で男性より女性で回答率が高いのは、「交通機関（電車、バス、タクシーなど）」「学校」となっています。加えて【精神】は、「お店（飲食店、スーパー、不動産屋など）」「家庭内」も高くなっています。

【難病】は、男性の方が「職場」で高く、女性の方が「医療機関（病院、クリニック、薬局など）」や「家庭内」で高くなっています。

		回答数	保育所・幼稚園・認定こども園	学校	職場	医療機関（病院、クリニック、薬局など）	お店（飲食店、スーパー、不動産屋など）	交通機関（電車、バス、タクシーなど）
身体	男性	490	2.9	12.4	18.8	9.6	17.8	22.4
	女性	381	4.2	18.1	19.7	12.9	16.5	27.3
	そのほか	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
療育	男性	317	11.7	34.4	14.5	15.8	17.4	21.8
	女性	223	9.0	40.8	17.0	14.3	18.4	24.7
	そのほか	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	男性	231	3.0	15.2	33.3	14.3	10.8	12.6
	女性	240	5.4	22.9	37.5	19.6	17.1	21.3
	そのほか	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病	男性	150	1.3	10.0	27.3	6.7	13.3	19.3
	女性	212	2.4	7.5	21.2	17.0	12.7	21.2
	そのほか	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		回答数	福祉サービス事業所	家庭内	上記以外の街中	そのほか	いやな思いをしたことはない	無回答
身体	男性	490	5.1	4.5	9.2	3.3	40.4	6.9
	女性	381	2.4	8.1	11.8	6.8	28.9	7.6
	そのほか	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
療育	男性	317	6.3	5.0	10.7	2.2	26.8	11.0
	女性	223	6.3	9.4	10.8	5.8	19.3	10.8
	そのほか	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
精神	男性	231	10.0	15.2	7.8	3.9	34.6	7.4
	女性	240	7.5	25.8	8.8	7.9	20.8	7.1
	そのほか	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病	男性	150	5.3	4.0	5.3	4.7	42.0	4.7
	女性	212	2.4	9.0	7.1	5.2	41.5	3.8
	そのほか	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### ◇障害や難病があることで、ふだんの生活でいやな思いをした場面×身体障害の種類

聴覚障害・平衡機能障害を除くと、「交通機関（電車、バス、タクシーなど）」が最も高くなっており、音声・言語・そしゃく機能障害は「お店（飲食店、スーパー、不動産屋など）」が同率で高く、聴覚障害・平衡機能障害は、「お店（飲食店、スーパー、不動産屋など）」が最も高くなっています。

身体		回答数	保育所・幼稚園・認定こども園	学校	職場	医療機関（病院、クリニック、薬局など）	お店（飲食店、スーパー、不動産屋など）	交通機関（電車、バス、タクシーなど）
	視覚障害	72	2.8	13.9	18.1	13.9	26.4	34.7
聴覚障害・平衡機能障害	82	4.9	31.7	25.6	25.6	37.8	23.2	
音声・言語・そしゃく機能障害	88	9.1	23.9	14.8	19.3	30.7	30.7	
肢体（上肢）不自由	250	5.2	17.6	14.4	12.8	20.4	30.4	
肢体（下肢）不自由	382	3.7	13.6	15.7	9.2	19.6	32.5	
肢体（体幹）不自由	131	6.9	19.8	5.3	18.3	25.2	35.9	
内部障害	214	1.9	4.7	13.1	6.5	10.3	20.1	
	回答数	福祉サービス事業所	家庭内	上記以外の街中	そのほか	いやな思いをしたことはない	無回答	
視覚障害	72	2.8	2.8	15.3	5.6	29.2	5.6	
聴覚障害・平衡機能障害	82	4.9	13.4	11.0	6.1	25.6	8.5	
音声・言語・そしゃく機能障害	88	6.8	5.7	13.6	8.0	20.5	17.0	
肢体（上肢）不自由	250	6.8	6.0	14.0	5.2	30.8	8.4	
肢体（下肢）不自由	382	5.2	5.5	13.1	4.7	32.5	7.6	
肢体（体幹）不自由	131	7.6	6.1	16.0	6.1	23.7	9.9	
内部障害	214	2.8	2.8	6.1	5.1	50.0	6.1	

### ◇障害や難病があることで、ふだんの生活でいやな思いをした場面×判定

【療育】は、判定が重度であるほど「医療機関（病院、クリニック、薬局など）」「お店（飲食店、スーパー、不動産屋など）」「交通機関（電車、バス、タクシーなど）」が高くなる傾向となっています。一方で、判定が軽度であるほど「学校」の割合は高くなっています。

【精神】は、重度であるほど「お店（飲食店、スーパー、不動産屋など）」「交通機関（電車、バス、タクシーなど）」が高く、等級が軽度であるほど「学校」「職場」が高くなっています。

		回答数	保育所・幼稚園・認定こども園	学校	職場	医療機関（病院、クリニック、薬局など）	お店（飲食店、スーパー、不動産屋など）	交通機関（電車、バス、タクシーなど）
療育	A	273	12.8	30.8	8.1	22.3	27.1	33.7
	B1	115	8.7	35.7	24.3	7.0	7.0	12.2
	B2	157	8.3	49.0	22.9	8.9	9.6	12.1
精神	1級	59	3.4	8.5	10.2	10.2	15.3	20.3
	2級	246	5.3	19.1	33.3	22.4	15.0	17.5
	3級	175	3.4	23.4	46.9	11.4	12.6	16.0
	回答数	福祉サービス事業所	家庭内	上記以外の街中	そのほか	いやな思いをしたことはない	無回答	
療育	A	273	7.3	4.8	15.8	4.4	15.4	14.3
	B1	115	7.0	3.5	5.2	3.5	26.1	12.2
	B2	157	3.8	14.0	5.7	2.5	35.7	4.5
精神	1級	59	3.4	10.2	6.8	8.5	32.2	16.9
	2級	246	11.0	23.6	9.3	5.3	28.5	5.7
	3級	175	6.9	21.7	8.6	6.3	24.6	6.3

2 (8-1で「いやな思いをしたことはない」以外を答えた方) 具体的な内容 (自由記述)

・学校、幼稚園、保育所等において (抜粋)

・中学校でよくからかわれた。(支援学級から通常の学級に行ったとき)	男性	20代
・合否判定で「難病で学業が続けられるのか」が問題になったと、合格後に聞いた(学業に支障なしの診断書提出にもかかわらず)。結果的には問題なく課程を修了。	女性	50代
・人間関係が苦手なため、学校生活に耐えられず、不登校になった。	男性	50代
・当番、役員の免除をお願いするとき、全員の前で自身の状態を紹介するように担任に促された。教育者の教育指導をお願いします。	女性	50代
・就学前に、他の保護者に「障害があると、小学校で必ずいじめられる」と忠告されたこと(実際は、周囲の先生や友達に恵まれ、そのようなことはありませんでした)。	女性	60代
・障害により幼稚園に受け入れてもらえなかった。	女性	20代
・保育所で障害のことを理解してくれず、きちんと並べないからと、お菓子をもらえなかった。障害に対する知識の乏しい先生に、合わない対応をされてパニックを起こした。何人かの先生に押さえつけられた。	男性	60代

・職場において (抜粋)

・障害があることで一緒に働きづらいと言われたことがある。	女性	50代
・難病が再発したとき。10年以上寛解だったので入社時には、申告しておらず健康状態は良好だった。しかし入社1ヶ月で再発し3週間入院したときに、上司に「隠して入社したのではないか？」と問われた。	女性	50代
・病気であることで担当業務、所属を限定された。	男性	60代
・自分から辞めるように仕向けるようなひどい言葉を言われた。	女性	50代
・退職した職場では、一切配慮がなく、同法人内他事業所では特別扱いされていると言われた。	男性	40代
・体に負担がかからないよう職場では重作業は免除してもらっている。ありがたいが、その分昇進が遅れたり重要な仕事をさせてもらえない。(生涯賃金につながる) ・見た目では病気が分かりにくいいため、職場で配慮されていると周りから反感を買うことがある。	女性	30代
・腸の病気なので、トイレに何回も行くので、そのことでイヤな思いをしました。働いていたころのことです。(サービス業)	女性	50代
・どうしても片付けたい仕事があるときでも通院で休まなければならない。	男性	40代
・バイトで、仕事内容を説明されてもすぐに理解ができない。周りの人に迷惑をかけているという自責感が積もっていき、長く続かない。	男性	40代

・交通機関等において（抜粋）

・白杖を使っているが、電車に乗って優先座席の前に立つと声をかけて席を代わってくれる人もいるが、急に目をつぶったり、周囲の変な緊張感を感じる事が多々あるので、すいている所に乗るようにしている。	女性	60代
・電車の優先席に座っているとき、内部疾患で外見でわからないということもありますがヘルプマークをご存じないと思われる方に何で若いのにここに座っているのかと言われたことがあります。	女性	60代
・座席を替わってもらえない。	女性	50代
・私は、もやもや病で、人より寒いのが嫌です。夏のあついときでも、人より寒いので電車の中や出かけたときに、クーラーがついていると困ります。そういうのは、みんなには分からないので、それが嫌です。	女性	40代
・電車に乗るのが怖いときがあった。	男性	50代
・腸の病気でトイレの回数が多いので調子の悪いときは電車を途中で降りたりした。	女性	60代
・駅で、素早く歩けないので文句を言われた。	女性	40代
・外見上障害の有無が分からないため、優先座席や駐車場において、意見を言われる。（ヘルプマーク、駐車禁止除外者標章があっても）	男性	40代
・見た目がふつうの健康な人とかわらないから、本当にしんどいとき、バスや電車の優先席の空席に座りたいけど、座わると白い目で見られたり、文句を言われた。	女性	40代
・車いすで、バスに乗ったとき、ドライバーの方は、手伝ってくれず、早く乗れと言わんばかりに、あせらされた。	女性	50代
・足が自由に上がらずバスに乗るのに時間がかかり周りの目が気になった。	女性	60代
・タクシーで障害の割引を申し出ると自社負担の愚痴を言われたことがある。	女性	50代
・タクシーの運転手に面倒くさい扱いをされた。	男性	40代

・医療機関、お店や公共の場において（抜粋）

・医師による診療拒否	女性	50代
・医師が説明時に家族がいるのといないのでは対応が異なる。家族がいるときは丁寧なのに、いないときは偉そうに、話してもわからないと言う前提で言われ、涙が出て暴れ出したくなるときが何回あった。	男性	40代
・病院で発作が出てびっくりされた。次の診察に行きにくくなる。	女性	50代
・入院時、医師から「意思疎通もできないのに幸せか」と言われた。いやな思いを通り越して、不安と恐怖を感じた。	女性	40代
・失語症なので、病院で詳しい説明ができなかった。	女性	50代
・車いすを利用しており、スーパーの商品を手にとろうにも棚が高くて手が届きません。駅の券売機も同じです。道路もガタガタだったり傾きがきつかったりいろいろ不便です。	女性	50代
・車いすの人は対応できないと飲食店で断われたことがある。	男性	60代



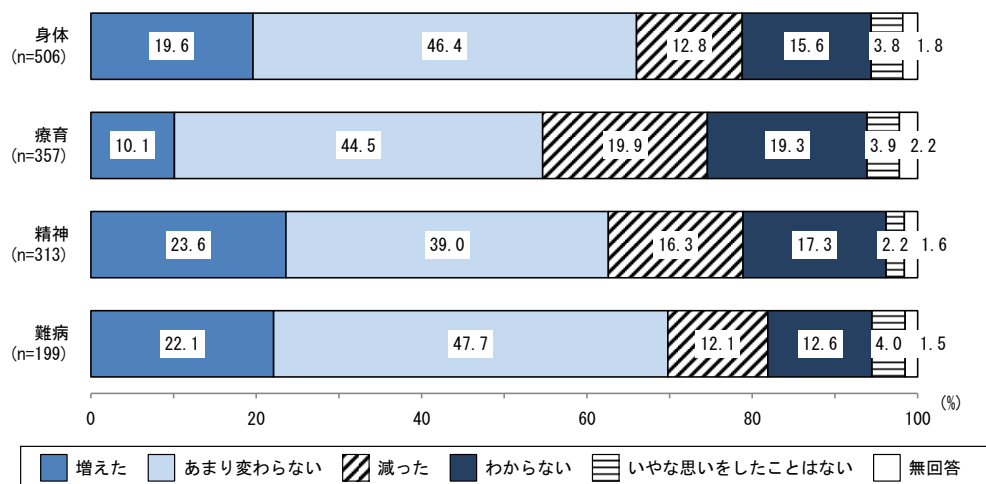
・店で転倒したら、営業妨害だと言われた。	男性	50代
・駐車場で、健常者しか乗っていない車に市販の車いすステッカーを貼って車いすスペースに堂々と車を停めている人が多くて困っている。	女性	40代
・段差が多く、バリアフリー化されていない。	男性	30代
・洋式トイレがなくて非常に困った。	女性	30代
・スマホを見ながらの自転車が突っ込んできた。とっさに避けられない。	女性	50代
・鼻血が頻繁に出る。大勢の人がいる所に行けない。	女性	50代
・お手洗いが近くにないと不安で腹痛を起こす。常に誰かに見られているような気がして落ち着かない。不注意が多いので、自分なりに気をつけようと様々なことに集中力をつかう。そういった諸々のせいで、外出が億劫になっている。	男性	40代
・酸素のチューブが物に引っかかり、邪魔になる。	女性	50代
・暗い所が見えづらいので、物に当たったり、つまづいて転びそうになった。	男性	50代
・施設で高齢の方にまじっていると、若いだけで大丈夫と思われがち。病気の症状をみて送迎車の乗る場所や、食事介助に気を配るべき所、高齢者優先になりがちで、疲れて帰ってくる。行きたがらなくなった。	男性	60代

#### ・その他（障害の理解を得られなかったこと等（抜粋））

・私が起こす体調不良に対して生活習慣の改善や自己管理を要求され続けること（もちろんコントロールできることには取り組みます。）	女性	40代
・すぐに入院させたがること。（簡単に口に出さないでほしい。）		
・周りに障害のことを説明しても、できないことがわかってもらえない。	女性	60代
・見た目は普通なので働けないと思われない。今までの体とはまったく違う。他人にも伝わりにくい。医師にも。	女性	50代
・ふだん、なかなか聞きなれない病気のためか、伝染病のように誰かにうつると誤解されたり、病気のことをどれだけ説明しても理解されない。	女性	40代
・ただの腹痛と思われる。気持ちの問題と言われる。トイレが間に合わない。子供の送迎に困る。	女性	30代
・内部障害のため、血便が出ていたり腹痛があったりしても見た目は病気ではないと思われ無理してしまう。ステロイド服用のためムーンフェイスになっても肥満で生活習慣が悪いと思われる。	女性	40代
・家族に心の障害を理解してもらえず、突き放されるような言葉を言われる。	女性	50代
・物を前に持って歩くことができなくて周りから疑問視された。	女性	60代
・育児があり、ゆっくり療養できない。	男性	30代
・障害者と知った瞬間に嫌な対応をされた。	女性	40代
・誹謗中傷された。	女性	40代
・ジロジロ見られる。陰口を言われる。口調や動きを真似られ笑われる。乱暴な行動をされる。	男性	50代
・周囲の人間が自分の悪口を言っているような気がして気分が悪くなった。	男性	40代

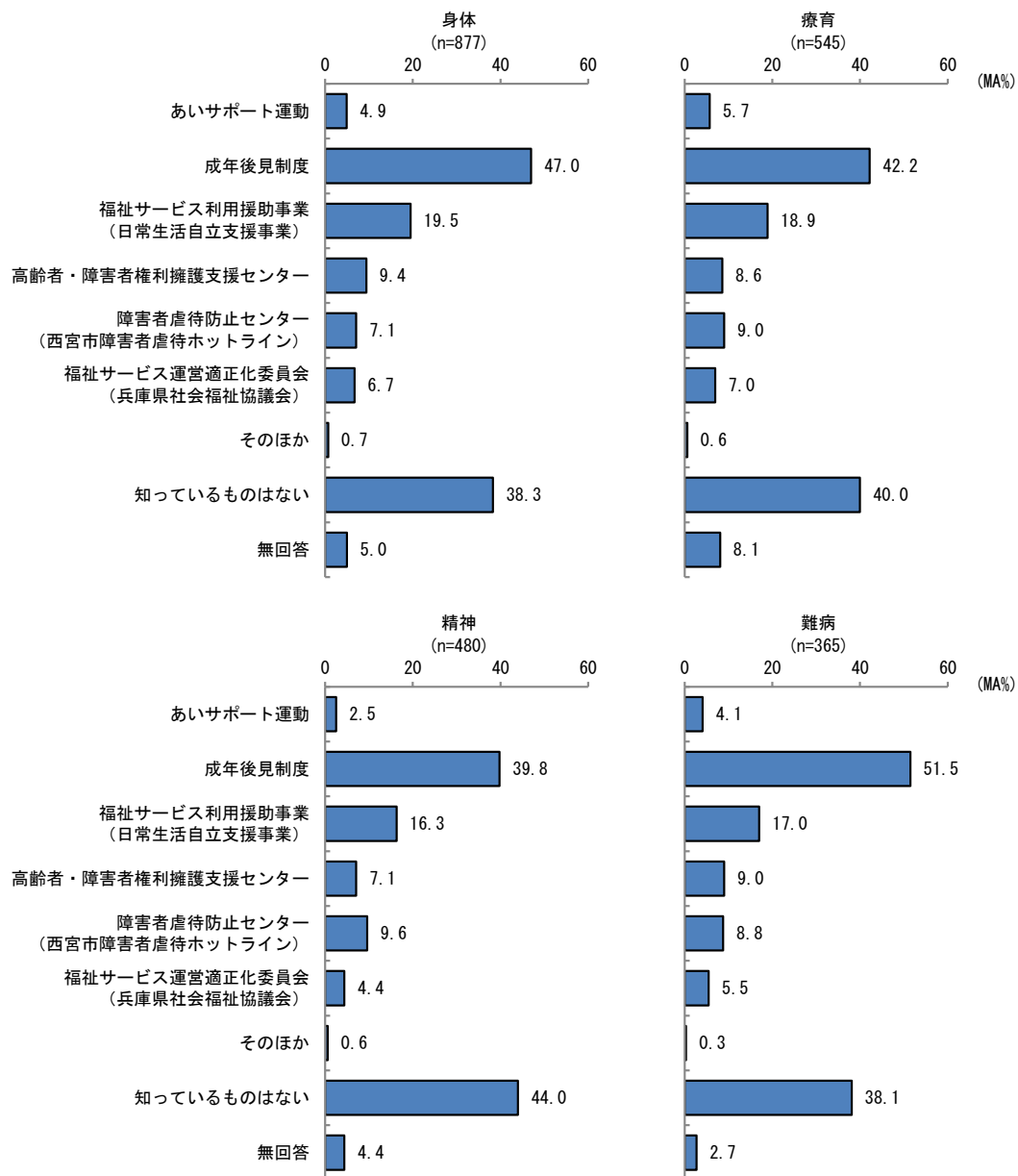
### 3 障害や難病があることで、ふだんの生活でいやな思いをすることは、この3年程度の間で増減があったか(単数回答)

4障害ともに「あまり変わらない」が最も高くなっています。【療育】は「減った」が「増えた」を上回っていますが、他の障害は「増えた」が「減った」を上回っています。



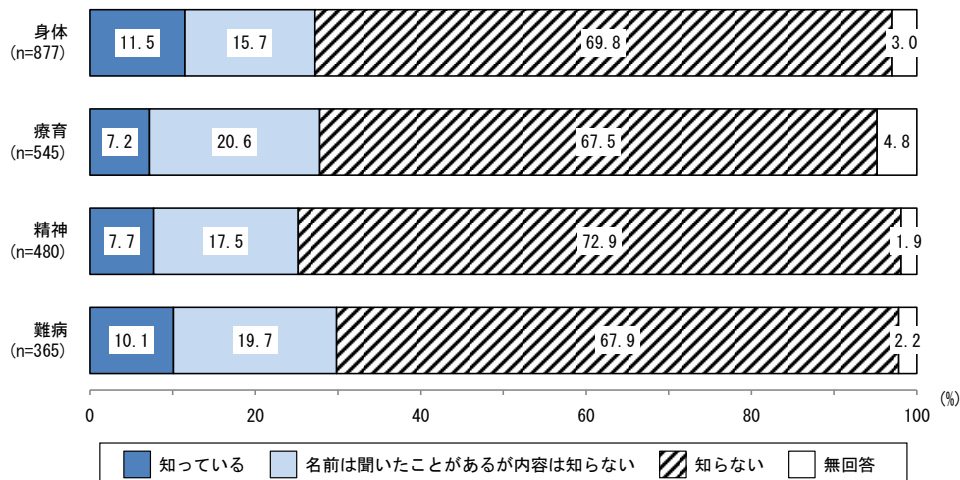
#### 4 権利擁護の仕組みとして知っているもの（複数回答）

4 障害ともに「成年後見制度」が最も高く、次いで「知っているものはない」が高くなっています。



## 5 障害者差別解消法の認知度（単数回答）

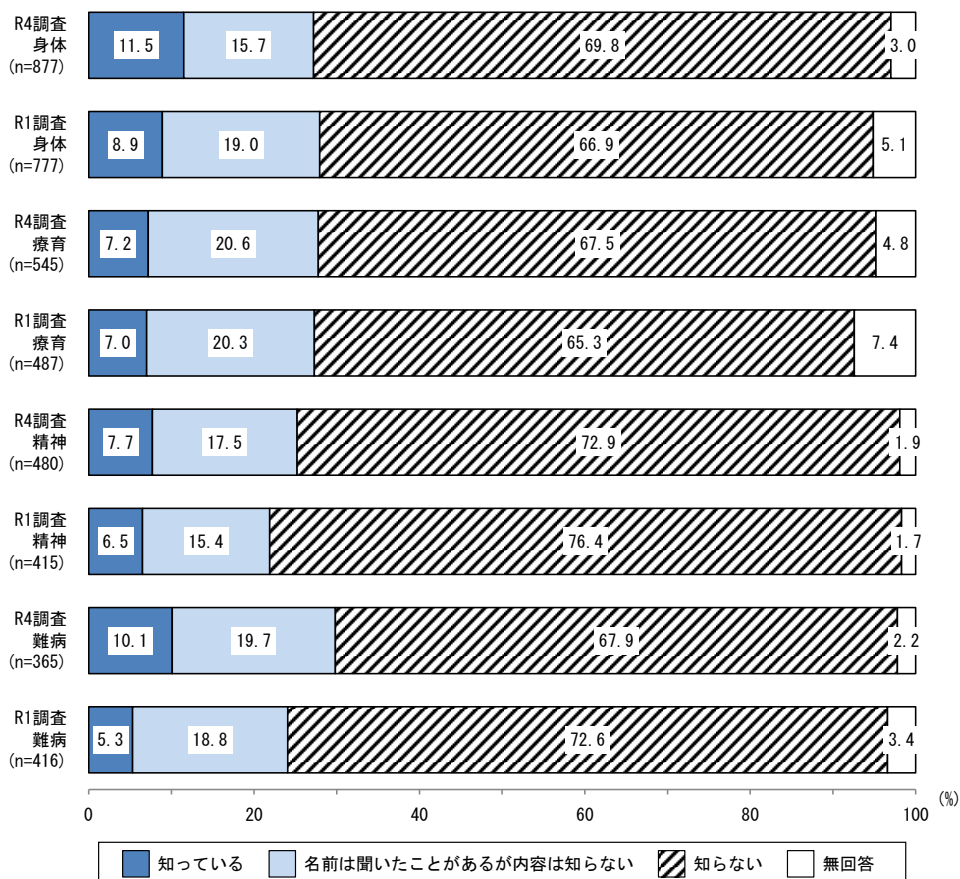
4障害ともに「知らない」が最も高くなっています。



### ◇障害者差別解消法の認知度×前回調査との比較

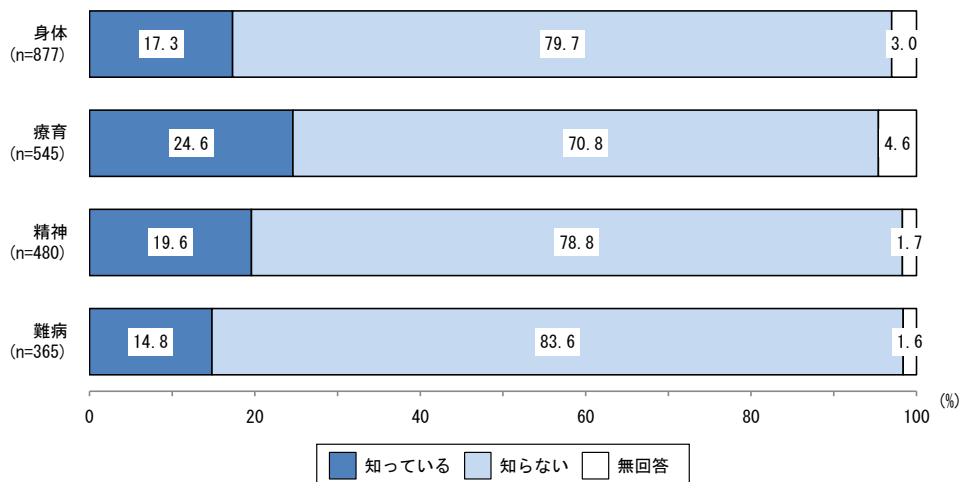
前回（3年前）の調査と比較すると、4障害ともに「知っている」がわずかに増加傾向にあり、【身体】を除くと「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」も増加しています。

#### 【前回調査との比較】



## 6 相談窓口（市役所、障害者総合相談支援センターにのみやなど）の認知度（単数回答）

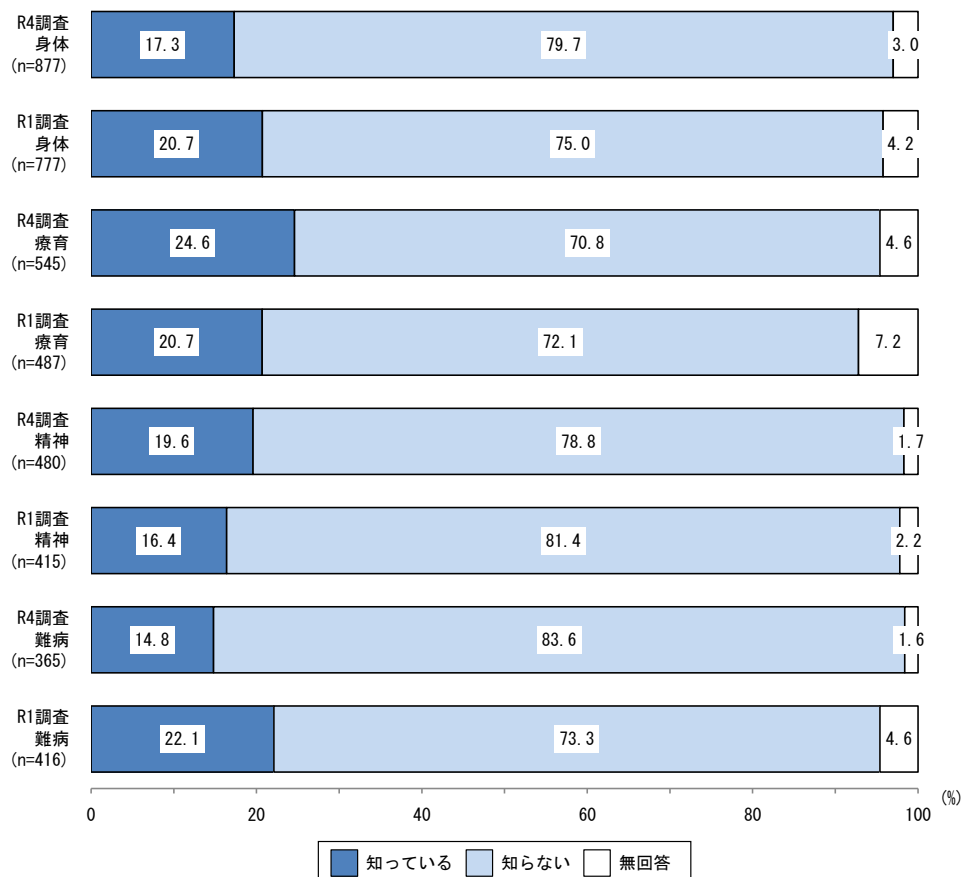
4障害ともに「知らない」が最も高く、【療育】は他の障害に比べると「知っている」が高くなっています。



### ◇相談窓口（市役所、障害者総合相談支援センターにのみやなど）の認知度×前回調査との比較

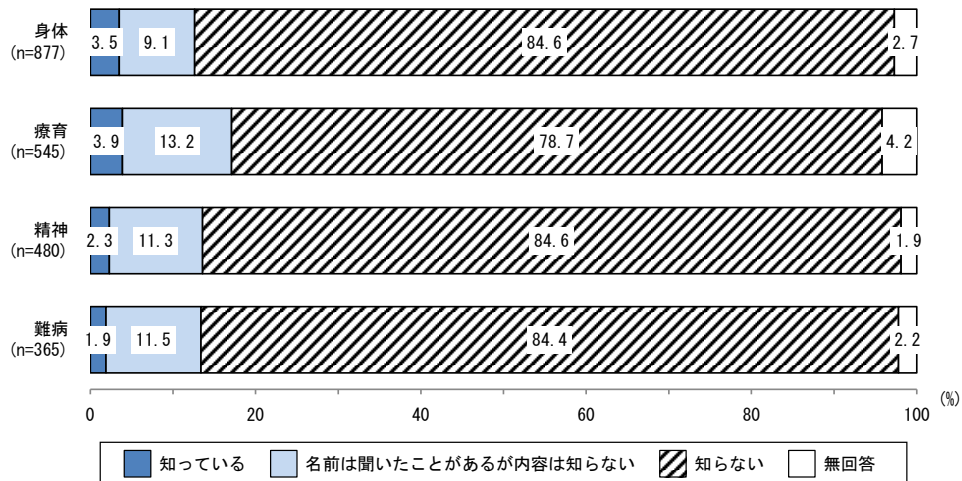
前回（3年前）の調査と比較すると、【身体】【難病】は「知らない」が増加傾向にあり、特に【難病】は大幅な増加が見られます。【療育】【精神】は「知っている」が増加傾向にあります。

#### 【前回調査との比較】



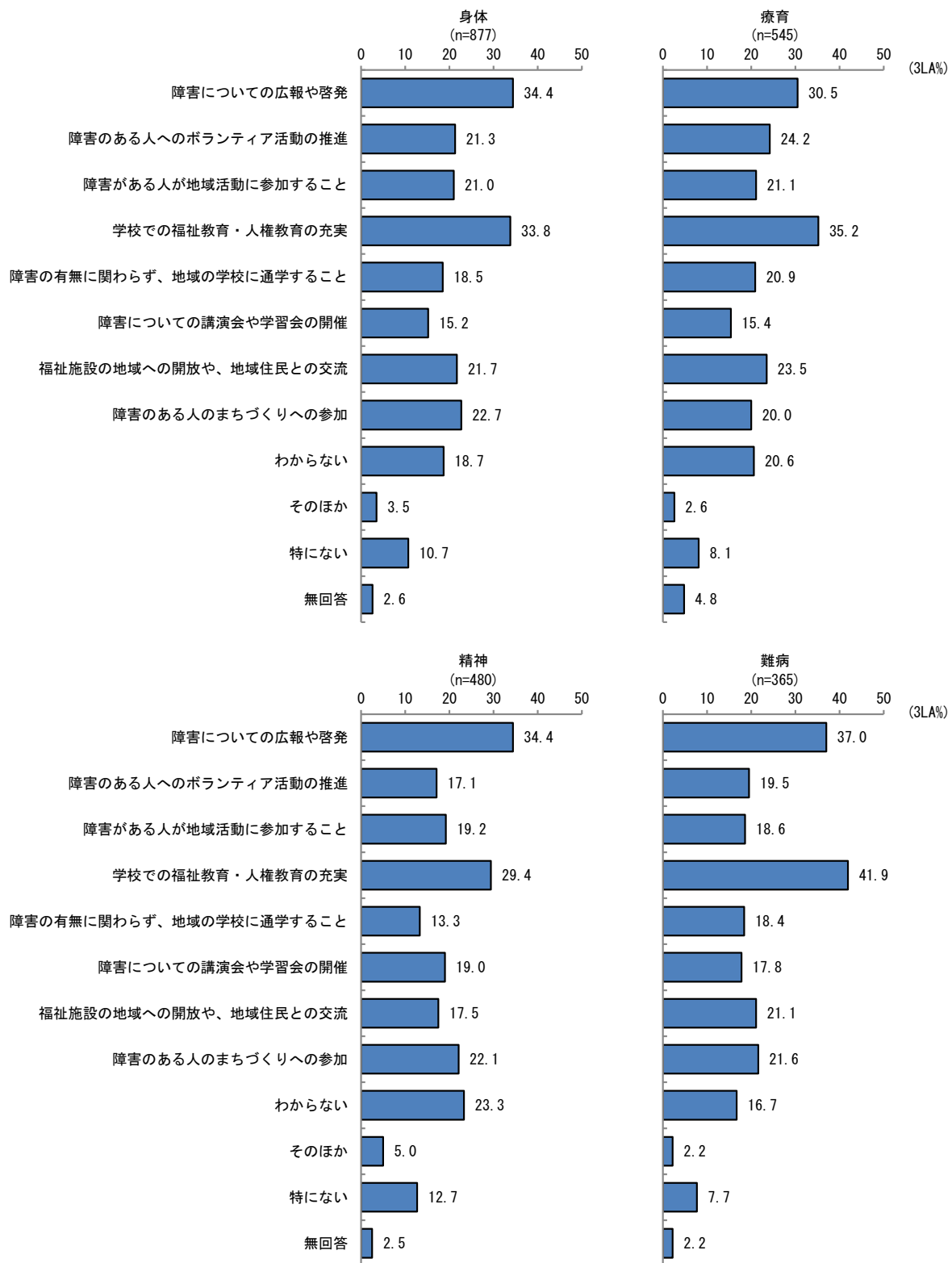
## 7 障害者共生条例の認知度（単数回答）

4 障害ともに「知らない」が最も高くなっています。



## 8 障害についての地域に住む人の理解を深めるために必要なこと（複数回答：三つまで）

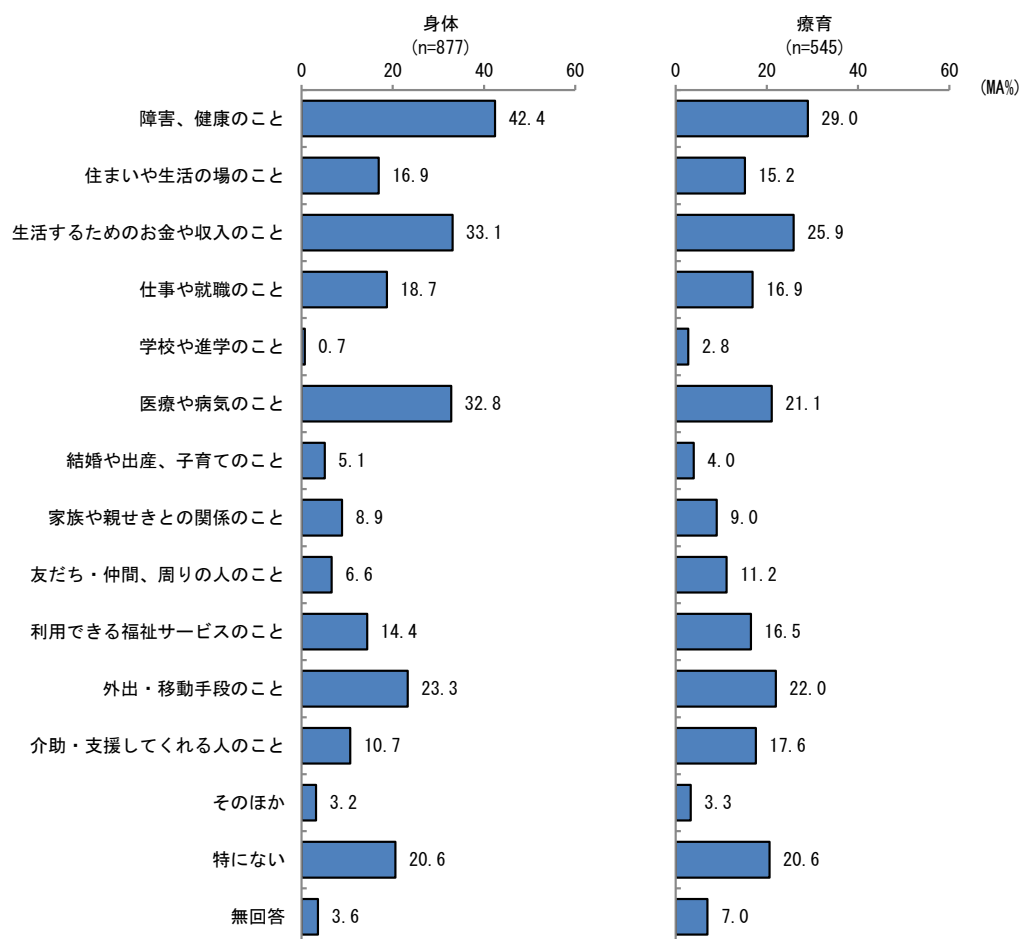
【身体】【精神】は「障害についての広報や啓発」、【療育】【難病】は「学校での福祉教育・人権教育の充実」が最も高くなっています。



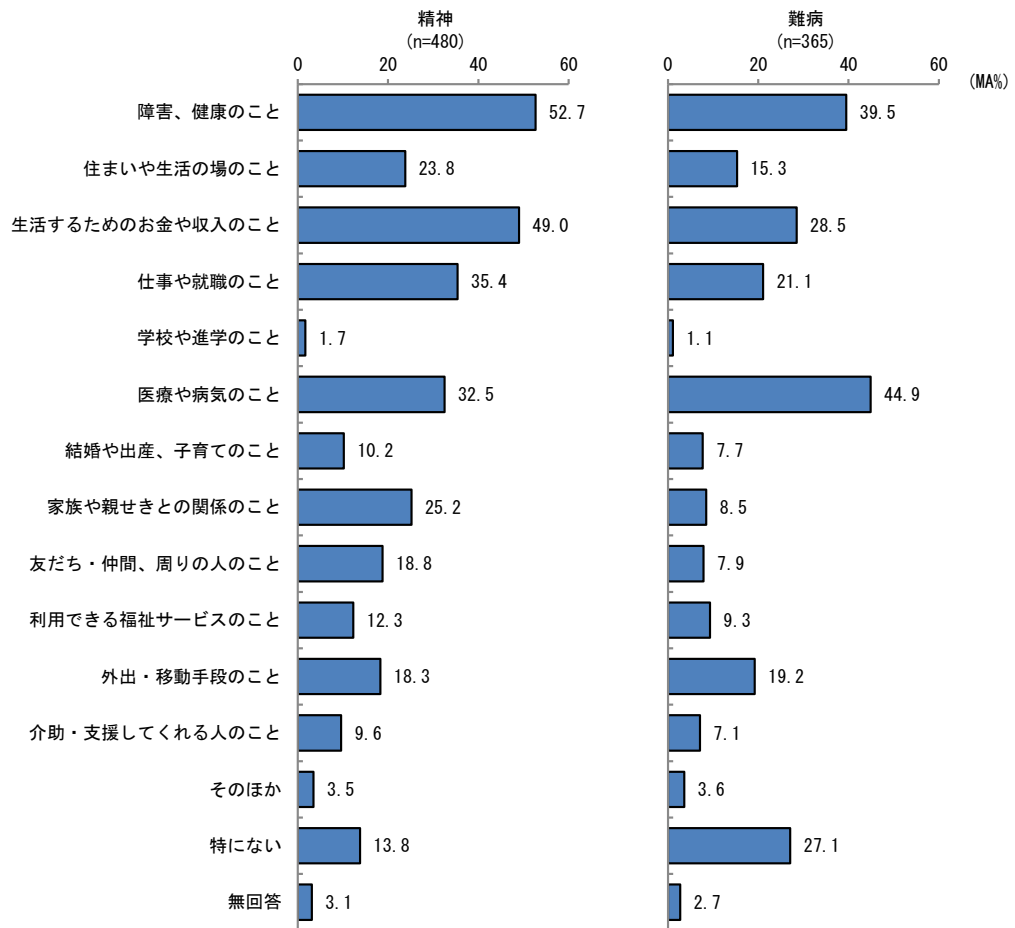
## 9. 相談や福祉などの情報のことについて

### 1 現在の生活で困っていること（複数回答）

【身体】【療育】【精神】は「障害、健康のこと」、【難病】は「医療や病気のこと」が最も高くなっています。







## ◇現在の生活で困っていること×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較すると、4障害ともに「住まいや生活の場のこと」「生活するためのお金や収入のこと」「仕事や就職のこと」「結婚や出産、子育てのこと」「家族や親せきとの関係のこと」「友だち・仲間、周りの人のこと」が増加傾向にあります。

【身体】は「医療や病気のこと」、【療育】は「外出・移動手段のこと」、【難病】は「仕事や就職のこと」が大幅に増加しています。

【精神】は「生活するためのお金や収入のこと」「仕事や就職のこと」「家族や親せきとの関係のこと」「利用できる福祉サービスのこと」「外出・移動手段のこと」「介助・支援してくれる人のこと」で5ポイント以上の増加が見られます。

### 【前回調査との比較】

		障害、健康のこと	住まいや生活の場のこと	生活するためのお金や収入のこと	仕事や就職のこと	学校や進学のこと	医療や病気のこと	結婚や出産、子育てのこと	家族や親せきとの関係のこと
身体	R4調査 (n=877)	42.4	16.9	33.1	18.7	0.7	32.8	5.1	8.9
	R1調査 (n=777)	33.5	10.9	19.7	9.3	0.1	17.4	2.1	4.4
療育	R4調査 (n=545)	29.0	15.2	25.9	16.9	2.8	21.1	4.0	9.0
	R1調査 (n=487)	27.3	10.1	18.1	13.8	1.4	15.2	2.7	7.4
精神	R4調査 (n=480)	52.7	23.8	49.0	35.4	1.7	32.5	10.2	25.2
	R1調査 (n=415)	53.3	21.4	43.6	27.2	1.4	34.2	6.7	18.6
難病	R4調査 (n=365)	39.5	15.3	28.5	21.1	1.1	44.9	7.7	8.5
	R1調査 (n=418)	37.3	12.5	24.8	8.7	0.5	36.8	1.4	6.5
		友だち・仲間、周りの人のこと	利用できる福祉サービスのこと	外出・移動手段のこと	介助・支援してくれる人のこと	そのほか	特になし	無回答	
身体	R4調査 (n=877)	6.6	14.4	23.3	10.7	3.2	20.6	3.6	
	R1調査 (n=777)	2.8	5.9	13.5	4.2	5.0	36.8	7.5	
療育	R4調査 (n=545)	11.2	16.5	22.0	17.6	3.3	20.6	7.0	
	R1調査 (n=487)	9.4	10.3	11.9	6.8	4.9	32.9	13.3	
精神	R4調査 (n=480)	18.8	12.3	18.3	9.6	3.5	13.8	3.1	
	R1調査 (n=415)	15.4	6.7	11.8	3.1	6.0	14.5	5.3	
難病	R4調査 (n=365)	7.9	9.3	19.2	7.1	3.6	27.1	2.7	
	R1調査 (n=418)	2.4	9.9	22.1	12.3	3.8	27.2	3.1	

◇現在の生活で困っていること×年齢別

【身体】は「介助・支援してくれる人のこと」が年齢が高くなるにつれて減少していますが、【療育】は年齢にかかわらず一定となっています。

【精神】は他の障害に比べて「家族や親せきとの関係のこと」が40～49歳、「友達・仲間、周りの人のこと」が30～39歳をピークとして高い傾向にあります。

【難病】は他の障害に比べて「医療や病気のこと」がいずれの年齢でも高くなっています。

		回答数	障害、健康のこと	住まいや生活の場のこと	生活するためのお金や収入のこと	仕事や就職のこと	学校や進学のこと	医療や病気のこと
身体	18～29歳	85	31.8	16.5	29.4	16.5	3.5	30.6
	30～39歳	75	44.0	24.0	40.0	28.0	0.0	28.0
	40～49歳	159	39.6	17.0	28.9	23.9	0.6	30.8
	50～59歳	310	47.4	18.4	39.0	21.0	0.3	36.1
	60～64歳	231	42.9	13.9	28.1	10.4	0.0	33.3
	65歳以上	10	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	20.0
療育	18～29歳	216	27.3	12.5	28.7	26.4	6.5	18.1
	30～39歳	128	30.5	18.8	26.6	11.7	0.0	23.4
	40～49歳	104	28.8	15.4	26.0	11.5	0.0	22.1
	50～59歳	68	30.9	16.2	19.1	10.3	1.5	22.1
	60～64歳	19	47.4	26.3	21.1	5.3	0.0	36.8
	65歳以上	6	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7
		回答数	結婚や出産、子育てのこと	家族や親せきとの関係のこと	友だち・仲間、周りの人のこと	利用できる福祉サービスのこと	外出・移動手段のこと	介助・支援してくれる人のこと
身体	18～29歳	85	9.4	5.9	8.2	28.2	24.7	25.9
	30～39歳	75	13.3	8.0	8.0	20.0	26.7	13.3
	40～49歳	159	6.3	9.4	5.7	10.1	22.0	8.8
	50～59歳	310	3.9	12.3	8.1	15.8	24.5	11.9
	60～64歳	231	1.7	6.1	4.8	8.7	20.8	3.0
	65歳以上	10	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	20.0
療育	18～29歳	216	6.5	8.8	15.7	17.6	19.4	18.1
	30～39歳	128	4.7	8.6	8.6	17.2	21.9	18.0
	40～49歳	104	1.0	11.5	9.6	20.2	26.9	17.3
	50～59歳	68	1.5	7.4	5.9	13.2	23.5	16.2
	60～64歳	19	0.0	10.5	10.5	0.0	21.1	15.8
	65歳以上	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
		回答数	その他	特にない	無回答			
身体	18～29歳	85	2.4	14.1	4.7			
	30～39歳	75	1.3	18.7	5.3			
	40～49歳	159	4.4	19.5	3.8			
	50～59歳	310	2.6	18.4	3.2			
	60～64歳	231	3.5	27.7	1.7			
	65歳以上	10	10.0	30.0	30.0			
療育	18～29歳	216	2.3	19.0	3.7			
	30～39歳	128	3.9	23.4	9.4			
	40～49歳	104	3.8	22.1	3.8			
	50～59歳	68	2.9	16.2	16.2			
	60～64歳	19	5.3	15.8	5.3			
	65歳以上	6	16.7	33.3	33.3			

		回答数	障害、健康のこと	住まいや生活の場のこと	生活するためのお金や収入のこと	仕事や就職のこと	学校や進学のこと	医療や病気のこと
精神	18～29歳	46	41.3	10.9	43.5	50.0	6.5	23.9
	30～39歳	77	64.9	24.7	59.7	53.2	0.0	33.8
	40～49歳	125	55.2	30.4	54.4	40.0	1.6	32.0
	50～59歳	165	52.7	23.6	44.8	29.1	1.8	35.8
	60～64歳	60	43.3	16.7	36.7	8.3	0.0	28.3
	65歳以上	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
難病	18～29歳	28	28.6	10.7	17.9	21.4	7.1	32.1
	30～39歳	29	65.5	20.7	51.7	51.7	3.4	51.7
	40～49歳	87	41.4	16.1	29.9	34.5	1.1	50.6
	50～59歳	136	36.0	13.2	25.0	13.2	0.0	44.1
	60～64歳	83	38.6	18.1	28.9	9.6	0.0	43.4
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		回答数	結婚や出産、子育てのこと	家族や親せきとの関係のこと	友だち・仲間、周りの人のこと	利用できる福祉サービスのこと	外出・移動手段のこと	介助・支援してくれる人のこと
精神	18～29歳	46	8.7	19.6	23.9	13.0	10.9	6.5
	30～39歳	77	23.4	28.6	28.6	9.1	24.7	5.2
	40～49歳	125	8.0	28.8	16.8	12.8	18.4	13.6
	50～59歳	165	7.9	24.2	19.4	14.5	17.6	12.1
	60～64歳	60	3.3	20.0	6.7	10.0	16.7	3.3
	65歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病	18～29歳	28	3.6	3.6	14.3	10.7	14.3	7.1
	30～39歳	29	34.5	13.8	17.2	3.4	31.0	13.8
	40～49歳	87	14.9	13.8	9.2	10.3	19.5	3.4
	50～59歳	136	2.2	8.1	5.1	10.3	17.6	8.1
	60～64歳	83	1.2	3.6	6.0	8.4	19.3	7.2
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		回答数	そのほか	特にない	無回答			
精神	18～29歳	46	2.2	19.6	2.2			
	30～39歳	77	1.3	7.8	1.3			
	40～49歳	125	5.6	10.4	2.4			
	50～59歳	165	4.8	13.3	4.2			
	60～64歳	60	0.0	26.7	3.3			
	65歳以上	2	0.0	0.0	50.0			
難病	18～29歳	28	3.6	46.4	0.0			
	30～39歳	29	0.0	10.3	6.9			
	40～49歳	87	5.7	23.0	0.0			
	50～59歳	136	3.7	29.4	2.9			
	60～64歳	83	2.4	26.5	3.6			
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0			

◇現在の生活で困っていること×身体障害の種類

いずれの障害部位においても「障害、健康のこと」が最も高くなっています。肢体（上肢）不自由、肢体（下肢）不自由、肢体（体幹）不自由は、「医療や病気のこと」「外出・移動手段のこと」が3割以上と高くなっています。

	回答数	現在の生活で困っていること						
		障害、健康のこと	住まいや生活の場のこと	生活するためのお金や収入のこと	仕事や就職のこと	学校や進学のこと	医療や病気のこと	
視覚障害	72	47.2	22.2	38.9	15.3	0.0	40.3	
聴覚障害・平衡機能障害	82	45.1	13.4	22.0	19.5	0.0	31.7	
音声・言語・そしゃく機能障害	88	38.6	19.3	25.0	13.6	1.1	29.5	
肢体(上肢)不自由	250	47.2	19.6	34.4	17.6	0.8	36.8	
肢体(下肢)不自由	382	45.3	17.5	31.2	15.4	0.5	32.5	
肢体(体幹)不自由	131	46.6	22.9	25.2	7.6	0.8	38.9	
内部障害	214	43.5	12.1	32.2	18.7	1.4	43.0	
	回答数	現在の生活で困っていること						
		結婚や出産、子育てのこと	家族や親せきとの関係のこと	友だち・仲間、周りの人のこと	利用できる福祉サービスのこと	外出・移動手段のこと	介助・支援してくれる人のこと	
視覚障害	72	2.8	6.9	5.6	18.1	33.3	15.3	
聴覚障害・平衡機能障害	82	1.2	9.8	11.0	17.1	20.7	13.4	
音声・言語・そしゃく機能障害	88	3.4	4.5	5.7	25.0	35.2	20.5	
肢体(上肢)不自由	250	6.0	8.8	4.8	21.6	34.8	18.4	
肢体(下肢)不自由	382	4.7	7.6	4.2	18.1	30.9	15.2	
肢体(体幹)不自由	131	3.1	6.9	2.3	28.2	35.1	30.5	
内部障害	214	5.1	8.9	4.7	8.4	16.4	4.7	
	回答数	その他	特にな	無回答				
視覚障害	72	2.8	15.3	4.2				
聴覚障害・平衡機能障害	82	6.1	25.6	4.9				
音声・言語・そしゃく機能障害	88	4.5	11.4	10.2				
肢体(上肢)不自由	250	3.2	16.4	2.4				
肢体(下肢)不自由	382	2.6	19.9	3.4				
肢体(体幹)不自由	131	3.8	13.0	6.1				
内部障害	214	3.7	22.0	1.9				

◇現在の生活で困っていること×判定・等級

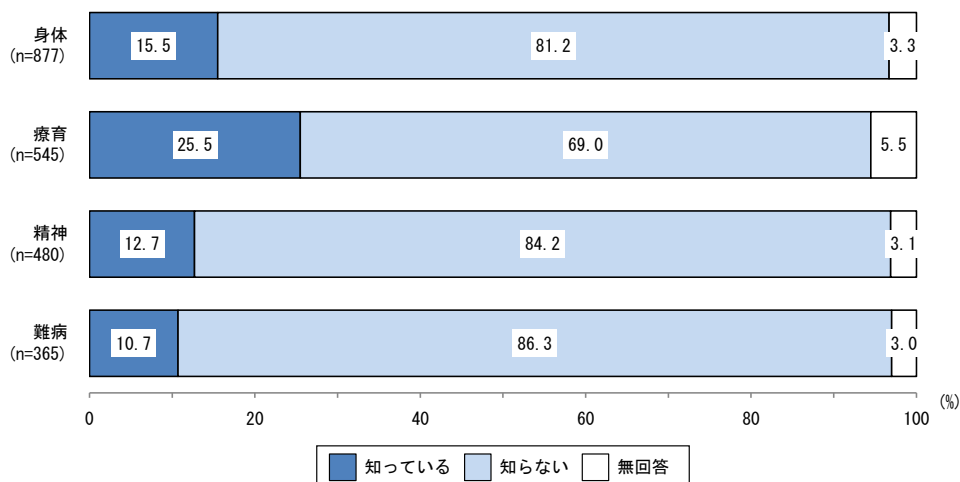
【療育】は、判定が重度になるほど「利用できる福祉サービスのこと」「外出・移動手段のこと」「介助・支援してくれる人のこと」「医療や病気のこと」が高くなる傾向となっています。一方で判定が軽度になるほど「生活するためのお金や収入のこと」「仕事や就職のこと」「家族や親せきとの関係のこと」「友だち・仲間、周りの人のこと」「結婚や出産、子育てのこと」「学校や進学のこと」が高くなっています。

【精神】は、いずれの等級においても「障害、健康のこと」が最も高くなっています。等級が高くなる（重度）ほど、「住まいや生活の場のこと」「医療や病気のこと」「利用できる福祉サービスのこと」「外出・移動手段のこと」「介助・支援してくれる人のこと」が高くなっています。一方で、等級が低くなるほど「生活するためのお金や収入のこと」「仕事や就職のこと」が高くなっています。

		回答数	障害、健康のこと	住まいや生活の場のこと	生活するためのお金や収入のこと	仕事や就職のこと	学校や進学のこと	医療や病気のこと
療育	A	273	29.3	17.9	17.2	4.4	0.0	24.5
	B1	115	27.8	12.2	32.2	20.0	0.9	19.1
	B2	157	29.3	12.7	36.3	36.3	8.9	16.6
精神	1級	59	50.8	25.4	32.2	18.6	0.0	44.1
	2級	246	55.3	24.0	47.6	32.1	2.4	32.5
	3級	175	49.7	22.9	56.6	45.7	1.1	28.6
		回答数	結婚や出産、子育てのこと	家族や親せきとの関係のこと	友だち・仲間、周りの人のこと	利用できる福祉サービスのこと	外出・移動手段のこと	介助・支援してくれる人のこと
療育	A	273	0.4	6.2	5.1	23.1	30.0	28.2
	B1	115	6.1	10.4	13.9	12.2	23.5	11.3
	B2	157	8.9	12.7	19.7	8.3	7.0	3.8
精神	1級	59	3.4	11.9	10.2	18.6	27.1	16.9
	2級	246	10.2	29.3	23.2	12.6	19.1	10.6
	3級	175	12.6	24.0	15.4	9.7	14.3	5.7
		回答数	そのほか	特にない	無回答			
療育	A	273	5.1	18.3	11.0			
	B1	115	1.7	24.3	2.6			
	B2	157	1.3	21.7	3.2			
精神	1級	59	3.4	13.6	5.1			
	2級	246	4.1	15.0	3.3			
	3級	175	2.9	12.0	2.3			

## 2 障害者あんしん相談窓口の認知度（単数回答）

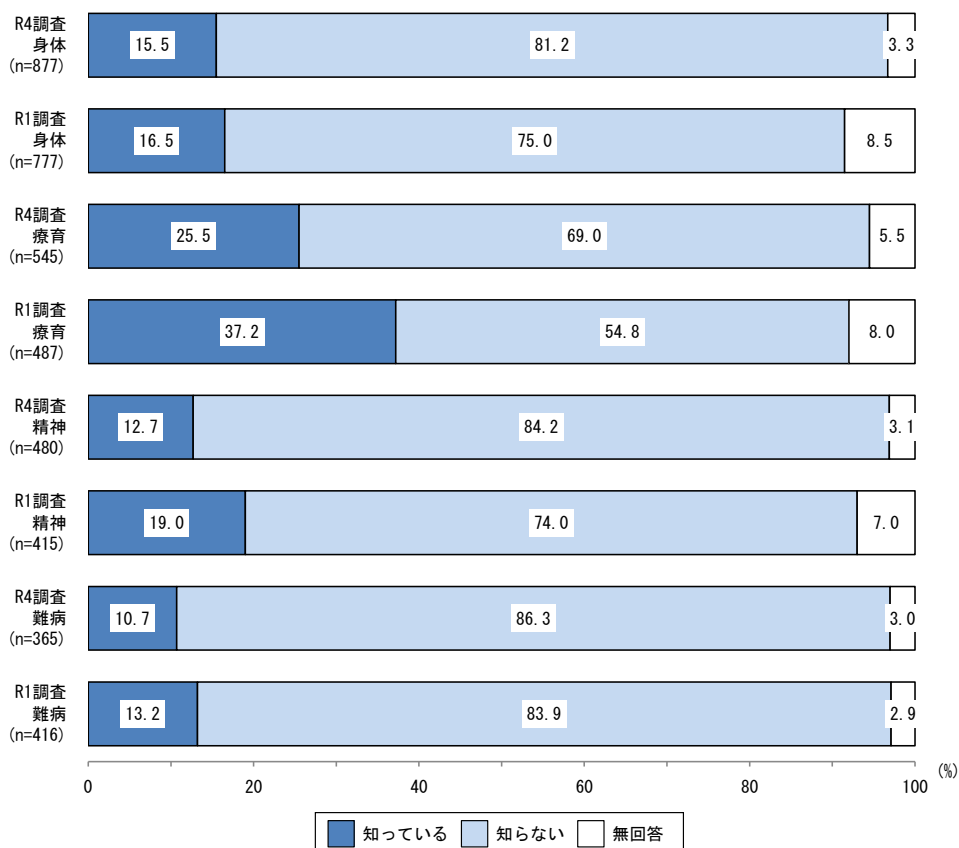
4障害ともに「知らない」が最も高く、【療育】は他の障害よりも「知っている」が高くなっています。



### ◇障害者あんしん相談窓口の認知度×前回調査との比較

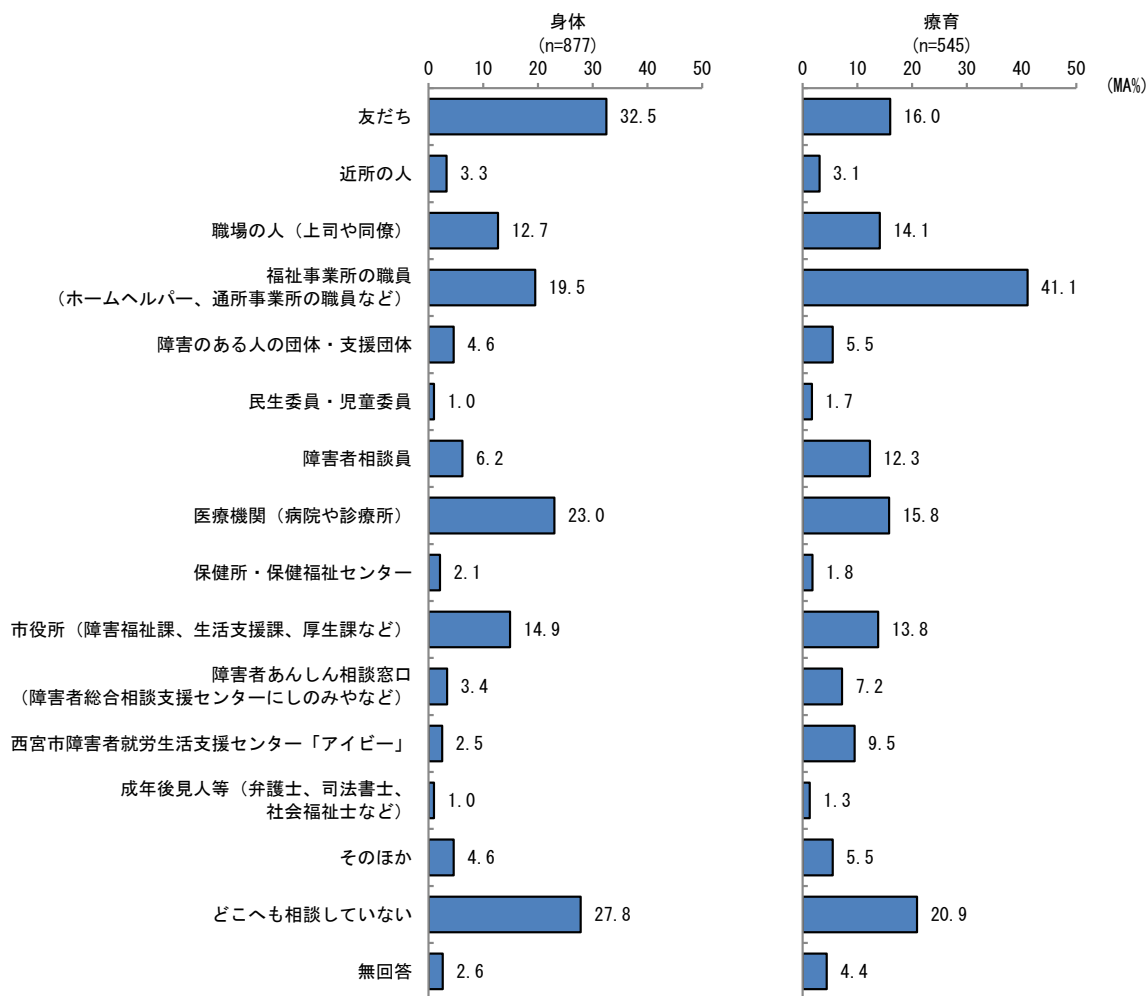
前回（3年前）の調査と比較すると、4障害ともに「知っている」が減少傾向にあります。特に【療育】は37.2%から25.5%と大幅な減少が見られます。

#### 【前回調査との比較】

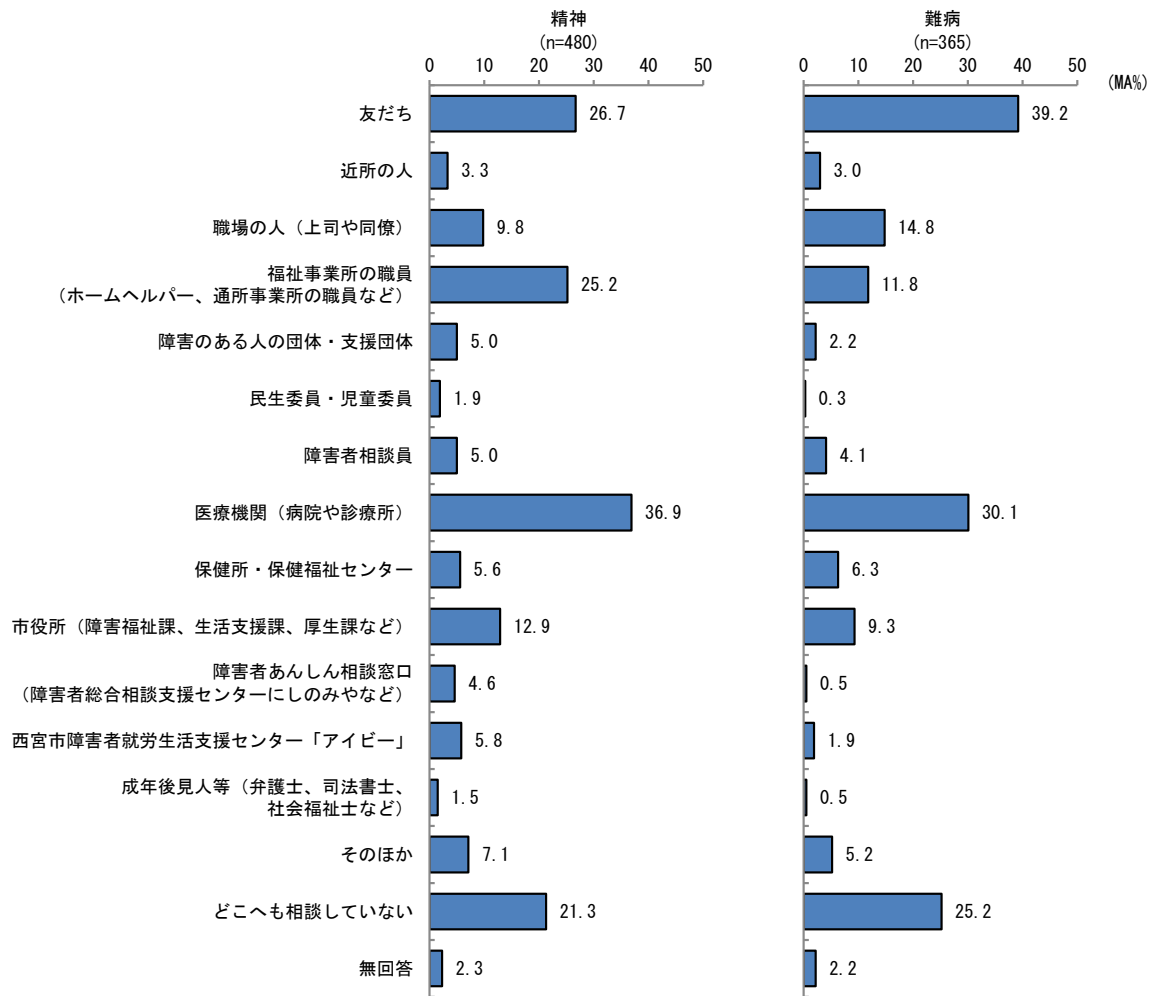


### 3 相談先（複数回答）

【身体】【難病】は「友だち」、【療育】は「福祉事業所の職員（ホームヘルパー、通所事業所の職員など）」、【精神】は「医療機関（病院や診療所）」が最も高くなっています。

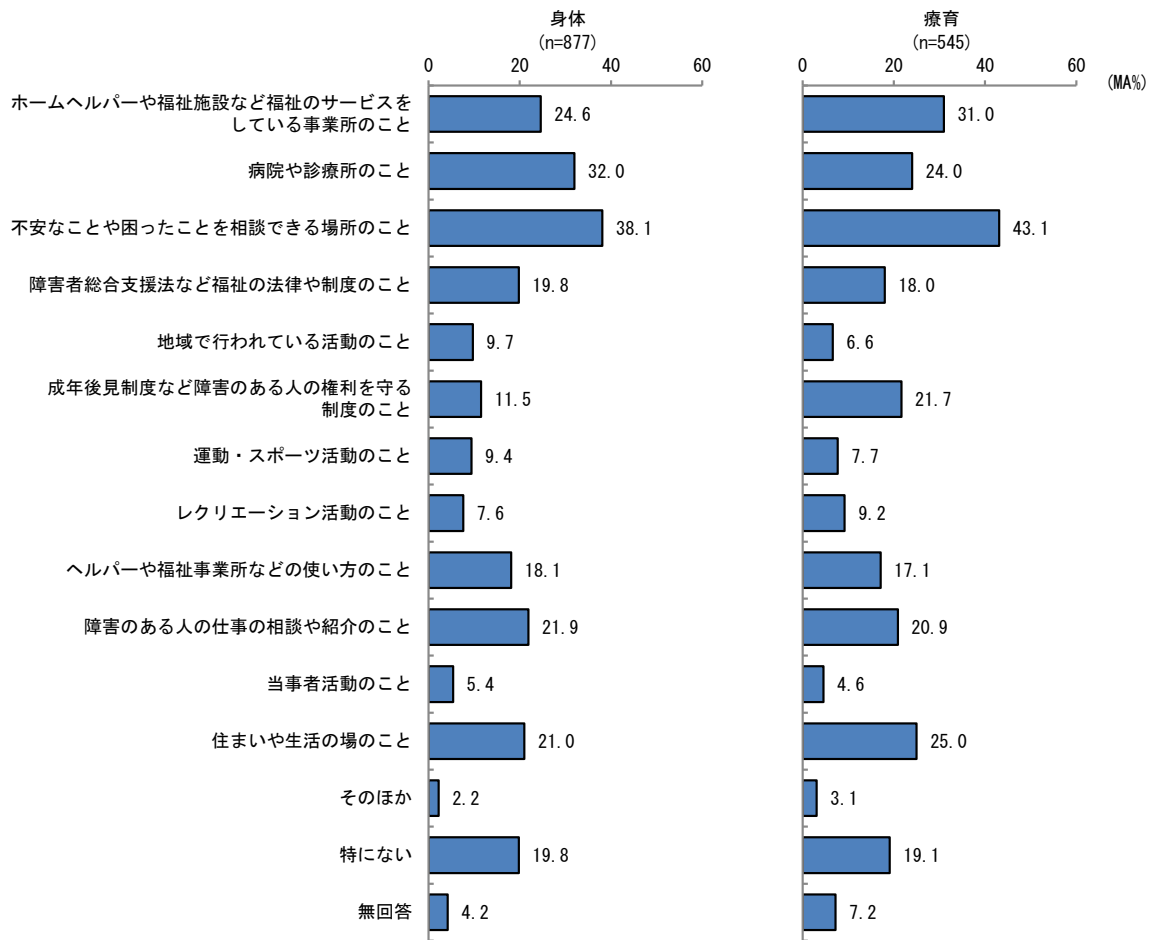


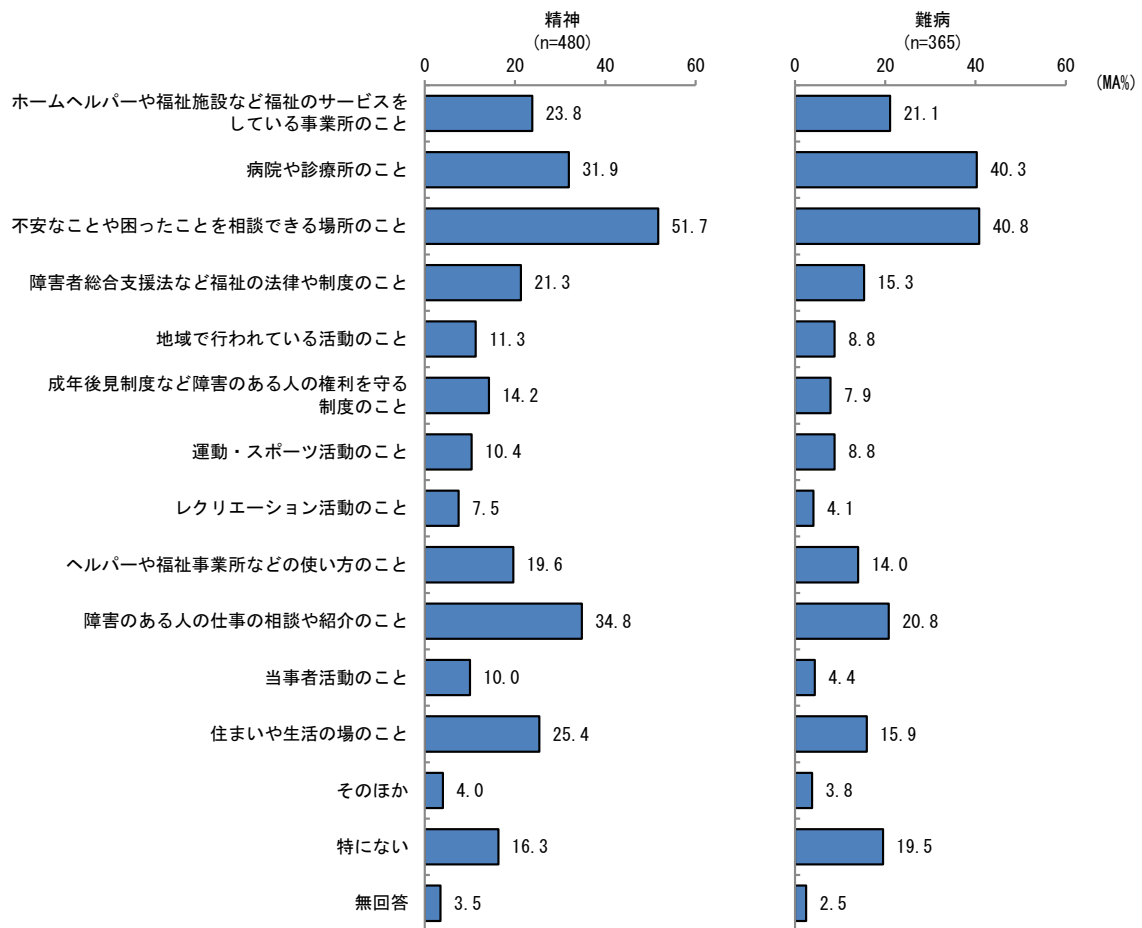




#### 4 必要な情報（複数回答）

4 障害ともに「不安なことや困ったことを相談できる場所のこと」が最も高くなっています。





◇必要な情報×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較すると、4障害ともに「ホームヘルパーや福祉施設など福祉のサービスをしている事業所のこと」「障害者総合支援法など福祉の法律や制度のこと」「地域で行われている活動のこと」「成年後見制度など障害のある人の権利を守る制度のこと」「障害のある人の仕事の相談や紹介のこと」が増加傾向にあります。

【身体】は「不安なことや困ったことを相談できる場所のこと」が28.1%から38.1%と大幅な増加が見られます。

【前回調査との比較】

		ホームヘルパーや福祉施設など福祉のサービスをしている事業所のこと	病院や診療所のこと	不安なことや困ったことを相談できる場所のこと	障害者総合支援法など福祉の法律や制度のこと	地域で行われている活動のこと	成年後見制度など障害のある人の権利を守る制度のこと	スポーツやレクリエーション活動のこと	運動・スポーツ活動のこと
身体	R4調査 (n=877)	24.6	32.0	38.1	19.8	9.7	11.5	0.0	9.4
	R1調査 (n=777)	18.9	25.9	28.1	16.3	7.2	7.5	4.6	0.0
療育	R4調査 (n=545)	31.0	24.0	43.1	18.0	6.6	21.7	0.0	7.7
	R1調査 (n=487)	25.5	18.5	39.0	17.0	9.0	14.6	8.8	0.0
精神	R4調査 (n=480)	23.8	31.9	51.7	21.3	11.3	14.2	0.0	10.4
	R1調査 (n=415)	18.8	35.9	45.3	20.5	8.9	10.1	6.3	0.0
難病	R4調査 (n=365)	21.1	40.3	40.8	15.3	8.8	7.9	0.0	8.8
	R1調査 (n=418)	14.4	36.5	40.9	11.3	5.0	2.2	0.0	0.0
		レクリエーション活動のこと	ヘルパーや福祉事業所などの使い方のこと	障害のある人の仕事の相談や紹介のこと	当事者活動のこと	住まいや生活の場のこと	そのほか	特にない	無回答
身体	R4調査 (n=877)	7.6	18.1	21.9	5.4	21.0	2.2	19.8	4.2
	R1調査 (n=777)	0.0	13.6	14.5	2.8	14.5	3.2	27.9	8.5
療育	R4調査 (n=545)	9.2	17.1	20.9	4.6	25.0	3.1	19.1	7.2
	R1調査 (n=487)	0.0	17.0	14.6	4.9	20.3	3.5	18.7	13.6
精神	R4調査 (n=480)	7.5	19.6	34.8	10.0	25.4	4.0	16.3	3.5
	R1調査 (n=415)	0.0	14.7	27.5	5.8	21.9	3.9	17.1	8.9
難病	R4調査 (n=365)	4.1	14.0	20.8	4.4	15.9	3.8	19.5	2.5
	R1調査 (n=418)	0.0	28.4	13.0	2.2	13.2	2.9	17.8	7.7

R1年調査のみ	スポーツやレクリエーション活動のこと
R4年調査のみ	運動・スポーツ活動のこと レクリエーション活動のこと

◇必要な情報×年齢

4障害ともに年齢にかかわらず、「不安なことや困ったことを相談できる場所のこと」が高くなっています。

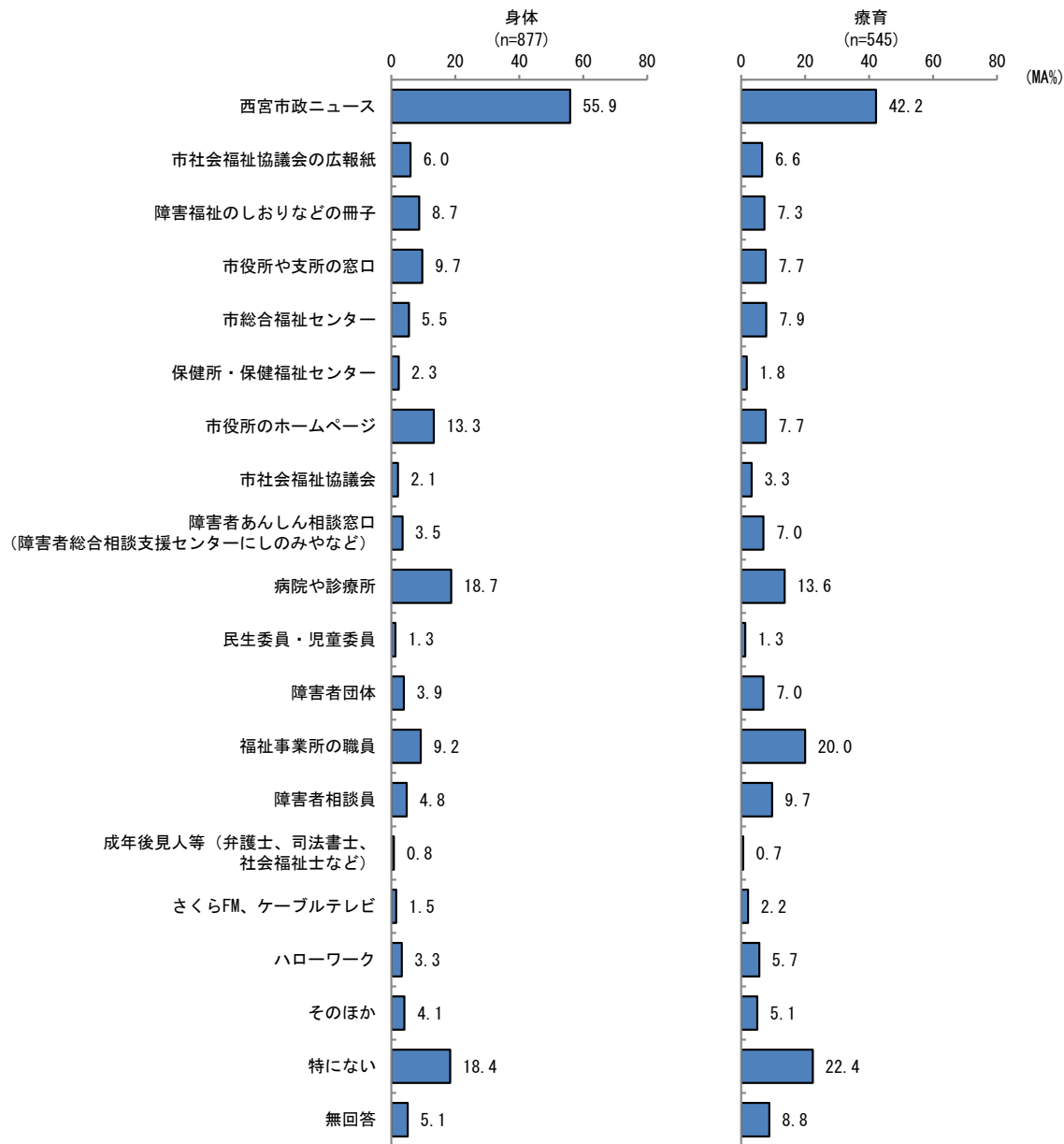
「ホームヘルパーや福祉施設など福祉のサービスをしている事業所のこと」は、【身体】は年齢が低いほど高くなる傾向ですが、【療育】は年齢にかかわらず高く、【精神】は年齢が高いほど高くなる傾向にあります。【難病】は18～29歳が最も高く、30歳以降は年齢が高くなるほど高くなる傾向にあります。

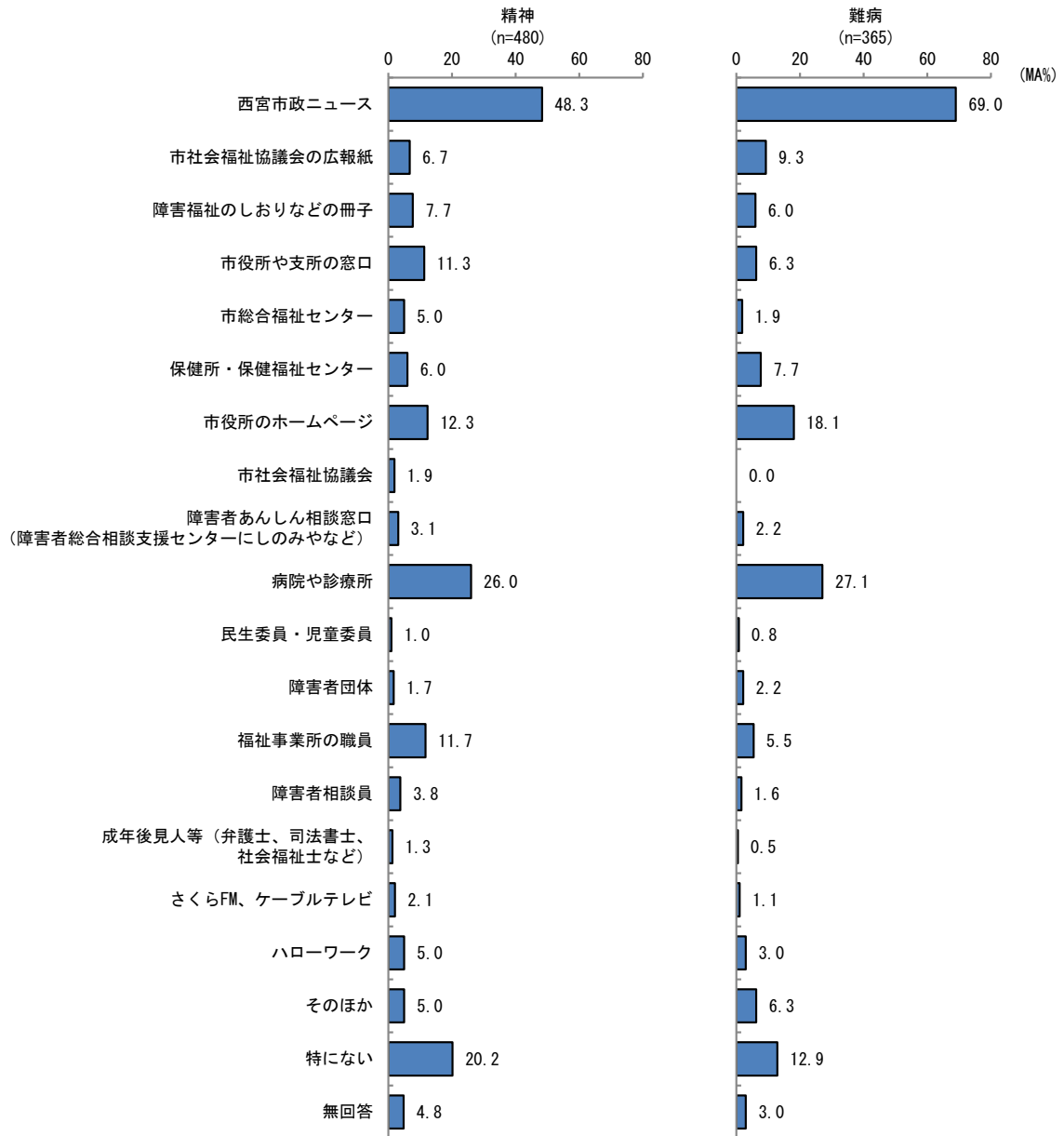
		回答数	ホームヘルパーや福祉施設など福祉のサービスをしている事業所のこと	病院や診療所のこと	不安なことや困ったことを相談できる場所のこと	障害者総合支援法など福祉の法律や制度のこと	地域で行われている活動のこと	成年後見制度など障害のある人の権利を守る制度のこと	運動・スポーツ活動のこと	レクリエーション活動のこと
身体	18～29歳	85	42.4	32.9	43.5	17.6	10.6	27.1	10.6	14.1
	30～39歳	75	30.7	30.7	41.3	29.3	13.3	21.3	14.7	8.0
	40～49歳	159	22.6	30.2	34.6	19.5	9.4	7.5	10.1	6.9
	50～59歳	310	24.2	31.9	42.9	21.6	10.6	10.6	9.0	7.1
	60～64歳	231	19.5	35.1	31.2	15.6	7.8	5.6	7.8	6.9
65歳以上	10	0.0	10.0	30.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
療育	18～29歳	216	33.3	24.5	49.1	19.4	7.4	21.3	9.7	12.0
	30～39歳	128	30.5	25.0	43.8	21.1	6.3	27.3	6.3	10.2
	40～49歳	104	30.8	24.0	40.4	12.5	5.8	19.2	6.7	5.8
	50～59歳	68	26.5	17.6	29.4	16.2	5.9	17.6	8.8	7.4
	60～64歳	19	42.1	47.4	42.1	21.1	10.5	15.8	0.0	0.0
65歳以上	6	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
		回答数	ヘルパーや福祉事業所などの使い方のこと	障害のある人の仕事の相談や紹介のこと	当事者活動のこと	住まいや生活の場のこと	そのほか	特にない	無回答	
身体	18～29歳	85	29.4	20.0	8.2	29.4	0.0	14.1	5.9	
	30～39歳	75	20.0	22.7	8.0	26.7	4.0	16.0	6.7	
	40～49歳	159	15.7	22.6	5.0	23.9	3.8	22.0	3.8	
	50～59歳	310	17.7	27.4	4.8	16.5	1.6	22.9	3.2	
	60～64歳	231	16.0	15.2	4.8	19.9	2.2	18.2	3.0	
65歳以上	10	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	20.0	20.0		
療育	18～29歳	216	20.8	29.2	6.5	27.8	1.9	19.4	2.8	
	30～39歳	128	16.4	21.1	2.3	23.4	3.9	14.8	9.4	
	40～49歳	104	13.5	15.4	4.8	26.9	4.8	19.2	6.7	
	50～59歳	68	10.3	11.8	4.4	14.7	2.9	25.0	16.2	
	60～64歳	19	26.3	0.0	0.0	31.6	5.3	15.8	5.3	
65歳以上	6	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	16.7		

		回答数	ホームヘルパーや福祉施設など福祉のサービスをしている事業所のこと	病院や診療所のこと	不安なことや困ったことを相談できる場所のこと	障害者総合支援法など福祉の法律や制度のこと	地域で行われている活動のこと	成年後見制度など障害のある人の権利を守る制度のこと	運動・スポーツ活動のこと	レクリエーション活動のこと
精神	18～29歳	46	10.9	13.0	67.4	17.4	4.3	10.9	8.7	6.5
	30～39歳	77	23.4	39.0	55.8	27.3	10.4	20.8	13.0	5.2
	40～49歳	125	24.8	33.6	52.0	23.2	9.6	13.6	12.0	8.8
	50～59歳	165	26.1	34.5	49.7	20.6	17.0	15.2	10.3	7.9
	60～64歳	60	28.3	28.3	40.0	15.0	6.7	6.7	6.7	8.3
	65歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病	18～29歳	28	32.1	25.0	32.1	17.9	3.6	14.3	3.6	7.1
	30～39歳	29	10.3	69.0	41.4	20.7	20.7	20.7	6.9	6.9
	40～49歳	87	14.9	35.6	44.8	21.8	8.0	9.2	8.0	1.1
	50～59歳	136	22.8	39.0	38.2	10.3	5.9	2.9	9.6	2.9
	60～64歳	83	25.3	43.4	44.6	14.5	12.0	8.4	10.8	7.2
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		回答数	ヘルパーや福祉事業所などの使い方のこと	障害のある人の仕事の相談や紹介のこと	当事者活動のこと	住まいや生活の場のこと	そのほか	特にない	無回答	
精神	18～29歳	46	10.9	43.5	6.5	17.4	0.0	15.2	2.2	
	30～39歳	77	11.7	51.9	13.0	22.1	9.1	13.0	2.6	
	40～49歳	125	23.2	32.0	10.4	35.2	4.0	13.6	0.8	
	50～59歳	165	23.6	32.1	12.1	23.0	4.2	20.6	3.0	
	60～64歳	60	18.3	18.3	1.7	21.7	0.0	16.7	10.0	
	65歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
難病	18～29歳	28	14.3	28.6	7.1	17.9	3.6	28.6	0.0	
	30～39歳	29	13.8	34.5	13.8	37.9	6.9	10.3	3.4	
	40～49歳	87	9.2	26.4	4.6	16.1	5.7	19.5	0.0	
	50～59歳	136	14.7	17.6	1.5	12.5	2.2	22.8	2.2	
	60～64歳	83	18.1	13.3	4.8	13.3	3.6	13.3	4.8	
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

## 5 健康・福祉に関する情報源（複数回答）

4 障害とも「西宮市政ニュース」が最も高くなっています。







◇健康・福祉に関する情報源×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較すると、4障害とも「特にない」が増加し、「障害福祉のしおりなどの冊子」「市役所や支所の窓口」「障害者あんしん相談窓口（障害者総合相談支援センターにしのみやなど）」「病院や診療所」は減少傾向が見られます。

【身体】は「市役所や支所の窓口」、【療育】は「障害福祉のしおりなどの冊子」【精神】は「障害者あんしん相談窓口（障害者総合相談支援センターにしのみやなど）」、【難病】は「病院や診療所」が大幅に減少しています。

【前回調査との比較】

		西宮市政ニュース	市社会福祉協議会の広報紙	障害福祉のしおりなどの冊子	市役所や支所の窓口	市総合福祉センター	保健所・保健福祉センター	市役所のホームページ
身体	R4調査 (n=877)	55.9	6.0	8.7	9.7	5.5	2.3	13.3
	R1調査 (n=777)	60.7	9.1	16.6	21.0	7.9	4.0	20.5
療育	R4調査 (n=545)	42.2	6.6	7.3	7.7	7.9	1.8	7.7
	R1調査 (n=487)	46.8	8.8	19.5	18.9	15.4	3.7	14.4
精神	R4調査 (n=480)	48.3	6.7	7.7	11.3	5.0	6.0	12.3
	R1調査 (n=415)	50.6	11.3	17.1	20.5	8.2	9.9	21.2
難病	R4調査 (n=365)	69.0	9.3	6.0	6.3	1.9	7.7	18.1
	R1調査 (n=418)	68.3	7.7	11.8	21.9	4.3	15.6	24.3
		市社会福祉協議会	障害者あんしん相談窓口（障害者総合相談支援センターにしのみやなど）	病院や診療所	民生委員・児童委員	障害者団体	福祉事業所の職員	障害者相談員
身体	R4調査 (n=877)	2.1	3.5	18.7	1.3	3.9	9.2	4.8
	R1調査 (n=777)	3.7	8.2	25.4	5.0	4.0	6.4	6.6
療育	R4調査 (n=545)	3.3	7.0	13.6	1.3	7.0	20.0	9.7
	R1調査 (n=487)	4.1	20.3	16.6	3.5	7.0	23.6	12.1
精神	R4調査 (n=480)	1.9	3.1	26.0	1.0	1.7	11.7	3.8
	R1調査 (n=415)	3.6	14.0	36.4	4.3	3.6	10.1	7.7
難病	R4調査 (n=365)	0.0	2.2	27.1	0.8	2.2	5.5	1.6
	R1調査 (n=418)	1.4	5.3	43.8	2.4	11.3	4.3	0.0
		成年後見人等（弁護士、司法書士、社会福祉士など）	さくらFM、ケーブルテレビ	ハローワーク	そのほか	特にない	無回答	
身体	R4調査 (n=877)	0.8	1.5	3.3	4.1	18.4	5.1	
	R1調査 (n=777)	1.3	4.4	5.9	4.2	13.4	6.4	
療育	R4調査 (n=545)	0.7	2.2	5.7	5.1	22.4	8.8	
	R1調査 (n=487)	3.3	3.1	11.5	3.3	12.5	9.7	
精神	R4調査 (n=480)	1.3	2.1	5.0	5.0	20.2	4.8	
	R1調査 (n=415)	3.9	3.6	12.0	5.1	13.3	5.8	
難病	R4調査 (n=365)	0.5	1.1	3.0	6.3	12.9	3.0	
	R1調査 (n=418)	0.0	2.4	2.4	3.8	5.0	5.0	

## 10. 障害福祉サービスの使い方のことについて

### 1 現在利用している障害福祉サービス・今後3年間で新たに利用したい障害福祉サービス（複数回答）

現在利用しているサービスは、【身体】は「補装具費の支給・日常生活用具給付等事業」、【療育】は「ガイドヘルプサービス（移動支援）」、【精神】は「訪問看護」、【難病】は「居宅介護（ホームヘルプ）」が最も高くなっています。

今後3年間で新たに利用したい障害福祉サービスは、【身体】【難病】は「補装具費の支給・日常生活用具給付等事業」、【療育】は「グループホーム（共同生活援助）」、【精神】は「就労継続支援A型」が最も高くなっています。

		居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問介護	行動支援	同行支援	療養介護	生活介護	ショートステイ (短期入所)	施設入所支援	グループホーム (共同生活援助)	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	自立生活援助	就労移行支援	就労継続支援A型
身体	利用している障害福祉サービス等	9.7	4.7	1.4	1.4	0.8	8.4	6.8	1.0	2.3	2.3	0.6	0.8	3.3
	今後利用したい障害福祉サービス等	5.9	1.9	1.8	2.4	1.3	4.6	4.6	2.4	3.9	3.4	3.0	3.8	4.1
療育	利用している障害福祉サービス等	11.6	5.1	2.4	0.9	0.6	18.0	18.5	1.7	9.5	2.6	0.4	2.6	6.6
	今後利用したい障害福祉サービス等	4.8	1.8	3.5	2.0	1.1	5.9	12.3	5.3	12.8	3.5	3.7	3.1	5.1
精神	利用している障害福祉サービス等	9.4	0.8	1.5	0.4	0.2	1.7	1.7	0.6	2.7	1.5	1.0	1.7	7.1
	今後利用したい障害福祉サービス等	4.6	0.8	1.9	0.4	0.8	2.3	1.3	1.3	2.9	1.9	4.8	7.9	9.2
難病	利用している障害福祉サービス等	6.8	1.4	0.8	0.5	0.8	2.7	2.2	1.1	0.8	1.9	0.8	0.0	3.0
	今後利用したい障害福祉サービス等	3.0	0.3	1.4	1.9	1.1	2.7	1.1	0.5	0.8	0.8	0.8	2.5	2.7
		就労継続支援B型	就労定着支援	計画相談支援	地域移行支援	地域定着支援	ガイドヘルプサービス (移動支援)	日中一時支援事業	意思疎通支援事業	補装具費の支給・日常生活用具給付等事業	地域活動支援センター事業	訪問看護	利用している(したい)サービスはない	無回答
身体	利用している障害福祉サービス等	6.0	0.5	4.6	0.3	0.1	8.9	0.8	0.5	11.5	1.3	7.9	56.9	4.9
	今後利用したい障害福祉サービス等	4.4	2.5	1.9	0.3	1.0	5.7	2.7	0.6	7.9	1.6	3.8	53.8	11.6
療育	利用している障害福祉サービス等	25.3	0.7	15.8	0.4	0.0	27.0	3.7	0.0	7.3	2.2	5.7	25.3	7.9
	今後利用したい障害福祉サービス等	10.1	2.4	4.6	0.4	0.9	10.8	4.2	0.9	1.7	1.5	2.8	38.2	13.8
精神	利用している障害福祉サービス等	10.0	1.9	5.4	0.4	0.2	5.4	0.6	0.0	1.7	4.2	12.9	52.1	5.6
	今後利用したい障害福祉サービス等	7.9	6.5	3.3	0.6	1.3	2.5	2.1	0.4	1.7	1.9	5.8	51.9	10.4
難病	利用している障害福祉サービス等	3.6	0.5	3.3	0.5	0.0	4.1	0.3	0.5	6.3	0.3	5.8	73.4	3.3
	今後利用したい障害福祉サービス等	2.2	2.5	0.3	0.0	0.5	3.8	1.4	0.3	5.5	1.4	2.7	69.6	7.9

◇現在利用している障害福祉サービス×身体障害の種類

視覚障害、聴覚障害・平衡機能障害、肢体（上肢）不自由、肢体（下肢）不自由、内部障害は、「補装具費の支給・日常生活用具給付等事業」、音声・言語・そしゃく機能障害、肢体（体幹）不自由は「生活介護」が最も高くなっています。

身体		回答数	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	行動援護	同行援護	療養介護	生活介護	ショートス テイ(短期 入所)
	視覚障害	72	13.9	2.8	1.4	11.1	0.0	11.1	9.7
	聴覚障害・平衡機能障害	82	8.5	6.1	3.7	0.0	0.0	8.5	3.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	88	26.1	14.8	5.7	2.3	2.3	33.0	26.1
	肢体(上肢)不自由	250	21.2	13.2	2.4	1.2	2.0	20.0	15.2
	肢体(下肢)不自由	382	16.8	9.2	1.6	0.8	1.6	14.1	11.5
	肢体(体幹)不自由	131	26.0	26.0	3.8	0.8	3.8	35.9	28.2
	内部障害	214	5.6	2.3	0.9	0.5	0.9	1.4	0.9
		回答数	施設入所 支援	グループ ホーム (共同生 活援助)	自立訓練 (機能訓 練・生活 訓練)	自立生活 援助	就労移行 支援	就労継続 支援A型	就労継続 支援B型
	視覚障害	72	0.0	0.0	4.2	0.0	1.4	4.2	12.5
聴覚障害・平衡機能障害	82	1.2	4.9	0.0	0.0	1.2	2.4	6.1	
音声・言語・そしゃく機能障害	88	3.4	3.4	4.5	2.3	0.0	4.5	8.0	
肢体(上肢)不自由	250	2.0	2.4	4.0	0.8	0.8	2.8	4.4	
肢体(下肢)不自由	382	1.6	1.6	3.4	0.8	0.5	2.4	4.7	
肢体(体幹)不自由	131	3.8	3.1	6.9	1.5	0.8	2.3	3.8	
内部障害	214	0.5	1.9	0.9	0.0	0.0	1.4	4.2	
	回答数	就労定着 支援	計画相談 支援	地域移行 支援	地域定着 支援	ガイドヘル プサービ ス(移動 支援)	日中一時 支援事業	意思疎通 支援事業	
視覚障害	72	0.0	5.6	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	
聴覚障害・平衡機能障害	82	0.0	4.9	1.2	0.0	11.0	1.2	2.4	
音声・言語・そしゃく機能障害	88	0.0	17.0	1.1	0.0	28.4	1.1	1.1	
肢体(上肢)不自由	250	0.4	10.4	0.0	0.0	19.6	0.0	0.4	
肢体(下肢)不自由	382	0.5	7.9	0.3	0.0	13.9	0.3	0.3	
肢体(体幹)不自由	131	0.0	16.0	0.8	0.0	26.0	1.5	1.5	
内部障害	214	0.0	0.9	0.0	0.0	2.8	0.9	0.5	
	回答数	補装具費 の支給・ 日常生活 用具給付 等事業	地域活動 支援セン ター事業	訪問看護	利用して いるサー ビスはな い	無回答			
視覚障害	72	15.3	2.8	4.2	48.6	5.6			
聴覚障害・平衡機能障害	82	22.0	2.4	12.2	45.1	1.2			
音声・言語・そしゃく機能障害	88	22.7	2.3	15.9	26.1	5.7			
肢体(上肢)不自由	250	22.0	1.2	13.2	44.0	2.8			
肢体(下肢)不自由	382	17.0	1.0	10.5	51.8	3.7			
肢体(体幹)不自由	131	26.7	0.8	19.8	22.9	0.8			
内部障害	214	8.4	0.9	6.5	73.8	4.2			

◇今後3年間で新たに利用したい障害福祉サービス×身体障害の種類

視覚障害、聴覚障害・平衡機能障害、肢体（上肢）不自由、肢体（下肢）不自由、内部障害は「補装具費の支給・日常生活用具給付等事業」、音声・言語・そしゃく機能障害は「ショートステイ（短期入所）」、肢体（体幹）不自由は「ガイドヘルプサービス（移動支援）」が最も高くなっています。

身体		回答数	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	行動援護	同行援護	療養介護	生活介護	ショートス テイ(短期 入所)
	視覚障害	72	4.2	0.0	0.0	12.5	0.0	5.6	6.9
	聴覚障害・平衡機能障害	82	3.7	1.2	2.4	2.4	1.2	3.7	3.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	88	10.2	4.5	8.0	4.5	5.7	14.8	17.0
	肢体(上肢)不自由	250	8.4	4.4	2.8	2.8	3.6	8.0	8.4
	肢体(下肢)不自由	382	7.6	3.4	2.9	2.6	2.1	6.0	7.6
	肢体(体幹)不自由	131	13.7	7.6	3.1	4.6	3.1	9.2	13.0
	内部障害	214	5.1	1.9	0.9	1.4	0.9	1.9	1.9
		回答数	施設入所 支援	グループ ホーム (共同生 活援助)	自立訓練 (機能訓 練・生活 訓練)	自立生活 援助	就労移行 支援	就労継続 支援A型	就労継続 支援B型
	視覚障害	72	2.8	2.8	4.2	2.8	1.4	8.3	6.9
聴覚障害・平衡機能障害	82	0.0	3.7	2.4	1.2	2.4	2.4	3.7	
音声・言語・そしゃく機能障害	88	9.1	8.0	5.7	2.3	3.4	6.8	3.4	
肢体(上肢)不自由	250	5.6	4.0	4.4	2.8	4.4	4.0	2.8	
肢体(下肢)不自由	382	3.7	3.4	3.7	1.6	2.6	2.6	3.1	
肢体(体幹)不自由	131	6.1	6.1	5.3	3.1	2.3	0.0	0.8	
内部障害	214	0.9	1.9	2.3	3.3	4.2	2.3	4.2	
	回答数	就労定着 支援	計画相談 支援	地域移行 支援	地域定着 支援	ガイドヘル プサービ ス(移動 支援)	日中一時 支援事業	意思疎通 支援事業	
視覚障害	72	0.0	4.2	0.0	0.0	13.9	4.2	0.0	
聴覚障害・平衡機能障害	82	1.2	1.2	1.2	2.4	4.9	2.4	3.7	
音声・言語・そしゃく機能障害	88	0.0	3.4	0.0	1.1	12.5	5.7	1.1	
肢体(上肢)不自由	250	1.2	2.0	0.0	0.8	8.0	4.4	0.8	
肢体(下肢)不自由	382	1.6	2.1	0.0	0.5	6.8	3.4	0.5	
肢体(体幹)不自由	131	0.8	4.6	0.0	0.0	15.3	7.6	0.8	
内部障害	214	2.8	0.9	0.9	1.9	2.8	0.9	0.5	
	回答数	補装具費 の支給・ 日常生活 用具給付 等事業	地域活動 支援セン ター事業	訪問看護	新たに利 用したい サービス はない	無回答			
視覚障害	72	9.7	4.2	1.4	44.4	12.5			
聴覚障害・平衡機能障害	82	13.4	1.2	2.4	50.0	13.4			
音声・言語・そしゃく機能障害	88	4.5	1.1	5.7	36.4	18.2			
肢体(上肢)不自由	250	10.8	1.2	7.6	45.6	13.6			
肢体(下肢)不自由	382	10.7	0.8	5.2	50.3	12.0			
肢体(体幹)不自由	131	10.7	1.5	9.9	37.4	13.7			
内部障害	214	5.6	1.4	4.2	68.2	9.8			

◇現在利用している障害福祉サービス×判定・等級

【療育】は、Aで「ガイドヘルプサービス（移動支援）」、B1、B2で「就労継続支援B型」が最も高くなっています。判定が重度であるほどサービスの利用率が高く、特に「生活介護」「ショートステイ（短期入所）」「計画相談支援」「ガイドヘルプサービス（移動支援）」が高くなっています。

【精神】は、全ての等級で「訪問看護」が高く、重度であるほど利用している割合が高くなっています。

		回答数	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	行動援護	同行援護	療養介護	生活介護	ショートス テイ(短期 入所)
療育	A	273	17.9	9.2	3.7	1.8	1.1	33.3	32.2
	B1	115	7.0	2.6	1.7	0.0	0.0	5.2	8.7
	B2	157	3.8	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6	1.9
精神	1級	59	10.2	5.1	1.7	3.4	1.7	10.2	8.5
	2級	246	13.0	0.4	2.4	0.0	0.0	0.8	0.4
	3級	175	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
		回答数	施設入所 支援	グループ ホーム (共同生 活援助)	自立訓練 (機能訓 練・生活 訓練)	自立生活 援助	就労移行 支援	就労継続 支援A型	就労継続 支援B型
療育	A	273	2.6	14.3	3.3	0.7	0.0	4.4	29.3
	B1	115	1.7	7.0	2.6	0.0	4.3	7.8	31.3
	B2	157	0.0	3.2	1.3	0.0	5.7	9.6	14.0
精神	1級	59	0.0	6.8	3.4	3.4	0.0	5.1	16.9
	2級	246	1.2	3.7	1.2	0.8	1.6	8.1	12.2
	3級	175	0.0	0.0	1.1	0.6	2.3	6.3	4.6
		回答数	就労定着 支援	計画相談 支援	地域移行 支援	地域定着 支援	ガイドヘル プサービ ス(移動 支援)	日中一時 支援事業	意思疎通 支援事業
療育	A	273	0.0	22.3	0.7	0.0	43.2	7.0	0.0
	B1	115	0.0	14.8	0.0	0.0	17.4	0.9	0.0
	B2	157	2.5	5.1	0.0	0.0	5.7	0.0	0.0
精神	1級	59	0.0	10.2	1.7	0.0	11.9	3.4	0.0
	2級	246	1.2	6.9	0.4	0.4	6.5	0.4	0.0
	3級	175	3.4	1.7	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0
		回答数	補装具費 の支給・ 日常生活 用具給付 等事業	地域活動 支援セン ター事業	訪問看護	利用して いるサー ビスはな い	無回答		
療育	A	273	12.8	1.8	7.3	8.4	8.4		
	B1	115	3.5	4.3	7.0	23.5	12.2		
	B2	157	0.6	1.3	1.9	56.1	3.8		
精神	1級	59	5.1	1.7	27.1	33.9	6.8		
	2級	246	1.2	6.9	14.6	44.7	6.1		
	3級	175	1.1	1.1	5.7	68.6	4.6		

◇今後3年間で新たに利用したい障害福祉サービス×判定・等級

【療育】はAで「ショートステイ（短期入所）」、B1で「就労継続支援B型」、B2で「就労継続支援A型」が高くなっています。

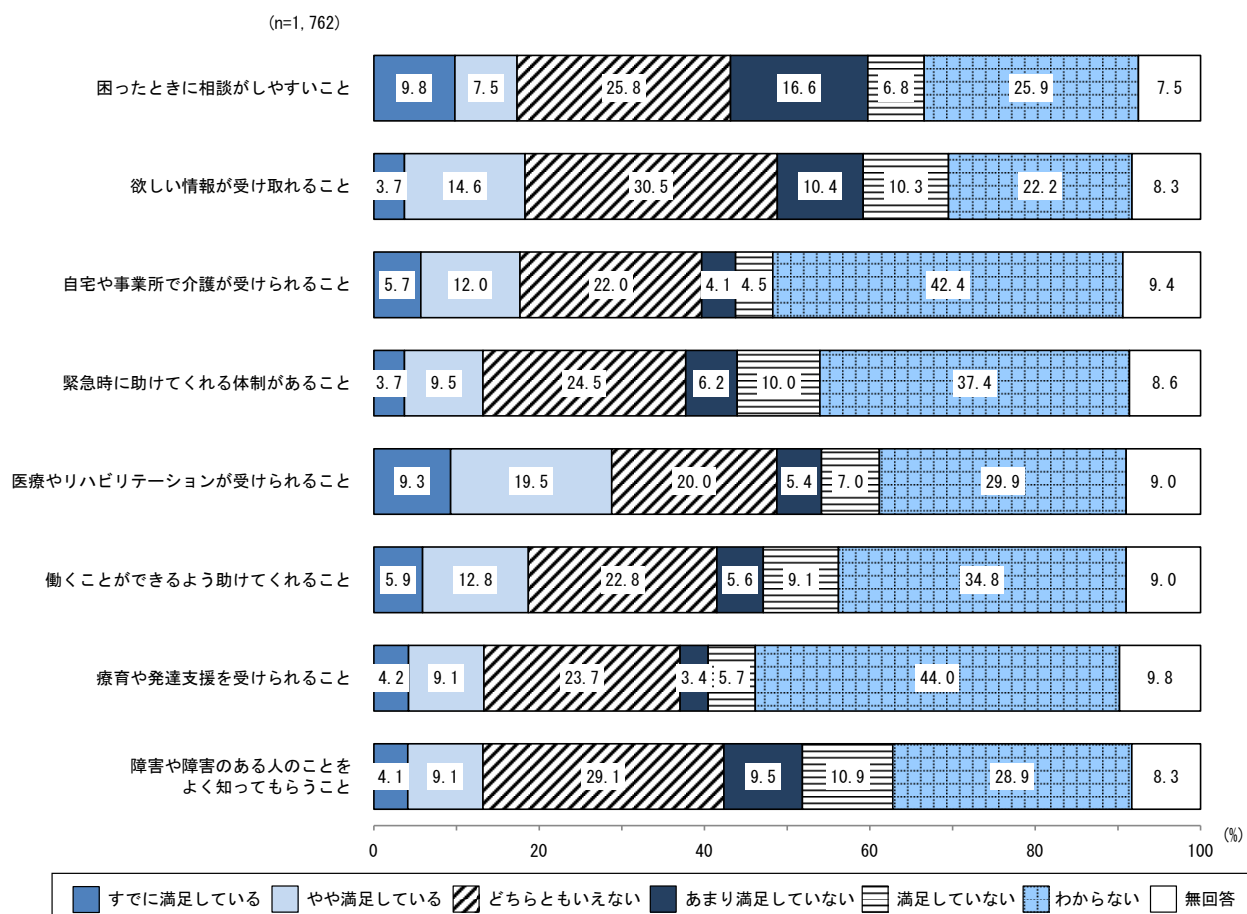
【精神】は1級が「グループホーム（共同生活援助）」、2級で「就労継続支援A型」、3級で「就労移行支援」が最も高くなっています。

		回答数	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	行動援護	同行援護	療養介護	生活介護	ショートス テイ(短期 入所)
療育	A	273	7.7	3.3	5.9	2.9	1.8	9.5	18.7
	B1	115	3.5	0.9	1.7	0.0	0.0	2.6	11.3
	B2	157	0.6	0.0	0.6	1.9	0.6	1.9	1.9
精神	1級	59	6.8	1.7	1.7	1.7	3.4	5.1	5.1
	2級	246	5.3	1.2	2.0	0.4	0.8	3.3	1.2
	3級	175	2.9	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
		回答数	施設入所 支援	グループ ホーム (共同生 活援助)	自立訓練 (機能訓 練・生活 訓練)	自立生活 援助	就労移行 支援	就労継続 支援A型	就労継続 支援B型
療育	A	273	9.2	18.3	2.6	2.9	0.4	1.1	10.6
	B1	115	1.7	13.9	7.8	4.3	7.0	7.0	14.8
	B2	157	1.3	2.5	1.9	4.5	5.1	10.8	5.7
精神	1級	59	6.8	11.9	3.4	8.5	6.8	3.4	5.1
	2級	246	0.8	2.8	1.6	4.5	6.9	11.0	10.2
	3級	175	0.0	0.0	1.7	4.0	9.7	8.6	5.7
		回答数	就労定着 支援	計画相談 支援	地域移行 支援	地域定着 支援	ガイドヘル プサービ ス(移動 支援)	日中一時 支援事業	意思疎通 支援事業
療育	A	273	0.0	4.8	0.4	0.4	16.5	7.0	1.1
	B1	115	3.5	7.0	0.9	0.9	11.3	3.5	0.9
	B2	157	5.7	2.5	0.0	1.9	0.6	0.0	0.6
精神	1級	59	0.0	3.4	0.0	0.0	5.1	5.1	1.7
	2級	246	8.5	4.1	1.2	0.8	2.8	1.6	0.4
	3級	175	5.7	2.3	0.0	2.3	1.1	1.7	0.0
		回答数	補装具費 の支給・ 日常生活 用具給付 等事業	地域活動 支援セン ター事業	訪問看護	新たに利 用したい サービス はない	無回答		
療育	A	273	2.6	2.6	3.7	26.7	16.1		
	B1	115	1.7	0.9	1.7	33.0	15.7		
	B2	157	0.0	0.0	1.9	61.8	8.3		
精神	1級	59	3.4	0.0	11.9	42.4	15.3		
	2級	246	1.6	2.8	6.9	47.6	11.0		
	3級	175	1.1	1.1	2.3	61.1	8.0		

# 11. 西宮市の障害のある人への取り組みについて

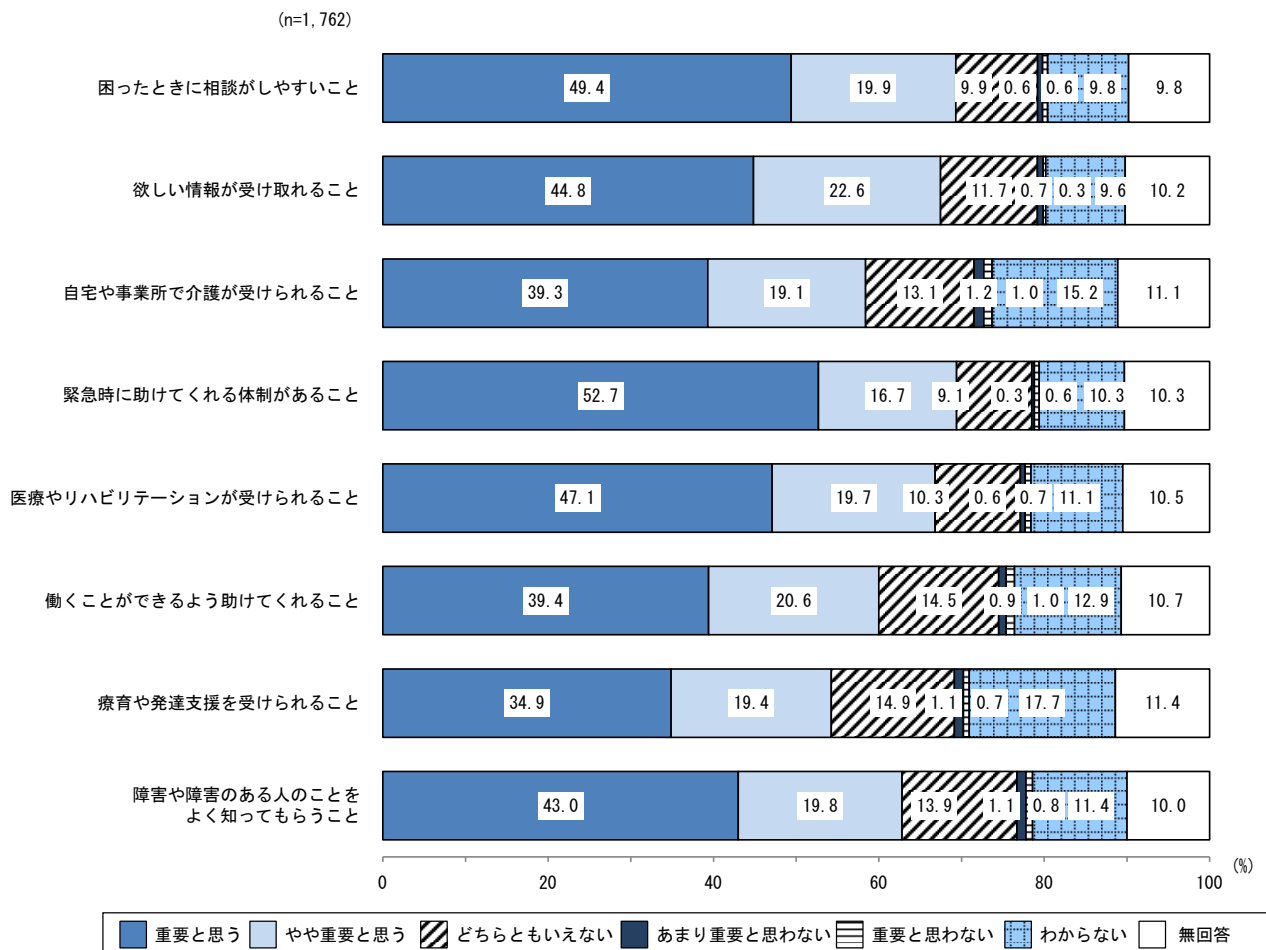
## 1 障害者施策に対する取組みの満足度（単数回答）

満足度が高い（「すでに満足している」「やや満足している」）項目は「医療やリハビリテーションが受けられること」、満足度が低い（「あまり満足していない」「満足していない」）項目は「困ったときに相談がしやすいこと」「欲しい情報が受け取れること」「障害や障害のある人のことをよく知ってもらうこと」となっています。



## 2 障害者施策に対する取組みの重要度（単数回答）

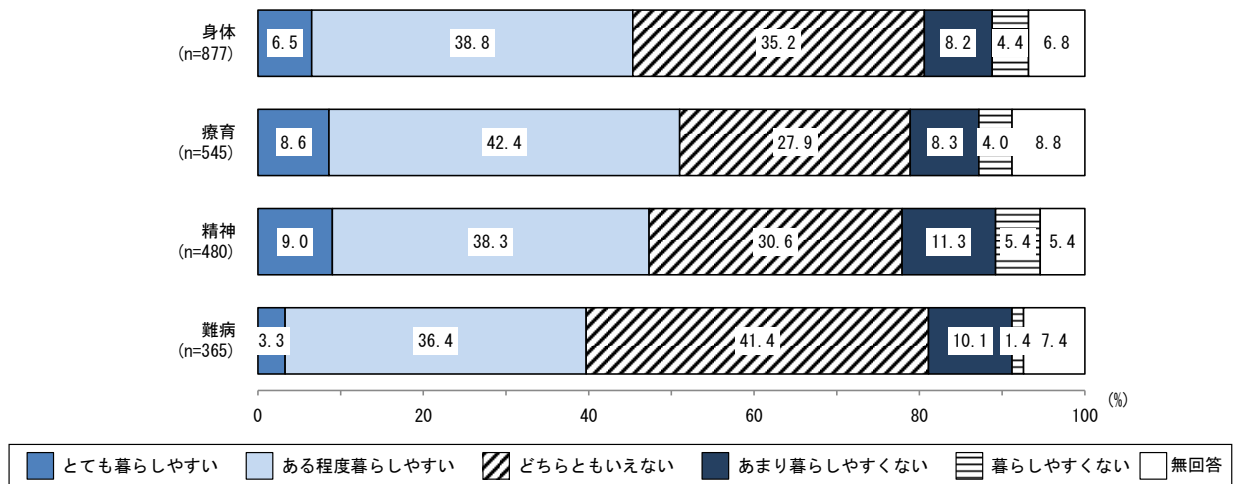
重要度が高い（「重要と思う」「やや重要と思う」）項目は、「困ったときに相談がしやすいこと」「緊急時に助けてくれる体制があること」「医療やリハビリテーションが受けられること」となっています。





### 3 障害のある人の暮らしやすさ（単数回答）

【身体】【療育】【精神】は「ある程度暮らしやすい」、【難病】は「どちらともいえない」が最も高くなっています。



#### 4 障害者施策に対する取組みについて思うことや悩み、不安、心配していること（自由記述）

##### ・生活について（抜粋）

・親から離れて、自立するときに来たとき、暮らしに困らないようにできるのか心配である。	女性	20代
・今は普通に働けているが、今後病気のことで何かあったときに、今と同じ暮らしができるか不安である。	女性	50代
・重度の障害を持った人達(医療ケアが必要な人達も含め)が生まれ育った西宮で支援を受けながら心配なく暮らしていける場所、住居が無い。皆が一人暮らしをするにはヘルパーや訪問看護も限界があると思われるし、かといって重度の障害を持った人達が集まって暮らせる場所も無い。同居している親がいつまでも介護できるとは思わない。	男性	40代
・頼る人がいない場合、どうしたらいいか。	女性	50代

##### ・高齢化・親亡き後について（抜粋）

・高齢で年金生活になった時、障害があっても安心して暮らせる街になって欲しいです。	女性	60代
・今は自由に一人で動けるが動けなくなった時に、どのようにすればいいのか不安である。	女性	60代
・親が高齢になったとき、他界したとき、自分がどうすればよいか不安	男性	20代
・親が年老いた後が不安。地域で1人では暮らしていけないのに頼れる場所がない。	女性	40代
・将来生活するのに心配のない収入が得られる仕事に就けるか、両親が亡くなった後も家や財産等の管理について支援してくれる人が身近にいてくれるかが心配。	男性	10代

##### ・バリアフリーについて（抜粋）

・高齢者や身体障害者には歩道の段差も多く、通り辛い・歩き辛い所が多い。ガードレールや側溝にフタをしていない箇所も多く、危ない箇所が多い。乗合タクシー等、年寄にも子育て世代にも生活しやすい市であってほしい。	女性	50代
・高齢者や障害者が外出するにあたり、交通量が多いのに歩道がない、あっても狭い、段差や急なカーブがあるなど、危険な道が多い。	女性	60代
・階段のない家で暮らしたい。	女性	20代

・緊急時について（抜粋）

・災害時（台風、地震、津波、川の氾濫）の避難の仕方	男性	40代
・今のところ問題はないが、万一悪化したり緊急事態となったとき、素早い対応が可能かどうかについての不安がある。いつ症状の悪化が出るかわからない不安。	男性	60代

・医療費の助成、経済的負担の軽減等について（抜粋）

・現在は投薬を受け、病状は安定していますが、それを軽視され、自己負担が増えるのが不安に思います。自己負担が増えると病院に行きにくくなり、薬を飲まなくなると、病状が悪化する、そんな悪循環にならないか不安です。	男性	50代
・障害者に対して資金援助を拡大してほしい。	男性	50代
・補装具の購入代金を一部負担していただき、こうした支援は大変ありがたく思います。	男性	40代
・医療費が年々上がっていくのが心配	男性	50代
・最近の生活必需品や電気ガス料金等の値上がりを受けて、生活費の節約について考えることが多いです。そんな中障害のある人を対象にした医療費助成にはとても助けられています。以前はお金を気にして医療機関の受診をためらっていたこともありましたが、今は必要なときに必要な医療を受けられていると実感しています。今後とも医療費助成制度があり続けることを切に願います。	男性	40代
・税金の控除率が低い。	男性	30代
・障害のある人のリハビリや訓練費の補助金をもっと多くして欲しい。	女性	50代

・就労について（抜粋）

・仕事が見つからない。相談しても仕事までつながらない。	女性	50代
・病院、家族、会社のジョブコーチに相談している。それらを補完する機能を行政でサポートして欲しい。	女性	30代
・難病患者は手帳がないため、体調が一定しないという不安定な状況の中で、固定した障害を持つ人達よりも「法律の外」にいると感じる。例えば就労は障害者雇用としてカウントされないため、「病気で休むリスクが高い」と敬遠されるし、就労できても言い出しにくい。就労支援にしても「できない人を助けてあげる」相談であり、時短や通院などの配慮があれば働けるのにそのような支援はないように思う。できないことを助けるのも必要だが、能力を生かす支援も必要だと思う。（オンラインでかなりのことが可能。）	女性	50代
・職場ではサポートしてもらっているが、街中ではあまり感じない。このまま生活できるのか不安。	女性	30代
・就職活動中なのですが、企業できちんと自身の病気について理解して頂け、業務面においても対応してもらえるのが不安です。	女性	30代
・アイビーを利用していますが、定期的に連絡を取り合ったり、交流の場の連絡がもらえて助かっています。（参加を楽しみにしています）	男性	40代

・福祉サービスについて（抜粋）

・将来、体が不自由になったときに、住居と通院について相談・対応をすぐできる施設があればよい。	男性	40代
・ヘルパーが足りていないように思う。今のヘルパーが辞めてしまったら頼めるヘルパーがいるのかとても不安。	女性	10代
・サービスが必要なとき、医師の診断書、調査など1か月以上の期間を要する。その間いつも困っている。	女性	40代
・生活介護事業所が少なく、定員が限られている。	男性	20代
・受けられるサービスの範囲が狭い。	男性	30代
・現在、重度訪問介護の支援で生活していますが、介護保険に変わる年齢になったときに、支援時間を減らされることなく生活を維持できるのか心配です。	男性	60代
・各所の相談等の連絡をする際に LINE 等のオンラインでコンタクトを取れる手段があると嬉しい。話が苦手なので電話をかけることに難儀している。	男性	30代
・肢体不自由の場合、ある程度機能回復すれば維持のためのリハビリは受入先がない。年齢的に今後は訪問リハビリや施設のリハビリを受けられるようになるかもしれないが30歳代から受入先がなくて困った。	女性	50代

・市、行政について（抜粋）

・どのような取り組みをしているのかが分からない。色々な相談窓口があるようですが、情報が少ないため利用できていない。	男性	50代
・情報が少なすぎる。どう情報を得ていいのかわからない。こちらから出向かないと何もしてくれない。	男性	40代
・西宮市総合福祉センターへ行きたくても、バス路線がなくタクシーを利用しないと行けない。総合福祉センターへの公共交通機関を考えてほしい。	男性	60代
・指定難病の公費負担の更新、精神障害者手帳や自立支援医療の更新の簡素化・期間延長がされたらいいなと思います。更新手続きの時期が来ると憂鬱です。	男性	50代
・毎年特定疾患の公費負担の更新に多くの申請用紙を提出しなければいけないが、障害が進んだら自分1人で申請ができなくなるのではと不安。進行することはあっても良くなること（治ること）はない難病なのだから自動的に更新してほしい。	女性	40代
・今回のアンケートで、色々なことを知りました。障害をもっている人に個人的に教えてほしい。	女性	50代
・特別支援学校を造ってほしいです。	女性	10代
・特別支援学校の教職員の教育の場を多く持ち専門性を向上してほしい。	男性	10代

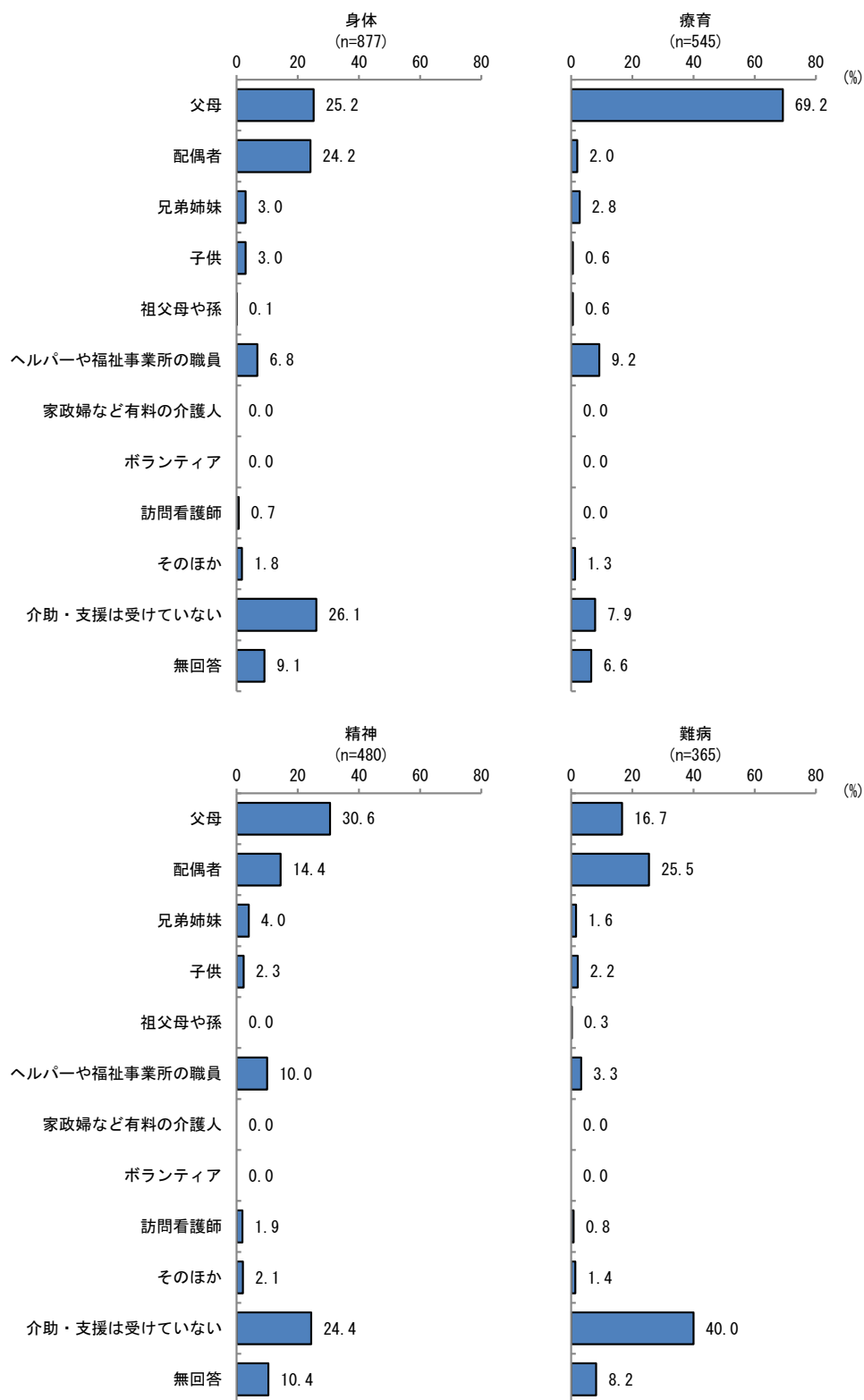
・障害理解について（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・目に見えない（外見ではわからない）障害に、理解を示して欲しいです。（ヘルプマークをカバンに付けていますが）</li> </ul>	男性	50代
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目で見えない（分からない）、軽い障害なので「みんな一緒」とか「それぐらい誰にでもある」と言われるのはいやでした。だからといって、できないと「何でできないの？」と言われるのが辛いです。</li> </ul>	女性	10代
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害についての教育を学校でやってほしいです。</li> </ul>	女性	10代
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験会を健常の子供にもっと頻繁に行ってほしい。定期的にある“楽しいイベント”という認識を持ってもらえれば。</li> </ul>	女性	40代
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市政ニュースなどで障害に関する啓発記事を目にすることが増えた気がする。こういうことの積み重ねが大事なのだろうと思う。</li> </ul>	女性	30代

## 12. あなたを介助・支援している人のことについて

### 1 主に介助・支援している方（単数回答）

【身体】【療育】【精神】は、「父母」、【難病】は「配偶者」が最も高くなっています。



## ◇主に介助・支援している方×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較すると、【身体】は「父母」が9.4%から25.2%と大幅な増加が見られます。

【療育】【精神】は大きな増減は見られません。

【難病】は「父母」が5.0%から16.7%、「介助・支援は受けていない」が28.1%から40.0%と大幅な増加が見られます。

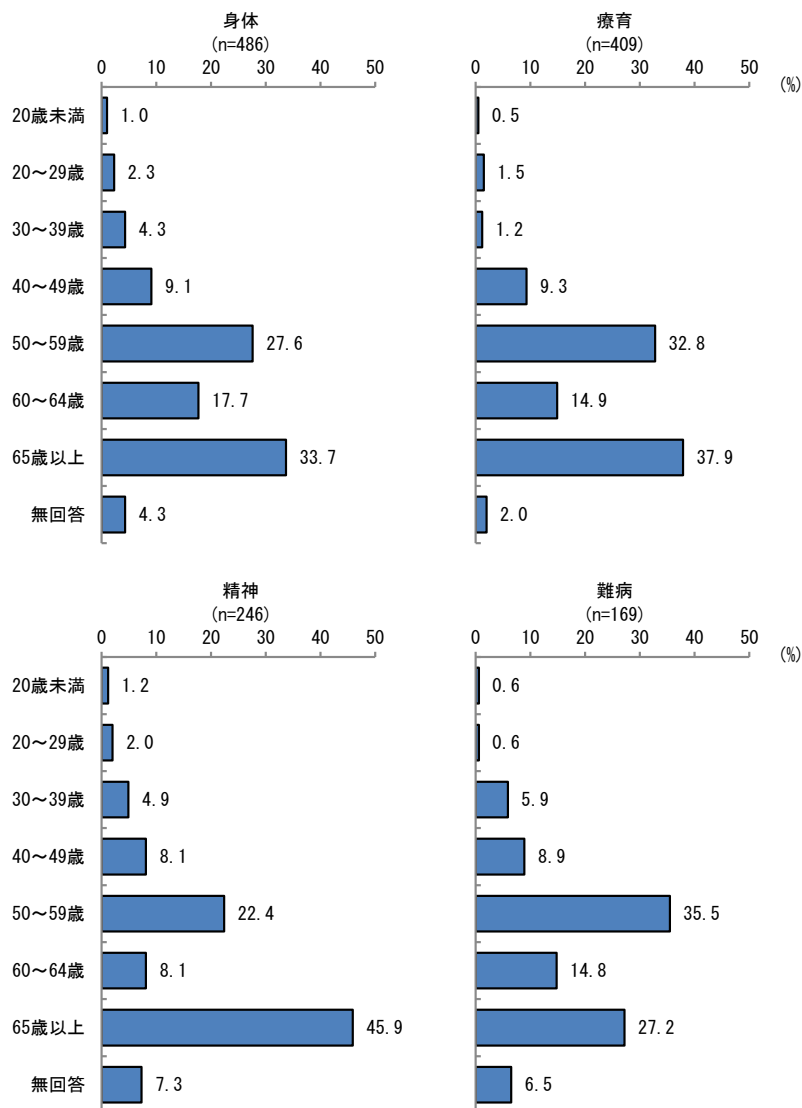
### 【前回調査との比較】

		父母	配偶者	兄弟姉妹	子供	祖父母や孫	ヘルパーや福祉事業所の職員	家政婦など有料の介護人
身体	R4調査 (n=877)	25.2	24.2	3.0	3.0	0.1	6.8	0.0
	R1調査 (n=777)	9.4	27.5	4.1	10.3	0.0	7.1	0.0
療育	R4調査 (n=545)	69.2	2.0	2.8	0.6	0.6	9.2	0.0
	R1調査 (n=487)	61.8	1.2	4.7	0.2	0.6	10.5	0.0
精神	R4調査 (n=480)	30.6	14.4	4.0	2.3	0.0	10.0	0.0
	R1調査 (n=415)	29.9	18.6	5.3	3.1	0.5	9.6	0.0
難病	R4調査 (n=365)	16.7	25.5	1.6	2.2	0.3	3.3	0.0
	R1調査 (n=418)	5.0	35.1	0.7	7.5	0.0	1.9	0.0
		ボランティア	訪問看護師	そのほか	介助・支援は受けていない	無回答		
身体	R4調査 (n=877)	0.0	0.7	1.8	26.1	9.1		
	R1調査 (n=777)	0.3	0.5	2.2	21.5	17.1		
療育	R4調査 (n=545)	0.0	0.0	1.3	7.9	6.6		
	R1調査 (n=487)	0.0	0.0	0.4	5.1	15.4		
精神	R4調査 (n=480)	0.0	1.9	2.1	24.4	10.4		
	R1調査 (n=415)	0.0	1.7	3.6	20.0	7.7		
難病	R4調査 (n=365)	0.0	0.8	1.4	40.0	8.2		
	R1調査 (n=418)	0.0	0.5	1.4	28.1	19.7		

### 1 3. 封筒のあて名のご本人を介助・支援しているご家族の方にお聞きします。

#### 1 介助・支援者の年齢（数量回答）

【身体】【療育】【精神】は「65歳以上」、【難病】は「50～59歳」が最も高くなっています。



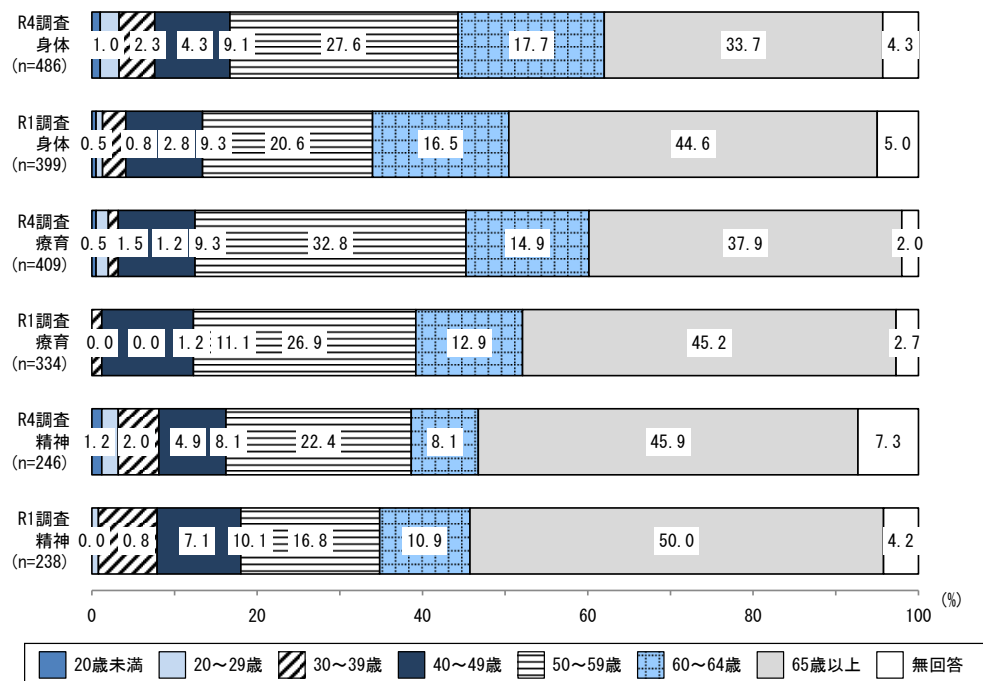


## ◇介助・支援者の年齢×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較すると、3障害とも「50～59歳」が増加し、「40～49歳」「65歳以上」が減少傾向にあります。

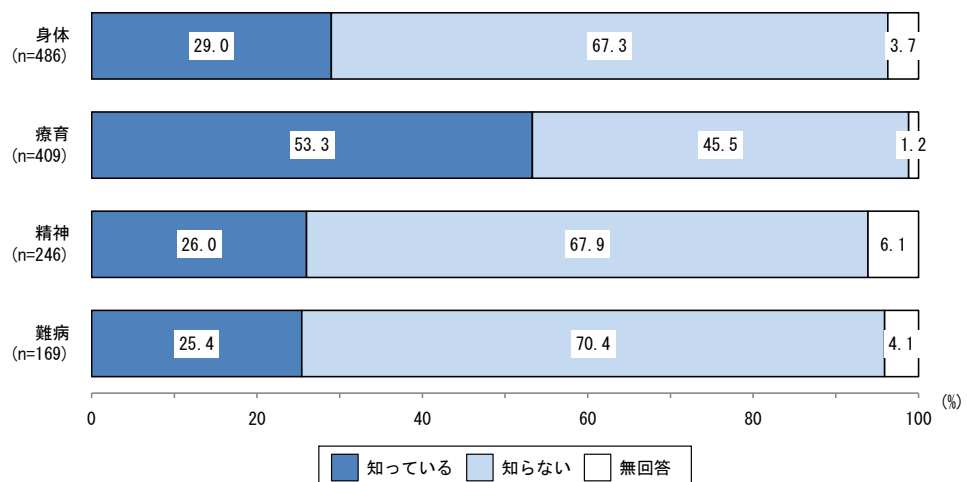
【身体】は「65歳以上」が44.6%から33.7%と大幅な減少が見られます。

### 【前回調査との比較】



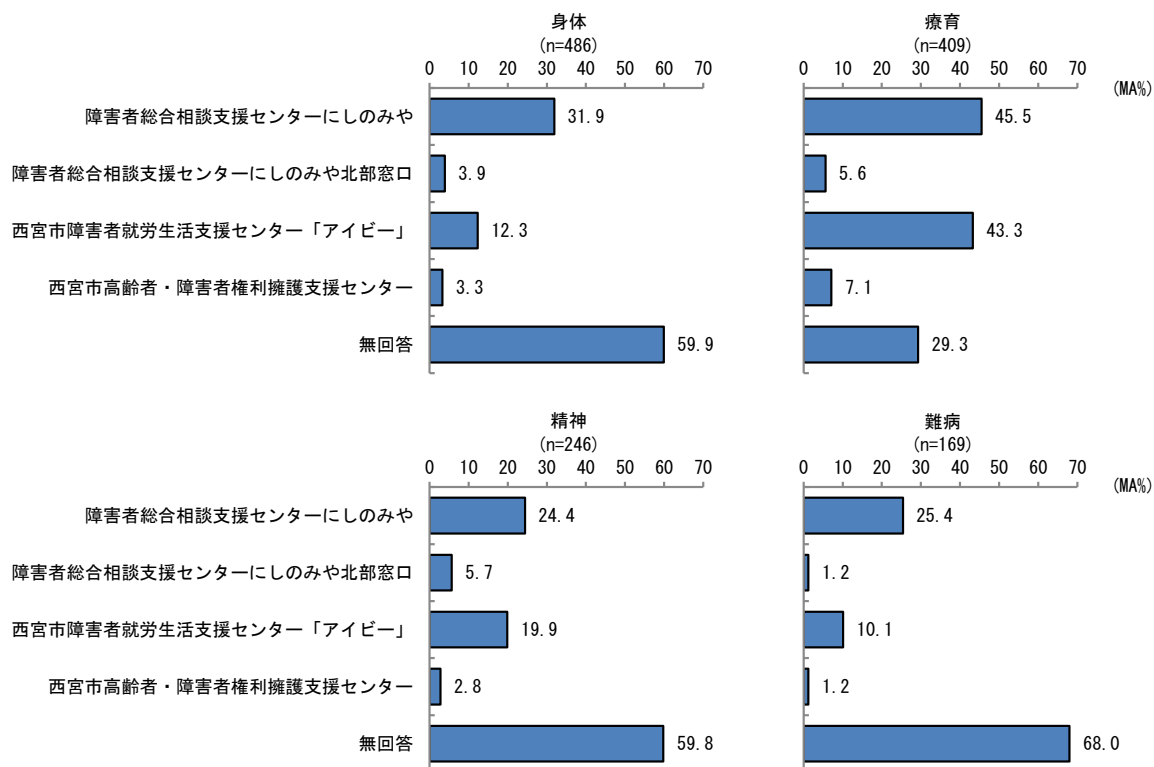
## 2 障害を理由として差別や偏見などを受けたときの相談窓口の認知度（単数回答）

【身体】【精神】【難病】は「知らない」、【療育】は「知っている」が高くなっています。



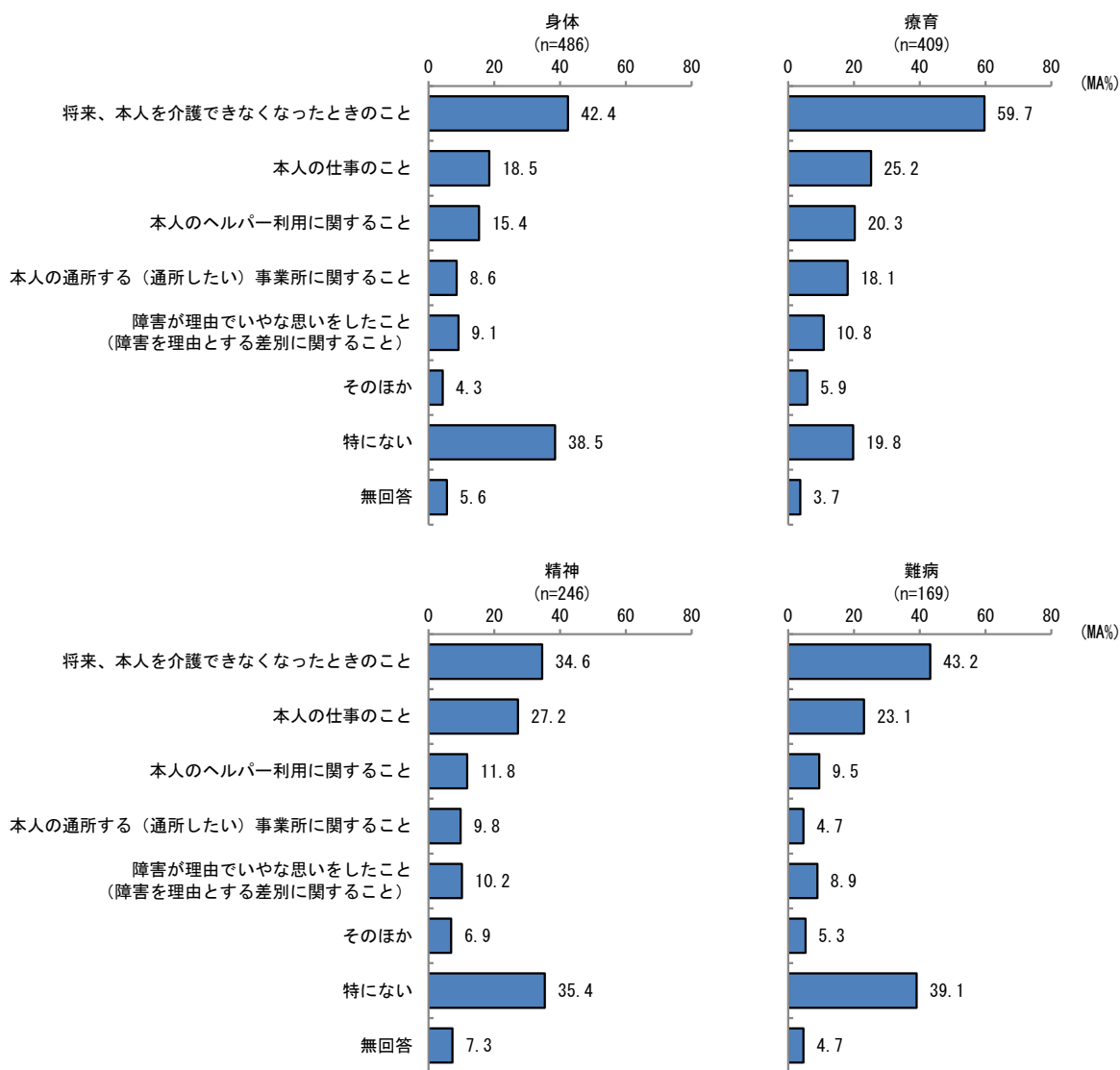
### 3 相談窓口（市役所、障害者総合相談支援センター等）の認知度（複数回答）

4 障害ともに「障害者総合相談支援センターにしのみや」が最も高くなっています。他の障害に比べて【療育】は、「西宮市障害者就労生活支援センター「アイビー」」が高くなっています。



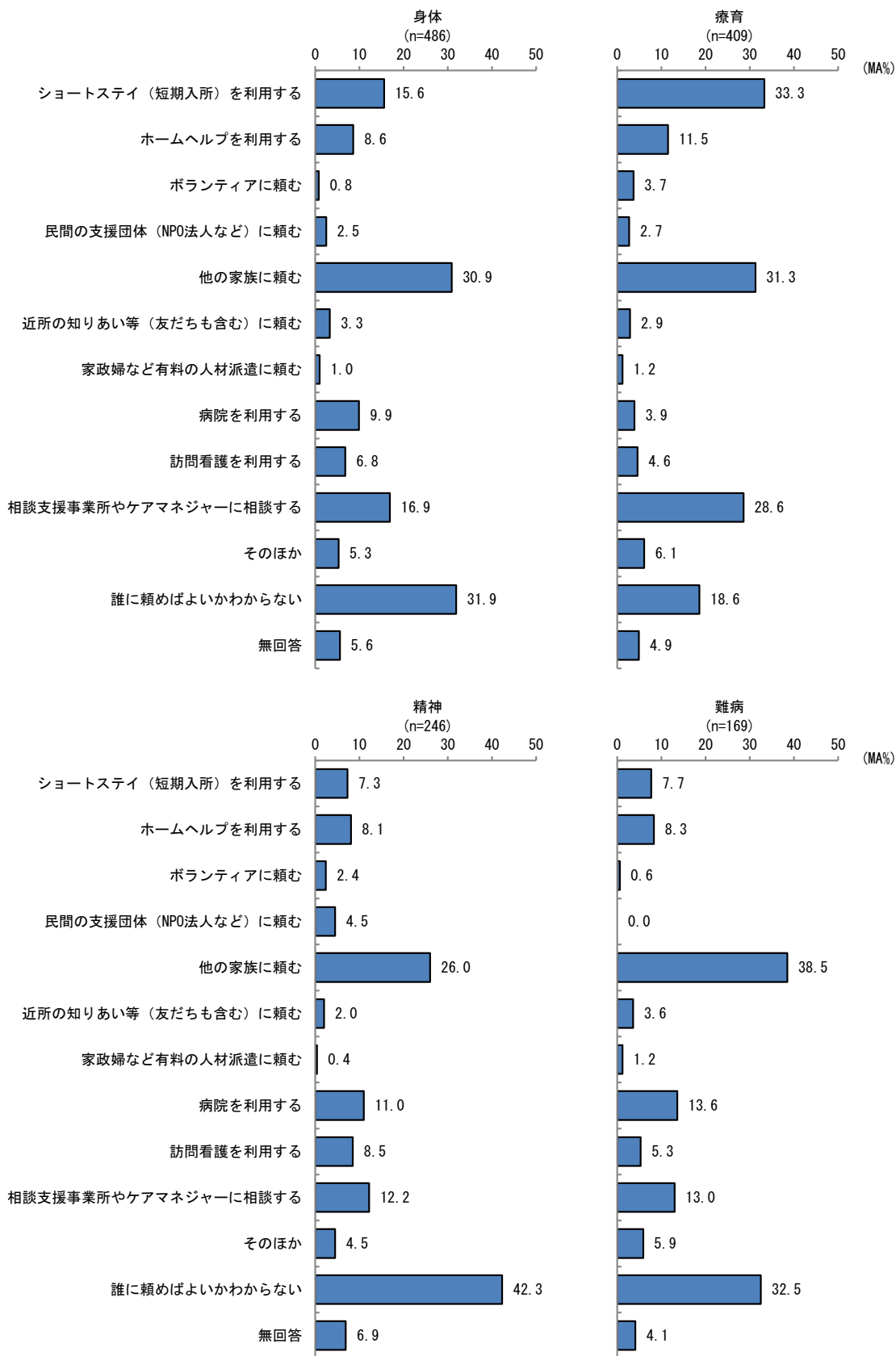
#### 4 障害について相談窓口で相談したいこと（複数回答）

4 障害ともに「将来、本人を介護できなくなったときのこと」が最も高くなっています。



## 5 介助・支援ができなくなった場合の対応（複数回答）

【療育】は「ショートステイ（短期入所）を利用する」、【難病】は「他の家族に頼む」、【身体】【精神】は「誰に頼めばよいかわからない」が最も高くなっています。



## ◇介助・支援ができなくなった場合の対応×前回調査との比較

前回（3年前）の調査と比較すると、【身体】は、「ショートステイ（短期入所）を利用する」「病院を利用する」「相談支援事業やケアマネジャーに相談する」が大幅に減少し、「誰に頼めばよいかわからない」で大幅な増加が見られます。

【療育】は「ショートステイ（短期入所）を利用する」「相談支援事業やケアマネジャーに相談する」が大幅に減少しています。

【精神】は、いずれの選択肢においても減少傾向にあります。一方で「誰に頼めばよいかわからない」が17.6%から42.3%と大幅に増加しています。

【難病】は、複数の選択肢において減少傾向が見られ、特に「ショートステイ（短期入所）を利用する」「相談支援事業やケアマネジャーに相談する」が大幅に減少し、「他の家族に頼む」「誰に頼めばよいかわからない」が大幅に増加しています。

### 【前回調査との比較】

		ショートステイ(短期入所)を利用する	ホームヘルプを利用する	ボランティアに頼む	民間の支援団体(NPO法人など)に頼む	他の家族に頼む	近所の知りあい等(友達も含む)に頼む	家政婦など有料の人材派遣に頼む
身体	R4調査(n=486)	15.6	8.6	0.8	2.5	30.9	3.3	1.0
	R1調査(n=399)	24.6	17.0	4.0	3.3	36.1	6.5	2.3
療育	R4調査(n=409)	33.3	11.5	3.7	2.7	31.3	2.9	1.2
	R1調査(n=334)	49.4	18.3	2.1	7.5	40.4	4.2	1.8
精神	R4調査(n=246)	7.3	8.1	2.4	4.5	26.0	2.0	0.4
	R1調査(n=238)	13.0	18.1	2.5	6.3	30.3	5.0	2.9
難病	R4調査(n=169)	7.7	8.3	0.6	0.0	38.5	3.6	1.2
	R1調査(n=201)	32.8	16.9	2.0	2.0	25.9	4.5	5.0
		病院を利用する	訪問看護を利用する	相談支援事業所やケアマネジャーに相談する	そのほか	誰に頼めばよいかわからない	無回答	
身体	R4調査(n=486)	9.9	6.8	16.9	5.3	31.9	5.6	
	R1調査(n=399)	20.3	10.0	26.6	5.8	20.3	9.0	
療育	R4調査(n=409)	3.9	4.6	28.6	6.1	18.6	4.9	
	R1調査(n=334)	3.9	4.2	44.9	3.9	9.6	6.0	
精神	R4調査(n=246)	11.0	8.5	12.2	4.5	42.3	6.9	
	R1調査(n=238)	29.8	13.0	26.1	4.6	17.6	5.9	
難病	R4調査(n=169)	13.6	5.3	13.0	5.9	32.5	4.1	
	R1調査(n=201)	22.9	17.4	33.3	5.0	15.4	14.9	

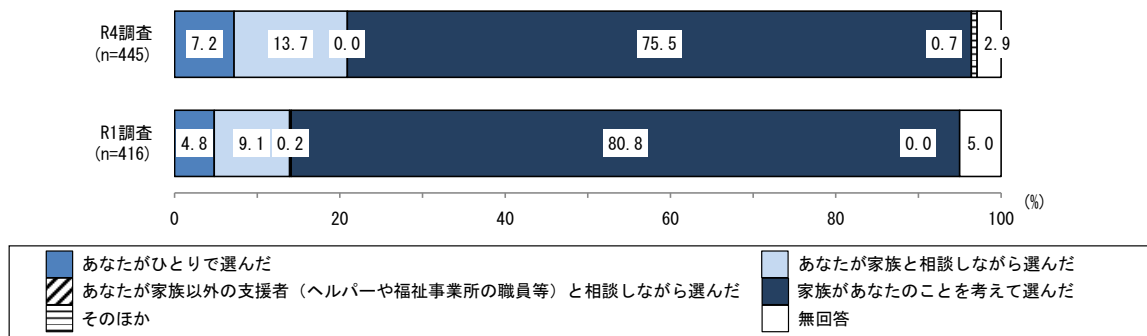
### Ⅲ 調査結果（障害児）

#### 1. 回答者について

##### 1 回答者（単数回答）

「家族があなたのことを考えて選んだ」が75.5%と最も高く、次いで「あなたが家族と相談しながら選んだ」が13.7%なっています。

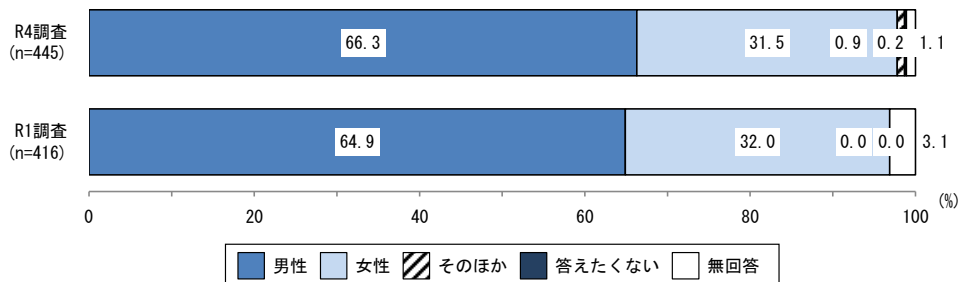
前回（3年前）の調査と比較しても、ほとんど同様の傾向が見られますが、「あなたがひとりで選んだ」「あなたが家族と相談しながら選んだ」がわずかに増加しています。



##### 2 性別（単数回答）

「男性」が66.3%、「女性」が31.5%となっています。

前回（3年前）の調査と比較しても、同様の傾向が見られます。

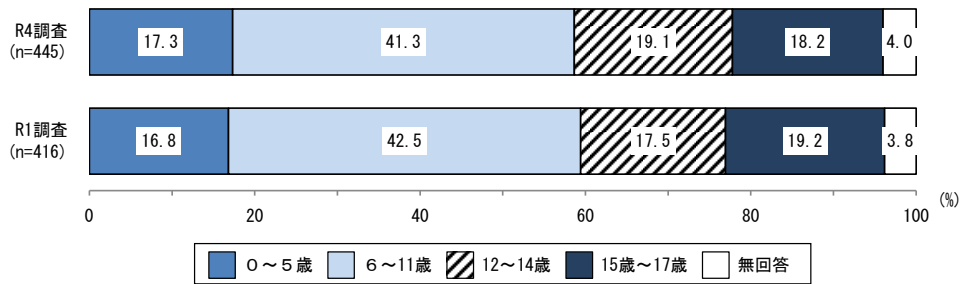


R4年調査のみ

答えたくない

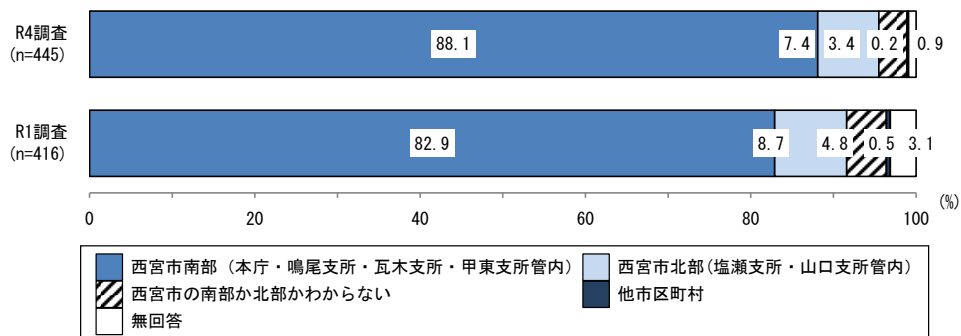
### 3 年齢（数量回答）

「6～11歳」が41.3%と最も高く、次いで「12～14歳」が19.1%となっています。  
 前回（3年前）の調査と比較しても、同様の傾向が見られます。



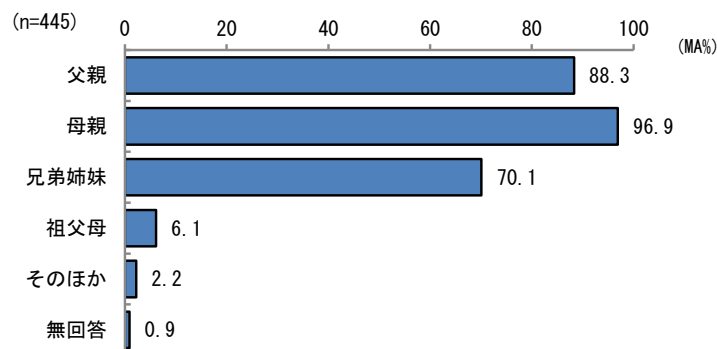
### 4 住まい（単数回答）

「西宮市南部（本庁・鳴尾支所・瓦木支所・甲東支所管内）」が84.9%と最も高く、次いで「西宮市北部（塩瀬支所・山口支所管内）」が7.4%となっています。  
 前回（3年前）の調査と比較しても、同様の傾向が見られます。



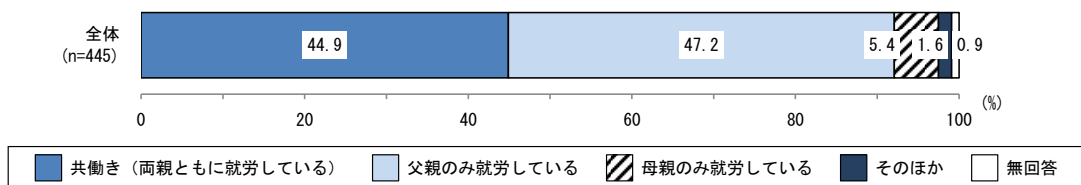
### 5 同居している人（複数回答）

「母親」が96.9%と最も高く、次いで「父親」が88.3%となっています。



## 6 両親の就労状況（単数回答）

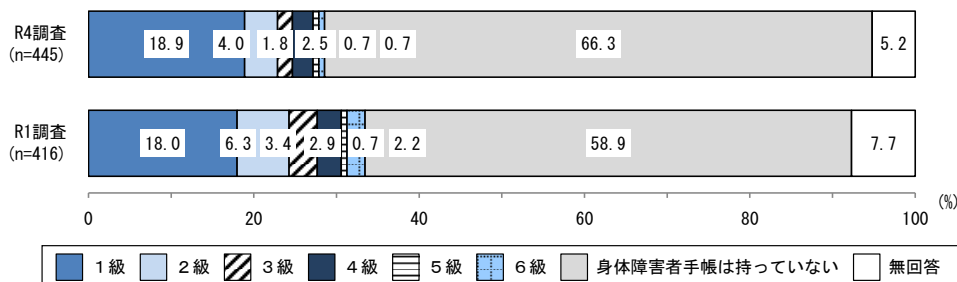
「父親のみ就労している」が47.2%と最も高く、次いで「共働き（両親ともに就労している）」が44.9%となっています。



## 7 「身体障害者手帳」の等級（単数回答）

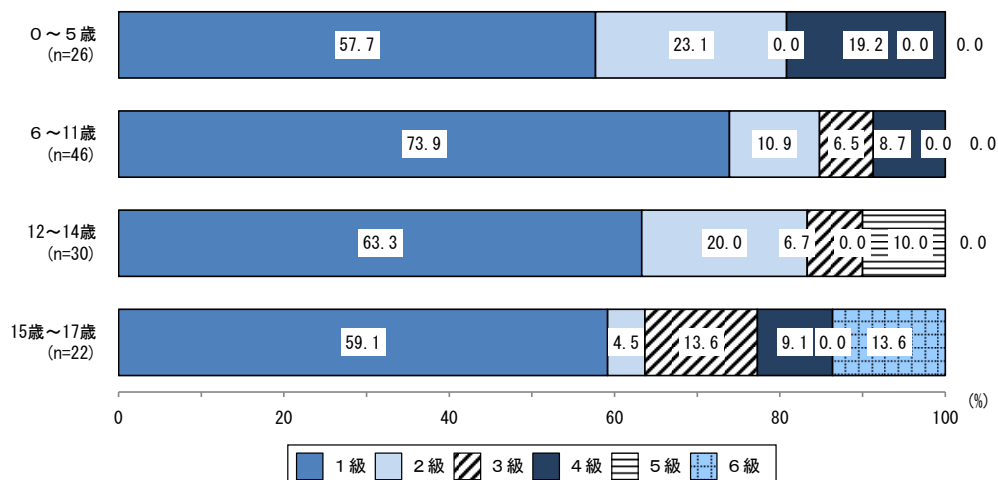
「身体障害者手帳は持っていない」を除くと「1級」が18.9%と最も高く、次いで「2級」が4.0%となっています。

前回（3年前）の調査と比較しても、ほとんど同様の傾向が見られます。



### ◇ 「身体障害者手帳」の等級×年齢別

いずれの年齢においても「1級」が最も高くなっています。

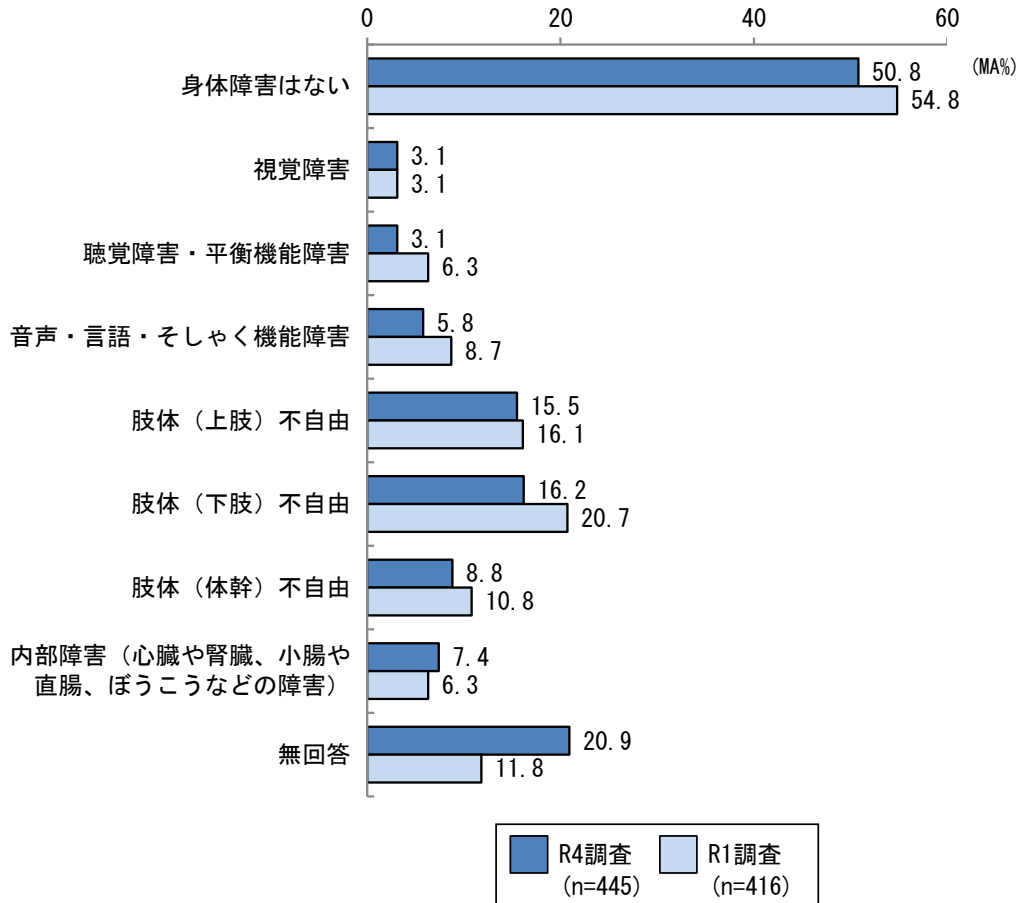




## 8 身体障害の種類（複数回答）

「身体障害はない」を除くと、「肢体（下肢）不自由」が16.2%と最も高く、次いで「肢体（上肢）不自由」が15.5%となっています。

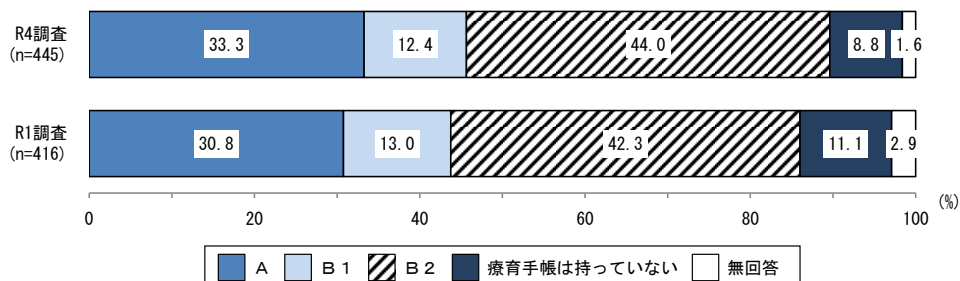
前回（3年前）の調査と比べて減少傾向が見られますが「内部障害（心臓や腎臓、小腸や直腸、ぼうこうなどの障害）」のみわずかに増加しています。



## 9 「療育手帳」の判定（単数回答）

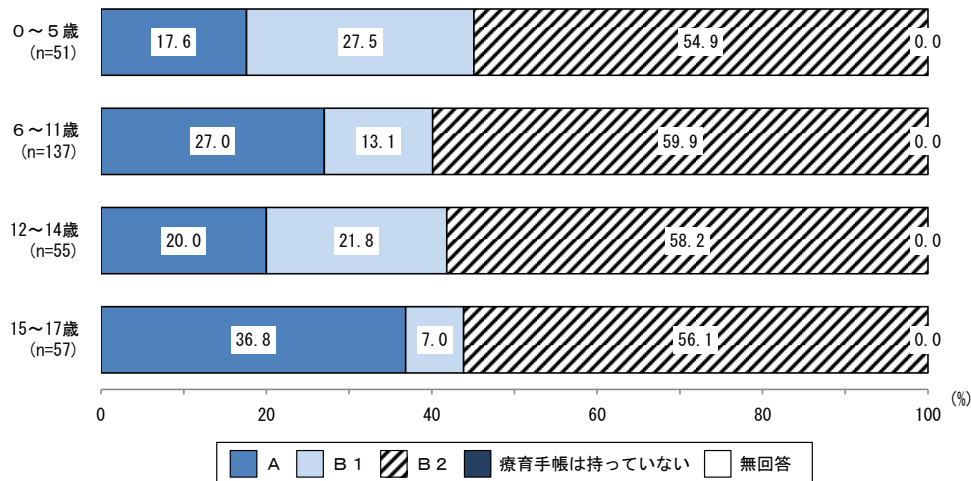
「B2」が44.0%と最も高く、次いで「A」が33.3%となっています。

前回（3年前）の調査と比較しても、同様の傾向が見られます。



### ◇「療育手帳」の判定×年齢別

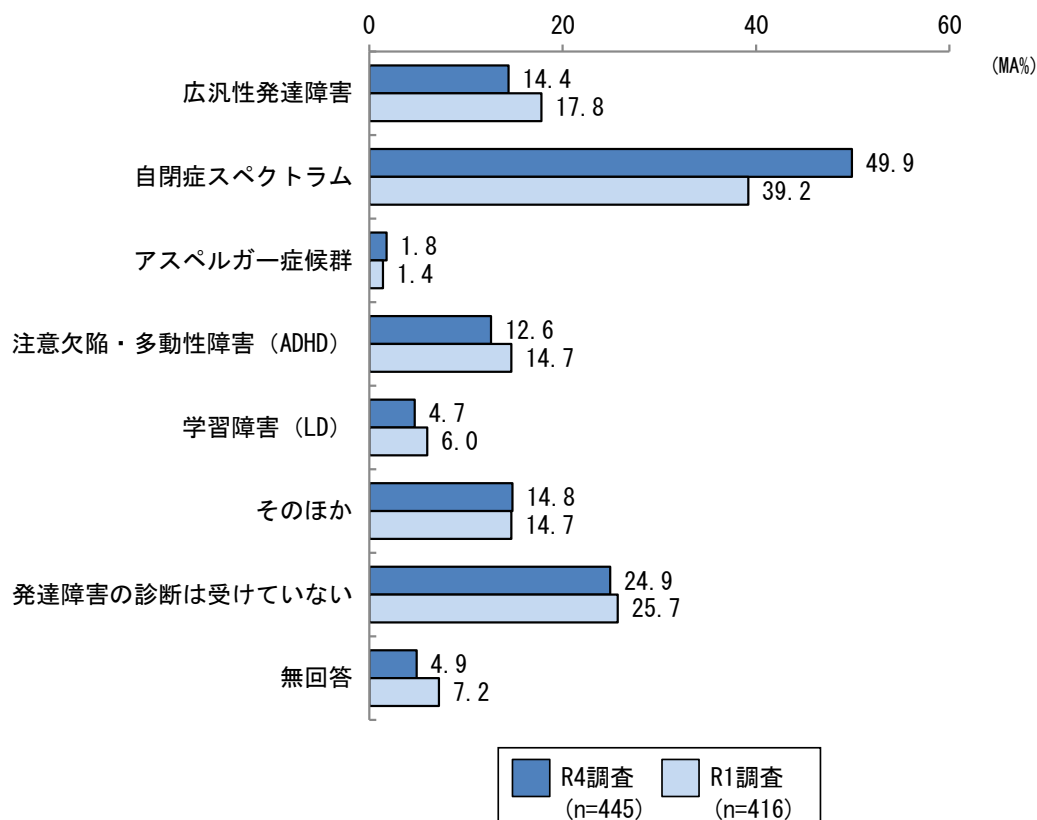
いずれの年齢においても「B2」が最も高くなっています。他の年齢に比べて15～17歳は重度である「A」が36.8%と高くなっています。



### 10 発達障害の診断（複数回答）

「自閉症スペクトラム」が49.9%と最も高く、「そのほか」「発達障害の診断は受けていない」を除くと、次いで「広汎性発達障害」が14.4%となっています。

前回（3年前）の調査と比べてほとんどが減少傾向にある中で「自閉症スペクトラム」が39.2%から49.9%と大幅に増加しています。

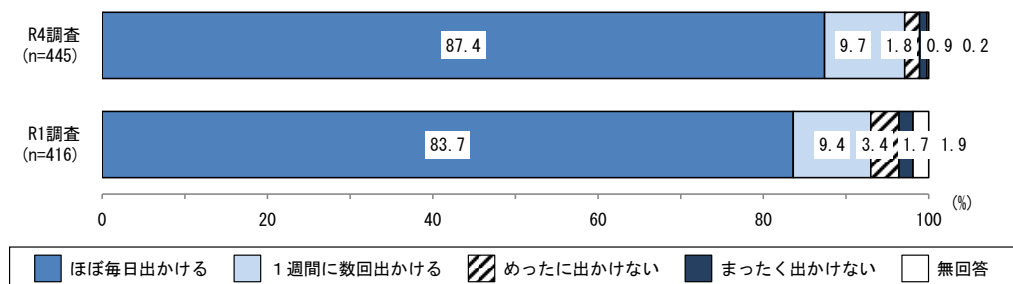


## 2. ふだんの暮らしについて

### 1 1週間にどれくらい外出するか（単数回答）

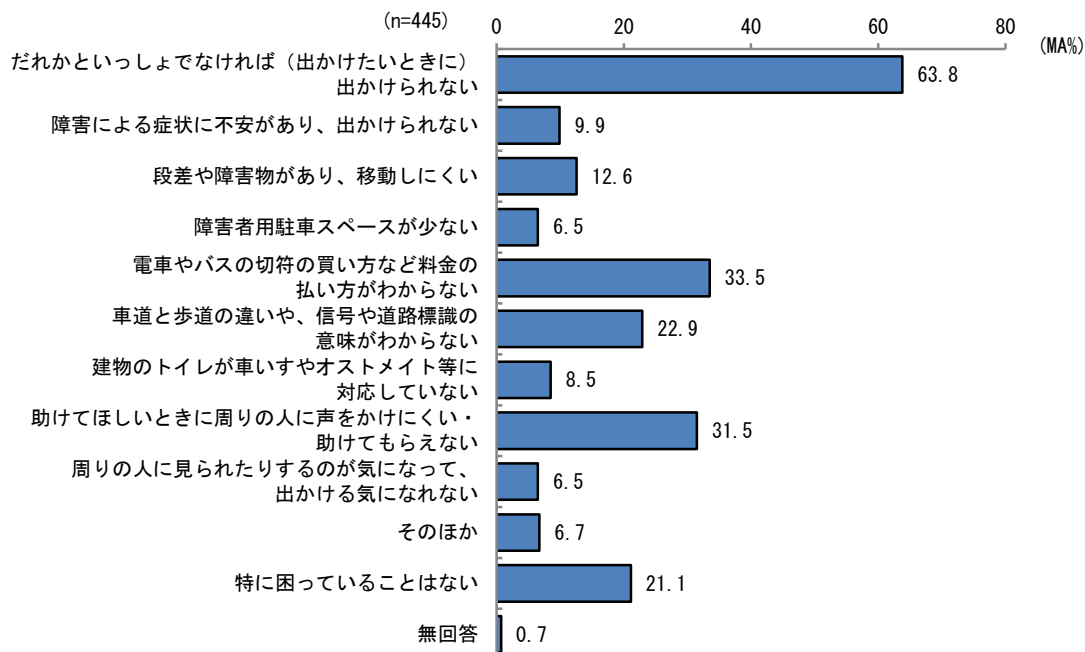
「ほぼ毎日出かける」が87.4%と最も高く、次いで「1週間に数回出かける」が9.7%となっています。

前回（3年前）の調査と比較しても、ほとんど同様の傾向が見られますが、「ほぼ毎日出かける」は83.7%から87.4%とわずかに増加しています。



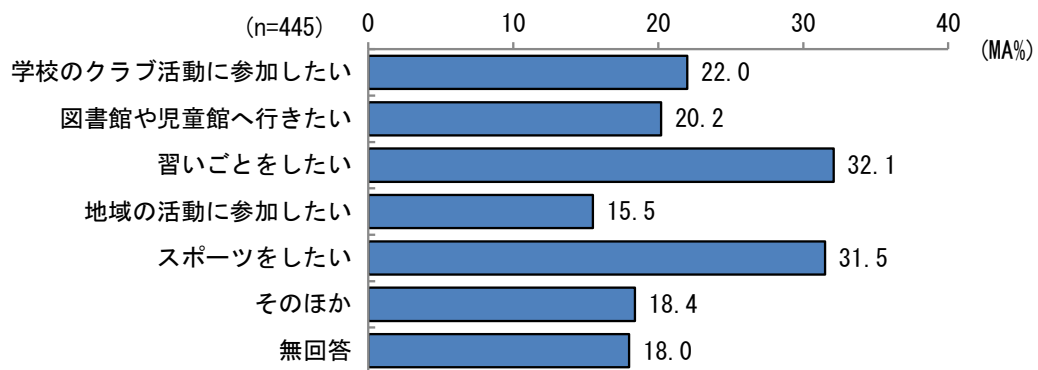
### 2 外出するときに困ること（複数回答）

「だれかといっしょでなければ（出かけたときに）出かけられない」が63.8%と最も高く、次いで「電車やバスの切符の買い方など料金の払い方がわからない」が33.5%となっています。



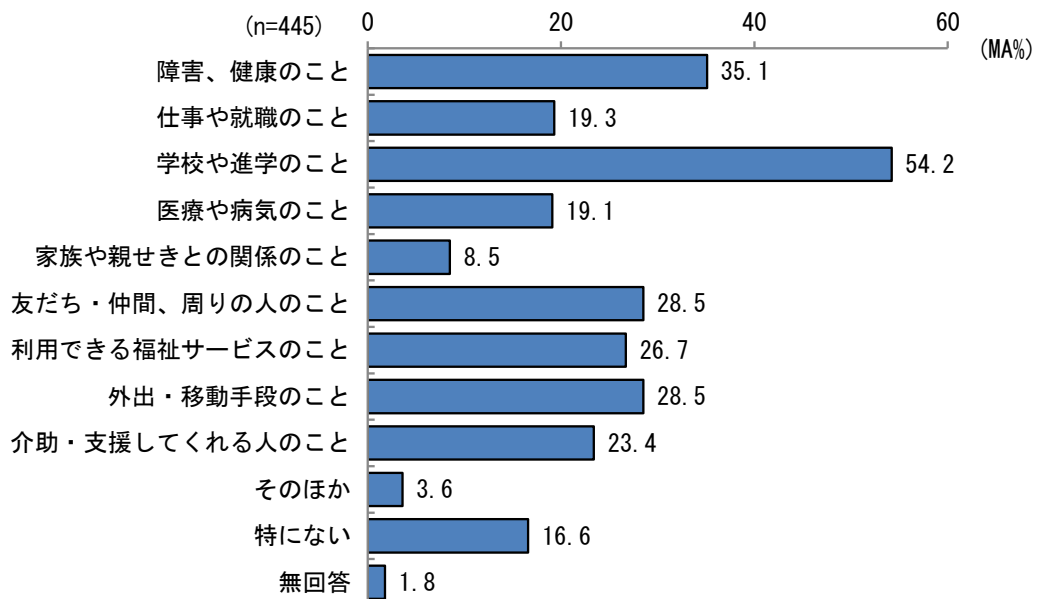
### 3 今後、毎日の暮らしの中でやりたいこと（複数回答）

「習いごとをしたい」が32.1%と最も高く、次いで「スポーツをしたい」がわずかな差で31.5%となっています。



### 4 現在の生活で困ること（複数回答）

「学校や進学のこと」が54.2%と最も高く、次いで「障害、健康のこと」が35.1%となっています。

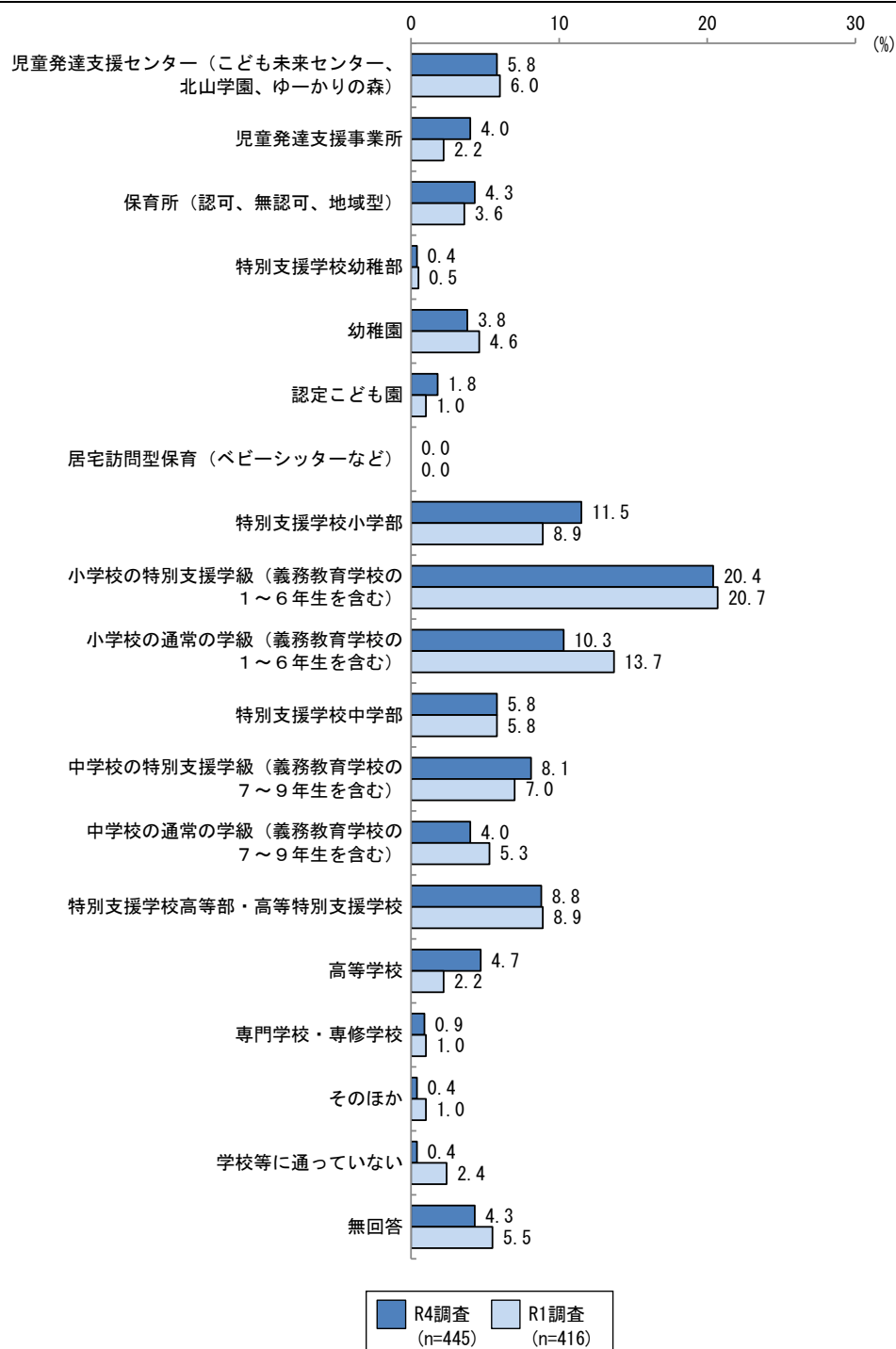


### 3. 学校のこと、将来のことについて

#### 1 主に通っている学校・園などの種類（単数回答）

「小学校の特別支援学級（義務教育の学校の1～6年生を含む）」が20.4%と最も高く、次いで「特別支援学校小学部」が11.5%となっています。

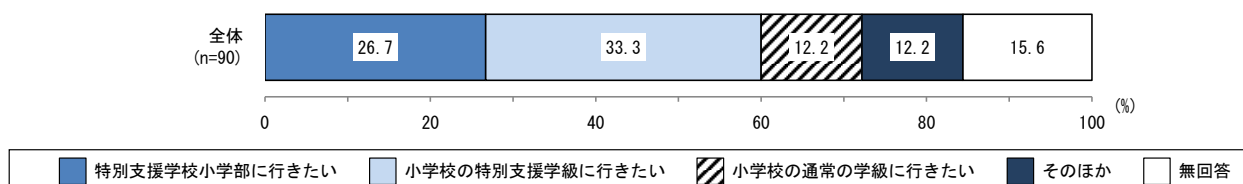
前回（3年前）の調査と比較しても、ほとんど同様の傾向が見られますが、「特別支援学校小学部」「小学校の通常の学級（義務教育学校の1～6年生を含む）」はわずかな増減が見られます。



R4年調査のみ	居宅訪問型保育（ベビーシッターなど）
---------	--------------------

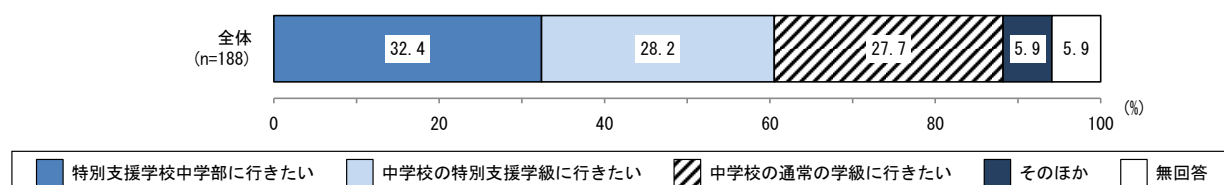
## 2 保育所などの卒園後、行きたい学校（単数回答）

「小学校の特別支援学級に行きたい」が33.3%と最も高く、次いで「特別支援学校小学部に行きたい」が26.7%となっています。



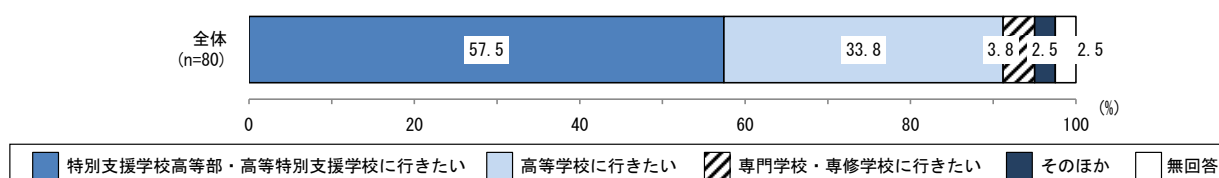
## 3 小学校などの卒業後、行きたい学校（単数回答）

「特別支援学校中学部に行きたい」が32.4%と最も高く、次いで「中学校の特別支援学級に行きたい」が28.2%となっています。



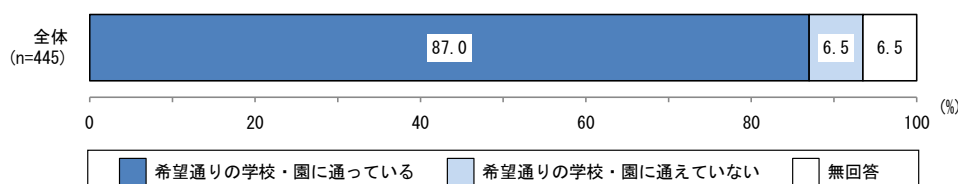
## 4 中学校などの卒業後、行きたい学校（単数回答）

「特別支援学校高等部・高等特別支援学校に行きたい」が57.5%と最も高く、次いで「高等学校に行きたい」が33.8%となっています。



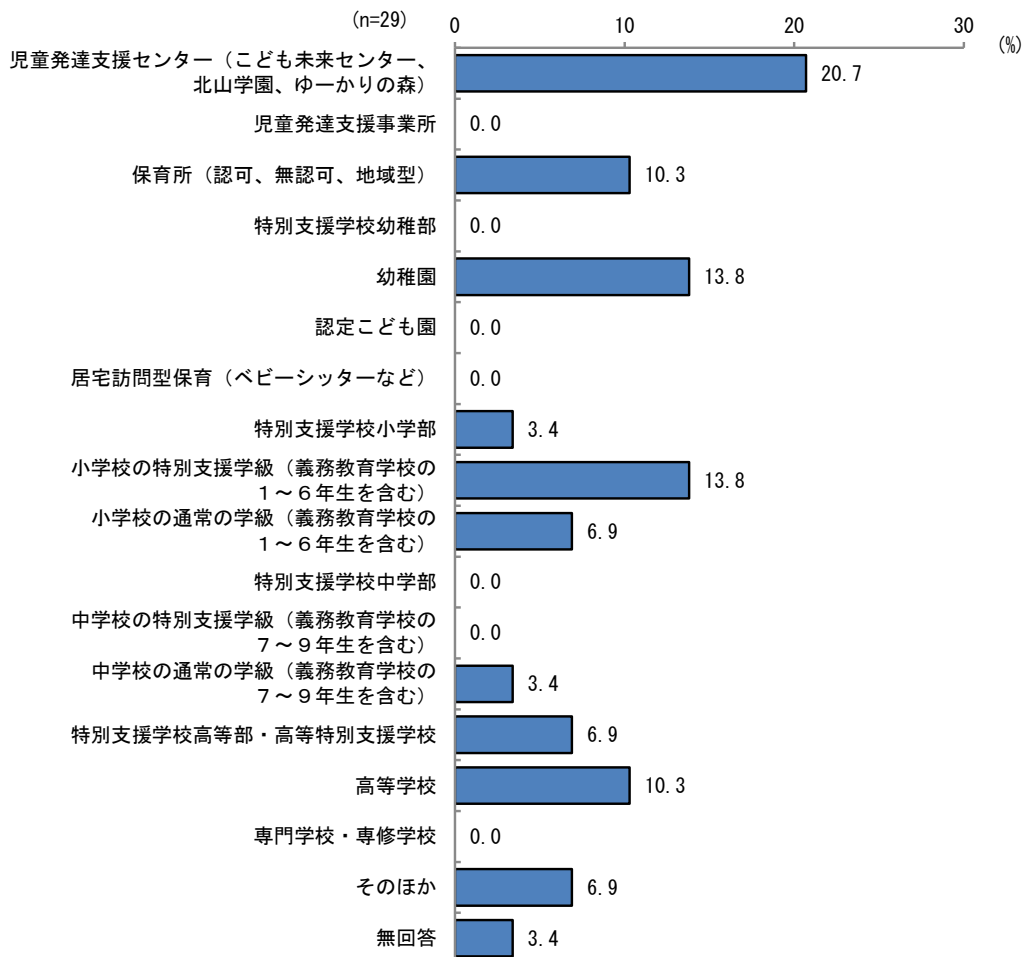
## 5 希望通りの学校・園などに通えているか（単数回答）

「希望通りの学校・園に通っている」が87.0%、「希望通りの学校・園に通えていない」が6.5%となっています。



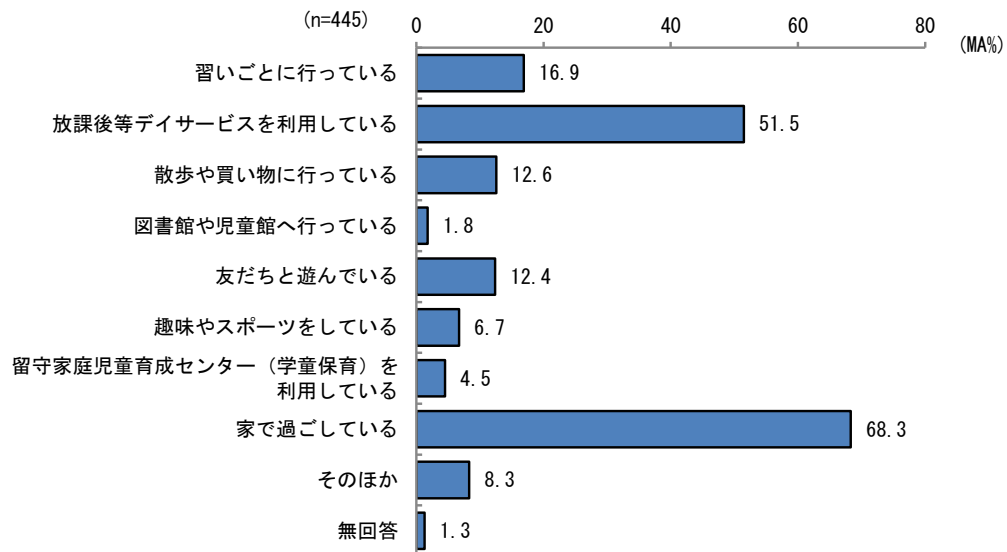
## 6 希望する園・学校（単数回答）

「児童発達支援センター（こども未来センター、北山学園、ゆーかりの森）」が20.7%と最も高く、次いで「幼稚園」「小学校の特別支援学級（義務教育学校の1～6年生を含む）」がともに13.8%となっています。



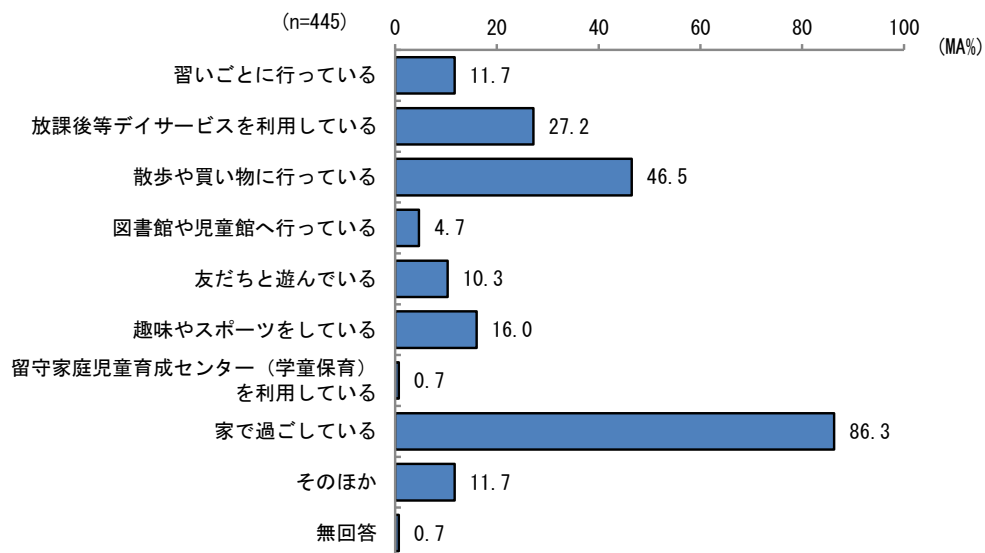
## 7 放課後の過ごし方（複数回答）

「家で過ごしている」が68.3%と最も高く、次いで「放課後等デイサービスを利用している」が51.5%となっています。



## 8 休日の過ごし方（複数回答）

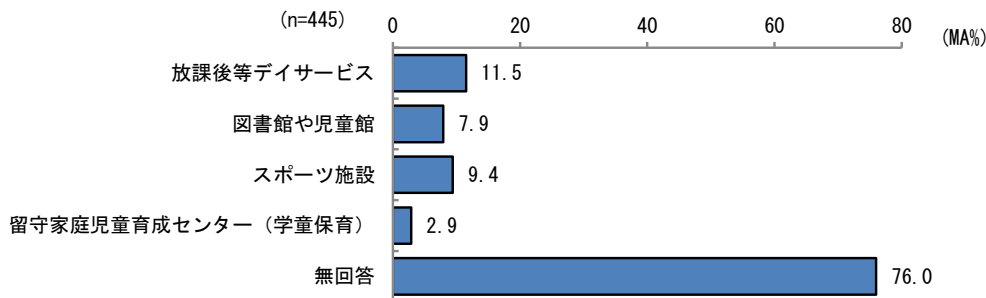
「家で過ごしている」が86.3%と最も高く、次いで「散歩や買い物に行っている」が46.5%となっています。





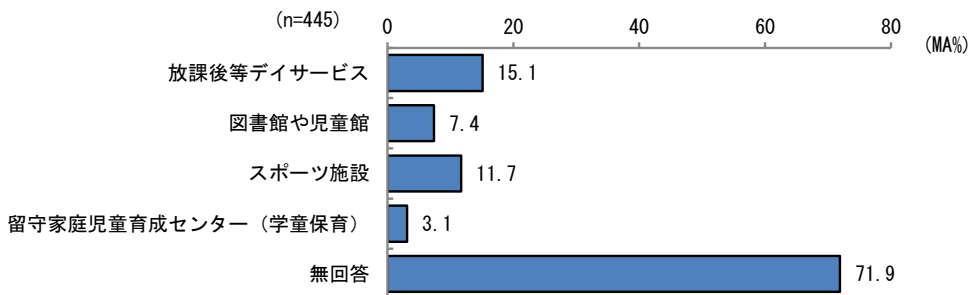
### 9 放課後に利用したいが、利用できていない施設（複数回答）

「放課後等デイサービス」が11.5%と最も高く、次いで「スポーツ施設」が9.4%となっています。



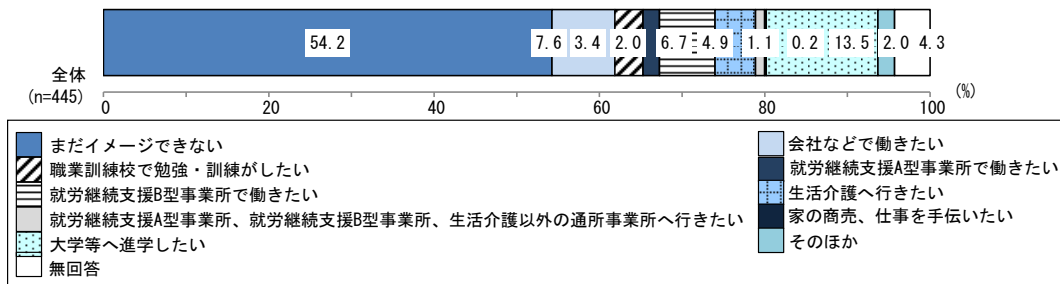
### 10 休日に利用したいが、利用できていない施設（複数回答）

「放課後等デイサービス」が15.1%と最も高く、次いで「スポーツ施設」が11.7%となっています。



### 11 学齢期（義務教育期）終了後や高等学校等を卒業などした後にイメージする働き方や暮らし（単数回答）

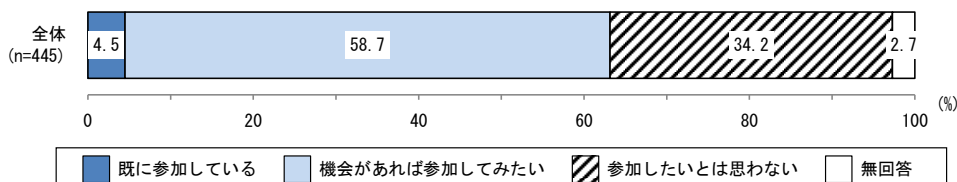
「まだイメージできない」が54.2%と最も高く、次いで「大学等へ進学したい」が13.5%となっています。



## 4. スポーツのことについて

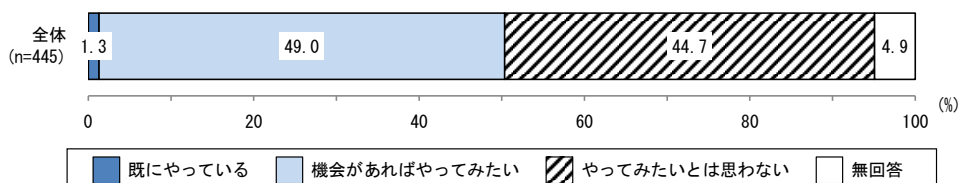
### 1 障害のある人を対象とした運動の教室や体験会への参加意向（単数回答）

「機会があれば参加してみたい」が58.7%と最も高く、次いで「参加したいとは思わない」が34.2%となっています。



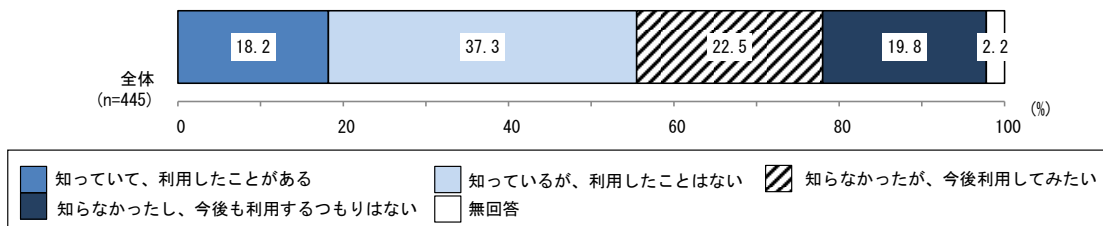
### 2 障害者スポーツの体験意向（単数回答）

「機会があればやってみたい」が49.0%と最も高く、次いで「やってみたいとは思わない」が44.7%となっています。



### 3 西宮市総合福祉センターのスポーツ施設の認知度（単数回答）

「知っているが、利用したことはない」が37.3%と最も高く、次いで「知らなかったが、今後利用してみたい」が22.5%となっています。

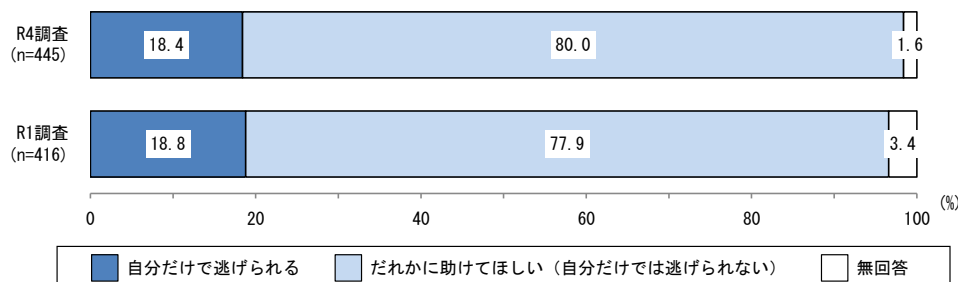


## 5. 災害が起こったときのことについて

### 1 災害時の避難（単数回答）

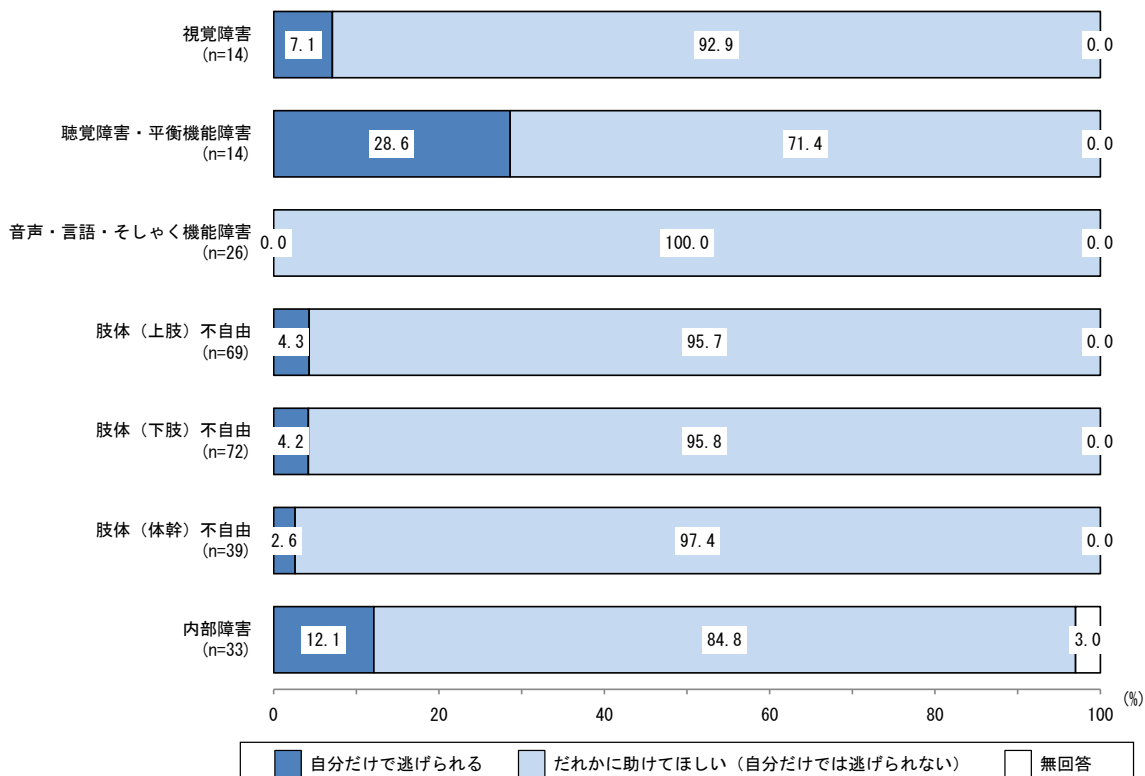
「だれかに助けてほしい（自分だけでは逃げられない）」が80.0%、「自分だけで逃げられる」が18.4%となっています。

前回（3年前）の調査と比較しても、同様の傾向が見られます。



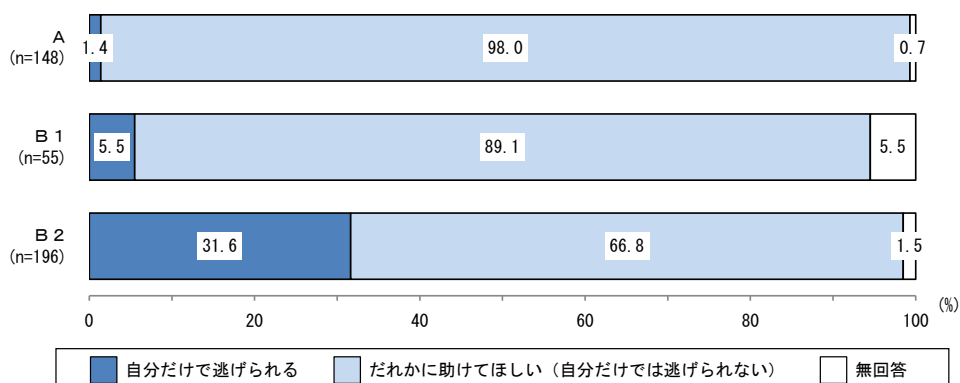
### ◇災害時の避難×身体障害の種類

いずれの障害部位においても「だれかに助けてほしい（自分だけでは逃げられない）」が最も高くなっています。「自分だけで逃げられる」は、聴覚障害・平衡機能障害が28.6%と他と比べて高くなっています。



## ◇災害時の避難×「療育手帳」の判定

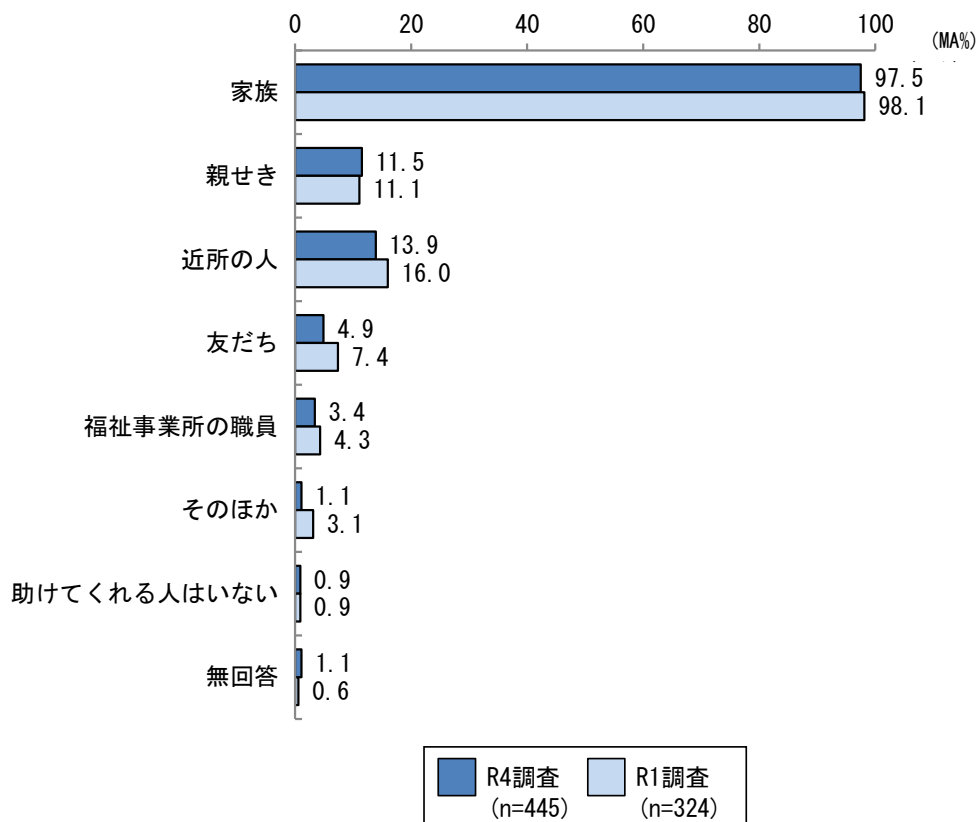
いずれの判定においても「だれかに助けてほしい（自分だけでは逃げられない）」が最も高くなっています。「自分だけで逃げられる」は、B 2が31.6%と他の判定と比べて高くなっています。



## 2 避難時に助けてくれる人（複数回答）

「家族」が97.5%と最も高く、次いで「近所の人」が13.9%となっています。

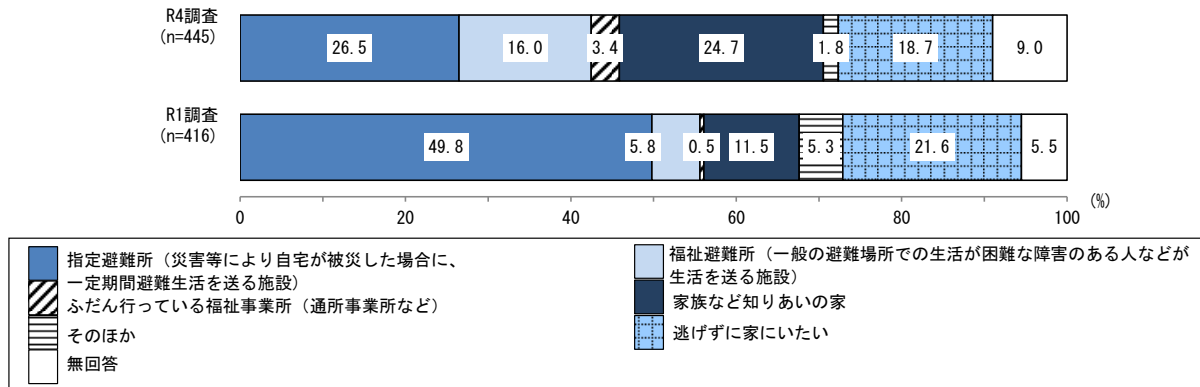
前回（3年前）の調査と比べて「親せき」「助けてくれる人はいない」以外はわずかに減少しています。



### 3 避難場所（単数回答）

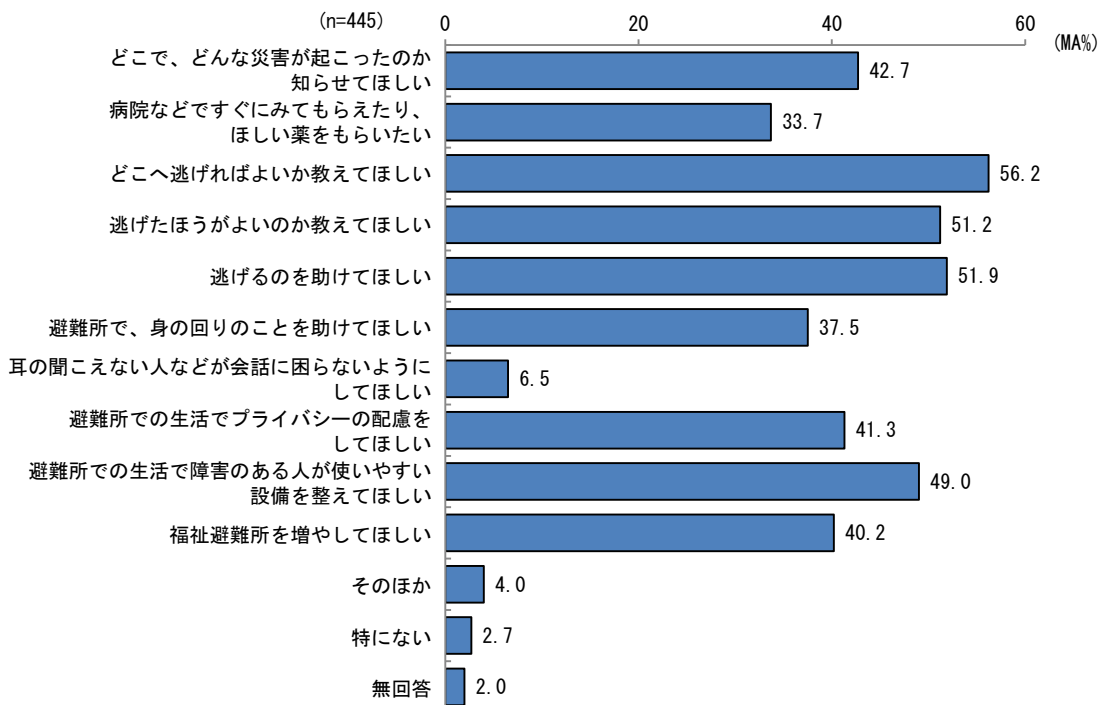
「指定避難所（災害等により自宅が被災した場合に、一定期間避難生活を送る施設）」が26.5%と最も高く、次いで「家族など知りあいの家」が24.7%となっています。

前回（3年前）の調査と比べても「指定避難所（災害等により自宅が被災した場合に、一定期間避難生活を送る施設）」が49.8%から26.5%まで大幅に減少しています。一方で「福祉避難所（一般の避難場所での生活が困難な障害のある人などが生活を送る施設）」はおよそ3倍、「家族など知りあいの家」はおよそ2倍の増加が見られます。



### 4 災害時に必要なこと（複数回答）

「どこへ逃げればよいか教えてほしい」が56.2%と最も高く、次いで「逃げるのを助けてほしい」が51.9%となっています。



## ◇災害時に必要なこと×身体障害の種類

視覚障害は、「病院などですぐにみてもらえたり、ほしい薬をもらいたい」「逃げるのを助けてほしい」「避難所での生活で障害のある人が使いやすい設備を整えてほしい」「福祉避難所を増やしてほしい」がいずれもおよそ7～8割と高くなっています。聴覚障害・平衡機能障害は、「どこへ逃げればよいか教えてほしい」「逃げたほうがよいのか教えてほしい」が同率で78.6%と最も高くなっています。

音声・言語・そしゃく機能障害は「病院などですぐにみてもらえたり、ほしい薬をもらいたい」「逃げるのを助けてほしい」「避難所での生活で障害のある人が使いやすい設備を整えてほしい」「福祉避難所を増やしてほしい」がいずれもおよそ6～7割と高くなっています。肢体（上肢）不自由、肢体（下肢）不自由は、ともに「避難所での生活で障害のある人が使いやすい設備を整えてほしい」が最も高くなっています。肢体（体幹）不自由は「病院などですぐにみてもらえたり、ほしい薬をもらいたい」「福祉避難所を増やしてほしい」が同率で69.2%と最も高くなっています。内部障害は、「病院などですぐにみてもらえたり、ほしい薬をもらいたい」が72.7%と最も高くなっています。

身体	障害の種類	回答数	どこで、どんな災害が起こったのか知らせてほしい							
			病院などですぐにみてもらえたり、ほしい薬をもらいたい	どこへ逃げればよいか教えてほしい	逃げたほうがよいのか教えてほしい	逃げるのを助けてほしい	避難所で、身の回りのことを助けてほしい	避難所での生活で障害のある人が使いやすい設備を整えてほしい	福祉避難所を増やしてほしい	そのほか
	視覚障害	14	42.9	78.6	64.3	50.0	78.6	50.0		
	聴覚障害・平衡機能障害	14	57.1	50.0	78.6	78.6	42.9	28.6		
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	34.6	65.4	57.7	53.8	65.4	57.7		
	肢体(上肢)不自由	69	36.2	58.0	47.8	36.2	52.2	44.9		
	肢体(下肢)不自由	72	34.7	55.6	45.8	30.6	54.2	45.8		
	肢体(体幹)不自由	39	35.9	69.2	56.4	38.5	59.0	46.2		
	内部障害	33	42.4	72.7	51.5	39.4	45.5	27.3		
		回答数	耳の聞こえない人などが会話に困らないようにしてほしい	避難所での生活でプライバシーの配慮をしてほしい	避難所での生活で障害のある人が使いやすい設備を整えてほしい	福祉避難所を増やしてほしい	そのほか	特にない		
	視覚障害	14	7.1	42.9	78.6	71.4	14.3	0.0		
	聴覚障害・平衡機能障害	14	50.0	35.7	50.0	28.6	7.1	0.0		
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	7.7	38.5	69.2	73.1	15.4	0.0		
	肢体(上肢)不自由	69	4.3	39.1	75.4	66.7	8.7	0.0		
	肢体(下肢)不自由	72	4.2	37.5	76.4	69.4	8.3	0.0		
	肢体(体幹)不自由	39	5.1	46.2	66.7	69.2	12.8	0.0		
	内部障害	33	6.1	33.3	39.4	30.3	3.0	0.0		
		回答数	無回答							
	視覚障害	14	0.0							
	聴覚障害・平衡機能障害	14	0.0							
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	3.8							
	肢体(上肢)不自由	69	1.4							
	肢体(下肢)不自由	72	1.4							
	肢体(体幹)不自由	39	0.0							
	内部障害	33	6.1							

### ◇災害時に必要なこと×「療育手帳」の判定

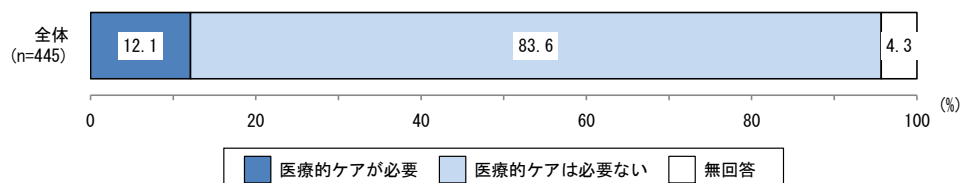
Aは「避難所での生活で障害のある人が使いやすい設備を整えてほしい」「福祉避難所を増やしてほしい」、B1は「逃げるのを助けてほしい」、B2は「どこへ逃げればよいか教えてほしい」「逃げたほうがよいのか教えてほしい」が最も高くなっています。

療育	回答数	どこで、どんな災害が起こったのか知らせてほしい	病院などですぐに見てもらえたり、ほしい薬をもらいたい	どこへ逃げればよいか教えてほしい	逃げたほうがよいのか教えてほしい	逃げるのを助けてほしい	避難所で、身の回りのことを助けてほしい	
	A	148	31.8	48.0	51.4	37.2	62.8	52.7
	B1	55	34.5	21.8	50.9	50.9	60.0	38.2
	B2	196	52.6	24.5	64.3	64.3	45.9	31.6
回答数	耳の聞こえない人などが会話に困らないようにしてほしい	避難所での生活でプライバシーの配慮をしてほしい	避難所での生活で障害のある人が使いやすい設備を整えてほしい	福祉避難所を増やしてほしい	そのほか	特になし		
A	148	3.4	42.6	69.6	69.6	5.4	0.7	
B1	55	1.8	29.1	40.0	34.5	1.8	3.6	
B2	196	7.7	45.4	38.8	25.0	3.6	3.6	
回答数	無回答							
A	148	0.7						
B1	55	5.5						
B2	196	1.5						

## 6. 医療的ケアのことについて

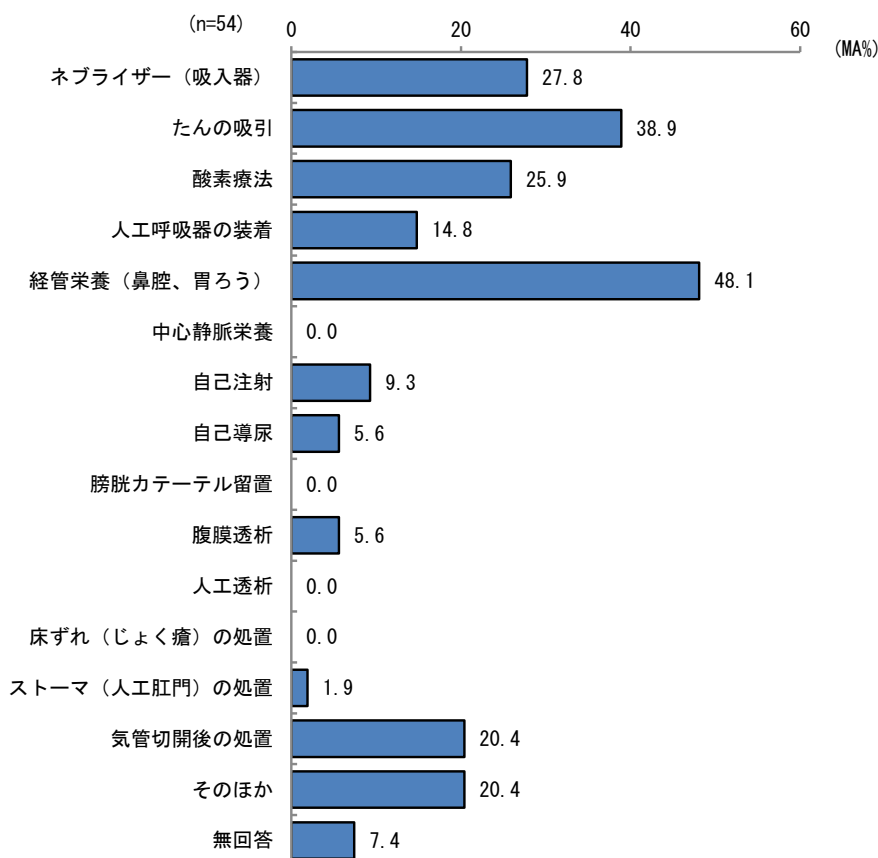
### 1 医療的ケアの必要性（単数回答）

医療的ケアの必要性については、「医療ケアは必要ない」が 83.6%、「医療的ケアが必要」が 12.1% となっています。



### 2 (6-1で「医療的ケアが必要」と答えた方) 必要としている医療的ケア（複数回答）

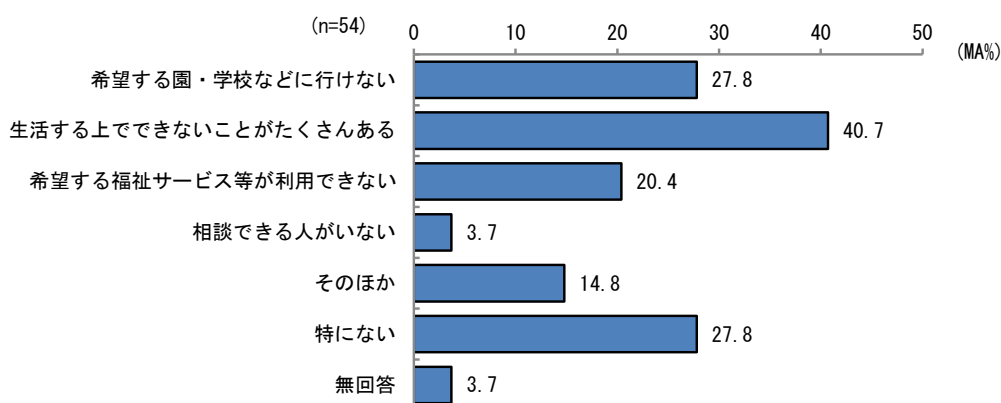
「経管栄養（鼻腔、胃ろう）」が 48.1%と最も高く、次いで「たんの吸引」が 38.9%となっています。





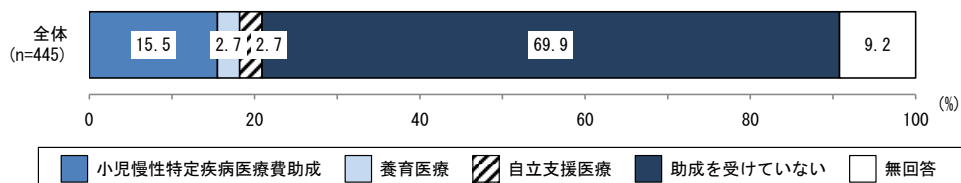
### 3 (6-1で「医療的ケアが必要」と答えた方) 医療的ケアが必要なために困ったこと (単数回答)

「生活する上でできないことがたくさんある」が40.7%と最も高く、次いで「希望する園・学校などに行けない」が27.8%となっています。



### 4 医療費助成を受けているか (単数回答)

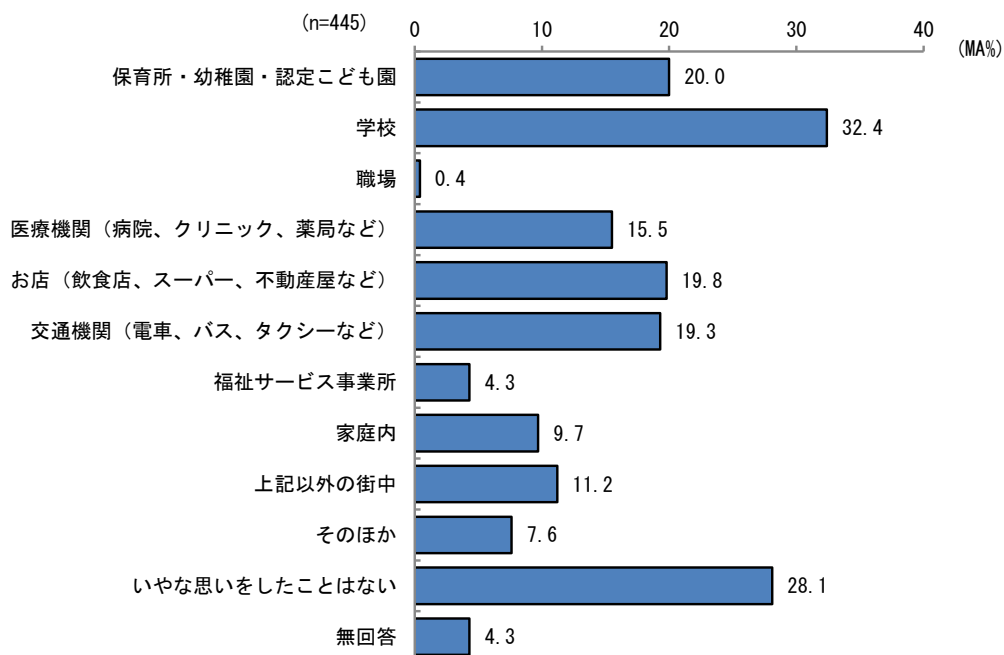
「助成を受けていない」が69.9%と最も高く、次いで「小児慢性特定疾病医療費助成」が15.5%となっています。



## 7. 障害のある人に対する理解について

### 1 障害があることで、ふだんの生活でいやな思いをした場面（複数回答）

「学校」が32.4%と最も高く、「いやな思いをしたことはない」を除くと、次いで「保育所・幼稚園・認定こども園」が20.0%となっています。



### ◇障害があることで、ふだんの生活でいやな思いをした場面×年齢別

0～5歳は「保育所・幼稚園・認定こども園」が33.8%と最も高く、その他の年齢は「学校」が最も高くなっています。

年齢別		回答数	保育所・幼稚園・認定こども園	学校	職場	医療機関 (病院、クリニック、薬局など)	お店(飲食店、スーパー、不動産屋など)	交通機関 (電車、バス、タクシーなど)
	0～5歳	77	33.8	0.0	1.3	16.9	23.4	15.6
	6～11歳	184	19.6	31.0	0.0	15.2	20.7	22.8
	12～14歳	85	16.5	48.2	0.0	18.8	14.1	16.5
	15～17歳	81	9.9	42.0	1.2	8.6	17.3	16.0
	回答数	福祉サービス事業所	家庭内	上記以外の街中	そのほか	いやな思いをしたことはない	無回答	
0～5歳	77	7.8	6.5	15.6	10.4	26.0	9.1	
6～11歳	184	3.8	10.3	10.3	6.5	31.0	2.7	
12～14歳	85	5.9	10.6	10.6	9.4	23.5	3.5	
15～17歳	81	0.0	7.4	11.1	6.2	30.9	4.9	

### ◇障害があることで、ふだんの生活でいやな思いをした場面×性別

男性、女性、そのほかがともに「学校」が最も高く、女性の方が「交通機関(電車、バス、タクシーなど)」、男性の方が「学校」が高くなっています。

性別		回答数	保育所・幼稚園・認定こども園	学校	職場	医療機関 (病院、クリニック、薬局など)	お店(飲食店、スーパー、不動産屋など)	交通機関 (電車、バス、タクシーなど)
	男性	295	18.6	33.6	0.7	15.6	19.7	17.3
	女性	140	23.6	27.9	0.0	15.0	20.0	23.6
	そのほか	4	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	回答数	福祉サービス事業所	家庭内	上記以外の街中	そのほか	いやな思いをしたことはない	無回答	
男性	295	4.7	9.2	13.9	8.1	27.1	4.1	
女性	140	3.6	10.0	6.4	6.4	30.7	5.0	
そのほか	4	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	

## 2 (7-1で「いやな思いをしたことはない」以外を答えた方) 具体的な内容 (自由記述)

### ・学校、幼稚園、保育所等において (抜粋)

・一時預かりを利用したかったが、障害があることを伝えると、発達の具合など確認することもなく門前払いされた。	女性	0～5歳
・幼稚園は入園を断られ、学校ではこちらの要望を全て一旦断わる先生に当たりました。学校の周辺も段差だらけの道。新しくなった学校に車いす用の駐車場がない。	女性	5～11歳
・学校に行っているときにじろじろ見られた。	男性	12～14歳
・小学校と中学校のとき、いじめられていやな思いをした。	女性	15～17歳
・皆と一緒に同じことをしなければならぬがすることができない。学習、体育、音楽。	男性	5～11歳
・医療的ケアがあるから、保育所の入所を断られました。	女性	12～14歳
・聴覚が過敏なのに教室が騒がしく、その中にいなくてはならなかったこと	男性	5～11歳

### ・交通機関等において (抜粋)

・バリアフリーではないバス	女性	5～11歳
---------------	----	-------

### ・医療機関、お店や公共の場において (抜粋)

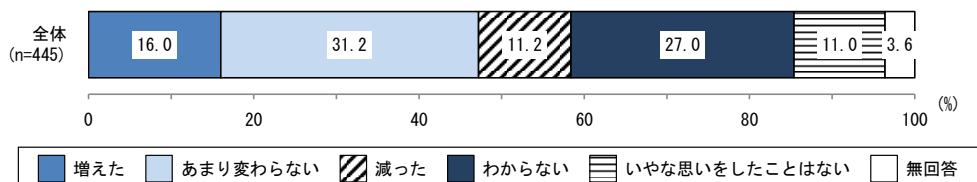
・苦手な医療機関はパニックになってしまうが、周りに白い目で見られる。公園などでも思いきり遊ばせたいけど、行動と体の大きさが伴わないので、遊ばせにくい。	男性	12～14歳
・車いす専用駐車場を利用したいのに、関係のない車が停車していて不便な思いをしたり、お店の通路が狭く通りづらく、人とぶつからないよう配慮しながら考えると入ることができなかった。	男性	0～5歳
・飲食店に行った際に、たくさんの荷物や呼吸器を持って入店し、他の方の目が気になった。(予約をする時点で店側に呼吸器のことを言うべきなのか、普通に入店できないか迷う。)	女性	0～5歳
・ショッピングセンターやレストランに行くと、ベビーカーに乗せている娘を覗き込んで、チューブ等がついているのを見て、「うわっ」と言ってきた。 ・児童館へ娘を連れて行った際に、他のお母さんが娘を見て、自分の子供に「近づいちゃダメ」と言っていた。	女性	0～5歳
・バギー (子供用車いす) での外出時、店内でベビーカーと間違われ、畳んだり降りたりするよう言われる。	女性	5～11歳

・その他（障害の理解を得られなかったこと等（抜粋））

・白い目でみられる。	女性	無回答
・同じことを何度も言ってしまい、笑われる。	男性	12～14 歳
・ジロジロ見られる。歩き方をまねして笑われる。指をさして笑われる。	男性	15～17 歳
・近くに行くと逃げる。変な顔をされる。	男性	5～11 歳
・一人では何もできないと決めつけられ、行動を制限された。	男性	5～12 歳
・言われていることが理解できなかつたり、言っていることが相手に伝わらなかつたりする。言葉選びを間違えたり、特性を理解してもらえずしんどいときがある。	男性	5～11 歳
・時間までに準備をしたり、片付けができなくてしかられた。始業式の日がわからなくて学校に行くのを忘れた。夏休みなどお休みになると生活が変わって戻るのがむずかしい。スマホを何時間も使ってしまう。	男性	15～17 歳
・街中で「かわいそう」の目。合理的配慮の不提供、求めたら「わがまま」「めんどくさい」の空気。	女性	12～14 歳
・友達とトラブル	男性	5～11 歳

3 障害があることで、ふだんの生活でいやな思いをすることは、この3年程度の間で増減があったか（単数回答）

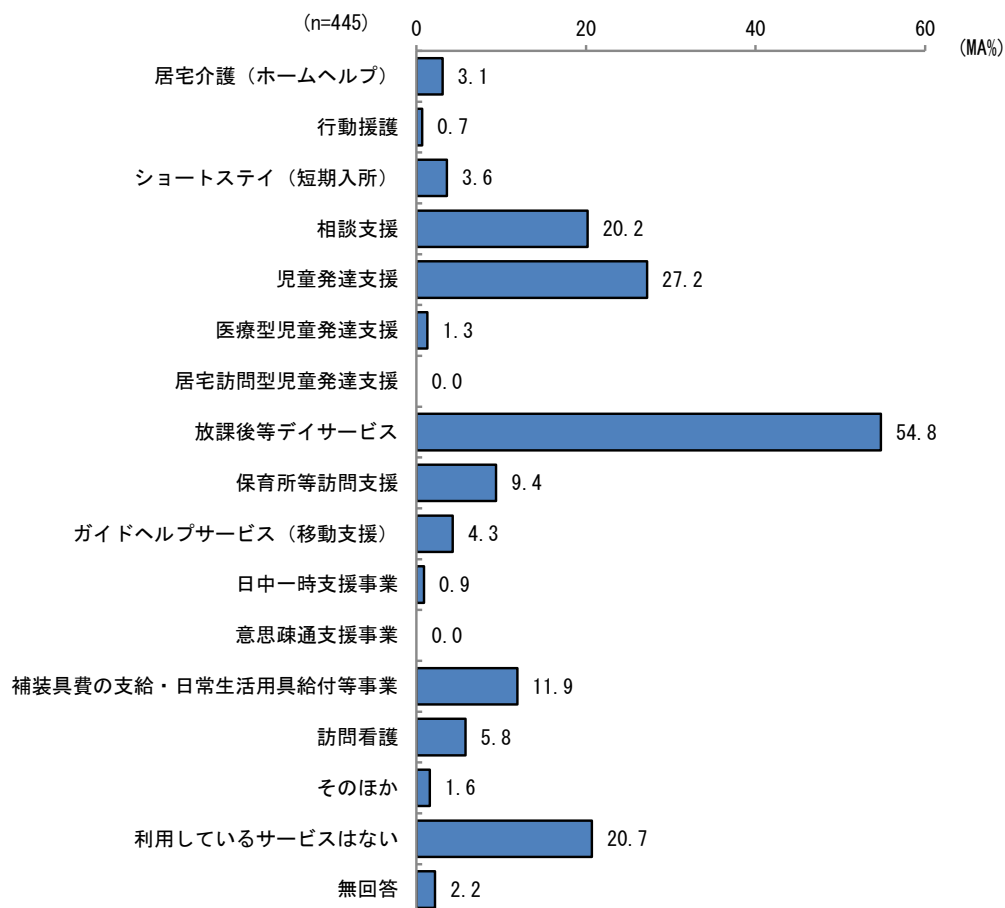
この3年程度の間で増減があったかは、「あまり変わらない」が31.2%と最も高く、次いで「わからない」が27.0%となっています。



## 8. 障害福祉サービスなどの使い方のことについて

### 1 現在利用している障害福祉サービス（複数回答）

「放課後等デイサービス」が54.8%と最も高く、次いで「児童発達支援」が27.2%となっています。前回（3年前）の調査と比べると、利用しているサービスは「放課後等デイサービス」以外は減少傾向にあります。特に「相談支援」「児童発達支援」「補装具費の支給・日常生活用具給付等事業」は10ポイント以上の減少が見られます。

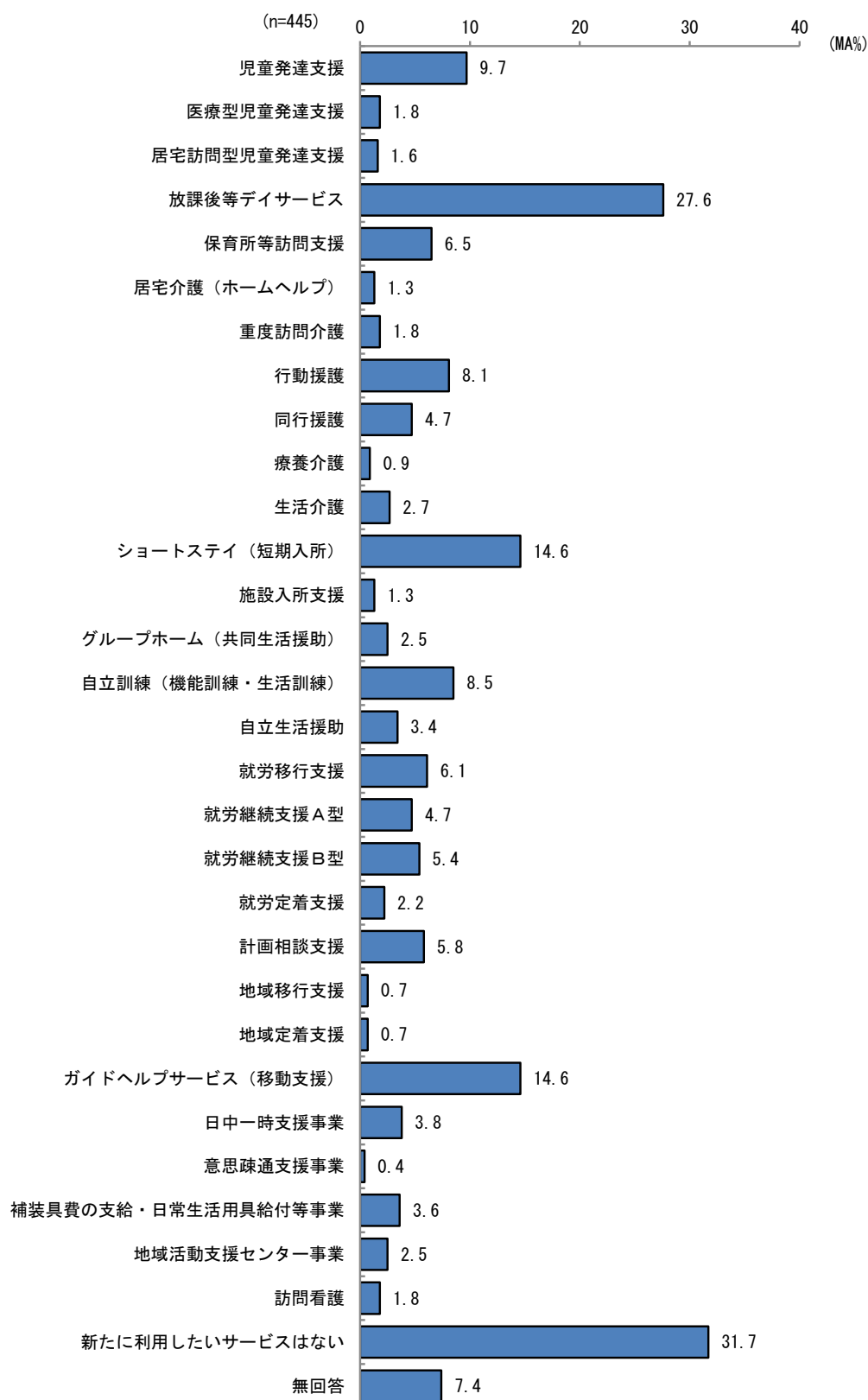


	居宅介護(ホームヘルプ)	行動支援	ショートステイ(短期入所)	相談支援	児童発達支援	医療型児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援
R4:利用している障害福祉サービス等	3.6	0.9	3.6	20.2	27.0	1.3	0.0	54.6	9.4
R1:利用している障害福祉サービス等	3.8	1.2	8.9	35.8	37.3	6.3	1.4	52.2	11.3
	ガイドヘルプサービス(移動支援)	日中一時支援事業	意思疎通支援事業	補装具費の支給・日常生活用具給付等事業	訪問看護	そのほか	利用しているサービスはない	無回答	
R4:利用している障害福祉サービス等	4.3	0.9	0.0	11.7	5.8	1.6	20.7	2.2	
R1:利用している障害福祉サービス等	7.7	0.0	0.0	21.4	6.0	0.0	0.0	0.0	

R4年調査のみ	日中一時支援事業 そのほか 利用しているサービスはない
---------	-----------------------------------

## 2 今後3年間で新たに利用したい障害福祉サービス（複数回答）

「放課後等デイサービス」が27.6%と最も高く、次いで「ショートステイ（短期入所）」「ガイドヘルプサービス（移動支援）」が同率で14.6%となっています。





### ◇現在利用している障害福祉サービス×年齢別

0～5歳は「児童発達支援」が70.1%と最も高く、その他の年齢は「放課後等デイサービス」が最も高くなっています。

年齢別		回答数	居宅介護 (ホームヘルプ)	行動援護	ショートステイ (短期入所)	相談支援	児童発達支援	医療型児童 発達支援
	0～5歳	77	0.0	0.0	0.0	15.6	70.1	2.6
	6～11歳	184	2.2	0.5	1.6	18.5	27.7	1.6
	12～14歳	85	5.9	1.2	7.1	27.1	7.1	0.0
	15～17歳	81	4.9	1.2	8.6	22.2	7.4	1.2
	回答数	居宅訪問型 児童発達支援	放課後等デ イサービス	保育所等訪 問支援	ガイドヘルプ サービス(移 動支援)	日中一時支 援事業	意思疎通支 援事業	
0～5歳	77	0.0	6.5	10.4	1.3	0.0	0.0	
6～11歳	184	0.0	69.0	14.1	1.1	0.5	0.0	
12～14歳	85	0.0	65.9	4.7	5.9	2.4	0.0	
15～17歳	81	0.0	58.0	1.2	13.6	1.2	0.0	
	回答数	補装具費の 支給・日常 生活用具給 付等事業	訪問看護	その他	利用している サービスはな い	無回答		
0～5歳	77	13.0	7.8	2.6	13.0	2.6		
6～11歳	184	10.3	4.9	1.1	15.2	2.2		
12～14歳	85	16.5	5.9	1.2	28.2	2.4		
15～17歳	81	9.9	4.9	2.5	30.9	2.5		

◇今後3年間で新たに利用したい障害福祉サービス×年齢別

0～5歳は「放課後等デイサービス」が66.2%と最も高く、年齢が低くなるにつれて高くなっています。「ガイドヘルプサービス（移動支援）」は年齢が高くなるにつれて高くなる傾向が見られ、15～17歳は29.6%となっています。

年齢別	回答数	児童発達支援	医療型児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	居宅介護（ホームヘルプ）	重度訪問介護	
	0～5歳	77	23.4	6.5	1.3	66.2	19.5	0.0	0.0
	6～11歳	184	7.6	0.5	2.2	24.5	5.4	1.6	1.6
	12～14歳	85	2.4	1.2	1.2	15.3	2.4	2.4	2.4
	15～17歳	81	3.7	0.0	0.0	7.4	0.0	0.0	3.7
回答数	行動援護	同行援護	療養介護	生活介護	ショートステイ（短期入所）	施設入所支援	グループホーム（共同生活援助）		
0～5歳	77	6.5	3.9	2.6	0.0	10.4	1.3	1.3	
6～11歳	184	9.2	4.3	0.5	0.5	9.2	0.5	1.1	
12～14歳	85	12.9	8.2	1.2	2.4	23.5	1.2	1.2	
15～17歳	81	2.5	2.5	0.0	9.9	19.8	2.5	6.2	
回答数	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	自立生活援助	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労定着支援	計画相談支援		
0～5歳	77	3.9	0.0	1.3	1.3	0.0	1.3	11.7	
6～11歳	184	7.6	2.2	2.7	2.2	1.6	0.5	2.7	
12～14歳	85	7.1	3.5	8.2	4.7	4.7	3.5	5.9	
15～17歳	81	12.3	8.6	14.8	14.8	21.0	6.2	8.6	
回答数	地域移行支援	地域定着支援	ガイドヘルプサービス（移動支援）	日中一時支援事業	意思疎通支援事業	補装具費の支給・日常生活用具給付等事業	地域活動支援センター事業		
0～5歳	77	0.0	0.0	3.9	2.6	0.0	5.2	2.6	
6～11歳	184	0.0	0.0	12.0	3.8	0.0	2.2	2.7	
12～14歳	85	1.2	1.2	17.6	4.7	1.2	4.7	1.2	
15～17歳	81	2.5	2.5	29.6	2.5	1.2	4.9	3.7	
回答数	訪問看護	新たに利用したいサービスはない	無回答						
0～5歳	77	1.3	11.7	7.8					
6～11歳	184	0.5	37.0	8.2					
12～14歳	85	2.4	38.8	8.2					
15～17歳	81	3.7	33.3	4.9					

◇現在利用している障害福祉サービス×身体障害の種類

視覚障害、聴覚障害・平衡機能障害、内部障害を除くと「放課後等デイサービス」がおよそ5～7割と高くなっており、内部障害は30.3%と最も高くなっています。内部障害を除くと「補装具費の支給・日常生活用具給付等事業」はおよそ4～6割と高くなっています。

身体		回答数	居宅介護 (ホームヘルプ)	行動援護	ショートステイ (短期入所)	相談支援	児童発達支援	医療型児童 発達支援
	視覚障害	14	14.3	0.0	7.1	35.7	35.7	0.0
	聴覚障害・平衡機能障害	14	7.1	0.0	7.1	28.6	28.6	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	19.2	0.0	7.7	42.3	19.2	0.0
	肢体(上肢)不自由	69	17.4	0.0	13.0	37.7	20.3	1.4
	肢体(下肢)不自由	72	16.7	0.0	15.3	33.3	23.6	2.8
	肢体(体幹)不自由	39	25.6	0.0	17.9	35.9	33.3	2.6
	内部障害	33	6.1	0.0	6.1	12.1	12.1	3.0
		回答数	居宅訪問型 児童発達支援	放課後等デ イサービス	保育所等訪 問支援	ガイドヘルプ サービス(移 動支援)	日中一時支 援事業	意思疎通支 援事業
	視覚障害	14	0.0	42.9	14.3	7.1	7.1	0.0
聴覚障害・平衡機能障害	14	0.0	21.4	7.1	7.1	0.0	0.0	
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	53.8	19.2	11.5	0.0	0.0	
肢体(上肢)不自由	69	0.0	68.1	15.9	7.2	1.4	0.0	
肢体(下肢)不自由	72	0.0	63.9	13.9	6.9	1.4	0.0	
肢体(体幹)不自由	39	0.0	66.7	12.8	10.3	0.0	0.0	
内部障害	33	0.0	30.3	6.1	6.1	3.0	0.0	
	回答数	補装具費の 支給・日常 生活用具給 付等事業	訪問看護	その他	利用している サービスはな い	無回答		
視覚障害	14	50.0	28.6	7.1	7.1	0.0		
聴覚障害・平衡機能障害	14	42.9	7.1	0.0	28.6	0.0		
音声・言語・そしゃく機能障害	26	42.3	26.9	3.8	11.5	0.0		
肢体(上肢)不自由	69	55.1	27.5	0.0	8.7	1.4		
肢体(下肢)不自由	72	55.6	25.0	0.0	9.7	1.4		
肢体(体幹)不自由	39	66.7	38.5	0.0	2.6	2.6		
内部障害	33	15.2	12.1	3.0	45.5	6.1		

◇今後3年間で新たに利用したい障害福祉サービス×身体障害の種類

聴覚障害・平衡機能障害を除くと「ショートステイ（短期入所）」が最も高くなっています。聴覚障害・平衡機能障害は「放課後等デイサービス」が35.7%と最も高くなっています。

身体		回答数	児童発達支援	医療型児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	居宅介護（ホームヘルプ）	重度訪問介護
	視覚障害	14	7.1	7.1	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0
	聴覚障害・平衡機能障害	14	7.1	0.0	0.0	35.7	7.1	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	19.2	3.8	0.0	23.1	11.5	0.0	3.8
	肢体(上肢)不自由	69	7.2	4.3	1.4	24.6	8.7	5.8	8.7
	肢体(下肢)不自由	72	8.3	4.2	1.4	26.4	9.7	5.6	8.3
	肢体(体幹)不自由	39	5.1	2.6	0.0	25.6	7.7	5.1	10.3
	内部障害	33	9.1	3.0	3.0	18.2	3.0	0.0	3.0
		回答数	行動援護	同行援護	療養介護	生活介護	ショートステイ(短期入所)	施設入所支援	グループホーム(共同生活援助)
	視覚障害	14	7.1	14.3	7.1	0.0	35.7	7.1	7.1
聴覚障害・平衡機能障害	14	7.1	7.1	7.1	0.0	14.3	7.1	7.1	
音声・言語・そしゃく機能障害	26	3.8	3.8	3.8	3.8	38.5	7.7	3.8	
肢体(上肢)不自由	69	7.2	5.8	0.0	7.2	34.8	1.4	0.0	
肢体(下肢)不自由	72	6.9	4.2	0.0	6.9	31.9	1.4	1.4	
肢体(体幹)不自由	39	5.1	7.7	2.6	5.1	35.9	2.6	2.6	
内部障害	33	0.0	3.0	0.0	0.0	21.2	0.0	0.0	
	回答数	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	自立生活援助	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労定着支援	計画相談支援	
視覚障害	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
聴覚障害・平衡機能障害	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
音声・言語・そしゃく機能障害	26	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	
肢体(上肢)不自由	69	2.9	1.4	4.3	4.3	5.8	4.3	10.1	
肢体(下肢)不自由	72	4.2	1.4	6.9	6.9	5.6	6.9	8.3	
肢体(体幹)不自由	39	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	
内部障害	33	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	
	回答数	地域移行支援	地域定着支援	ガイドヘルプサービス(移動支援)	日中一時支援事業	意思疎通支援事業	補装具費の支給・日常生活用具給付等事業	地域活動支援センター事業	
視覚障害	14	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	
聴覚障害・平衡機能障害	14	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	14.3	0.0	
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	0.0	23.1	0.0	0.0	7.7	0.0	
肢体(上肢)不自由	69	1.4	1.4	30.4	2.9	0.0	13.0	1.4	
肢体(下肢)不自由	72	1.4	1.4	25.0	4.2	0.0	18.1	2.8	
肢体(体幹)不自由	39	0.0	0.0	17.9	2.6	0.0	12.8	2.6	
内部障害	33	0.0	0.0	6.1	3.0	0.0	6.1	3.0	
	回答数	訪問看護	新たに利用したいサービスはない	無回答					
視覚障害	14	14.3	28.6	0.0					
聴覚障害・平衡機能障害	14	0.0	42.9	7.1					
音声・言語・そしゃく機能障害	26	3.8	15.4	7.7					
肢体(上肢)不自由	69	7.2	18.8	7.2					
肢体(下肢)不自由	72	6.9	16.7	8.3					
肢体(体幹)不自由	39	7.7	20.5	7.7					
内部障害	33	6.1	45.5	6.1					

◇現在利用している障害福祉サービス×「療育手帳」の判定

いずれの判定でも「放課後等デイサービス」が最も高く、判定が重度であるほど高くなっています。

療育	回答数	居宅介護 (ホームヘルプ)	行動援護	ショートステイ (短期入所)	相談支援	児童発達支援	医療型児童 発達支援	
	A	148	9.5	0.7	10.1	39.2	28.4	1.4
	B1	55	0.0	1.8	0.0	21.8	38.2	1.8
	B2	196	0.0	0.5	0.5	9.2	26.5	1.0
	回答数	居宅訪問型 児童発達支援	放課後等デ イサービス	保育所等訪 問支援	ガイドヘルプ サービス(移 動支援)	日中一時支 援事業	意思疎通支 援事業	
	A	148	0.0	77.7	14.2	8.1	1.4	0.0
	B1	55	0.0	63.6	9.1	5.5	1.8	0.0
	B2	196	0.0	44.4	7.7	1.5	0.5	0.0
	回答数	補装具費の 支給・日常 生活用具給 付等事業	訪問看護	その他	利用している サービスはな い	無回答		
	A	148	26.4	16.9	2.7	3.4	0.7	
B1	55	1.8	0.0	3.6	9.1	1.8		
B2	196	1.0	0.5	0.5	29.1	2.6		

◇今後3年間で新たに利用したい障害福祉サービス×「療育手帳」の判定

いずれの判定でも、「放課後等デイサービス」はおよそ2～4割と高くなっています。Aは「ショートステイ（短期入所）」が33.8%、B1、B2はともに「放課後等デイサービス」が最も高く、それぞれ38.2%、29.1%となっています。

療育	回答数	児童発達支援	医療型児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	居宅介護（ホームヘルプ）	重度訪問介護	行動援護	同行援護	療養介護	生活介護	
	A	148	7.4	2.0	2.0	23.6	7.4	2.7	4.7	14.9	8.8	1.4	6.8
	B1	55	12.7	1.8	1.8	38.2	3.6	0.0	0.0	9.1	1.8	0.0	1.8
	B2	196	11.7	1.5	1.5	29.1	7.7	0.5	0.5	4.1	3.1	1.0	0.5
回答数	ショートステイ(短期入所)	施設入所支援	グループホーム(共同生活援助)	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	自立生活援助	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労定着支援	計画相談支援	地域移行支援		
A	148	33.8	2.7	3.4	6.8	3.4	3.4	4.1	9.5	1.4	6.1	0.0	
B1	55	10.9	0.0	3.6	23.6	10.9	12.7	10.9	5.5	3.6	5.5	1.8	
B2	196	3.6	1.0	2.0	7.1	1.5	6.6	3.6	3.1	2.0	6.1	0.5	
回答数	地域定着支援	ガイドヘルプサービス(移動支援)	日中一時支援事業	意思疎通支援事業	補装具費の支給・日常生活用具給付等事業	地域活動支援センター事業	訪問看護	新たに利用したいサービスはない	無回答				
A	148	0.7	29.1	9.5	0.7	4.7	3.4	2.7	12.2	7.4			
B1	55	0.0	9.1	1.8	0.0	1.8	1.8	0.0	18.2	3.6			
B2	196	0.5	7.1	1.0	0.5	2.0	2.0	0.5	44.4	8.7			

## 9. 西宮市の障害のある人への取り組みについて

### 1 障害者施策に対する取組みについて思うことや悩み、不安、心配していること（自由記述）

#### ・生活について（抜粋）

・コミュニケーションのこと	男性	5～11歳
・友達がいないのが心配	男性	12～14歳

#### ・高齢化・親亡き後について（抜粋）

・両親がいなくなったときの生活が不安	男性	15～17歳
・将来のことを考えると、普通の人より賃金は少なくしかももらえないのに、特別児童手当しか今はもらえず。それがなくなって、親が働けなくなれば、どうやって生活していくのか、病院代は払えるか等考えるとキリがない。	男性	15～17歳

#### ・バリアフリーについて（抜粋）

・歩道の整備をすすめてほしい。（狭い、段差の解消）	女性	5～11歳
・今後、一人で車いすに乗って移動する際に道路の整備が行き届いていない所が多く、スロープのない所も多い。	女性	5～11歳
・トイレが少ないと思った。	女性	12～14歳
・階段に滑り止めをつけてほしい。	男性	12～14歳

#### ・緊急時について（抜粋）

・災害時に利用できる福祉避難所がとても少ないのと、すぐに利用することができないことが心配です。	男性	5～11歳
---	----	-------

#### ・医療費の助成、経済的負担の軽減等について（抜粋）

・医療費などいろんなことにお金がかかり、母親は世話をするのに働きに行くのが困難である。もっとサービスを充実させたりしてほしい。	女性	0～5歳
・所得制限があるため、医療費やデイサービスの費用負担が大きい。	男性	5～11歳
・車いすや座位保持装置、歩行器が必要だが、所得制限にひっかかり、まったく補助がなく、全額自己負担。ひとつひとつが高額なため、作れずにいるものもある。負担額を高め設定してもらってもいいので、何とか補助をしてほしい。	女性	5～11歳
・補装具等の購入の際、欲しいと思ってから半年くらいかかる上、金額も不明で自己負担が非常に多額。定価の金額の表記や購入の時間（手間）がかからないようにしてほしい。進学や習い事等の情報をどこで得られるのか分からない。	男性	0～5歳

・就労について（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・それなりに賃金がもらえる仕事につけるかが心配。B型事業所などは、ほとんど賃金がもらえないと聞いたので、行ったとしても本人のモチベーションが出ないと思う。かといって働ける所があるのかと考え中。</li> </ul>	男性	15～17歳
--	----	--------

・福祉サービスについて（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援や放課後デイサービスについて、民間の施設だけでは限度もあるのか、利用回数、利用箇所を増やしたいが、どこも定員がいっぱいで思うように療育の回数も増やせないのが残念</li> </ul>	男性	5～11歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・働きに出たいと思うが、医療的ケア児を預かってくれる場所が少なく、働きに行けない。</li> </ul>	女性	0～5歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎のある放課後等デイサービスや就労継続支援事業所が少ない。</li> </ul>	男性	15～17歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害があるからこそ将来のことも不安があるが、児童発達支援の事業所は時間も短くパートといえど働きにくい。小学校に入っても行き帰りの付き添い等が必要と聞くし、子のサポートと将来のために稼ぐことの両立が難しく不安。</li> </ul>	女性	0～5歳

・学校、教育委員会について（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校での支援が激減するようなので、非常に不安です。支援学校・支援学級に行くほどではないが通常の学級で過ごすには、さりげない支援が必要な子は多く存在すると思います。そういった子達にも、安心して過ごせる環境を提供していただけたらと思います。将来納税できる大人に成長するために、是非お願いしたいです。</li> </ul>	女性	5～11歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・西宮に引っ越してきましたが、学校での支援が必要な子供への取り組みは素晴らしいと思います。必要な配慮はあるけど後はみんなと一緒に、のスタンスは我が子に合っていると思います。将来の進路についての情報があまりないのが不安です。</li> </ul>	男性	5～11歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談する先がわからない。具体的な情報が得られない。小学校のうちから進路の相談をする相手が欲しい。子供の障害をある程度理解し、進路の選択肢を示してくれる制度が欲しい。</li> </ul>	女性	12～14歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校の高等科をもっと増やして欲しい。選択肢を増やしてほしい。</li> </ul>	女性	15～17歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では通常級や支援級の担任の先生方は、障害がある子供に対して、本当に丁寧に接していただき、感謝しております。ただ、小学校進学の際に、聞き取りや、その後の調整業務などを行っていただいた際には、事務仕事を行っているのみという印象を受けました。お忙しいことは理解しておりますが、私たち障害のある子供を持った親の不安な気持ちを考えて仕事にあたっていただきたいと思います。</li> <li>・小学校卒業後は特別支援学校への入学を考えておりますが、知的障害もない重度でない身体的な障害のある子供は入学できないのでしょうか。</li> </ul>	男性	5～11歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で発達障害の子供をサポートする先生が少ない。全てのクラスに居ても良いぐらいだと感じる。障害に対する理解と知識が先生全員に必要。</li> </ul>	男性	5～11歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害ゆえに不登校となる子供への個別支援が増えて欲しい。</li> </ul>	男性	5～11歳



・市、行政について（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども未来センターでリハビリを受けているが、毎回親が付きそわなくてはならないのか。障害のある子の親ほど1人の時間もなく負担も大きい。専門家に見てもらっている間くらい離れて1人でゆっくり過ごしたりすることができたらいいのと思う。</li> </ul>	女性	0～5歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・使える福祉サービスはたくさんあるのだと思うが、知らないことが多すぎます。少しでも知るきっかけがあれば調べたりもしますが、そもそもどんなサービスがあるのかわからないので、知らないまま過ぎていくことも大きいにあると思います。障害児を持つママ友から情報を得ることが多いが、サービスを利用できる一部の人しか知らないサービスも多いと思います（オムツの給付券等）。制度についての勉強会、説明会を開いてほしい。</li> </ul>	女性	0～5歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の枠が少なすぎる。またその対象となる児童（集団生活ができる児童）の規定が不透明で、相談できる窓口も少ない。今のところ仕事をやめるしか選択肢がなく非常に残念。</li> </ul>	女性	0～5歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京では障害手帳を「愛の手帳」という名称にしています。常に当人が持ち歩く手帳なので、いつかに西宮市でも、気持ちの温かくなる呼び方の手帳に変わればよいなと思っています。</li> </ul>	女性	15～17歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北山学園やむこがわ特別支援学校等通いにくい所にあります。もっと皆が通いやすい場所に設置してほしいです。</li> </ul>	男性	5～11歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・育成センターが3年生までのため、仕事を辞め本人の送り迎えを行うことになります。家族の犠牲のもとに生活をしていかなければならないということを知っていただきたいと思います。いずれ一人で生活をしていかなければいけない子供のことを考えると、少しでも多くの時間を働き、生活の足しにでもなればと思うのですが、それすらできないのが現状です。</li> </ul>	男性	5～11歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・習いごとについて、障害があっても色々なことにチャレンジ、経験させてやりたいが定型発達の子供のように通わせることが困難。療育施設も含め、公的な施設、通いやすい場所がもっと増えてほしい。</li> </ul>	男性	5～11歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学や習いごと等の情報をどこで得られるのか分からない。</li> </ul>	男性	0～5歳

・障害理解について（抜粋）

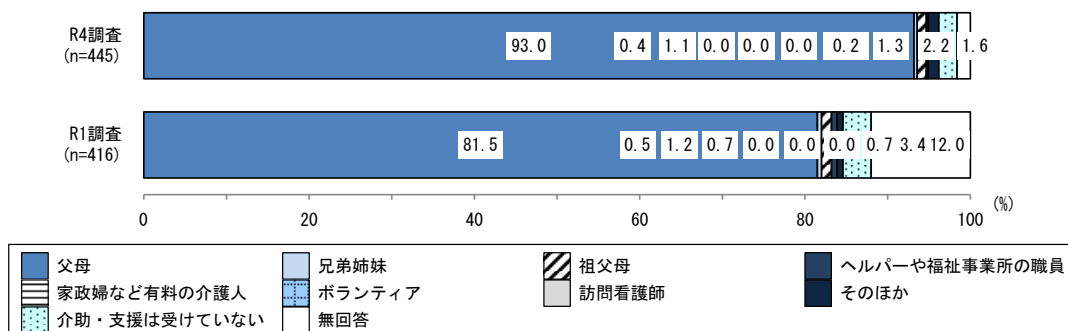
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害だけでなく、もう少し知的障害（自閉症）のことを理解してほしい。支援や配慮が必要なことを理解してほしい。</li> </ul>	男性	5～11歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見た目ではわかりにくい障害のことも今よりたくさんの人の理解が増えていくと安心して出かけられるのかなと思う。話ができないので、虐待やいじめ等の不安がある。</li> </ul>	女性	0～5歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グレーゾーン、軽度の発達遅れの子供達は周囲から障害に気付いてもらいにくく、困難な状況も理解されづらい傾向にある。幼児期のように常に子供に寄り添い過ごせる訳ではないので、これから社会へ出ていくのに多くの不安がある。</li> </ul>	男性	5～11歳

## 10. あなたを介助・支援している人のことについて

### 1 主に介助・支援している方（単数回答）

「父母」が93.0%と最も高く、次いで「介助・支援は受けていない」が2.2%となっています。

前回（3年前）の調査と比べて「父母」が81.5%から93.0%に増加しており、「無回答」が12.0%から1.6%まで減少しています。

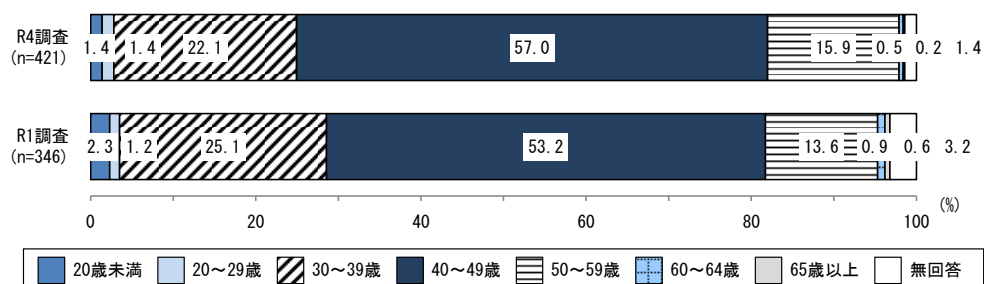


## 1 1. 封筒のあて名のご本人のご家族の方にお聞きします。

### 1 介助・支援者の年齢（数量回答）

「40～49歳」が57.0%と最も高く、次いで「30～39歳」が22.1%となっています。

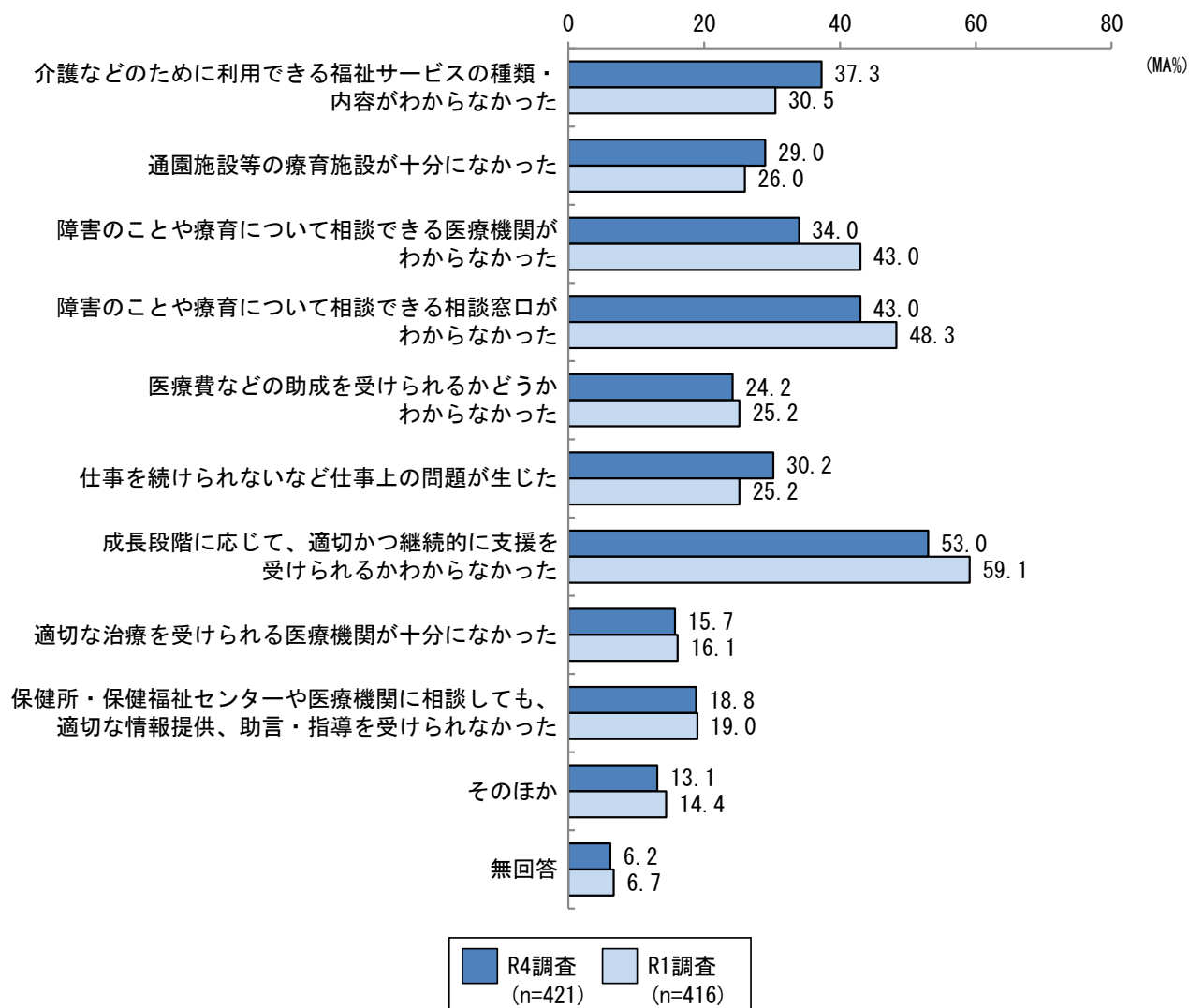
前回（3年前）の調査と比べてもほとんど同様の傾向が見られますが、「30～39歳」が3.0ポイント減少し、「40～49歳」が3.8ポイント増加しており、わずかな増減が見られます。



## 2 診断・判定を受けた頃、ご家族の不安や悩み（複数回答）

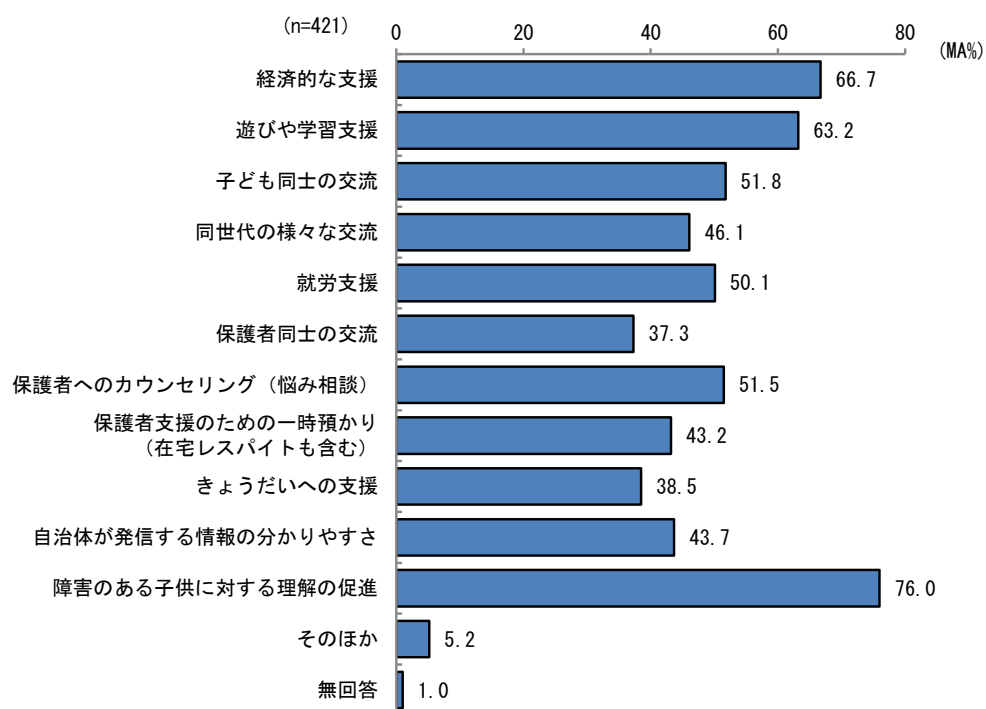
「成長段階に応じて、適切かつ継続的に支援を受けられるかわからなかった」が53.0%と最も高く、次いで「障害のことや療育について相談できる相談窓口がわからなかった」が43.0%となっています。

前回（3年前）の調査と比べて「介護などのために利用できる福祉サービスの種類・内容がわからなかった」が30.5%から37.3%に増加し、「障害のことや療育について相談できる医療機関がわからなかった」は43.0%から34.0%、「成長段階に応じて、適切かつ継続的に支援を受けられるかわからなかった」は59.1%から53.0%に減少しています。



### 3 その児童らしく自立するために必要な支援（複数回答）

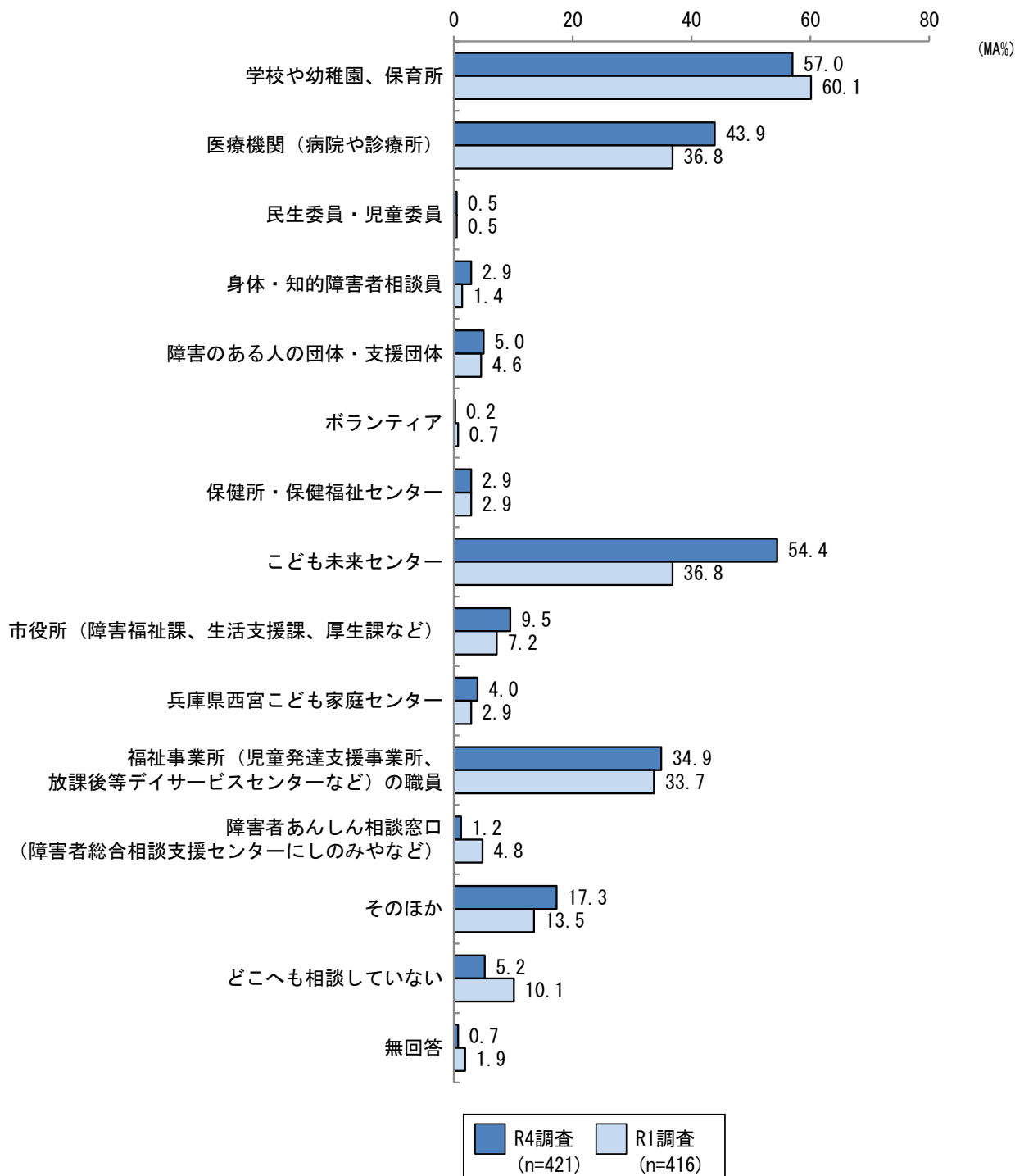
「障害のある子供に対する理解の促進」が76.0%と最も高く、次いで「経済的な支援」が66.7%となっています。



#### 4 家族以外の相談相手（複数回答）

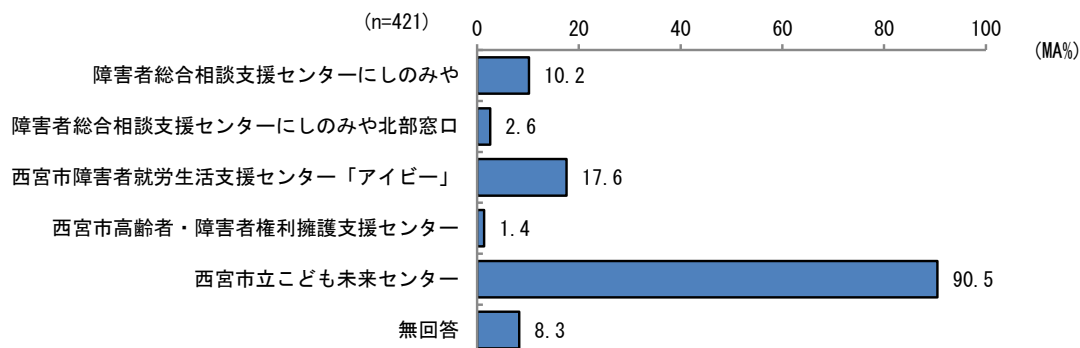
「学校や幼稚園、保育所」が57.0%と最も高く、次いで「こども未来センター」が54.4%となっています。

前回（3年前）の調査と比べて「こども未来センター」が36.8%から54.4%と大幅に増加しています。



## 5 相談窓口（障害者総合相談支援センターにしのみや等）の認知度（複数回答）

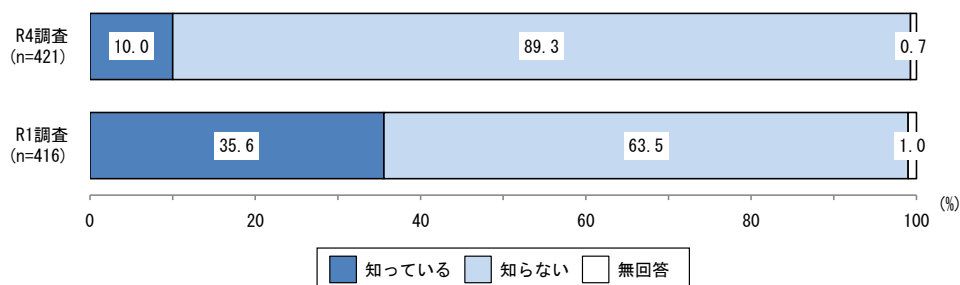
相談窓口（障害者総合相談支援センターにしのみや等）の認知度は、「西宮市立こども未来センター」が90.5%と最も高く、次いで「西宮市障害者就労生活支援センター「アイビー」」が17.6%となっています。



## 6 障害者あんしん相談窓口の認知度（単数回答）

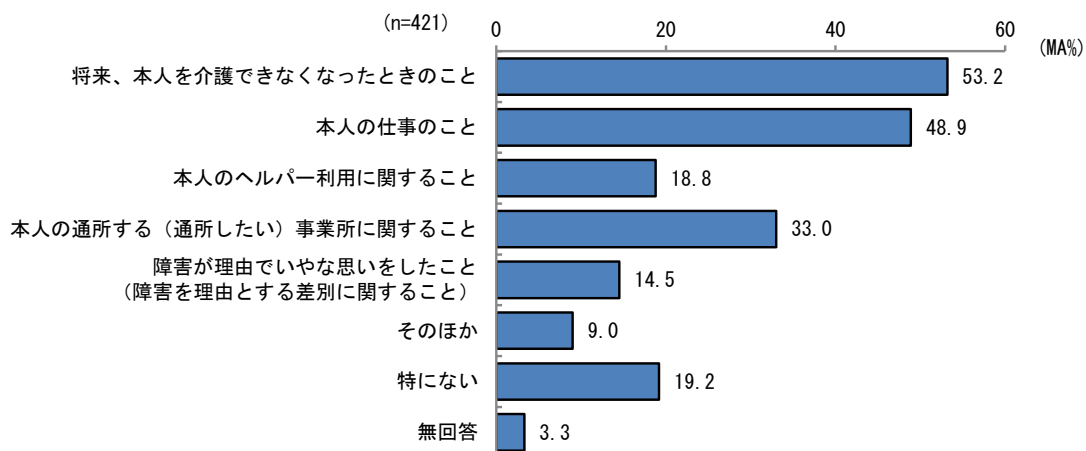
「知らない」が89.3%、「知っている」が10.0%となっています。

前回（3年前）の調査と比べて「知っている」が35.6%から10.0%まで大幅に減少しています。



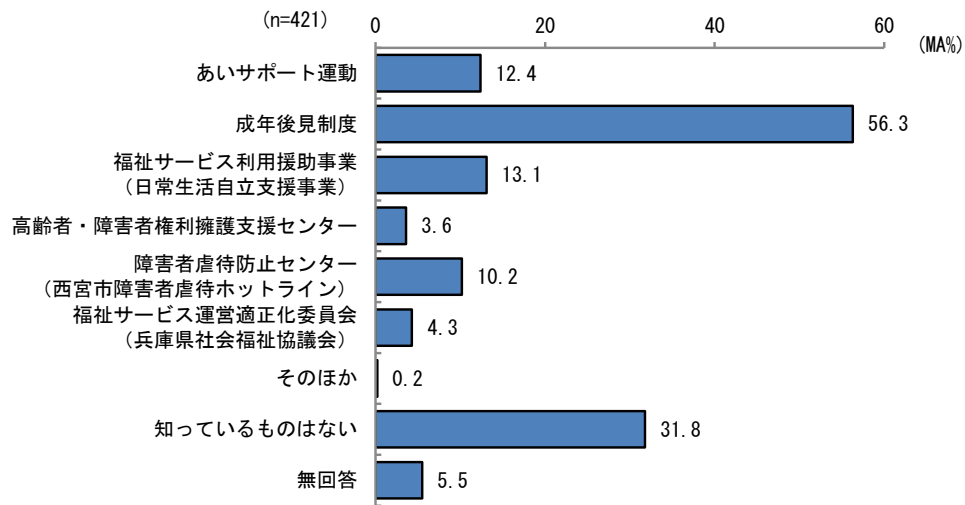
## 7 障害について相談窓口で相談したいこと（複数回答）

「将来、本人を介護できなくなったときのこと」が53.2%と最も高く、次いで「本人の仕事のこと」が48.9%となっています。



## 8 権利擁護の仕組みとして知っているもの（複数回答）

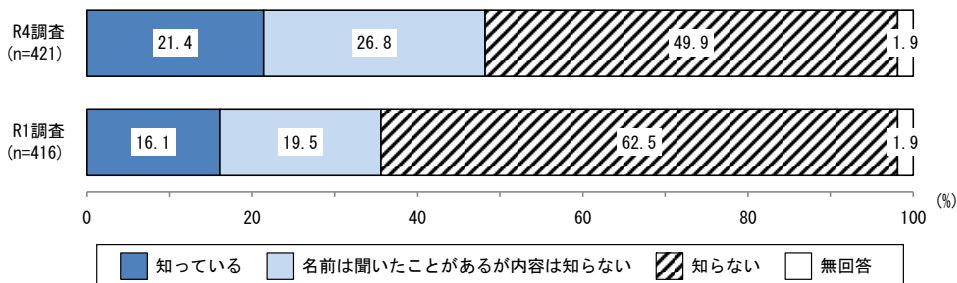
「成年後見制度」が 56.3%と最も高く、次いで「福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）」が 13.1%となっています。



## 9 障害者差別解消法の認知度（単数回答）

「知らない」が 49.9%、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が 26.8%、「知っている」が 21.4%となっています。

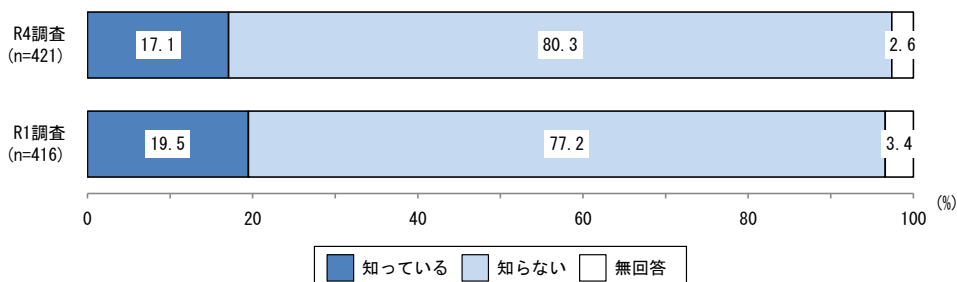
前回（3年前）の調査と比べて「知らない」が 62.5%から 49.9%と、大幅に減少しています。



## 10 障害を理由として差別や偏見などを受けたときの相談窓口の認知度（単数回答）

「知らない」が 80.3%、「知っている」が 17.1%となっています。

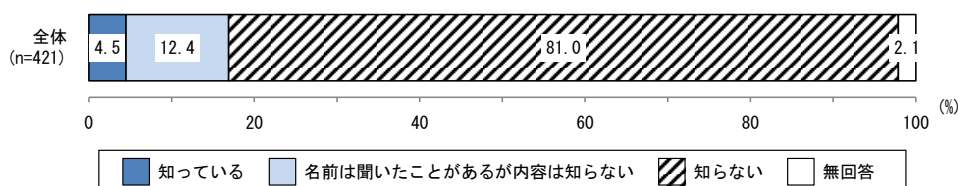
前回（3年前）の調査と比べても、ほとんど同様の傾向が見られます。





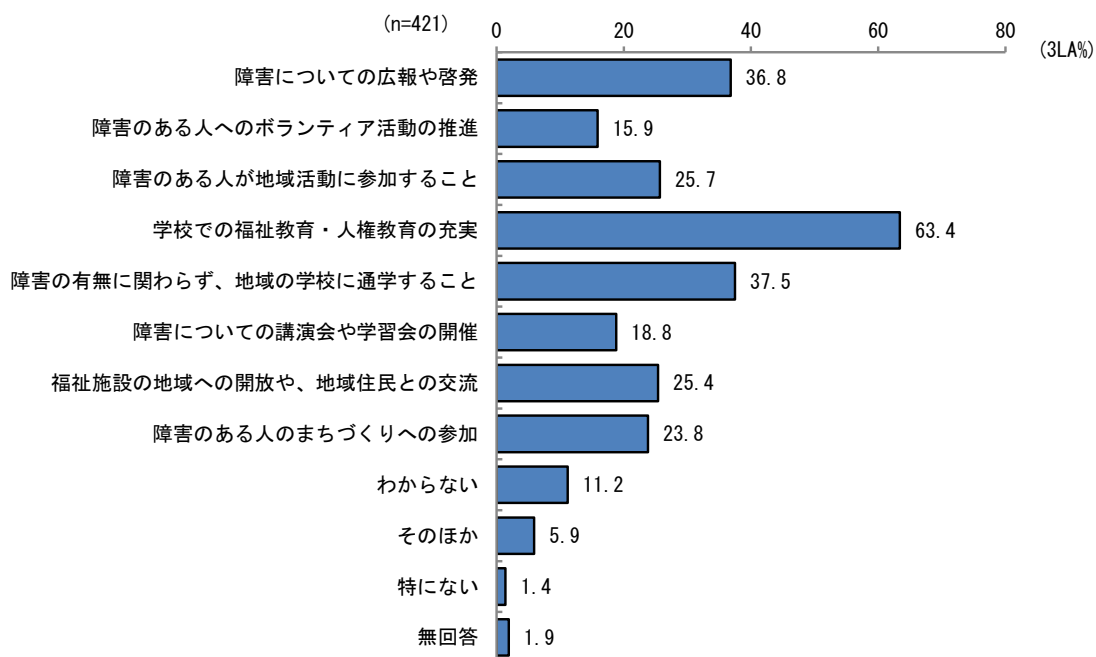
## 1.1 障害者共生条例の認知度（単数回答）

「知らない」が81.0%、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が12.4%、「知っている」が4.5%となっています。



## 1.2 障害についての地域に住む人の理解を深めるために必要なこと（複数回答：三つまで）

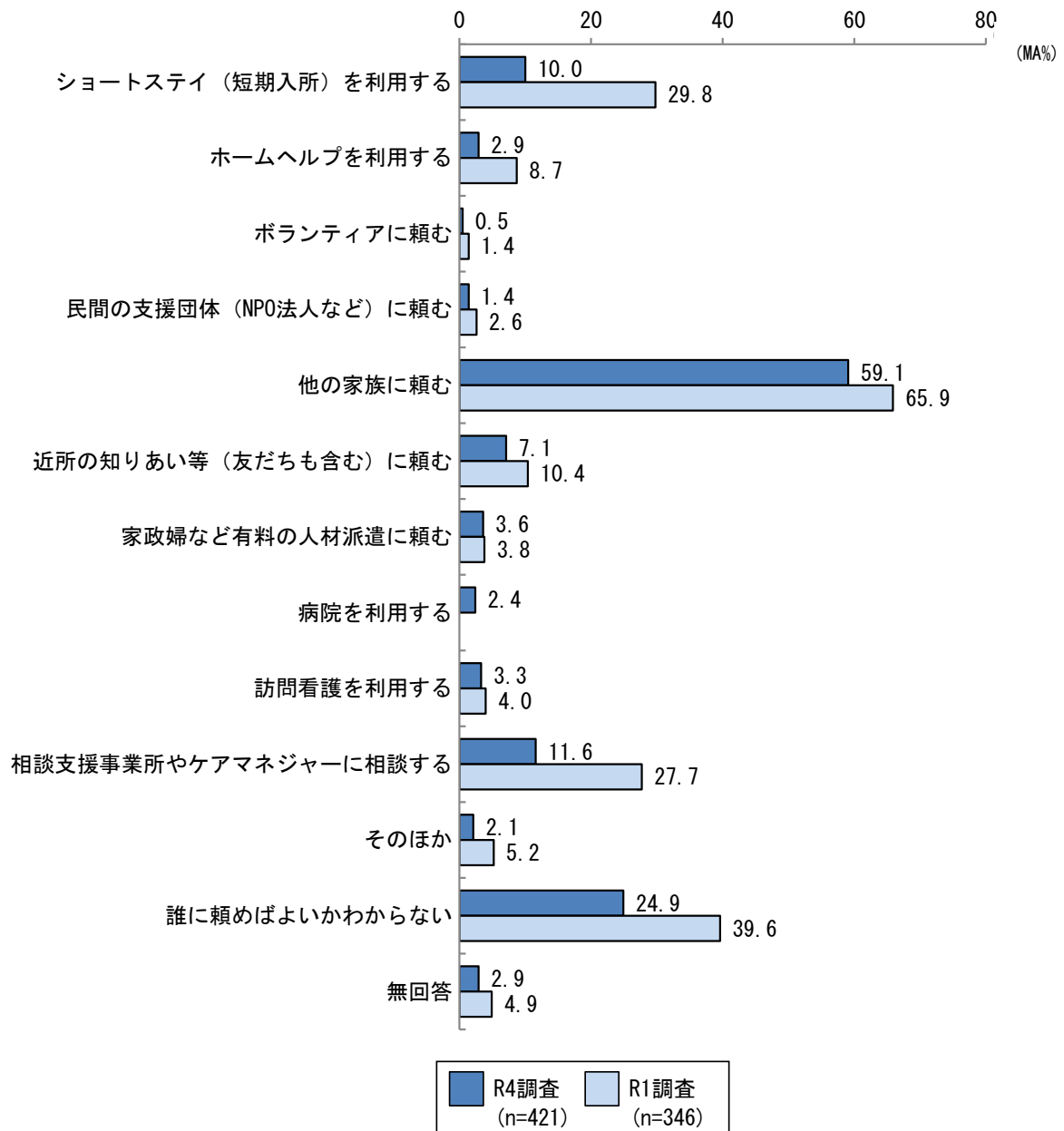
「学校での福祉教育・人権教育の充実」が63.4%と最も高く、次いで「障害の有無に関わらず、地域の学校に通学すること」が37.5%となっています。



### 1.3 一時的に介助・支援ができなくなった場合の対応（複数回答）

「他の家族に頼む」が59.1%と最も高く、次いで「誰に頼めばよいかわからない」が24.9%となっています。

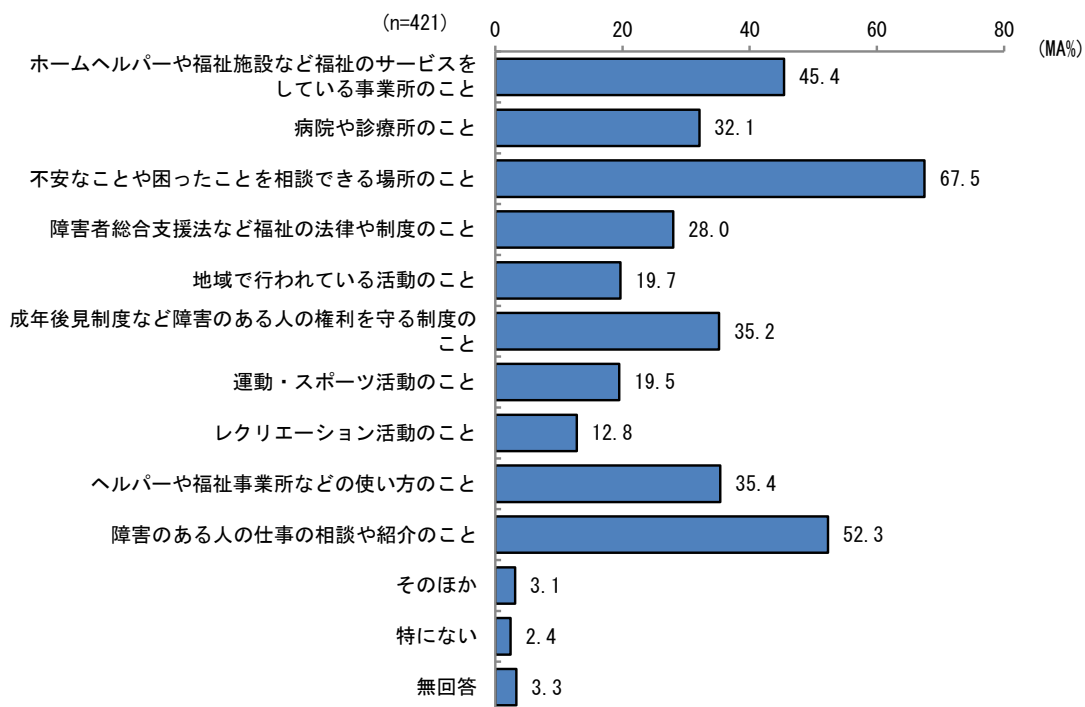
前回（3年前）の調査と比較しても、「ショートステイ（短期入所）を利用する」「相談支援事業所やケアマネジャーに相談する」「誰に頼めばよいかわからない」はいずれも大幅に減少しています。



R4年調査のみ	病院を利用する
---------	---------

#### 14 ふだん必要な情報（複数回答）

「不安なことや困ったことを相談できる場所のこと」が67.5%と最も高く、次いで「障害のある人の仕事の相談や紹介のこと」が52.3%となっています。



## ◇ふだん必要な情報×身体障害の種類

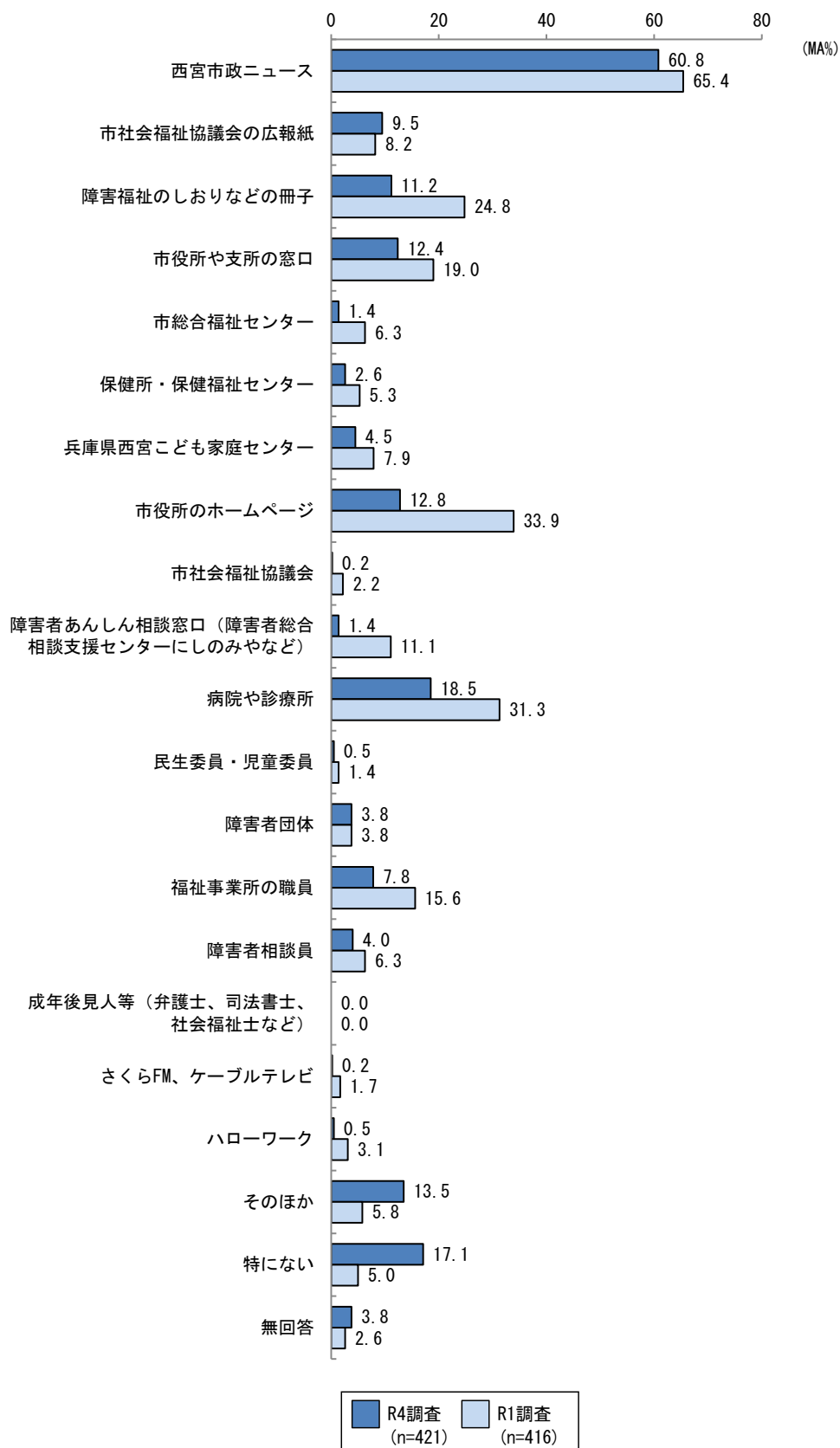
視覚障害、音声・言語・そしゃく機能障害、肢体（上肢）不自由、肢体（下肢）不自由、肢体（体幹）不自由は、「ホームヘルパーや福祉施設など福祉のサービスをしている事業所のこと」が最も高くなっています。聴覚障害・平衡機能障害は「不安なことや困ったことを相談できる場所のこと」「成年後見制度など障害のある人の権利を守る制度のこと」「障害のある人の仕事の相談や紹介のこと」がおおよそ4～5割と高く、内部障害は「不安なことや困ったことを相談できる場所のこと」が63.6%と最も高くなっています。

身体		回答数	ホームヘルパーや福祉施設など福祉のサービスをしている事業所のこと	病院や診療所のこと	不安なことや困ったことを相談できる場所のこと	障害者総合支援法など福祉の法律や制度のこと	地域で行われている活動のこと	成年後見制度など障害のある人の権利を守る制度のこと	運動・スポーツ活動のこと
			レクリエーション活動のこと	ヘルパーや福祉事業所などの使い方のこと	障害のある人の仕事の相談や紹介のこと	そのほか	特になし	無回答	
	視覚障害	13	69.2	30.8	69.2	38.5	15.4	46.2	23.1
	聴覚障害・平衡機能障害	12	25.0	16.7	50.0	25.0	8.3	41.7	16.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	25	72.0	32.0	60.0	48.0	28.0	36.0	24.0
	肢体(上肢)不自由	65	69.2	36.9	60.0	32.3	13.8	36.9	18.5
	肢体(下肢)不自由	69	71.0	36.2	59.4	31.9	13.0	34.8	18.8
	肢体(体幹)不自由	38	63.2	28.9	52.6	23.7	18.4	34.2	13.2
	内部障害	33	39.4	33.3	63.6	18.2	24.2	21.2	9.1
	視覚障害	13	23.1	53.8	46.2	0.0	0.0	0.0	
	聴覚障害・平衡機能障害	12	8.3	25.0	41.7	0.0	0.0	8.3	
	音声・言語・そしゃく機能障害	25	20.0	52.0	36.0	0.0	0.0	4.0	
	肢体(上肢)不自由	65	10.8	53.8	30.8	7.7	1.5	1.5	
	肢体(下肢)不自由	69	11.6	53.6	31.9	4.3	1.4	1.4	
	肢体(体幹)不自由	38	13.2	50.0	15.8	5.3	5.3	5.3	
	内部障害	33	9.1	18.2	42.4	6.1	6.1	3.0	

## 15 健康・福祉に関する情報源（複数回答）

「西宮市政ニュース」が60.8%と最も高く、次いで「病院や診療所」が18.5%となっています。

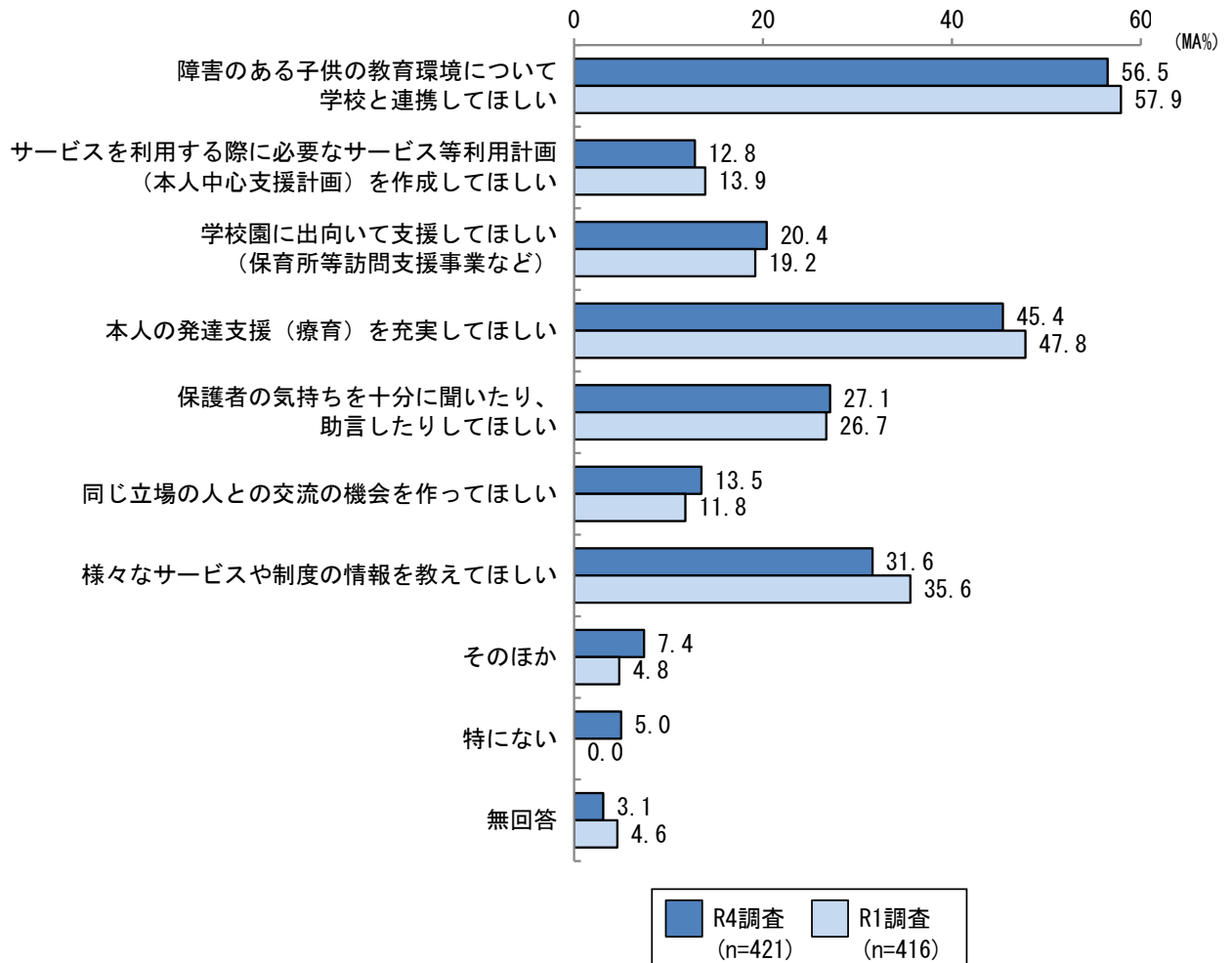
前回（3年前）の調査と比較しても、「障害福祉のしおりなどの冊子」「市役所のホームページ」「病院や診療所」はいずれも大幅に減少しています。



## 16 児童発達支援センター（こども未来センター、北山学園、ゆーかりの森）に期待すること（複数回答）

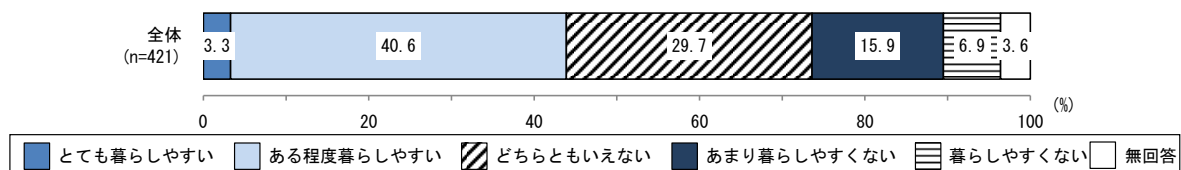
「障害のある子供の教育環境について学校と連携してほしい」が56.5%と最も高く、次いで「本人の発達支援（療育）を充実してほしい」が45.4%となっています。

前回（3年前）の調査と比較しても、ほとんど同様の傾向が見られますが、「様々なサービスや制度の情報を教えてほしい」は4.0ポイント減少しています。



## 17 障害のある人の暮らしやすさ（単数回答）

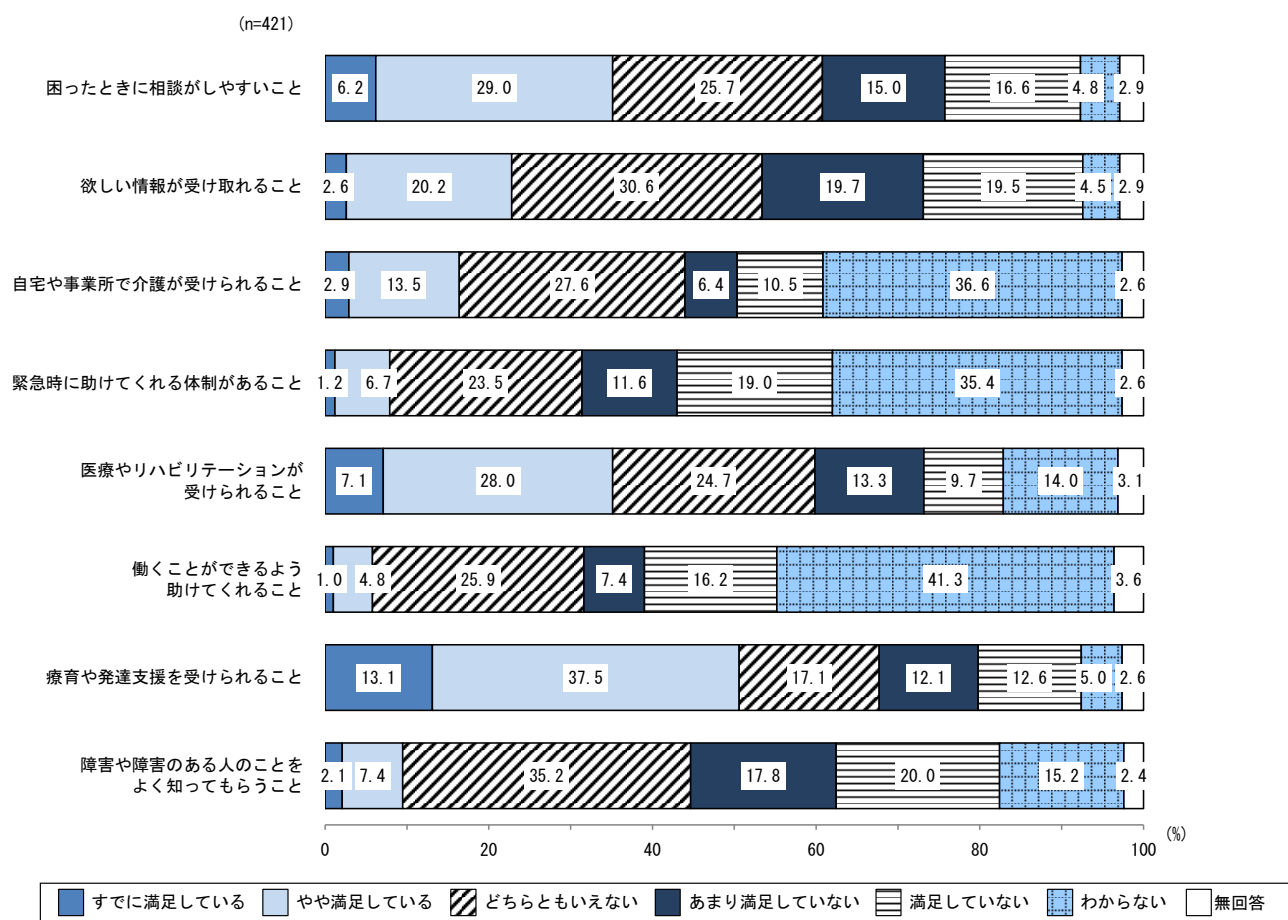
「ある程度暮らしやすい」が40.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が29.7%となっています。



## 18 障害者施策に対する取組みの満足度（単数回答）

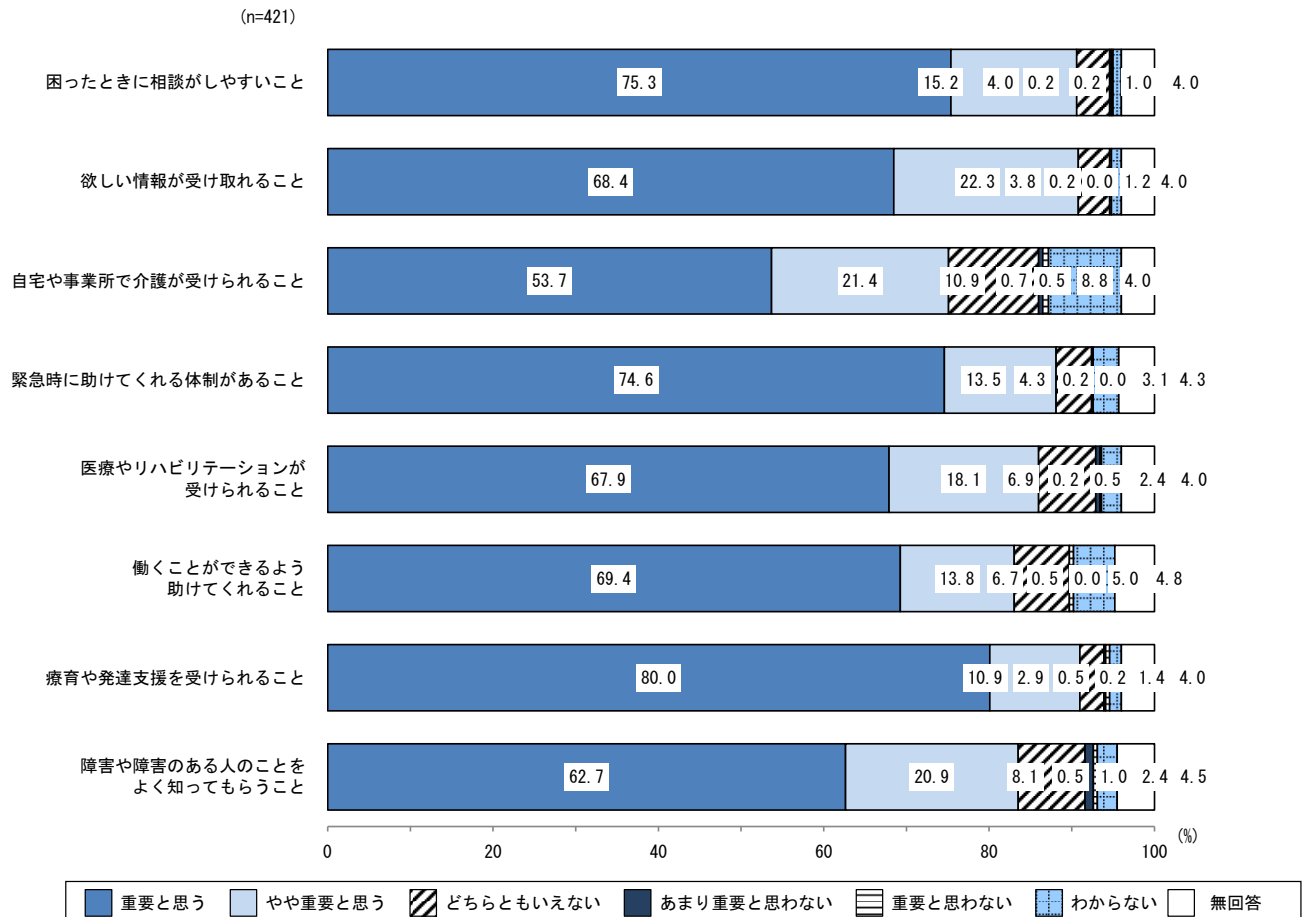
満足度が高い（「すでに満足している」「やや満足している」）項目は、「困ったときに相談がしやすいこと」「医療やリハビリテーションが受けられること」「療育や発達支援を受けられること」となっています。

満足度が低い（「あまり満足していない」「満足していない」）項目は、「障害や障害のある人のことをよく知ってもらうこと」「緊急時に助けてくれる体制があること」「欲しい情報が受け取れること」となっています。



## 19 障害者施策に対する取組みの重要度（単数回答）

重要度が高い（「重要と思う」「やや重要と思う」）項目は、「困ったときに相談がしやすいこと」「欲しい情報が受け取れること」「緊急時に助けてくれる体制があること」「療育や発達支援を受けられること」となっています。





**20 西宮市の障害保健福祉施策の方向性やあり方、また、不安や心配ごとについて、介助・支援している方のご意見（自由記述）**

**・生活について（抜粋）**

<ul style="list-style-type: none"> <li>西宮の北方面は特に施設など整っていませんし、療育センターも少ないと思います。まだまだ障害を持って生活していくには認知度も低く理解も少ないのが現状です。良くなってくれることを願っています。</li> </ul>	女性	18歳未満
<ul style="list-style-type: none"> <li>北部在住ですが、在宅の知的障害者が、自由に安心して運動できる環境がないです。徒歩で行けて、近隣住民から苦情が出にくい配慮がなされていて、安全で、安い利用料で利用できる場所を整備してください。</li> </ul>	男性	20代
<ul style="list-style-type: none"> <li>タクシー利用券を使うと、不機嫌な態度をとる運転手さんが多く、利用するのをためらってしまいます。運転手さんが紙に記入しないといけなく仕事が増えるからでしょうか。利用券の利用時、運転手さんの負担が増えない方法があればいいのでしょうか。</li> </ul>	男性	18歳未満

**・高齢化・親亡き後について（抜粋）**

<ul style="list-style-type: none"> <li>親亡き後、現在の家で、多くのサポートを受けながら生活ができたと思います。お金の管理や日常生活（食事、洗濯、掃除、衣替え、冷暖房の使い方等）ができないのではないかと大変心配です。グループホームの利用も考えますが、費用が高く、また本人の自由さという点でも心配です。</li> </ul>	女性	30代
<ul style="list-style-type: none"> <li>将来、家族が支援できなくなったときのことが心配です。心のケアやお金の管理、生活のサポート等。グループホームみたいに個人のプライベートがありながら、人と交流ができて、支援も受けられる暮らしが生涯できる所が増えてほしいです。また、障害者虐待への厳しい条例や管理体制もお願いしたいです。</li> </ul>	女性	18歳未満

**・医療費の助成、経済的負担の軽減等について（抜粋）**

<ul style="list-style-type: none"> <li>特定疾患を持っていても、普通に生活をしていけばほぼ障害者とはみなされず隠しがちになってしまいます。優先順位があるのかも知れませんが、同じ病気であることには違いがないと思います。薬代や検査費などの補助ももう少しあれば助かるなどと思います。</li> </ul>	男性	60代
<ul style="list-style-type: none"> <li>介護タクシーを利用しているのですが今のチケット制度では全然足りません。交通費がかかるので生活も大変です。日常生活用具の給付を受けていますが持ち出しが多くて困っています。親も年金生活なので困っています。</li> </ul>	男性	50代
<ul style="list-style-type: none"> <li>所得制限により医療費・デイサービスの利用料、児童手当等全く助成がありません。本人の将来のために貯蓄したくても満足にできない状況です。非課税世帯への助成ばかり充実して、きちんと税金を払っていても還元されていると感じられません。</li> </ul>	男性	18歳未満
<ul style="list-style-type: none"> <li>タクシー1割引きは少なすぎる。またバスは一人で半額なのに電車は一人では割引なし。手軽に移動手段に対する支援をして欲しい。</li> </ul>	男性	60代
<ul style="list-style-type: none"> <li>重度の障害を持つ方に対して、障害サービスの負担金を減らしてほしい。お金がなくて、サービスを制限せざるをえない家庭もあると思う。</li> </ul>	女性	30代

・就労について（抜粋）

・会社の給与が低い。自立するのが難しい。	女性	50代
・就労支援をより充実させて頂きたいです。	男性	18歳未満
・西宮市は福祉に力を入れていると思いますが、世間ではなかなか就職先が見つからないなど障害者には厳しいので受け入れ先や保障をもう少し充実すればいいなと思います。	男性	20代

・福祉サービスについて（抜粋）

・重度障害者の将来的な生活の場、グループホームなどの施設やヘルパーの数が圧倒的に不足しているのが、とても不安です。	男性	30代
・市内にショートステイが少なすぎると思う。予約を取ることも難しい。希望者に対して数は合っているのかなどきちんと調査して整備していただきたい。	女性	20代
・緊急時に預けられる施設がなく大変困りました。必要なときに使えない制度や一部の人達しか利用できないサービスが多くて、不便な思いをしています。	男性	18歳未満
・相談支援員が少なすぎると思います。事業所の方から、単価が低すぎて満足な給与を払うことができないという話も耳にしました。いろいろなことで困っている人が、支援員が見つからずにセルフプランになり、それほど困ってないけど、制度があるから使っておこうという感覚で支援員をつけていたり、本当に支援のためになっているのか、見直してほしいと思います。	女性	18歳未満
・気軽に相談したくても、原状は、福祉関連施設は不便な場所にしかない印象です。せめて主安な駅から、バリアフリーで誰でも行けるようになれば敷居も低くなり、もっと身近な存在として認識されるのにと施設を見るたび思います。障害者に優しい町に、市になるには、まずはそういう所からだと思います。	男性	20代

・市、行政について（抜粋）

・障害があるとわかっても、どこに相談するのかわからず、検診でも何も言われず、とても不安でした。わかば園の存在を知ったのもだいぶ後で、自分から発信しないと、市は何もサポートしてくれないのだなと思っています。今は手帳を持ち、相談できる人もいますが、今後の進路について不安です。	男性	18歳未満
・何をどこに問い合わせたらよいかわかりづらいです。電話もたらい回しにされ、時間もお金もかかります。フリーダイヤルで相談できるようになればありがたいです。やっと、あいサポートが市政ニュースの一面に載りましたが、どれだけの人が興味を持つでしょう。	女性	50代
・問い合わせをしたときにホームページで確認してくださいと言われることが多いですが、こちらが調べるのではなく提供してほしいです。あなたはこういう補助が受けられますよという通知を送ってほしいです。知っている知らなかったの差をなくしてほしい。	女性	18歳未満
・身体障害に比べて精神障害の支援施策は進んでいないように思えます。もっと具体的な情報の公開などを希望します。	女性	60代

<ul style="list-style-type: none"> <li>バスに車いすの方が乗る際に乗務員が1人なので大変だと思う。補助金を出して、乗務員を増やすなどしてほしい。</li> </ul>	女性	30代
<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害、知的障害が軽度でもできないことがけっこうあるので、中度、重度の障害の人たちばかり目を向けるのではなく、軽度や、障害認定されないグレーゾーンの人たちにも目を向けてほしいです。軽度やグレーゾーンの人たちこそ困っている人が多いです。特に経済的に。</li> </ul>	女性	18歳未満
<ul style="list-style-type: none"> <li>こども未来センターは、スタッフもドクターもSTもOTもすばらしいです。相談員の方にも悩みを聞いてもらい助かっています。感謝しています。しかしながら、予約を取るの難しく、半年に1回の診察、また療育も月1回でなかなか自由には受けられません。放課後デイサービスでは、手いっぱい本人を預かっているだけで療育の要素が少ないと感じます。</li> </ul>	男性	18歳未満
<ul style="list-style-type: none"> <li>こども未来センターの質を向上させてほしい。学校との連携をより太く、発達検査施行から報告まで時間がかかるのを短縮、検査結果をより詳しく等。</li> </ul>	男性	18歳未満
<ul style="list-style-type: none"> <li>こども未来センターで療育を希望してもなかなか受けることができません。西宮市に暮らす学校や日常生活に困難をかかえるすべての児童が平等に療育を受けられるように体制が見直されることを切に希望します。</li> </ul>	男性	18歳未満

#### ・学校、教育委員会について（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数での学級活動や学年を超えた活動を柔軟にやってほしい。学校の先生の手が足りていないので、そこへの助けがほしいです。障害のあるなしにかかわらず子供がリラックスできる場所を学校に作ってほしい。</li> </ul>	男性	18歳未満
<ul style="list-style-type: none"> <li>障害のある人となない人がしっかり分けられた世界で、まだまだ障害のある人への理解が不十分なのは、小さい頃からその世界を分けて教育しているからだと思う。「知らない」ということがたくさんの差別や誤解を生んでいる。それがそのまま将来につながっていき、社会が変わっていかないことが不安です。</li> </ul>	女性	18歳未満

#### ・障害理解について（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>障害の周知や就労支援は、差別も助長することがあると思います。生活の直接的な支援に力点を置いた施策を望みます。いつもありがとうございます。</li> </ul>	男性	40代
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の子供に障害があると知ったから、障害について理解しようという気持ちで動きましたが、周りは違うと思います。障害のない親や、大人が教育や家で身近な所から自分や周りに障害について知ってもらい、理解してもらえたら良いなと思います。</li> </ul>	男性	18歳未満
<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害という言葉はだいぶ世の中に知られるようになりましたが、その特性のことは全く知られていないと感じます。発達障害という言葉だけが広まったせいで勝手な思い込みによる偏見や差別がまだまだ多いと感じます。</li> </ul>	女性	18歳未満

## IV 調査の概要（企業・サービス提供事業所・関係団体）

### 1. 調査の目的

本調査は、「西宮市障害福祉推進計画」を策定するにあたり、障害のある人のサービスの利用意向、就労状況、生活課題などを把握し、計画策定のほか、施策推進のための基礎資料とすることを目的に実施しました。

### 2. 調査概要

- 調査地域：西宮市全域
- 調査対象者：西宮市内の企業、サービス提供事業所、関係団体
- 抽出方法：企業は無作為抽出、サービス提供事業所と関係団体は市内全事業所・団体を抽出
- 調査期間：令和5年1月31日～2月14日
- 調査方法：郵送配布・郵送回収（企業のみインターネット回答有り）
- ◆ 調査票配布数

	配布数	回収数	回答率
企業	500	130	26.0%
サービス提供事業所	453	218	48.1%
関係団体	9	7	77.8%

### 3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- グラフ中の「0.0%」については、表示上の関係で省略している場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- グラフ中の回答割合について、グラフが見づらくなる場合は省略しています。

## V 調査結果（企業）

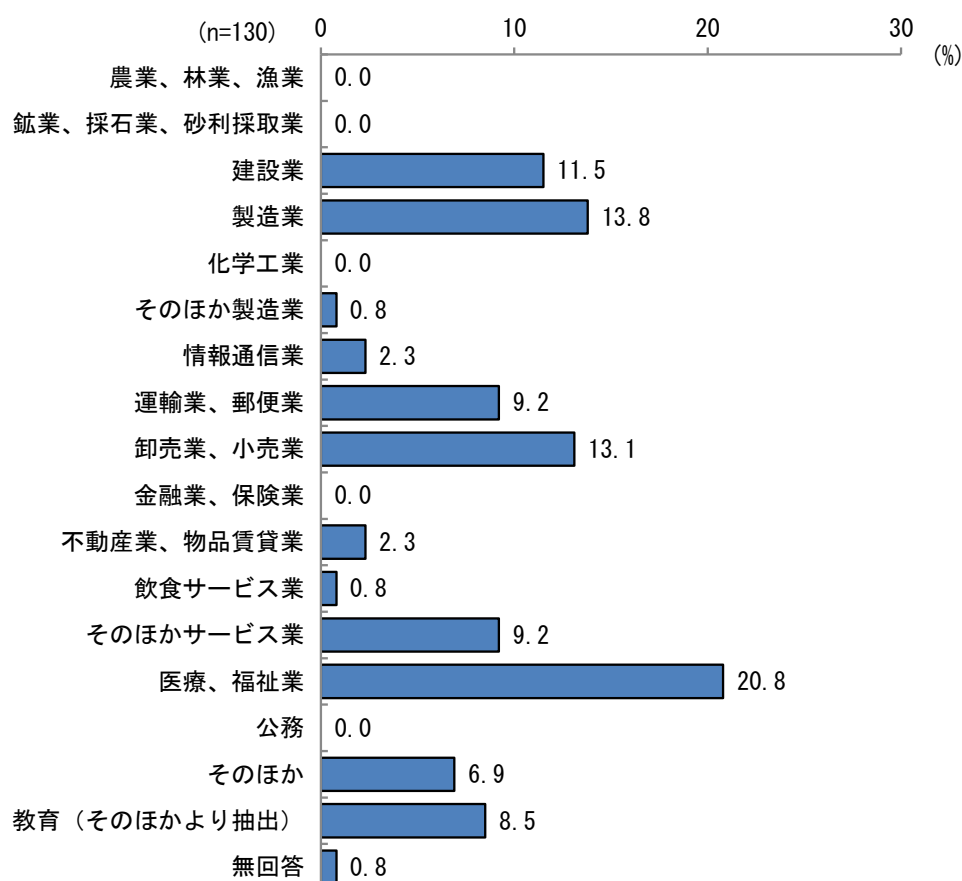
### 1. 事業所について

#### 1 業種及び従業員数

①主たる業種は、「医療、福祉業」が 20.8%と最も高く、次いで「製造業」が 13.8%、「卸売業、小売業」が 13.1%となっています。

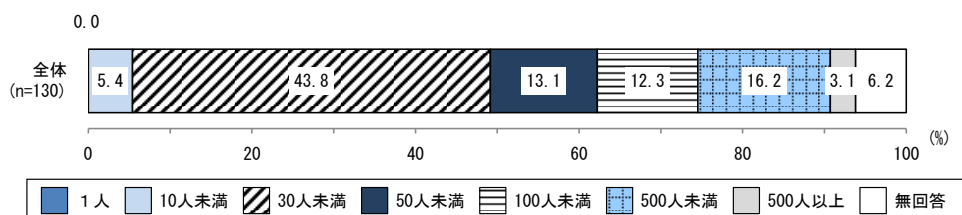
②従業員数は、いずれの年においても「30人未満」が最も高く、次いで「500人未満」「50人未満」となっており、2020年、2021年、2022年それぞれ「30人未満」が 43.8%、43.8%、43.1%、「500人未満」が 16.2%、16.9%、17.7%、「50人未満」が 13.1%、12.3%、13.1%となっています。

#### ①主たる業種（単数回答）

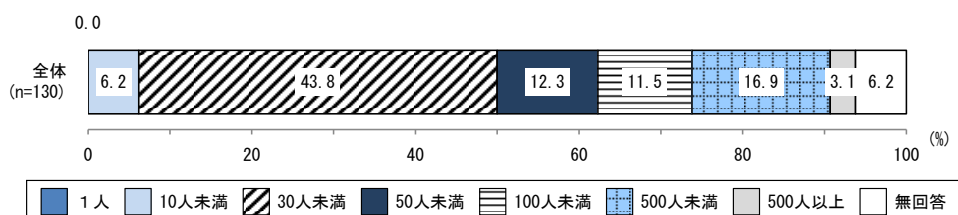


## ②従業員数（各年4月1日現在）（数量回答）

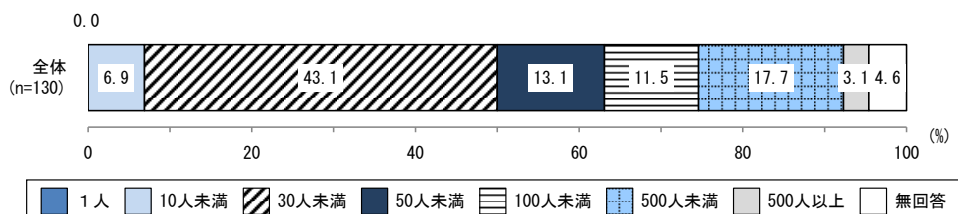
・ 2020 年



・ 2021 年

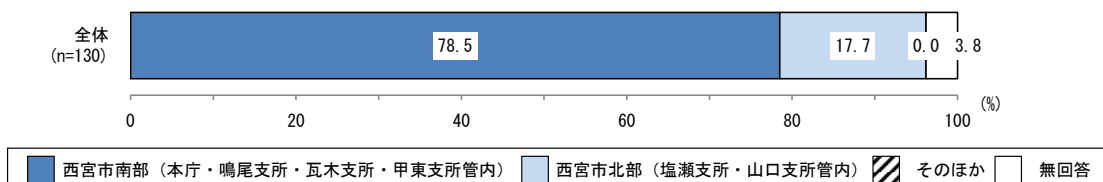


・ 2022 年



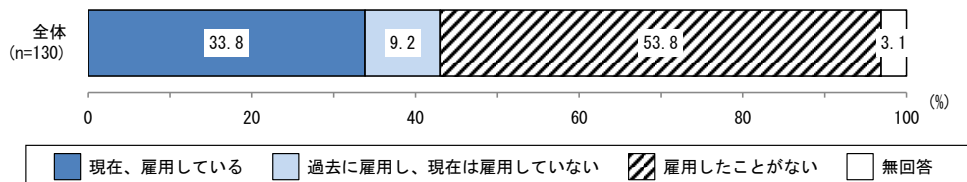
## 2 事業所の所在地（単数回答）

事業所の所在地は、「西宮市南部（本庁・鳴尾支所・瓦木支所・甲東支所管内）」が78.5%と最も高く、次いで「西宮市北部（塩瀬支所・山口支所管内）」が17.7%となっています。



### 3 障害者の雇用（単数回答）

障害者の雇用は、「雇用したことがない」が53.8%と最も高く、次いで「現在、雇用している」が33.8%、「過去に雇用し、現在は雇用していない」が9.2%となっています。



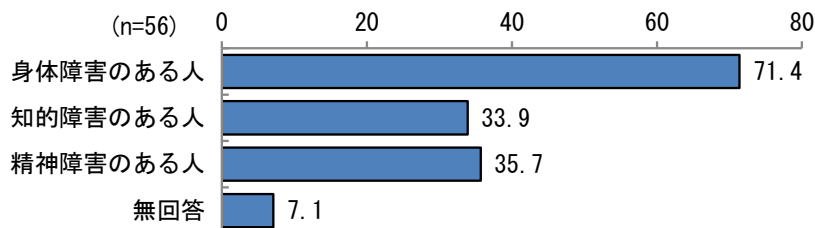
### 4（1-3で「現在、雇用している」「過去に雇用し、現在は雇用していない」と回答された方）雇用障害者数（単数回答）

雇用障害者数は、「身体障害のある人」が71.4%と最も高く、次いで「精神障害のある人」が35.7%、「知的障害のある人」が33.9%となっています。

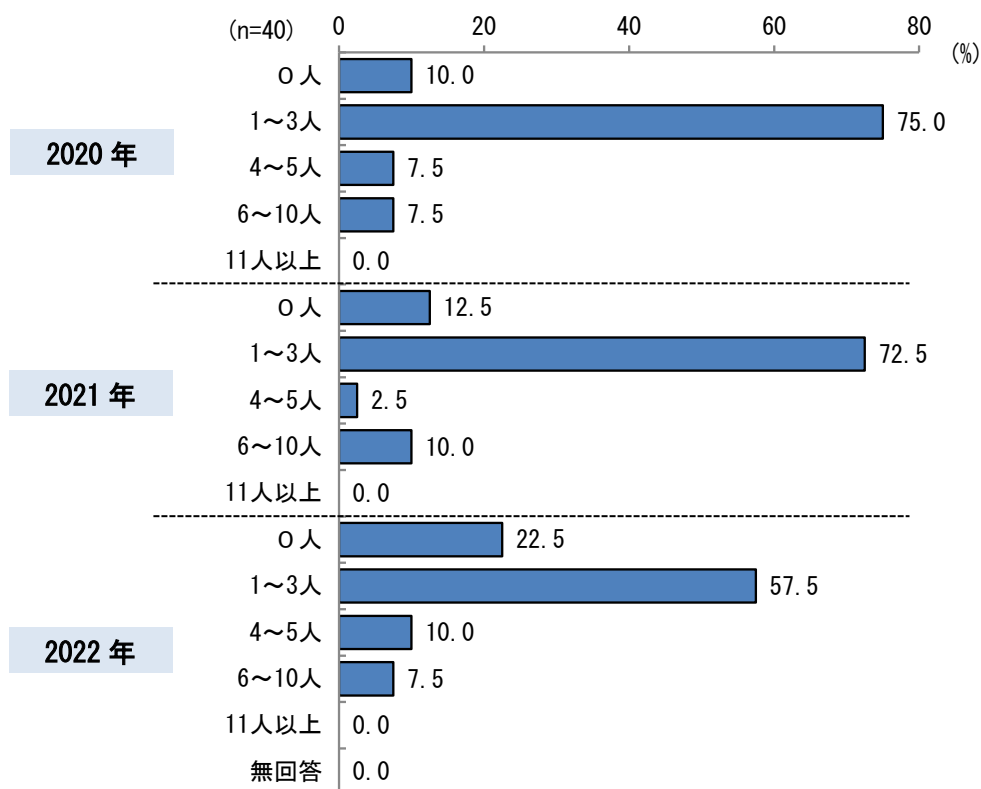
①身体障害者の雇用者数を年度別にみると、「1～3人」が2020年の75.0%から2022年の57.5%までおよそ20ポイント減少しています。

②知的障害者の雇用者数を年度別にみると、「1～3人」が2020年の52.6%から2022年は63.2%と大幅に増加しています。一方で「0人」の割合は2020年の21.1%から2022年で10.5%と、およそ半数の減少が見られます。

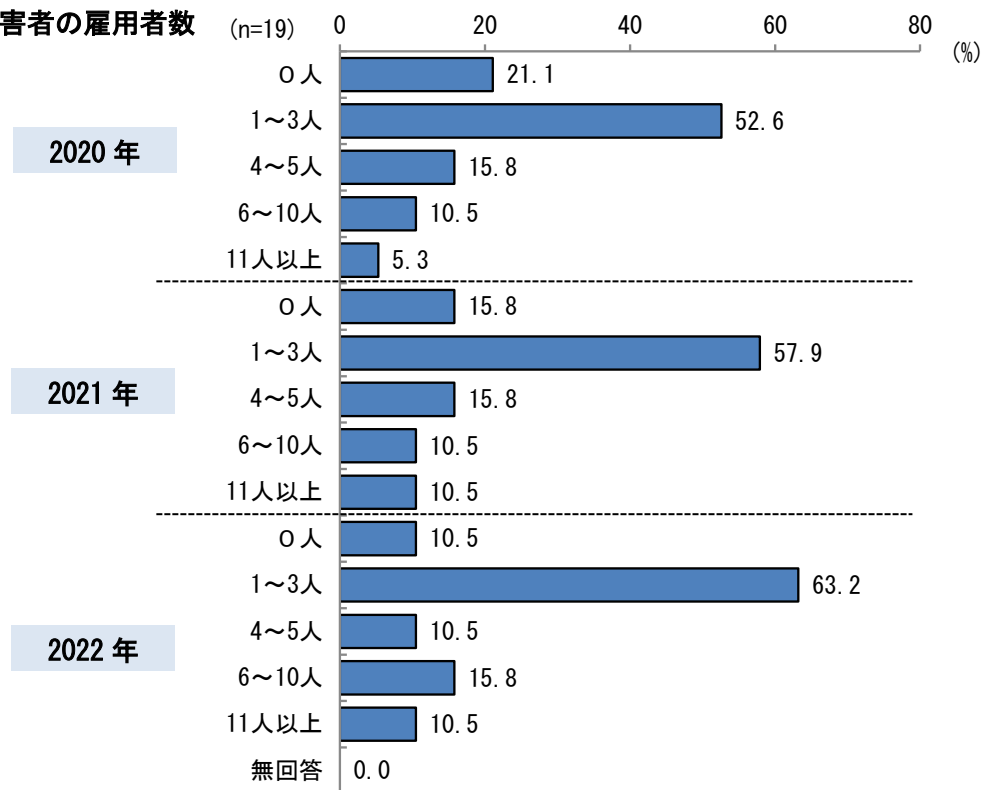
③精神障害者の雇用者数を年度別にみると、「1～3人」は2020年から2022年で割合が大幅に増加しており、一方で4人以上の割合は0.0%となっています。



① 身体障害者の雇用者数

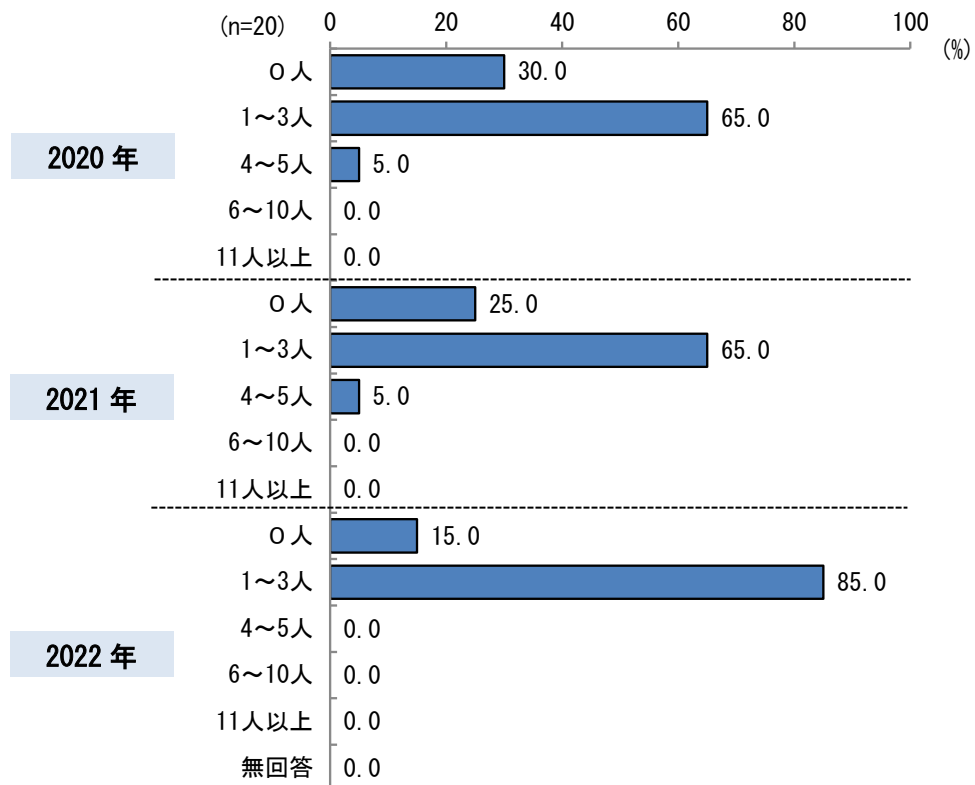


② 知的障害者の雇用者数





### ③ 精神障害者の雇用者数



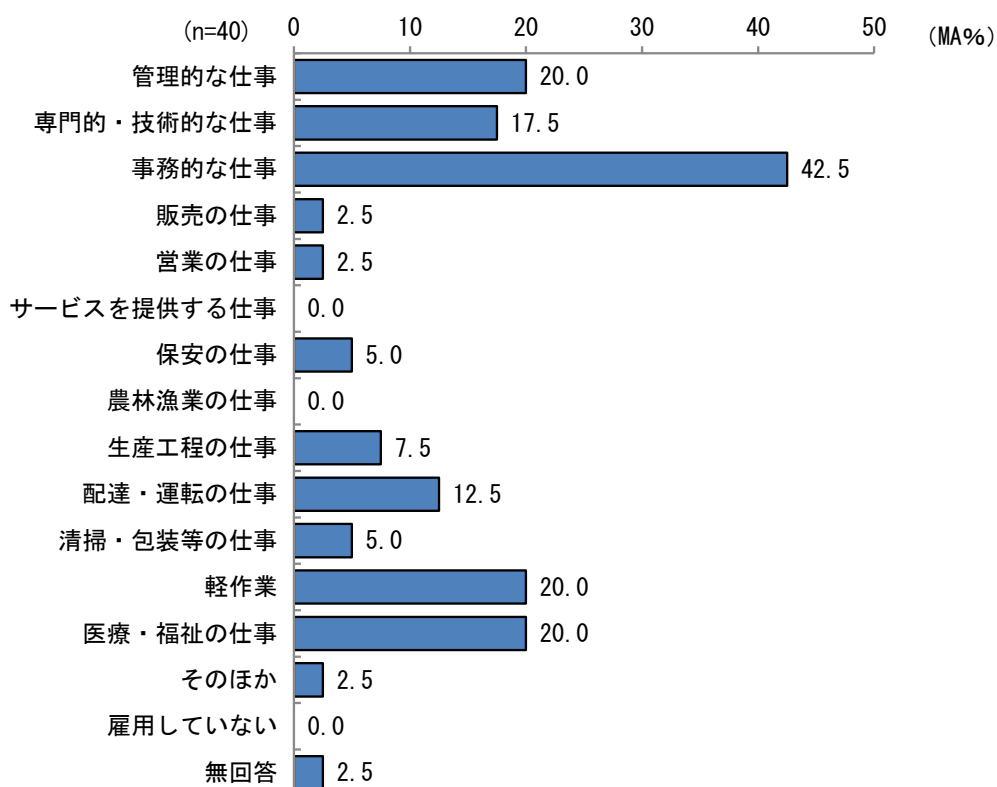
## 5 雇用している（していた）障害のある人が従事している（従事していた）仕事（複数回答）

①身体障害は、「事務的な仕事」が42.5%と最も高く、次いで「管理的な仕事」「軽作業」「医療・福祉の仕事」が同率で20.0%となっています。

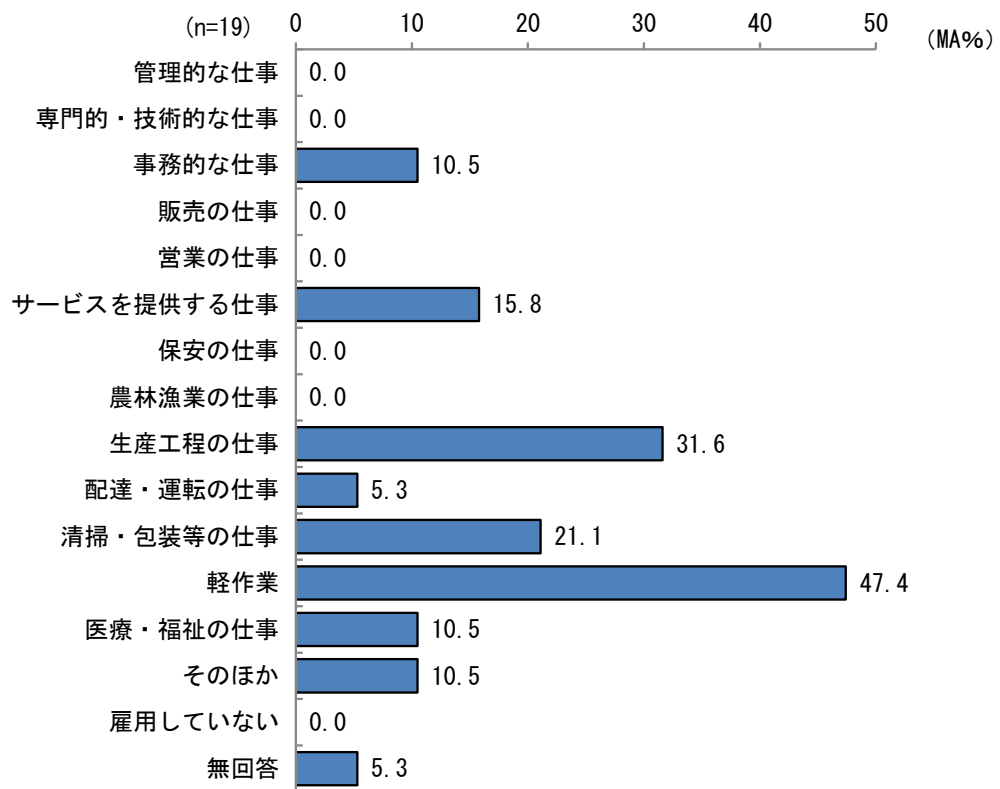
②知的障害は、「軽作業」が47.4%と最も高く、次いで「生産工程の仕事」が31.6%、「清掃・包装等の仕事」が21.1%となっています。

③精神障害は、「事務的な仕事」が55.0%と最も高く、次いで「軽作業」が35.0%、「清掃・包装等の仕事」が15.0%となっています。

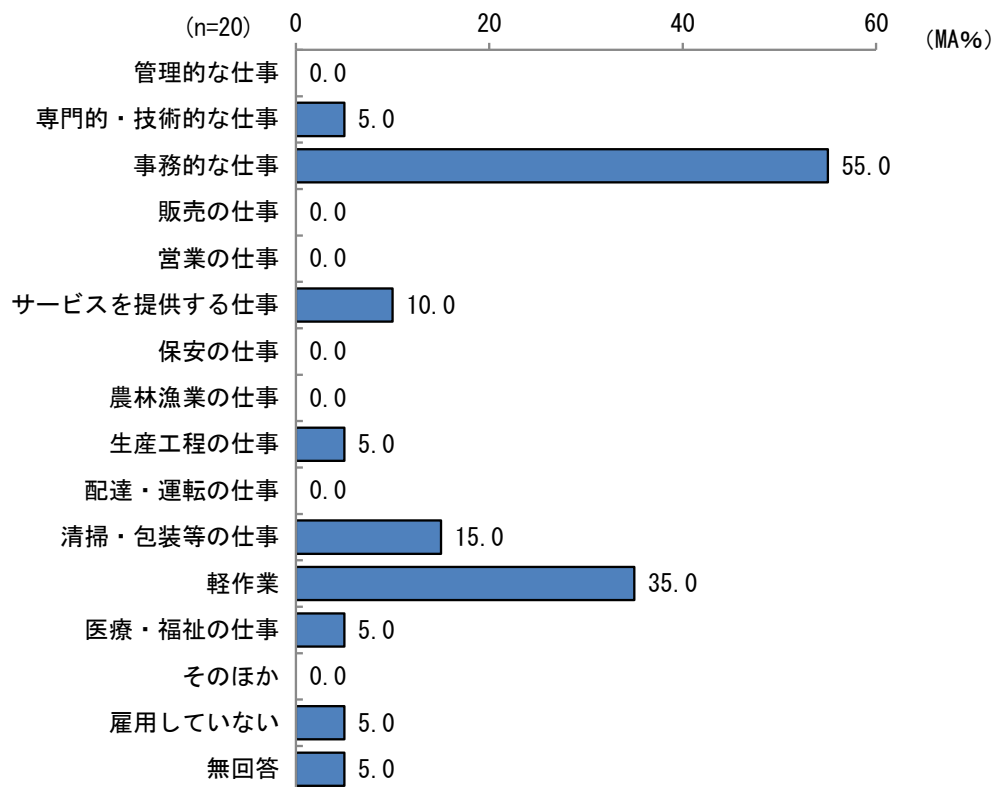
### ①身体障害



## ②知的障害



### ③精神障害



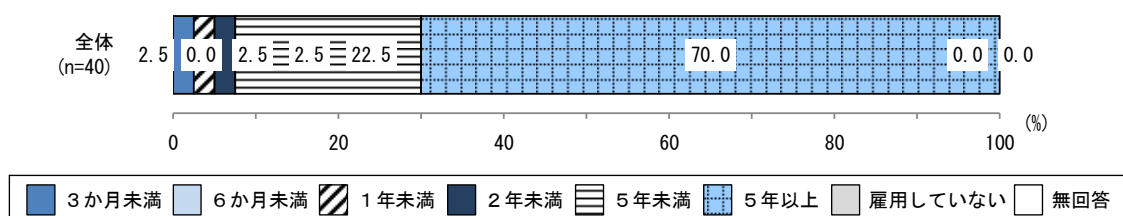
## 6 雇用している（していた）障害のある人の雇用期間（単数回答）

①身体障害は、「5年以上」が70.0%と最も高く、次いで「5年未満」が22.5%、「2年未満」「1年未満」「3か月未満」が同率で2.5%となっています。

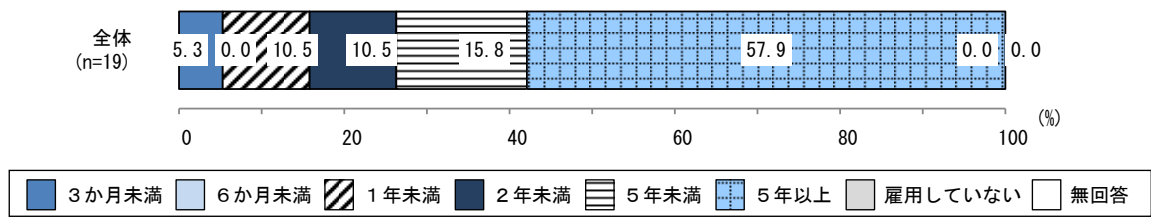
②知的障害は、「5年以上」が57.9%と最も高く、次いで「5年未満」が15.8%、「1年未満」「2年未満」が同率で10.5%となっています。

③精神障害は、「5年以上」が45.0%と最も高く、次いで「5年未満」が30.0%、「6か月未満」「1年未満」が同率で10.0%となっています。

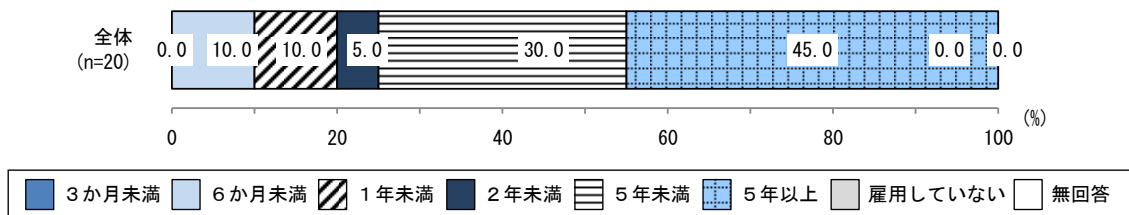
### ①身体障害



## ②知的障害

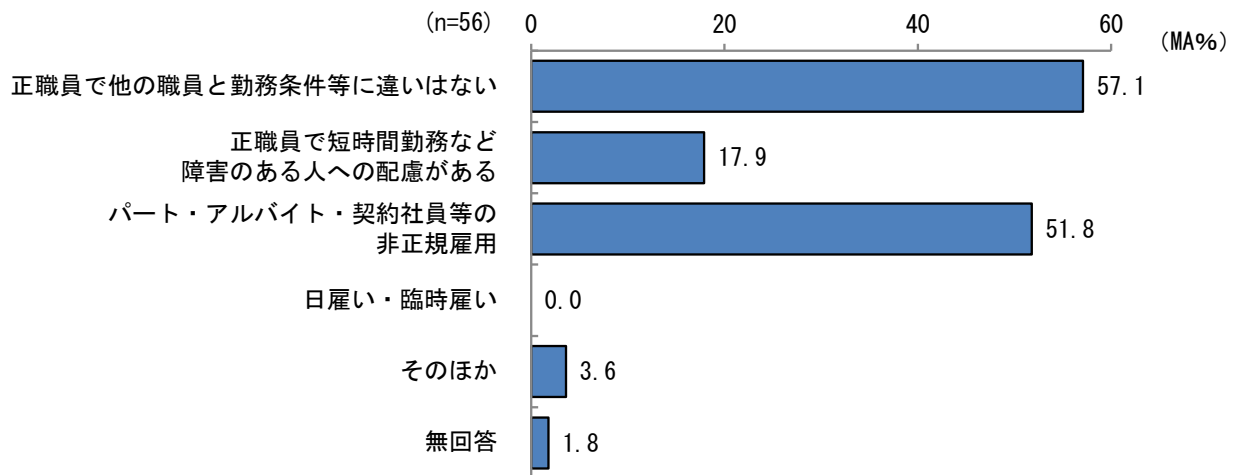


## ③精神障害



## 7 雇用している（していた）障害のある人の就労形態（複数回答）

雇用している（していた）障害のある人の就労形態は、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が57.1%と最も高く、次いで「パート・アルバイト・契約社員等の非正規雇用」が51.8%、「正職員で短時間勤務など障害のある人への配慮がある」が17.9%となっています。



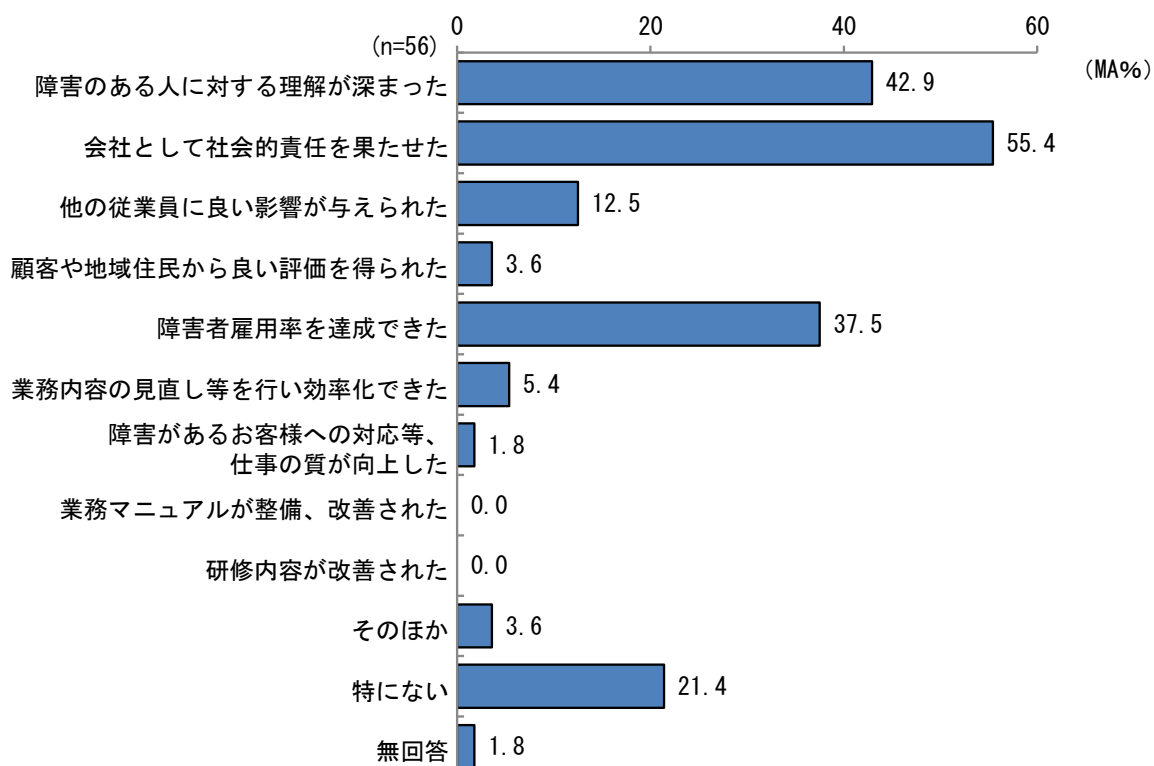
## ◇雇用している（していた）障害のある人の就労形態×雇用者の障害種別

雇用者の障害種別にみると、身体障害者を雇用は「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が最も高く、それぞれ67.5%、70.0%となっています。知的障害者を雇用は「パート・アルバイト・契約社員等の非正規雇用」が89.5%と最も高くなっています。

	回答数	正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない	正職員で短時間勤務など障害のある人への配慮がある	パート・アルバイト・契約社員等の非正規雇用	日雇い・臨時雇い	そのほか	無回答
身体障害者を雇用	40	67.5	17.5	50.0	0.0	2.5	0.0
知的障害者を雇用	19	52.6	21.1	89.5	0.0	0.0	0.0
精神障害者を雇用	20	70.0	25.0	65.0	0.0	0.0	0.0

## 8 障害のある人を雇用して良かったと感じる点（複数回答）

障害のある人を雇用して良かったと感じる点は、「会社として社会的責任を果たせた」が55.4%と最も高く、次いで「障害のある人に対する理解が深まった」が42.9%、「障害者雇用率を達成できた」が37.5%となっています。



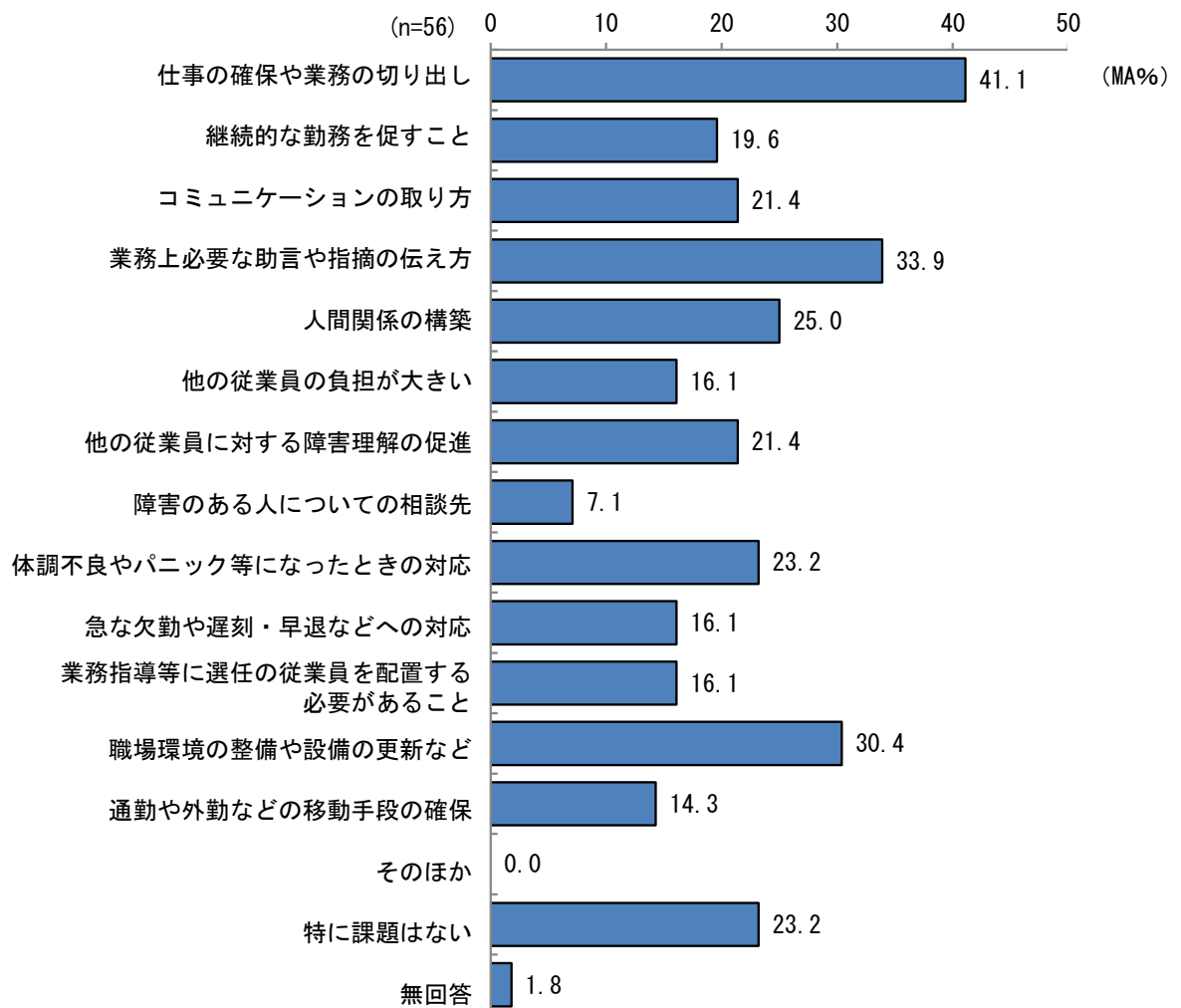
### ◇障害のある人を雇用して良かったと感じる点×雇用者の障害種別

雇用者の障害種別にみると、3障害ともに「会社として社会的責任を果たせた」が最も高く、それぞれ62.5%、63.2%、60.0%となっています。

	回答数	障害のある人に対する理解が深まった	会社として社会的責任を果たせた	他の従業員に良い影響が与えられた	顧客や地域住民から良い評価を得られた	障害者雇用率を達成できた	業務内容の見直し等を行い効率化できた
身体障害者を雇用	40	45.0	62.5	12.5	2.5	42.5	2.5
知的障害者を雇用	19	57.9	63.2	21.1	10.5	52.6	10.5
精神障害者を雇用	20	30.0	60.0	15.0	10.0	45.0	15.0
	回答数	障害があるお客様への対応等、仕事の質が向上した	業務マニュアルが整備、改善された	研修内容が改善された	そのほか	特にない	無回答
身体障害者を雇用	40	2.5	0.0	0.0	2.5	20.0	0.0
知的障害者を雇用	19	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0
精神障害者を雇用	20	0.0	0.0	0.0	5.0	20.0	0.0

## 9 障害のある人の雇用で課題と感ずること（複数回答）

障害のある人の雇用で課題と感ずることは、「仕事の確保や業務の切り出し」が41.1%と最も高く、次いで「業務上必要な助言や指摘の伝え方」が33.9%、「職場環境の整備や設備の更新など」が30.4%となっています。





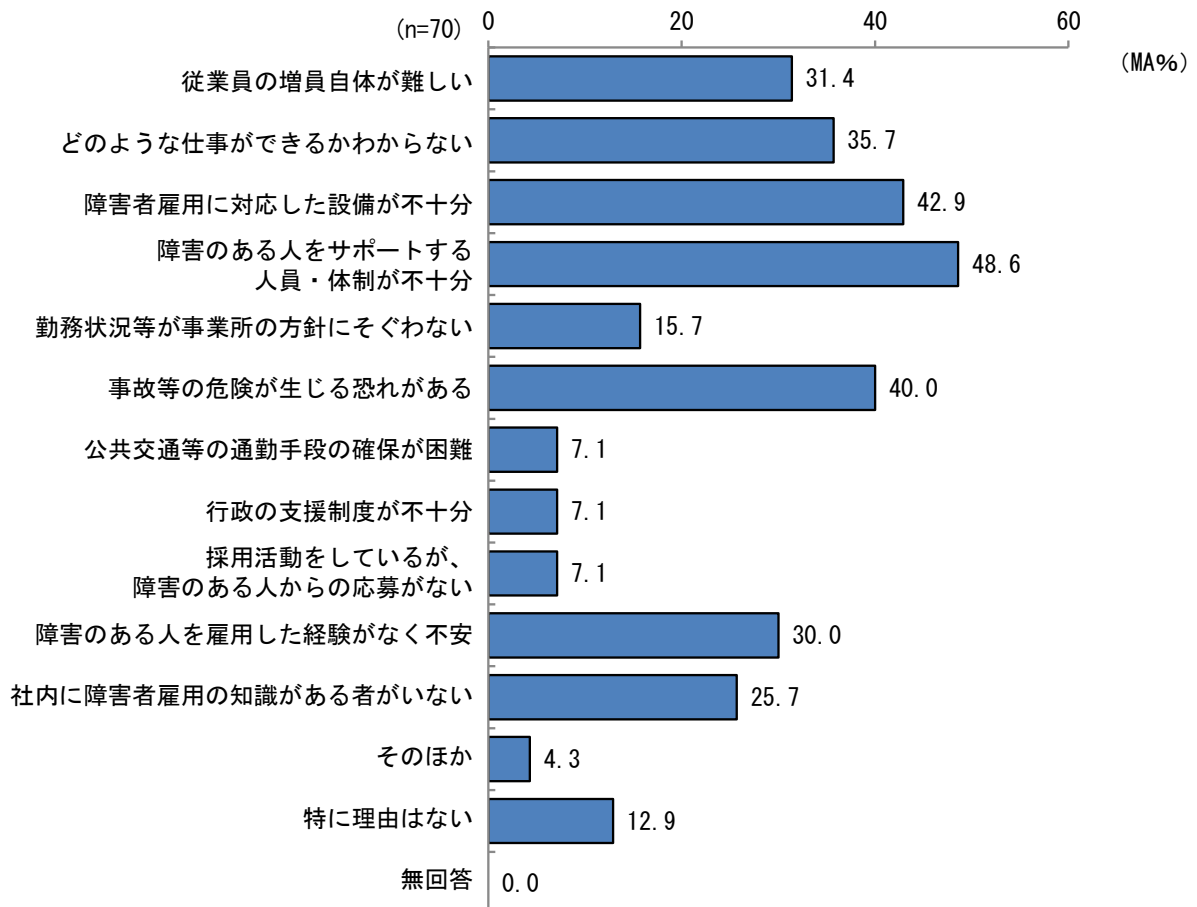
### ◇障害のある人の雇用で課題と感ずること×雇用者の障害種別

雇用者の障害種別にみると、知的障害者を雇用は「業務上必要な助言や指摘の伝え方」がそれぞれ 52.6%、50.0%と高くなっており、身体障害者を雇用は「職場環境の整備や設備の更新など」が 35.0%と他の2障害に比べ高くなっています。

	回答数	仕事の確保 や業務の切り出し	継続的な勤務を促すこと	コミュニケーションの取り方	業務上必要な助言や指摘の伝え方	人間関係の構築	他の従業員の負担が大きい	他の従業員に対する障害理解の促進
身体障害者を雇用	40	45.0	22.5	10.0	25.0	17.5	12.5	22.5
知的障害者を雇用	19	42.1	31.6	31.6	52.6	47.4	21.1	42.1
精神障害者を雇用	20	50.0	30.0	35.0	50.0	40.0	15.0	30.0
	回答数	障害のある人についての相談先	体調不良やパニック等になったときの対応	急な欠勤や遅刻・早退などへの対応	業務指導等に選任の従業員を配置する必要があること	職場環境の整備や設備の更新など	通勤や外勤などの移動手段の確保	
身体障害者を雇用	40	10.0	22.5	12.5	17.5	35.0	15.0	
知的障害者を雇用	19	10.5	21.1	15.8	31.6	15.8	15.8	
精神障害者を雇用	20	15.0	25.0	25.0	15.0	15.0	10.0	

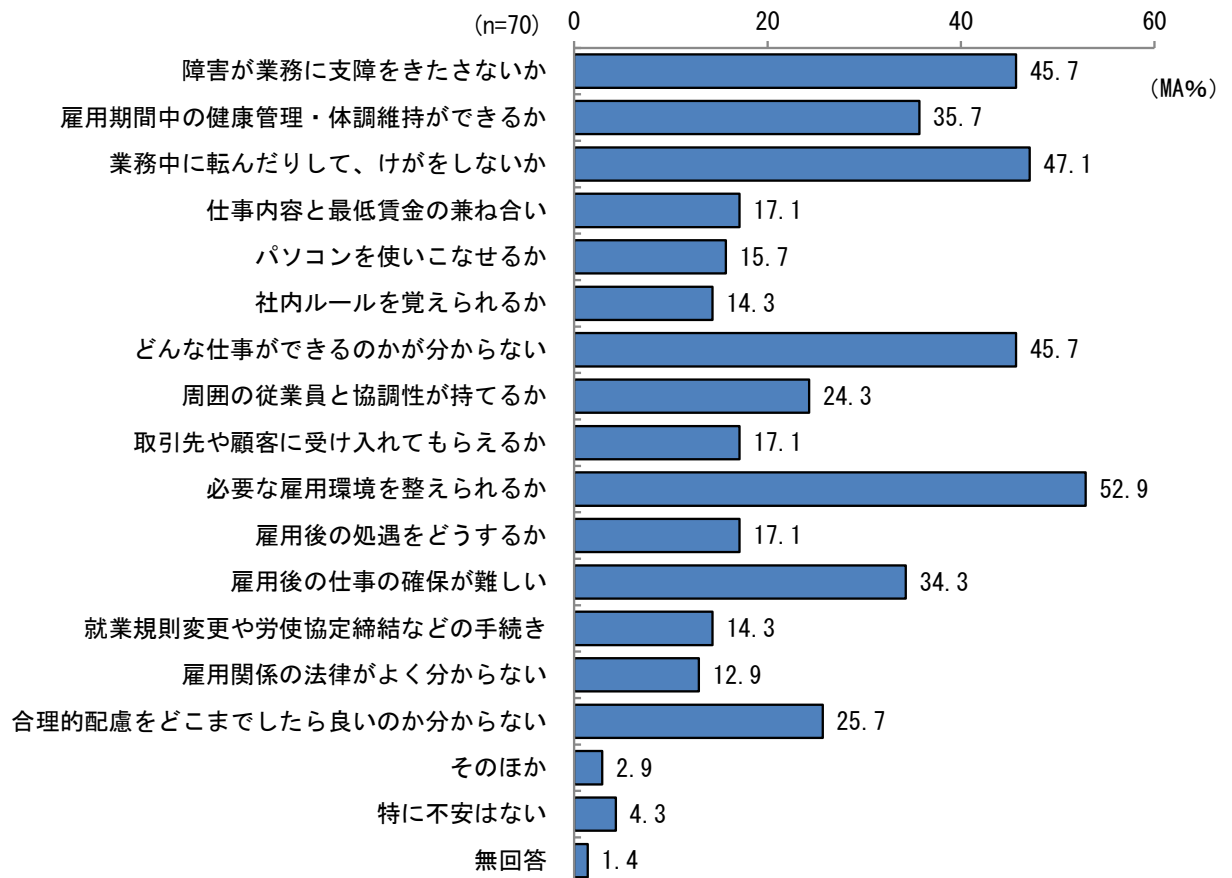
### 10 (1-3で「雇用したことがない」と回答された方) 雇用していない理由 (複数回答)

雇用していない理由は、「障害のある人をサポートする人員・体制が不十分」が48.6%と最も高く、次いで「障害者雇用に対応した設備が不十分」が42.9%、「事故等の危険が生じる恐れがある」が40.0%となっています。



11 (1-3で「雇用したことがない」と回答された方)雇用するにあたり、課題に感じること  
(複数回答)

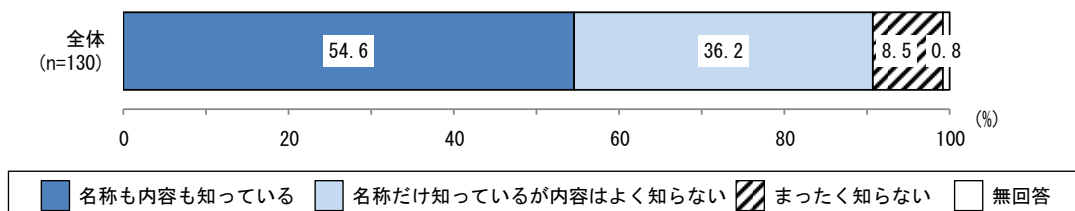
雇用するにあたり、課題に感じることは、「必要な雇用環境を整えられるか」が52.9%と最も高く、次いで「業務中に転んだりして、けがをしないか」が47.1%、「障害が業務に支障をきたさないか」「どんな仕事ができるのかが分からない」が同率で45.7%となっています。



## 2. 今後の障害者雇用について

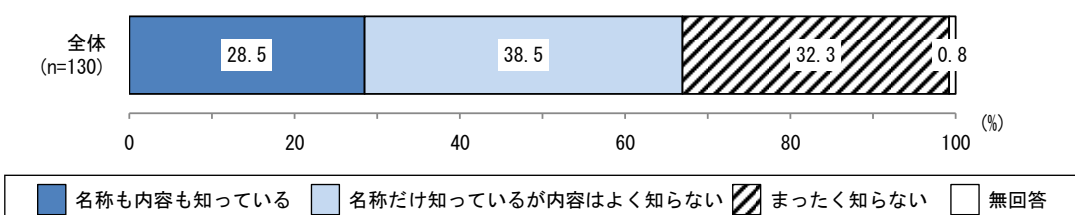
### 1 障害者雇用率制度を知っているか（単数回答）

障害者雇用率制度の認知度は、「名称も内容も知っている」が54.6%、「名称だけ知っているが内容はよく知らない」が36.2%、「まったく知らない」が8.5%となっています。



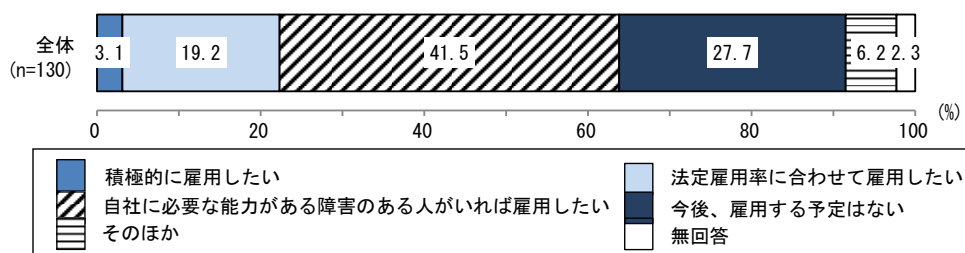
### 2 特例給付金の支給要件を知っているか（単数回答）

特例給付金の支給要件の認知度は、「名称だけ知っているが内容はよく知らない」が38.5%、「まったく知らない」が32.3%、「名称も内容も知っている」が28.5%となっています。



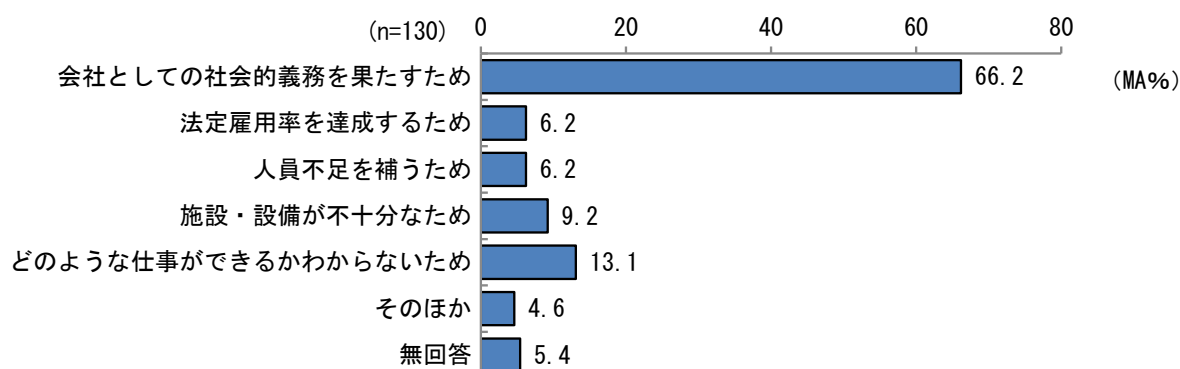
### 3 今後の障害者雇用への展望（単数回答）

今後の障害者雇用への展望は、「自社に必要な能力がある障害のある人がいれば雇用したい」が41.5%と最も高く、次いで「今後、雇用する予定はない」が27.7%、「法定雇用率に合わせて雇用したい」が19.2%となっています。



#### 4 (2-3のように考えている)理由(複数回答)

「会社としての社会的義務を果たすため」が66.2%と最も高く、次いで「どのような仕事ができるかわからないため」が13.1%、「施設・設備が不十分なため」が9.2%となっています。



#### ◇ (2-3のように考えている)理由×企業の業種別

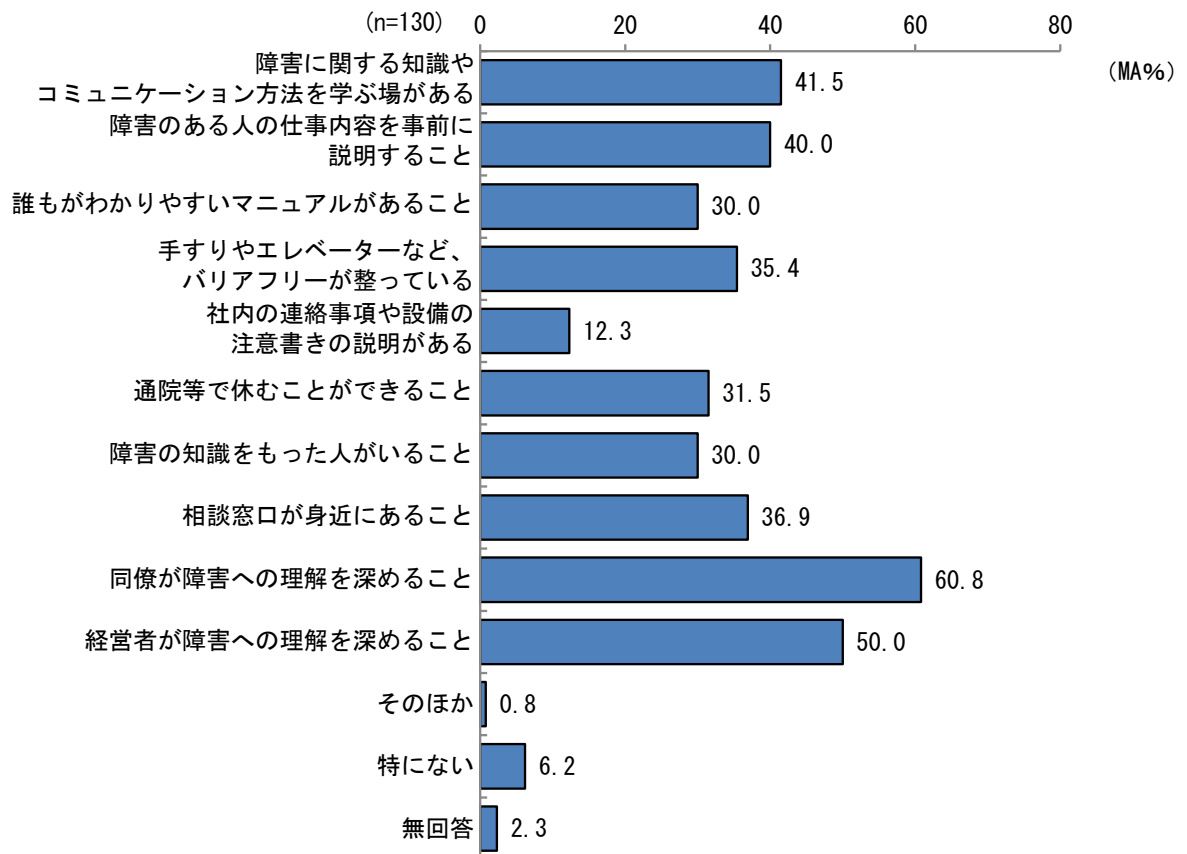
企業の業種別にみると、全体で割合の高い「会社としての社会的義務を果たすため」の中でも医療、福祉業、建設業、運輸業、郵便業が70.0%を超え高くなっています。

卸売業、小売業は「施設・設備が不十分なため」と「どのような仕事ができるかわからないため」が同率の23.5%と他の業種に比べ高くなっています。

	回答数	会社としての社会的義務を果たすため	法定雇用率を達成するため	人員不足を補うため	施設・設備が不十分なため	どのような仕事ができるかわからないため	そのほか	無回答
医療、福祉業	27	74.1	3.7	3.7	3.7	11.1	3.7	7.4
製造業	18	55.6	11.1	5.6	16.7	22.2	0.0	5.6
卸売業、小売業	17	47.1	11.8	0.0	23.5	23.5	11.8	5.9
建設業	15	73.3	0.0	13.3	13.3	6.7	0.0	6.7
運輸業、郵便業	12	75.0	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3	8.3
そのほかサービス業	12	58.3	0.0	8.3	8.3	16.7	16.7	0.0

## 5 障害のある人が、働くにあたって事業所や一緒に働く人に希望すること（複数回答）

障害のある人が、働くにあたって事業所や一緒に働く人に希望することは、「同僚が障害への理解を深めること」が60.8%と最も高く、次いで「経営者が障害への理解を深めること」が50.0%、「障害に関する知識やコミュニケーション方法を学ぶ場がある」が41.5%となっています。



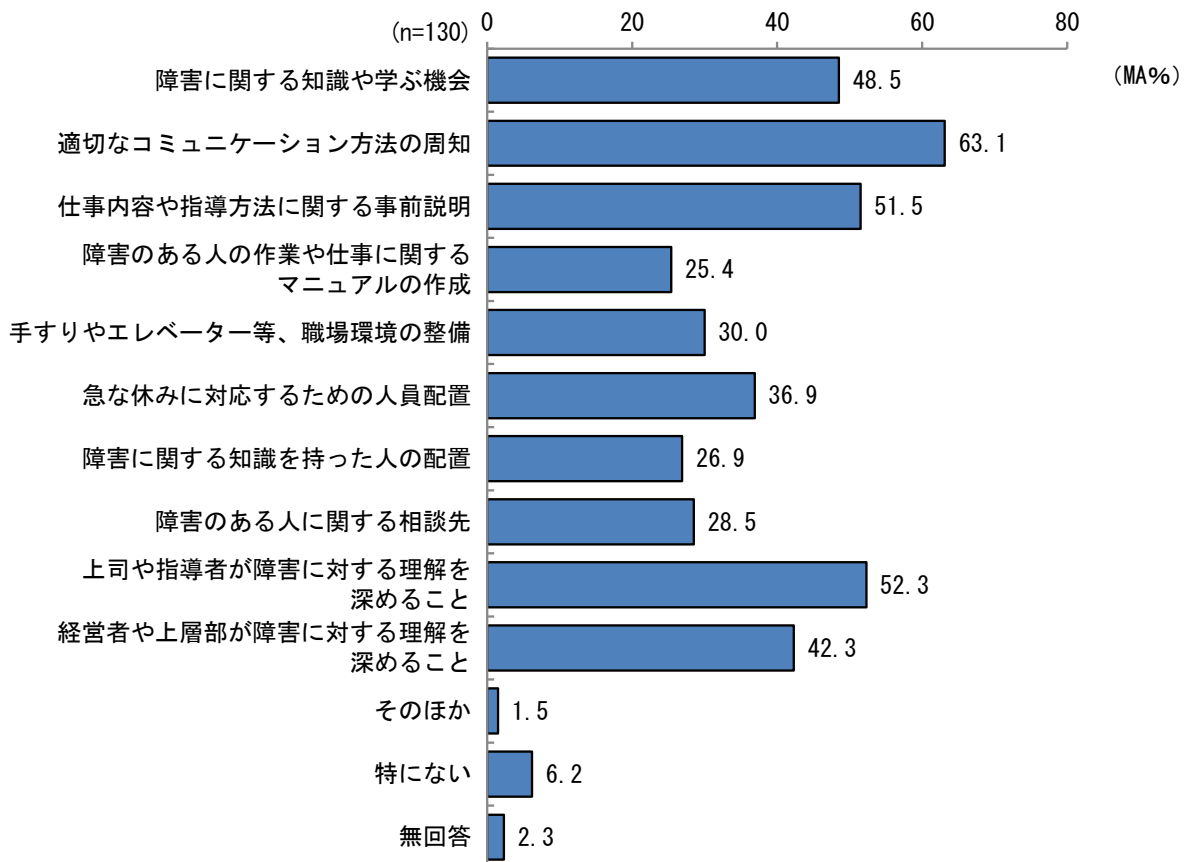
### ◇障害のある人が、働くにあたって事業所や一緒に働く人に希望すること×雇用者の障害種別

雇用者の障害種別にみると、3障害とも「同僚が障害への理解を深めること」が最も高く、特に知的障害者は78.9%と他の2障害と比べ高くなっています。

雇用者の障害種別	回答数	障害に関する知識やコミュニケーション方法を学ぶ場がある	障害のある人の仕事内容を事前に説明すること	誰もがわかりやすいマニュアルがあること	手すりやエレベーターなど、バリアフリーが整っている	社内の連絡事項や設備の注意書きの説明がある	通院等で休むことができること	障害の知識をもった人がいること
身体障害者を雇用	40	32.5	42.5	25.0	37.5	15.0	37.5	22.5
知的障害者を雇用	19	36.8	63.2	52.6	21.1	26.3	42.1	26.3
精神障害者を雇用	20	30.0	35.0	50.0	20.0	20.0	45.0	25.0
	回答数	相談窓口が身近にあること	同僚が障害への理解を深めること	経営者が障害への理解を深めること	そのほか	特になし	無回答	
身体障害者を雇用	40	37.5	57.5	40.0	0.0	7.5	0.0	
知的障害者を雇用	19	31.6	78.9	42.1	0.0	5.3	0.0	
精神障害者を雇用	20	50.0	55.0	40.0	0.0	5.0	0.0	

## 6 健常者の従業員が、障害のある人と一緒に働くにあたって事業所に希望すること（複数回答）

障害のある人と一緒に働くにあたって事業所に希望することは、「適切なコミュニケーション方法の周知」が63.1%と最も高く、次いで「上司や指導者が障害に対する理解を深めること」が52.3%、「仕事内容や指導方法に関する事前説明」が51.5%となっています。



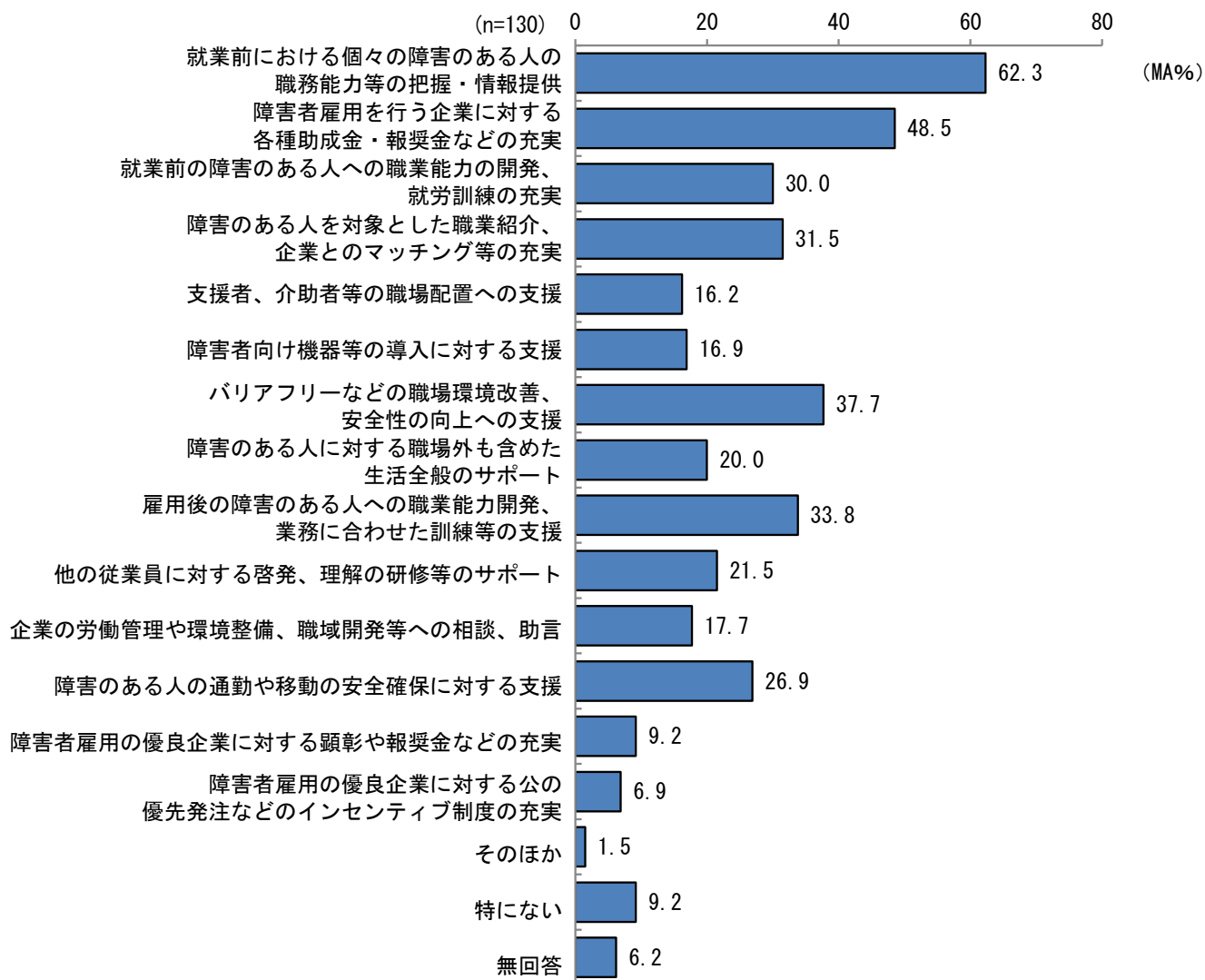
### ◇健常者の従業員が、障害のある人と一緒に働くにあたって事業所に希望すること×雇用者の障害種別

雇用者の障害種別にみると、3障害とも「上司や指導者が障害に対する理解を深めること」が半数以上の割合を占め高くなっています。知的障害者を雇用は「仕事内容や指導方法に関する事前説明」が89.5%と特に高くなっています。

	回答数	障害に関する知識や学ぶ機会	適切なコミュニケーション方法の周知	仕事内容や指導方法に関する事前説明	障害のある人の作業や仕事に関するマニュアルの作成	手すりやエレベーター等、職場環境の整備	急な休みに対応するための人員配置	障害に関する知識を持った人の配置
身体障害者を雇用	40	45.0	52.5	52.5	17.5	27.5	32.5	22.5
知的障害者を雇用	19	42.1	78.9	89.5	36.8	15.8	36.8	26.3
精神障害者を雇用	20	40.0	75.0	65.0	25.0	10.0	35.0	20.0
	回答数	障害のある人に関する相談先	上司や指導者が障害に対する理解を深めること	経営者や上層部が障害に対する理解を深めること	そのほか	特になし	無回答	
身体障害者を雇用	40	32.5	60.0	37.5	0.0	7.5	0.0	
知的障害者を雇用	19	47.4	63.2	36.8	0.0	5.3	0.0	
精神障害者を雇用	20	40.0	60.0	35.0	0.0	5.0	0.0	

## 7 障害者雇用を進める場合、希望する支援（複数回答）

障害者雇用を進める場合、希望する支援は、「就業前における個々の障害のある人の職務能力等の把握・情報提供」が62.3%と最も高く、次いで「障害者雇用を行う企業に対する各種助成金・報奨金などの充実」が48.5%、「バリアフリーなどの職場環境改善、安全性の向上への支援」が37.7%となっています。





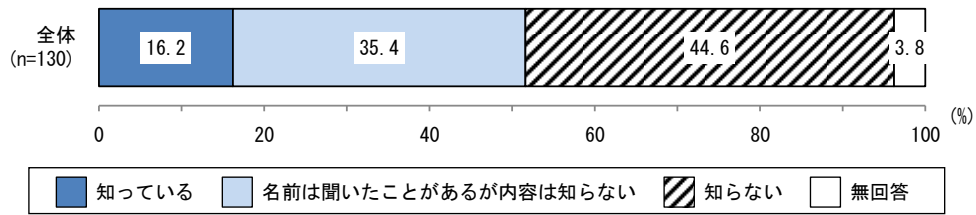
### ◇障害者雇用を進める場合、希望する支援×雇用者の障害種別

雇用者の障害種別にみると、3障害ともに割合が高い「就業前における個々の障害のある人の職務能力等の把握・情報提供」の中でも、精神障害者を雇用は75.0%と特に高くなっています。知的障害者を雇用は「障害のある人に対する職場外も含めた生活全般のサポート」が31.6%と、他の2障害より高い割合となっています。

	回答数	就業前における個々の障害のある人の職務能力等の把握・情報提供	障害者雇用を行う企業に対する各種助成金・報奨金などの充実	就業前の障害のある人への職業能力の開発、就労訓練の充実	障害のある人を対象とした職業紹介、企業とのマッチング等の充実	支援者、介助者等の職場配置への支援	障害者向け機器等の導入に対する支援	バリアフリーなどの職場環境改善、安全性の向上への支援
身体障害者を雇用	40	57.5	57.5	25.0	40.0	15.0	12.5	37.5
知的障害者を雇用	19	57.9	57.9	31.6	36.8	10.5	10.5	26.3
精神障害者を雇用	20	75.0	50.0	35.0	30.0	5.0	5.0	15.0
	回答数	障害のある人に対する職場外も含めた生活全般のサポート	雇用後の障害のある人への職業能力開発、業務に合わせた訓練等の支援	他の従業員に対する啓発、理解の研修等のサポート	企業の労働管理や環境整備、職域開発等への相談、助言	障害のある人の通勤や移動の安全確保に対する支援	障害者雇用の優良企業に対する顕彰や報奨金などの充実	障害者雇用の優良企業に対する公の優先発注などのインセンティブ
身体障害者を雇用	40	17.5	27.5	22.5	20.0	32.5	5.0	7.5
知的障害者を雇用	19	31.6	26.3	21.1	21.1	26.3	15.8	5.3
精神障害者を雇用	20	20.0	20.0	20.0	20.0	15.0	5.0	0.0
	回答数	そのほか	特になし	無回答				
身体障害者を雇用	40	2.5	0.0	5.0				
知的障害者を雇用	19	0.0	0.0	10.5				
精神障害者を雇用	20	0.0	0.0	10.0				

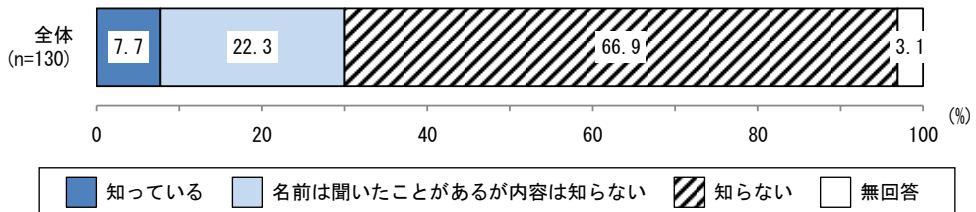
### 8 回答者に対し、「障害者差別解消法（平成 28 年 4 月 1 日施行）」について知っているか（単数回答）

障害者差別解消法の認知度は、「知らない」が 44.6%、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が 35.4%、「知っている」が 16.2%となっています。



### 9 回答者に対し、「西宮市障害を理由とする差別の解消及び誰もが暮らしやすいまちづくりの推進に関する条例（通称：障害者共生条例）」を知っているか（単数回答）

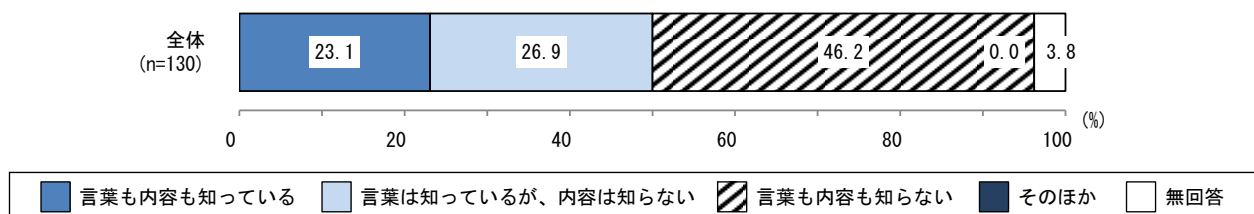
障害者共生条例の認知度は、「知らない」が 66.9%、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が 22.3%、「知っている」が 7.7%となっています。



### 3. 合理的配慮について

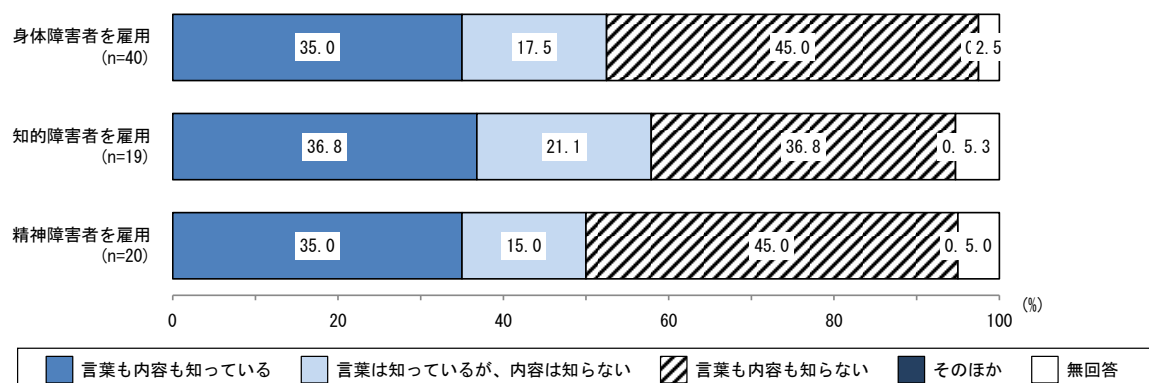
#### 1 「合理的配慮の提供」という言葉を知っているか（単数回答）

「合理的配慮の提供」という言葉の認知度は、「言葉も内容も知らない」が46.2%、「言葉は知っているが、内容は知らない」が26.9%、「言葉も内容も知っている」が23.1%となっています。



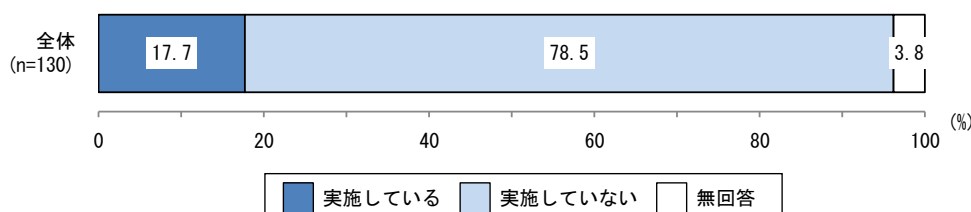
#### ◇ 「合理的配慮の提供」という言葉を知っているか×雇用者の障害種別

雇用者の障害種別にみると、3障害とも「言葉も内容も知っている」がおよそ3割とほぼ同率で、「言葉も内容も知らない」は身体障害者、精神障害者を雇用がともに45.0%と知的障害者を雇用より高くなっています。



#### 2 「合理的配慮の提供」に該当することを実施しているか（単数回答）

「合理的配慮の提供」に該当することの実施状況は、「実施していない」が78.5%、「実施している」が17.7%となっています。

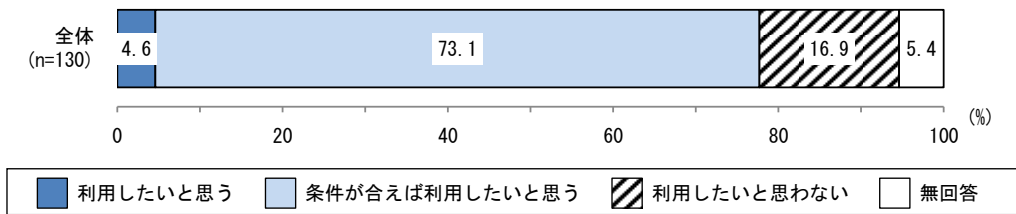


・具体的な取組内容（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ろうあ者に対しては手話及び手話学習を取り入れ</li> <li>・バリアフリーである。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・負担が重すぎない範囲でシフト・契約時間を設定</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在身体障害者のみのため、病院に通う必要があれば、それに合わせたシフト対応、業務内容など柔軟に対応する様になっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が理解しやすい工夫として作業工程の「見える化（視覚化）」（写真等の掲示等）を行っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・視野が狭い方に対して、認識しやすいよう正面から話しかける。</li> </ul>

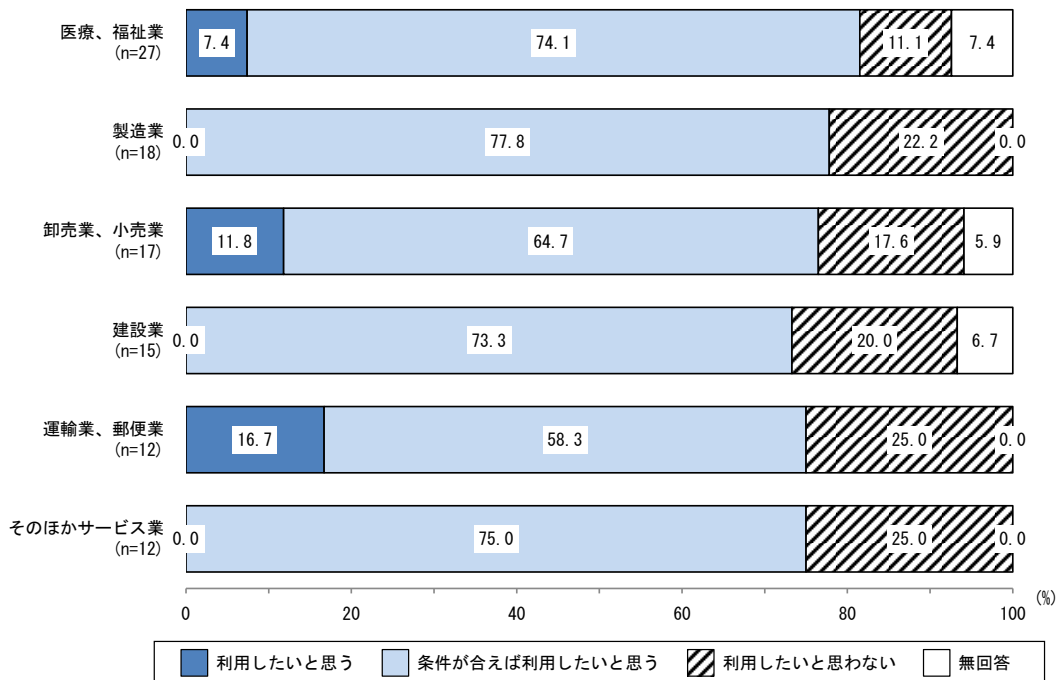
3 「合理的配慮の提供支援に係る助成金事業」を利用したいと思うか（単数回答）

「合理的配慮の提供支援に係る助成金事業」の利用意向は、「条件が合えば利用したいと思う」が73.1%、「利用したいと思わない」が16.9%、「利用したいと思う」が4.6%となっています。



◇ 「合理的配慮の提供支援に係る助成金事業」を利用したいと思うか×企業の業種別

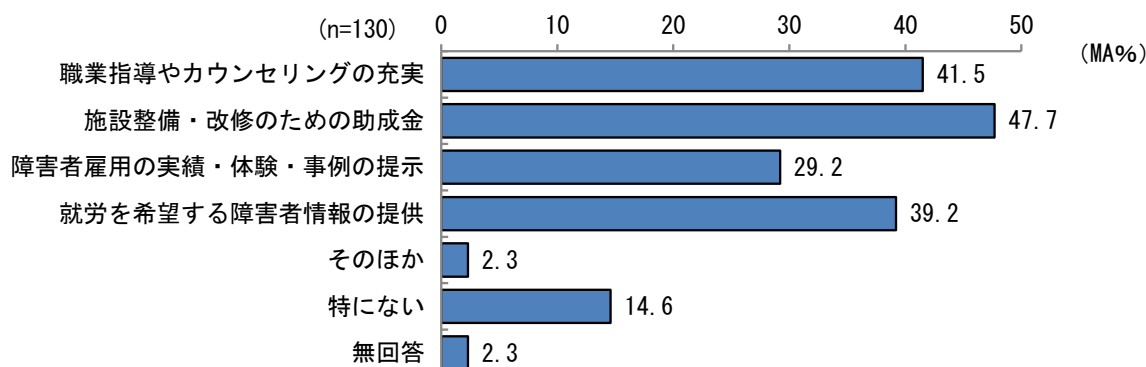
全体でも割合の高い「条件が合えば利用したいと思う」は全ての業種が半数以上の割合を占めています。



## 4. 障害のある人の社会参加について

### 1 今後の障害者雇用の方針や課題について、行政、障害者関係団体に期待する役割（複数回答）

行政、障害者関係団体に期待する役割は、「施設整備・改修のための助成金」が47.7%と最も高く、次いで「職業指導やカウンセリングの充実」が41.5%、「就労を希望する障害者情報の提供」が39.2%となっています。



### ◇今後の障害者雇用の方針や課題について、行政、障害者関係団体に期待する役割×雇用者の障害種別

雇用者の障害種別にみると、3障害とも「就労を希望する障害者情報の提供」がおよそ4～5割と高い一方で、知的障害者を雇用は「施設整備・改修のための助成金」が26.3%と他の2障害と比べ低くなっています。

	回答数	職業指導や カウンセリングの充実	施設整備・ 改修のため の助成金	障害者雇用 の実績・体 験・事例の 提示	就労を希望 する障害者 情報の提供	そのほか	特にない	無回答
身体障害者を雇用	40	32.5	55.0	20.0	42.5	2.5	7.5	2.5
知的障害者を雇用	19	42.1	26.3	15.8	47.4	0.0	21.1	5.3
精神障害者を雇用	20	50.0	45.0	20.0	55.0	0.0	10.0	0.0

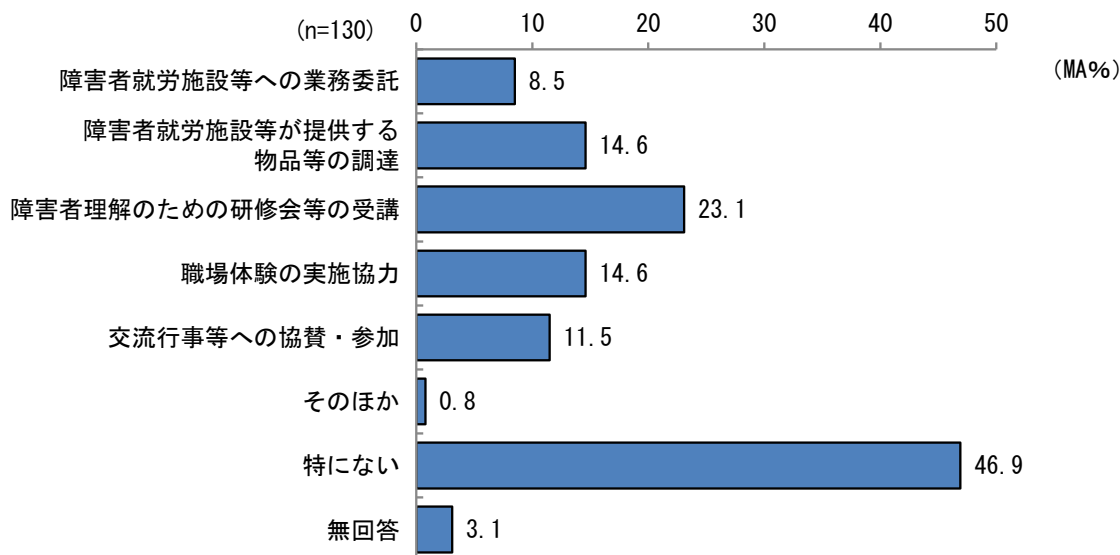
### ◇今後の障害者雇用の方針や課題について、行政、障害者関係団体に期待する役割×企業の業種別

企業の業種別にみると、「就労を希望する障害者情報の提供」の割合は医療、福祉業が55.6%、運輸業、郵便業が75.0%と他の業種と比べ高くなっています。

	回答数	職業指導や カウンセリングの充実	施設整備・ 改修のため の助成金	障害者雇用 の実績・体 験・事例の 提示	就労を希望 する障害者 情報の提供	そのほか	特にない	無回答
医療、福祉業	27	37.0	44.4	33.3	55.6	3.7	11.1	7.4
製造業	18	44.4	27.8	16.7	16.7	0.0	22.2	0.0
卸売業、小売業	17	47.1	47.1	23.5	29.4	0.0	29.4	0.0
建設業	15	40.0	66.7	46.7	40.0	0.0	20.0	0.0
運輸業、郵便業	12	33.3	41.7	33.3	75.0	8.3	8.3	0.0
そのほかサービス業	12	50.0	16.7	33.3	33.3	8.3	16.7	0.0

## 2 障害のある人の社会参加について、協力・共同できそうな取組はあるか（複数回答）

協力・共同できそうな取組は、「特にない」を除くと「障害者理解のための研修会等の受講」が23.1%と最も高く、次いで「障害者就労施設等が提供する物品等の調達」「職場体験の実施協力」が同率で14.6%となっています。



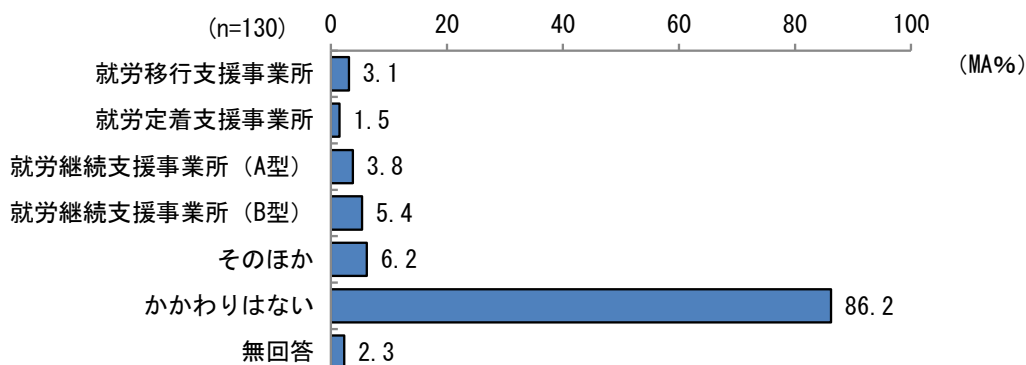
### ◇「合理的配慮の提供支援に係る助成金事業」を利用したいと思うか×企業の業種別

企業の業種別にみると、「障害者理解のための研修会等の受講」は医療、福祉業が44.4%と最も高くなっており、次いで卸売業、小売業が29.4%となっています。建設業は「障害者就労施設等が提供する物品等の調達」が40.0%と他の業種と比べて高くなっています。

	回答数	障害者就労施設等への業務委託	障害者就労施設等が提供する物品等の調達	障害者理解のための研修会等の受講	職場体験の実施協力	交流行事等への協賛・参加	そのほか	特にない	無回答
医療、福祉業	27	14.8	22.2	44.4	25.9	18.5	0.0	22.2	3.7
製造業	18	5.6	11.1	11.1	5.6	11.1	5.6	66.7	0.0
卸売業、小売業	17	5.9	5.9	29.4	5.9	5.9	0.0	64.7	0.0
建設業	15	6.7	40.0	13.3	6.7	0.0	0.0	46.7	0.0
運輸業、郵便業	12	0.0	0.0	0.0	16.7	8.3	0.0	66.7	8.3
そのほかサービス業	12	16.7	25.0	0.0	8.3	16.7	0.0	50.0	0.0

### 3 次の障害者雇用・就労に関する機関とかかわりがあるか（複数回答）

障害者雇用・就労に関する機関とかかわりは、「かかわりはない」を除くと「そのほか」が6.2%と最も高く、次いで「就労継続支援事業所（B型）」が5.4%、「就労継続支援事業所（A型）」が3.8%となっています。



#### ◇次の障害者雇用・就労に関する機関とかかわりがあるか×雇用者の障害種別

雇用者の障害種別にみると、3障害とも高い割合の「かかわりはない」を除くと、「就労継続支援事業所（B型）」がそれぞれ10.0%を超え、他の項目より高くなっています。

	回答数	就労移行支援事業所	就労定着支援事業所	就労継続支援事業所(A型)	就労継続支援事業所(B型)	そのほか	かかわりはない	無回答
身体障害者を雇用	40	5.0	5.0	5.0	10.0	15.0	75.0	0.0
知的障害者を雇用	19	21.1	10.5	15.8	21.1	26.3	57.9	0.0
精神障害者を雇用	20	15.0	10.0	10.0	15.0	15.0	70.0	0.0

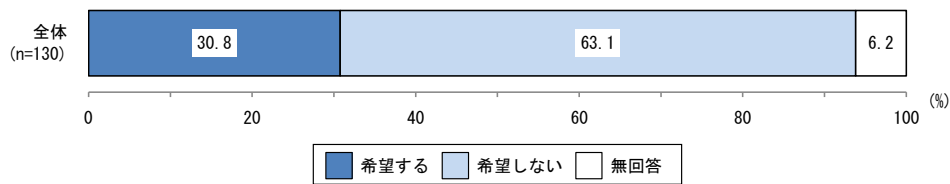
#### 4 障害のある人の雇用に関するご意見やご要望

<p>・障害のある人といっても、身体的なもの、精神的なもの、あるいは心臓ペースメーカーや人工肛門など適切に管理を行えば健常者と同じ業務ができるものなど、その種類や程度は多岐にわたっていると思います。また、企業の業務も、業種、仕事内容、規模、財力など多岐にわたっております。行政機関においては、これらの多岐にわたっている障害のある人側と企業側のニーズをマッチングさせるような施策を遂行いただけると雇用の促進につながると考えます。</p>
<p>・弊社の業務であれば、パソコンさえあればできると思います。その人の能力次第で、活躍できる職場はあると思いますが、車椅子の方が、就業するとなると、バリアフリーのトイレ、ビルの入り口など、改良後でないと受け入れは、難しいと思っております。</p>
<p>・障害者を雇用する機会が増えるのは良いことだと思います。しかし、すべての企業が合うとは思えません。適材適所で取り組むのがいいと思います。</p>
<p>・企業によって、人数・部署・仕事内容・環境等様々なので、マッチングの相性が非常に大切</p>
<p>・当事業所は障害をお持ちの方の受け入れ範囲としては非常に狭く、たまたま障害者手帳をお持ちの方がいらっしゃる状況、健常者と同等の仕事が遂行できる方が同じ条件で働いていただいている状況となっています。親会社の事業所も含めグループとしては積極的に取り組んでおりますので、就労および就労継続に至るような行政の支援をお願いいたします。</p>
<p>・弊社の主事業では雇用の可能性を現在は見出せておらず、別事業で検討している。</p>
<p>・業務内容により、就職困難です。</p>
<p>・危険な事故が発生する可能性が高い現場であるため、雇用することが難しいです。</p>
<p>・ご本人からの就職希望と申し出のみでは、実際に働いていただいた場合に相違がみられ、お互いに難しい状況になってしまいます。本人をよく知る方からの盛っていない意見や情報があれば身体障害者の方の雇用のハードルは高くないと思います。</p>
<p>・定期的な専門指導員による訪問アドバイスが欲しい。</p>
<p>・対象となる企業の現地調査による実態把握のうえ指導・促進を行って欲しい。中小零細企業においては、このようなアンケートだけでは、回答が難しい面もあります。</p>
<p>・補助金等が大手しか利用できないので特に“障害者”を雇うメリットが中小企業にはない。 (メリットがないから雇わないとは言わないし、その人が当社に合っていれば問題ありませんが)</p>
<p>・障害者雇用率制度に当てはめるのであれば、従業員 43 人以下だと障害者を雇用する必要がありません。従業員 43 人以上の事業所が市内にどのくらいあるのでしょうか。中小企業が障害者を雇用するには、コストが掛かりすぎると考えます。仕事内容と最低賃金の兼ね合い等、ご検討いただきたいことは多いと思います。</p>
<p>・10 年以上働いている障害者がいますが、何度も警察に捕まっています。そのうち 2 回は冤罪でしたが、泣き寝入りしている家族や本人はたくさんいると思います。雇用の問題よりも、理解や差別について、世間を改善してほしい。雇用して支援しているのに、頭ごなしに犯人だと決めつけられることに疲弊しています。一緒に働く職員までが悔しい思いをしています。そういうところを雇用の促進として改善してほしい。</p>
<p>・自治体が考えていることと我々が受け入れできることなどの共有がないため、関わり合いが少ない。</p>



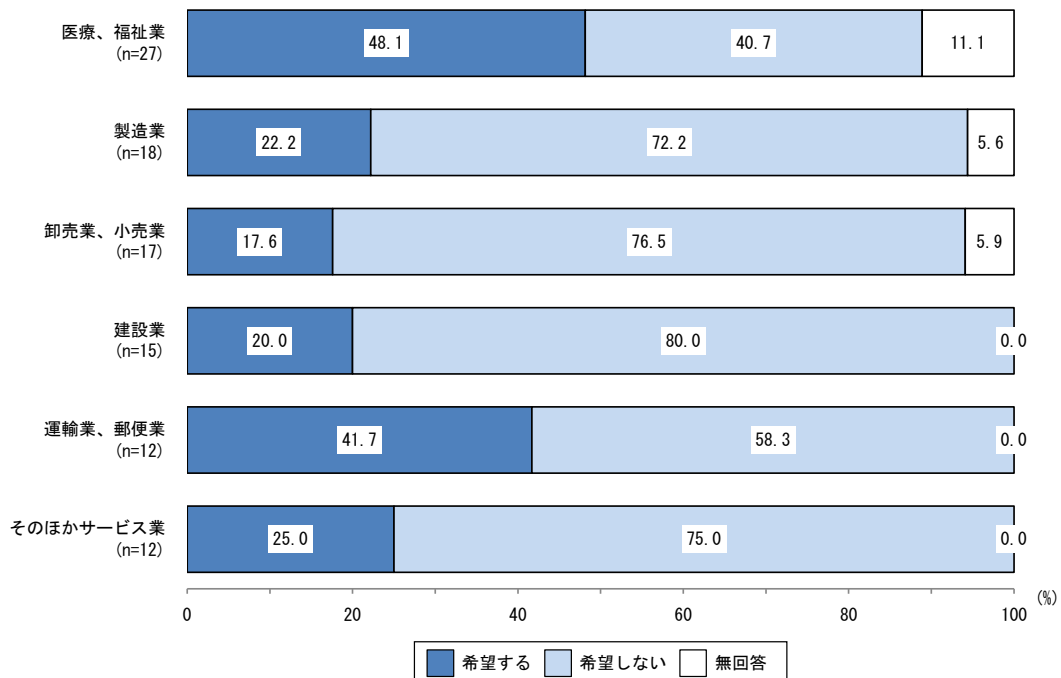
5 今後、西宮市から障害のある人に関する交流事業や研修会、障害者就労施設等の情報を提供してもよいか。(単数回答)

西宮市からの情報の提供は、「希望しない」が63.1%、「希望する」が30.8%となっています。



◇「合理的配慮の提供支援に係る助成金事業」を利用したいと思うか×企業の業種別

企業の業種別にみると、「希望しない」は医療、福祉業を除く大半の業種がおよそ5～8割と高くなっています。一方で医療、福祉業、運輸業、郵便業は「希望する」がそれぞれ48.1%、41.7%と他の業種と比べて高くなっています。

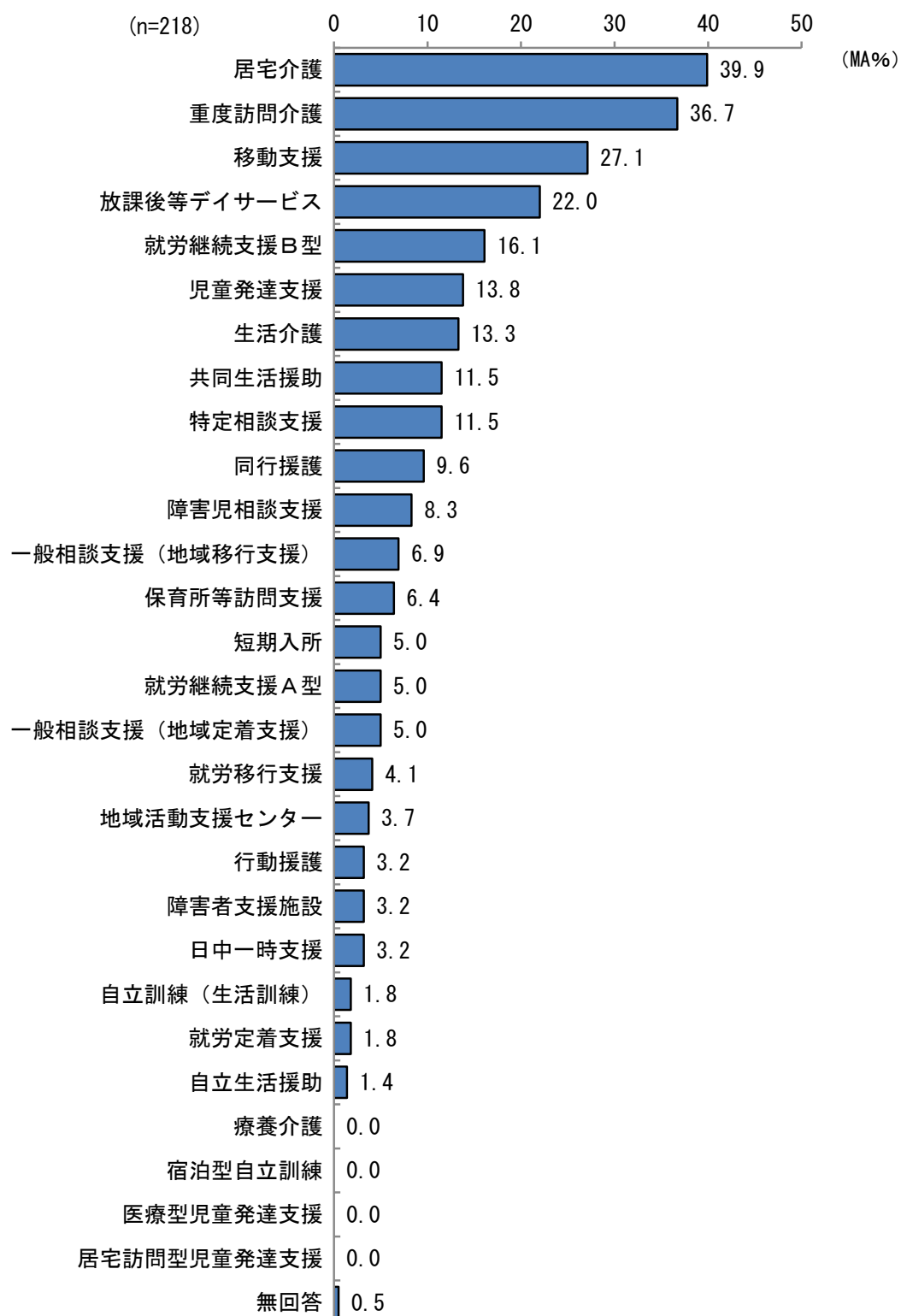


## VI 調査結果（サービス提供事業所）

### 1. 事業所について

#### 1 実施している障害福祉サービス（複数回答）

実施している障害福祉サービスは、「居宅介護」が 39.9%と最も高く、次いで「重度訪問介護」が 36.7%、「移動支援」が 27.1%となっています。



## 2 サービスの種別ごとの事業所の定員数、利用者数（令和5年1月1日時点）と今後の利用者数の変化の見込み（複数回答）

定員数は、複数の事業所で1～20人の割合が高くなっています。特に「6～10人」は児童発達支援、放課後等デイサービスがそれぞれ60.0%、72.9%、「11～20人」は就労継続支援A型、就労継続支援B型がそれぞれ63.6%、57.1%と特に高くなっています。「31～50人」は障害者支援施設が42.9%と他の事業所と比べて高くなっています。

利用者数は、いずれの事業所も81人以上の割合は低くなっています。「1～5人」が全体で最も高く、特に重度訪問介護、同行援護、短期入所はそれぞれ52.5%、47.6%、54.5%と半数前後で高くなっています。「51～80人」は他の事業所が0.0～20.0%未満の中で障害者支援施設のみが42.9%と高くなっています。

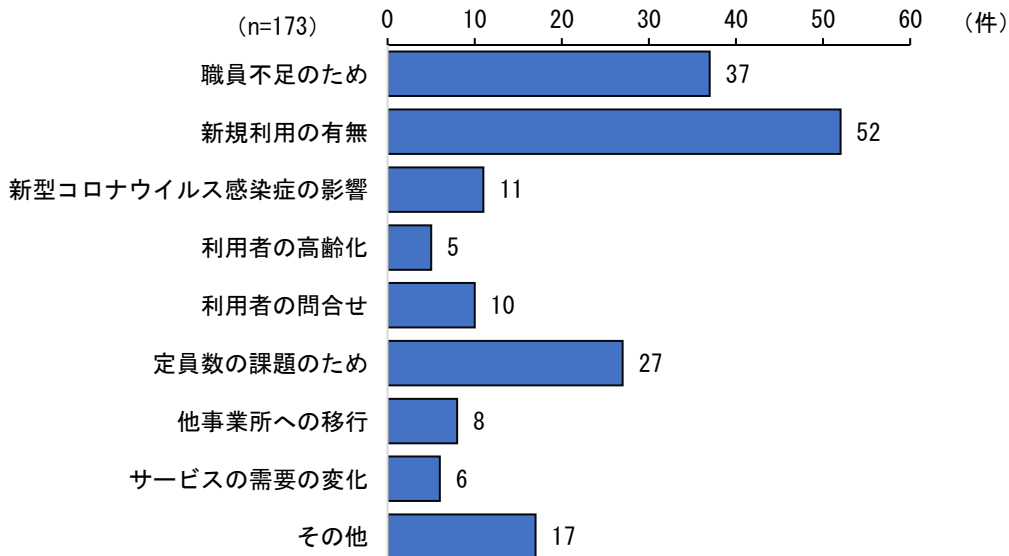
利用見込みは、全体で「横這い」の割合が高くなっており、複数の事業所がおおよそ50.0%前後と高くなっています。一方、「増加」は事業所によって回答率にばらつきが見られ、ほとんどが30.0%未満の中、特定相談支援、児童発達支援、放課後等デイサービスがそれぞれ40.0%、46.7%、39.6%と高くなっています。

サービスの種別	回答数	定員数									
		0人	1～5人	6～10人	11～20人	21～30人	31～50人	51～80人	81～100人	101人以上	無回答
居宅介護											
重度訪問介護											
同行援護											
行動援護											
療養介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活介護	29	0.0	0.0	10.3	37.9	0.0	24.1	3.4	3.4	0.0	20.7
短期入所											
共同生活援助	25	0.0	24.0	32.0	16.0	0.0	0.0	4.0	0.0	4.0	20.0
障害者支援施設	7	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	42.9	28.6	0.0	14.3	0.0
自立訓練(生活訓練)	4	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
宿泊型自立訓練	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労移行支援	9	0.0	0.0	44.4	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
就労継続支援A型	11	0.0	0.0	18.2	63.6	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
就労継続支援B型	35	0.0	0.0	5.7	57.1	11.4	11.4	5.7	0.0	0.0	8.6
特定相談支援											
一般相談支援(地域移行支援)											
一般相談支援(地域定着支援)											
就労定着支援											
自立生活援助											
障害児相談支援											
児童発達支援	30	0.0	10.0	60.0	0.0	3.3	10.0	0.0	0.0	0.0	16.7
医療型児童発達支援	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	48	0.0	8.3	72.9	2.1	2.1	4.2	2.1	0.0	0.0	8.3
居宅訪問型児童発達支援											
保育所等訪問支援											
移動支援											
地域活動支援センター	8	12.5	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5
日中一時支援											

サービスの種別	回答数	利用者数									
		0人	1~5人	6~10人	11~20人	21~30人	31~50人	51~80人	81~100人	101人以上	無回答
居宅介護	87	8.0	43.7	16.1	16.1	2.3	3.4	1.1	0.0	0.0	9.2
重度訪問介護	80	21.3	52.5	7.5	8.8	2.5	2.5	0.0	0.0	0.0	5.0
同行援護	21	9.5	47.6	4.8	9.5	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	23.8
行動援護	7	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9
療養介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活介護	29	6.9	6.9	13.8	13.8	6.9	17.2	10.3	0.0	3.4	20.7
短期入所	11	9.1	54.5	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
共同生活援助	25	4.0	44.0	12.0	20.0	0.0	4.0	4.0	0.0	4.0	8.0
障害者支援施設	7	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	42.9	0.0	14.3	0.0
自立訓練(生活訓練)	4	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
宿泊型自立訓練	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労移行支援	9	11.1	22.2	22.2	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2
就労継続支援A型	11	0.0	9.1	9.1	36.4	18.2	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1
就労継続支援B型	35	0.0	5.7	2.9	31.4	22.9	20.0	2.9	0.0	2.9	11.4
特定相談支援	25	4.0	16.0	4.0	8.0	16.0	8.0	8.0	4.0	12.0	20.0
一般相談支援(地域移行支援)	15	33.3	6.7	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	46.7
一般相談支援(地域定着支援)	11	27.3	18.2	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	36.4
就労定着支援	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0
自立生活援助	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
障害児相談支援	18	11.1	22.2	11.1	11.1	0.0	5.6	16.7	0.0	5.6	16.7
児童発達支援	30	0.0	20.0	3.3	13.3	20.0	20.0	10.0	0.0	3.3	10.0
医療型児童発達支援	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	48	2.1	6.3	12.5	16.7	22.9	10.4	10.4	2.1	10.4	6.3
居宅訪問型児童発達支援	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保育所等訪問支援	14	21.4	21.4	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	28.6
移動支援	59	8.5	32.2	15.3	5.1	3.4	3.4	5.1	0.0	0.0	27.1
地域活動支援センター	8	0.0	0.0	0.0	50.0	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5
日中一時支援	7	0.0	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3

サービスの種別	回答数	利用見込み				
		増加	減少	横這い	わからない	無回答
居宅介護	87	20.7	4.6	55.2	8.0	11.5
重度訪問介護	80	16.3	8.8	50.0	11.3	13.8
同行援護	21	9.5	9.5	38.1	19.0	23.8
行動援護	7	28.6	0.0	14.3	14.3	42.9
療養介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活介護	29	34.5	0.0	41.4	0.0	24.1
短期入所	11	9.1	9.1	54.5	18.2	9.1
共同生活援助	25	20.0	4.0	56.0	8.0	12.0
障害者支援施設	7	28.6	14.3	57.1	0.0	0.0
自立訓練(生活訓練)	4	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0
宿泊型自立訓練	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労移行支援	9	11.1	22.2	33.3	11.1	22.2
就労継続支援A型	11	27.3	9.1	45.5	0.0	18.2
就労継続支援B型	35	20.0	25.7	37.1	8.6	8.6
特定相談支援	25	40.0	0.0	28.0	8.0	24.0
一般相談支援(地域移行支援)	15	13.3	6.7	26.7	6.7	46.7
一般相談支援(地域定着支援)	11	9.1	0.0	45.5	9.1	36.4
就労定着支援	4	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0
自立生活援助	3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
障害児相談支援	18	22.2	16.7	38.9	5.6	16.7
児童発達支援	30	46.7	16.7	26.7	0.0	10.0
医療型児童発達支援	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	48	39.6	12.5	39.6	2.1	6.3
居宅訪問型児童発達支援	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保育所等訪問支援	14	28.6	0.0	21.4	7.1	42.9
移動支援	59	13.6	3.4	44.1	10.2	28.8
地域活動支援センター	8	0.0	12.5	25.0	37.5	25.0
日中一時支援	7	14.3	0.0	57.1	14.3	14.3

### 3 利用者数の見込みについて、2で回答されたように考えた理由（自由記述）



#### ・職員不足のため（抜粋）

- ・利用の依頼はあるがヘルパーがいない。

#### ・新規利用の有無（抜粋）

- ・新規利用の申し込みが今のところない。
- ・計画相談は、定期的に申し込みがあり、少しずつ契約者数を増やしていこうと思っている。地域移行支援はもっとやっていくべきと考えている。
- ・新年度から新1年生が新たに利用される予定のため
- ・現状の利用者数の維持
- ・今の利用者になって2、3年がたち、落ち着いているため

#### ・新型コロナウイルス感染症の影響（抜粋）

- ・コロナで自粛していた営業活動を再開したため
- ・コロナ禍のため、活動の見通しがたたないため

#### ・利用者の高齢化（抜粋）

- ・利用者の高齢化や状態の変化などにより、就労が難しくなってくることが想定されるため。また、働き方の多様化により、就労に特化している事業所としては若い利用者の希望もあまり見込めない状況。
- ・共生型サービスに該当し、高齢者の利用が多く、定員に余裕がないため

#### ・利用者の問合せ（抜粋）

- ・問い合わせや見学希望者が増えていて、利用希望の方々に待機していただいているため
- ・人材不足での事業所を閉じるなどがあるため、サービス利用の問い合わせが増えています。

#### ・定員数の課題のため（抜粋）

・受け入れ数の限界があるため（体制の問題）
・待機人数が多く、解消する見込みのため
・現在キャンセル待ちの方がいる状態のため
・例年継続される方が多く、定員数近くまで利用者数があるため

#### ・他事業所への移行（抜粋）

・利用者の意向で事業所を変更されるため
・就労移行支援にステップアップする方、または生活介護に移行する方が見込まれるため、また、新しく利用される予定の方が今のところ決まっていないため
・障害児相談支援の対象利用者が、特定相談支援に移行するため
・介護保険に移行するご利用者が増加しているため

#### ・サービスの需要の変化（抜粋）

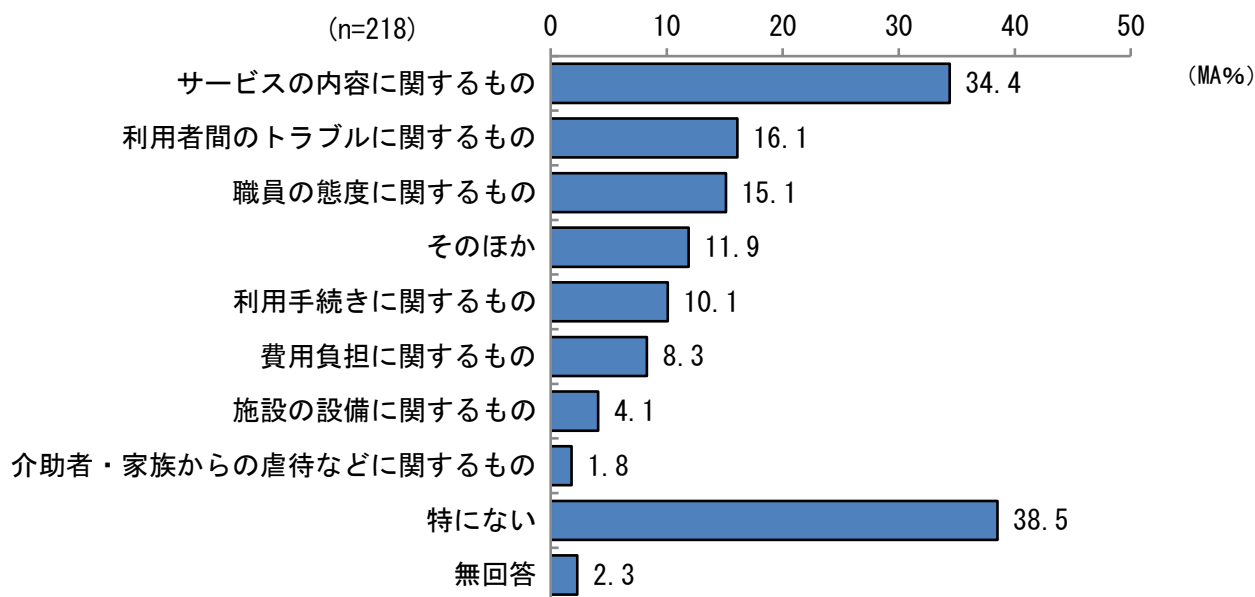
・家庭の介助者の高齢化が明らかのため、一人暮らしが増えると思っています。
・共同生活援助（グループホーム）の需要が増加している。

#### ・その他（抜粋）

・一度休まれた方が再度来られることも多く、なかなか予想しにくいです。
・退職者と入職者の入れ替わりがあり、やや利用者は減少しています。
・短期入所はあまり知られてなく、共同生活援助はなかなか利用者が決まらずにいる。

#### 4 利用者からの苦情・相談（複数回答）

利用者からの苦情・相談は、「特にない」を除くと「サービスの内容に関するもの」が34.4%と最も高く、次いで「利用者間のトラブルに関するもの」が16.1%、「職員の態度に関するもの」が15.1%となっています。



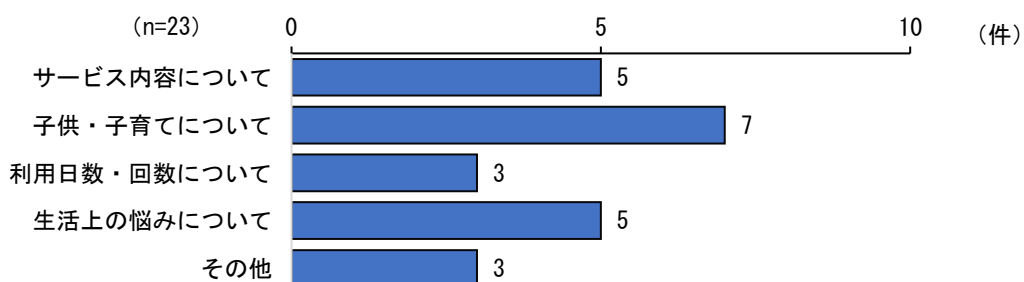
#### ◇利用者からの苦情・相談×サービス種別

サービス種別にみると、「利用者間のトラブルに関するもの」は就労継続支援B型が51.4%と最も高くなっています。また、「職員の態度に関するもの」は放課後等デイサービスと児童発達支援が、他と比べ10.0%未満と低い割合となっています。

サービス種別	回答数	苦情・相談の項目				
		サービスの内容に関するもの	利用手続きに関するもの	職員の態度に関するもの	施設の設備に関するもの	費用負担に関するもの
居宅介護	87	40.2	12.6	16.1	2.3	6.9
重度訪問介護	80	37.5	10.0	12.5	0.0	6.3
移動支援	59	35.6	15.3	15.3	3.4	6.8
放課後等デイサービス	48	25.0	10.4	4.2	4.2	18.8
就労継続支援B型	35	20.0	14.3	25.7	0.0	2.9
児童発達支援	30	30.0	10.0	6.7	3.3	16.7
	回答数	介助者・家族からの虐待などに関するもの	利用者間のトラブルに関するもの	そのほか	特にない	無回答
居宅介護	87	1.1	5.7	5.7	44.8	3.4
重度訪問介護	80	1.3	3.8	3.8	47.5	5.0
移動支援	59	1.7	6.8	6.8	42.4	5.1
放課後等デイサービス	48	0.0	6.3	31.3	33.3	0.0
就労継続支援B型	35	2.9	51.4	17.1	34.3	0.0
児童発達支援	30	3.3	3.3	30.0	43.3	0.0



## そのほか内訳



### ・ サービス内容について（抜粋）

- |                   |
|-------------------|
| ・ グループホームについて     |
| ・ コロナ感染対策時の休園について |

### ・ 子供・子育てについて（抜粋）

- |                        |
|------------------------|
| ・ お子様の特性に対する対応方法に関するもの |
| ・ 子供の将来、子育ての仕方について     |

### ・ 利用日数・回数について

- |               |
|---------------|
| ・ 利用の依頼       |
| ・ 利用日数を増やせないか |

### ・ 生活上の悩みについて

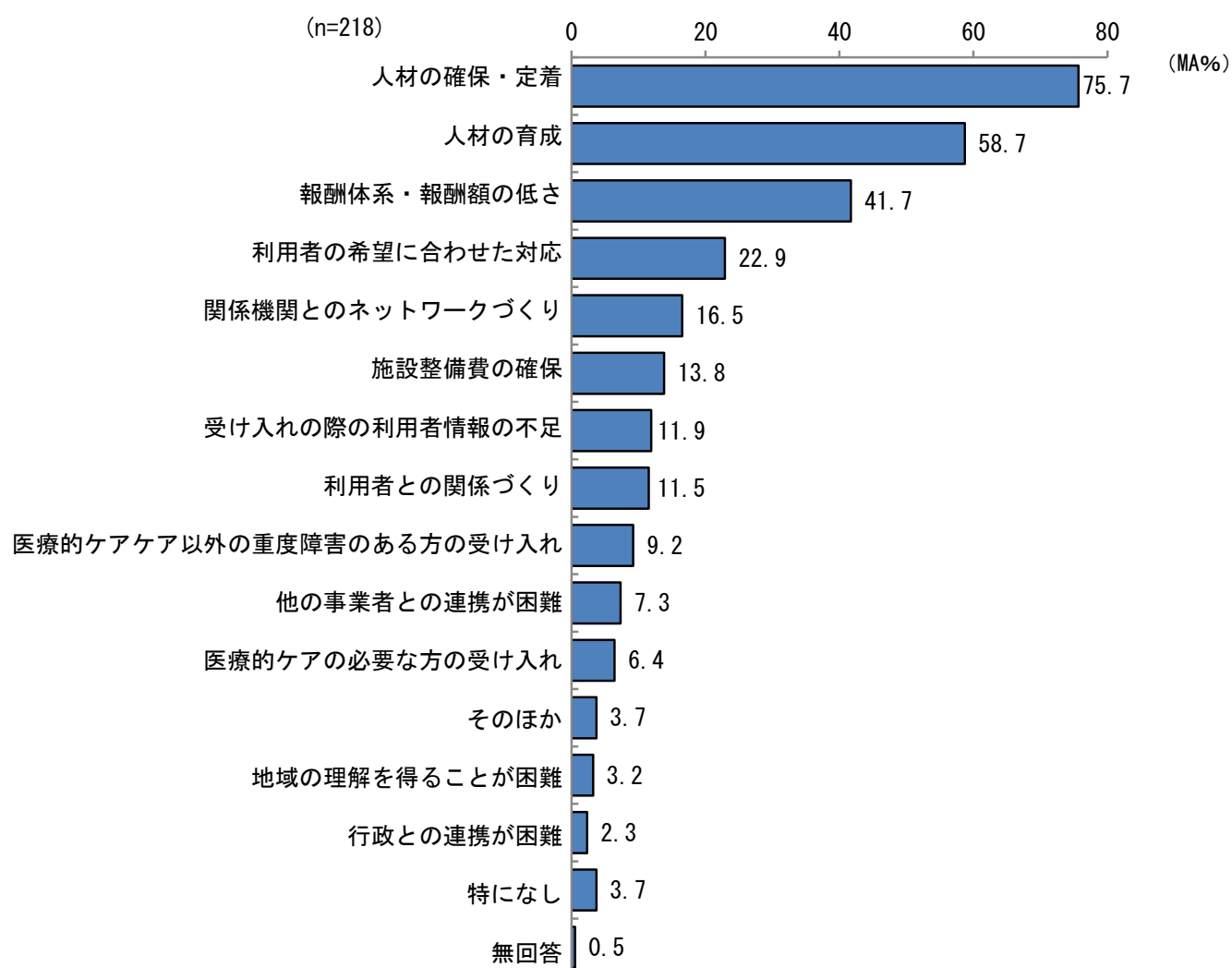
- |                    |
|--------------------|
| ・ 学校での困りごとの相談      |
| ・ 利用者の体調や生活について    |
| ・ 通院に関すること         |
| ・ 利用者のプライベートに関するもの |

### ・ その他

- |                  |
|------------------|
| ・ 送迎時、時間が遅れたこと   |
| ・ 自分の特性についての悩みごと |

## 5 事業所の運営において、課題となっていること（複数回答）

事業所の運営において、課題となっていることは、「人材の確保・定着」が75.7%と最も高く、次いで「人材の育成」が58.7%、「報酬体系・報酬額の低さ」が41.7%となっています。



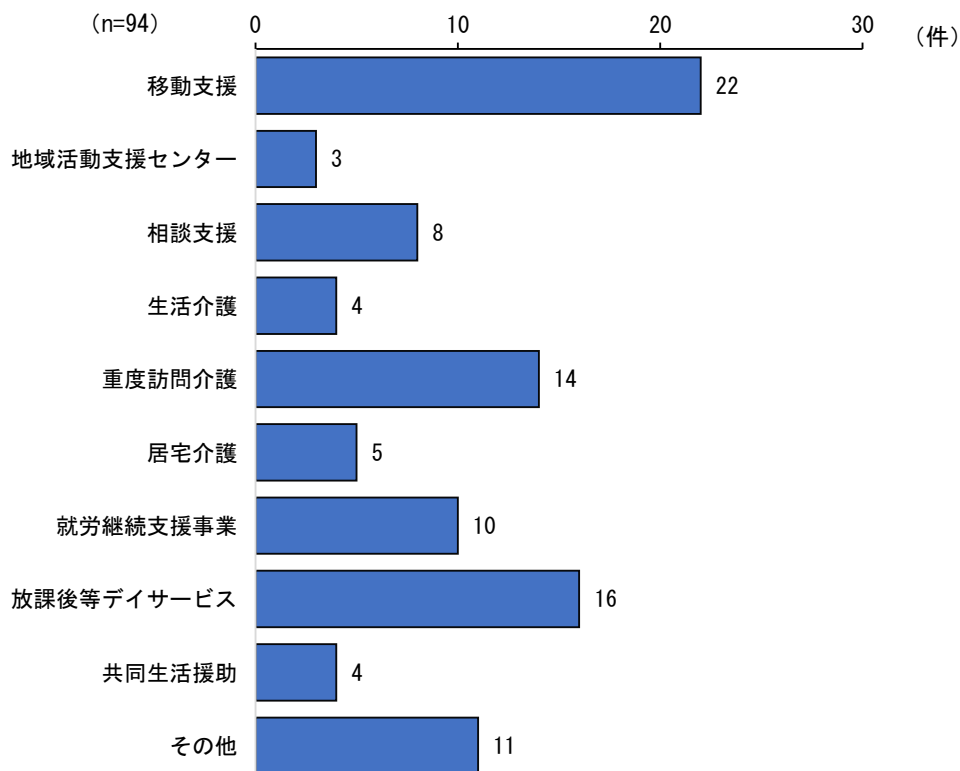
### ◇事業所の運営において、課題となっていること×サービスの種類の体系

サービスの種類の体系別にみると、「人材の確保・定着」は相談系を除くといずれの体系も3割以上と高くなっており、特に訪問系は81.0%と最も高くなっています。

	回答数	人材の確保・定着	人材の育成	医療的ケアの必要な方の受け入れ	医療的ケア以外の重度障害のある方の受け入れ	利用者との関係づくり	報酬体系・報酬額の低さ	受け入れの際の利用者情報の不足
居住系	50	44.0	37.0	3.0	8.0	3.0	20.0	7.0
日中活動系	39	33.0	30.0	4.0	8.0	4.0	17.0	5.0
就労系	48	37.0	30.0	1.0	6.0	10.0	20.0	5.0
訪問系	92	81.0	51.0	8.0	8.0	11.0	39.0	13.0
相談系	30	24.0	18.0	5.0	3.0	5.0	17.0	1.0
児童系	56	32.0	36.0	4.0	2.0	5.0	27.0	4.0
	回答数	利用者の希望に合わせた対応	関係機関とのネットワークづくり	施設整備費の確保	他の事業者との連携が困難	行政との連携が困難	地域の理解を得ることが困難	その他
居住系	50	12.0	7.0	11.0	5.0	0.0	4.0	4.0
日中活動系	39	10.0	5.0	10.0	2.0	0.0	1.0	7.7
就労系	48	7.0	9.0	9.0	1.0	0.0	1.0	2.1
訪問系	92	18.0	7.0	5.0	8.0	2.0	4.0	2.2
相談系	30	4.0	8.0	7.0	2.0	0.0	1.0	3.3
児童系	56	12.0	16.0	10.0	4.0	3.0	3.0	7.1
	回答数	特になし	無回答					
居住系	50	1.0	0.0					
日中活動系	39	1.0	0.0					
就労系	48	0.0	1.0					
訪問系	92	4.0	0.0					
相談系	30	1.0	0.0					
児童系	56	2.0	0.0					

<b>居住系</b>	障害者支援施設	<b>訪問系</b>	居宅介護
	共同生活援助		重度訪問介護
	短期入所		同行援護
<b>日中活動系</b>	生活介護		行動援護
	療養介護		移動支援
	地域活動支援センター		<b>相談系</b>
	日中一時支援	障害児相談支援	
<b>就労系</b>	就労移行支援	一般相談支援（地域移行支援）	
	就労継続支援A型	一般相談支援（地域定着支援）	
	就労継続支援B型	自立生活援助	
	就労定着支援	<b>児童系</b>	児童発達支援
	自立訓練（生活訓練）		医療型児童発達支援
	宿泊型自立訓練		居宅訪問型児童発達支援
放課後等デイサービス			
			保育所等訪問支援

6 (5で「報酬体系・報酬額の低さ」を選択した方) 特にどのサービスの報酬が低いか (自由記述)



・ 移動支援 (抜粋)

・ 移動支援のサービス報酬が安く、とりやめた。

・ 移動支援 (特に身体介護無し)。介護保険は報酬改定されているが、移動支援は、かなり前から変わってないので、検討していただけると、ありがたいです。

・ 相談支援 (抜粋)

・ 相談支援のみでは赤字となる。

生活介護 (抜粋)

・ 行動面で重度な方は常時マンツーマン対応が必要であっても身体介護度が高くない場合、区分も高くならず、報酬に反映されないケースが多い。

・ 重度訪問介護 (抜粋)

・ 重度訪問介護、当初の見守りを中心とした支援から、家事全般、身体介護全般、医療的ケアと難易度が高くなり、高度な技術と知識が必要になってきている。また、利用者のニーズに応えようとするあまり仕事量は各段に増えている。難病の方、重度の方を担う責任感が大きく、報酬と見合っていないと思われる。

#### ・居宅介護（抜粋）

・居宅の家事、介護よりハードなときも多いのに金額が低い。

#### ・就労継続支援事業（抜粋）

・就労継続支援B型において、以前あった加算が現在ありません。

・平均工賃による算定の額が現実的でないと感じる。

#### ・放課後等デイサービス（抜粋）

・個別サポートが必要な児童の加算報酬が加配指導員導入と割に合わない。

・放課後等デイサービスについては、業務量・人員配置の実際と基本額が見合わない。

・利用者の出欠によって報酬が変動するところ（体調不良・感染症対応で休みが増えると、運営が厳しくなります）。

・長時間の利用で、その分人件費もかかる。現状以外の開校・休校加算があればいい。

#### ・共同生活援助（抜粋）

・夜間体制加算

#### ・その他（抜粋）

・基本報酬額が見直しのたびに下げられている。

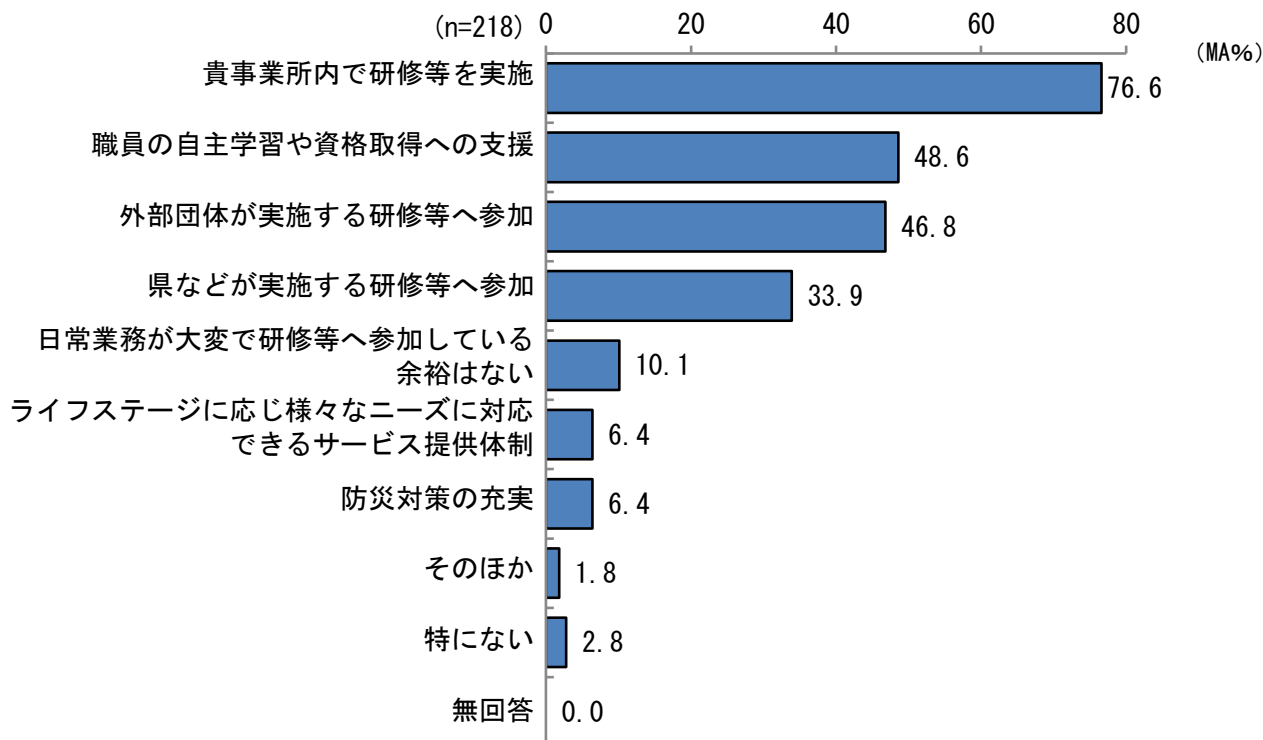
・自立訓練（生活訓練）

・送迎加算。車両維持費や人件費を引くと赤字となる。

・介護保険の同等サービスと比較し全て低い。質の向上が困難である。

## 7 人材育成のための取組（複数回答）

人材育成のための取組は、「貴事業所内で研修等を実施」が76.6%と最も高く、次いで「職員の自主学習や資格取得への支援」が48.6%、「外部団体が実施する研修等への参加」が46.8%となっています。

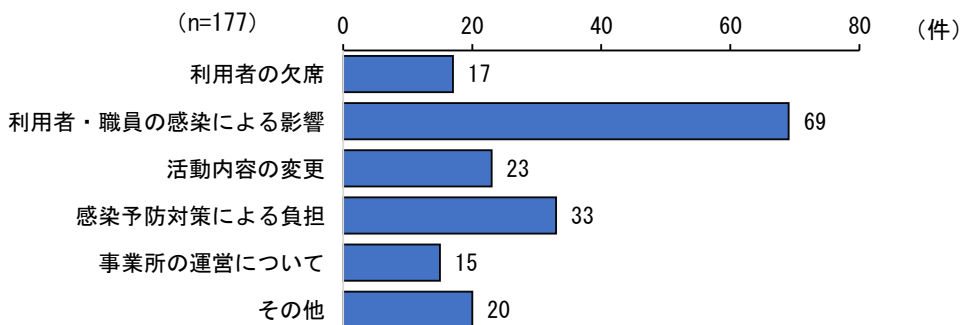


### ◇人材育成のための取組×サービスの種類の体系

サービスの種類の体系別にみると、全体で割合の高い「貴事業所内で研修等を実施」の中でも訪問系は73.0%と最も高く、次いで児童系が53.0%、居住系が38.0%となっています。

	回答数	貴事業所内で研修等を実施	外部団体が実施する研修等へ参加	県などが実施する研修等へ参加	職員の自主学習や資格取得への支援	日常業務が大変で研修等へ参加している余裕はない	ライフステージに応じ様々なニーズに対応できるサービス提供体制
居住系	50	38.0	26.0	20.0	22.0	7.0	3.0
日中活動系	39	31.0	25.0	19.0	15.0	8.0	2.0
就労系	48	28.0	27.0	22.0	26.0	8.0	7.0
訪問系	92	73.0	26.0	18.0	41.0	10.0	3.0
相談系	30	21.0	20.0	14.0	17.0	3.0	2.0
児童系	56	53.0	38.0	24.0	32.0	2.0	4.0
	回答数	防災対策の充実	そのほか	特になし	無回答		
居住系	50	5.0	1.0	2.0	0.0		
日中活動系	39	3.0	1.0	1.0	0.0		
就労系	48	3.0	2.0	1.0	0.0		
訪問系	92	6.0	1.0	3.0	0.0		
相談系	30	4.0	2.0	1.0	0.0		
児童系	56	5.0	0.0	0.0	0.0		

## 8 新型コロナウイルス感染症等の影響（自由記述）



### ・利用者の欠席（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人や家族が罹患する度に欠席者が続き、売上の低迷が続く。同様に職員も休業するものが多く出てしまい、常に人員不足となってしまう困難である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・急なキャンセルや請求のややこしさ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者激減したときの補償がない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・急な欠席・キャンセル等で利用が安定しない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席が多く他の日に定員の上限があるため、振替が出来なかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・警戒し、利用控えされるケース多い。また、クラスター発生に伴う閉所期間は収益がなく、授産作業は止まるため、工賃への影響も大きい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・休園にするしかないと判断したときに、休みの間の利用者の過ごし方が、家で何もすることがない、家族への負担が多くなる。他事業所の利用につなぐ際の連絡に対応することが、努力しても限界があり、大変困難だと感じました。</li> </ul>

### ・利用者・職員の感染による影響（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が陽性だと感染を恐れてスタッフの手配が難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数の事業所であるため、ヘルパーやスタッフがコロナ感染あるいは濃厚接触者となり、休まれると、たちまち代替りのヘルパーを手配するのが難しく、困ってしまう。新規ヘルパーを獲得することが困難な現在、感染症による影響は大変大きい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホームで陽性者が出ると、他のメンバーは作業所に通えなくなり、スタッフが濃厚接触者になると出勤停止になり、残ったスタッフは長時間労働を強いられるという事態になりました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員またはその家族が感染した場合、その真偽が不明。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり暮らしの利用者が感染した時の泊まり対応（対応した職員が感染）</li> </ul>

### ・活動内容の変更（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会や地域の方を招く行事が行いづらい。利用者やその家族が感染し、療育を休まざるを得なくなることが続くと、利用者にとっても、事業所にとっても良くない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域移行支援で利用者に会えない期間が長くあり、支援が停滞あるいは後退してしまったこと。ここから改めて支援を再開しようとしているが、本人のエンパワメントから始める例が増えている。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般就労を実現していく上で、企業の業務縮小等により実習すらできない状況になり、大きな障壁となった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事など施設外にでての活動が難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食時、黙食をお願いしているが、一部会話をされる人がいて感染予防のため事業所内での食事は中止にした。(ついつい会話をしてしまうようだ。)</li> </ul>

#### ・感染予防対策による負担（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭い事業所における三密回避</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備。感染者や濃厚接触者が出たときの対応</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止のために費用がかかる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・物資の確保</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策等にかかる労力が大きすぎる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の感染対策の不満、不安からくるストレスへの対応や説明</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒が苦手な児童がいるため、ケアが大変です。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクのため、表情や体調をつかみづらい。障害特性で声を出しづらい。聴覚障害の方とのコミュニケーションがとりづらい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語訓練の際、口元や表情が見えるようマスクを外してフェイスシールドを使用していますが、フェイスシールドが気になり、さわったり、外そうとする等、訓練が困難になる事もある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の対応（求められるもの）はいつまでも「0（ゼロ）コロナ」なため、通所事業をその都度クローズせざるを得なくなり、結果、家族にも多大な負担となっている。</li> </ul>

#### ・事業所の運営について（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初、事業所を長期間閉所した際、家族から不安の声、苦情が聴かれたが、未知なものへの対応であったため、正解がわからず、手探りの状況であった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・維持することに精一杯。人材の確保・育成にとっても苦勞します。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業所における感染対策の違い。感染判明からのさかのぼっての濃厚接触者認定。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありましたが西宮市の対応が良かったので課題を克服できました、ありがとうございます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・困難や課題はありますが、対応してきています。</li> </ul>

#### ・その他（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科病院に入れないので、支援自体できず、その間も地域移行など有期限のサービスが進み、更新の時期がきてしまうこと</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が休校になってもデイで受け入れねばならない矛盾</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他事業者、医療機関との接触が困難</li> </ul>



## 9 「職員数（常勤職員・非常勤職員）」（令和5年1月1日時点）、職員の状況、不足している職種

常勤職員数は、「無回答」を除くといずれの職種においても「1～5人」が最も高く、6人以上の職員数は職種によりばらつきが見られます。非常勤職員もいずれの職種においても「1～5人」が最も高く、相談系は「0人」が30.0%と他の職種よりも高くなっています。訪問系、児童系は「6～10人」がそれぞれ25.0%、26.8%と他の職種よりも高くなっています。

職員の状況は、「無回答」を除くと居住系、訪問系は「不足」が最も高く、それぞれ26.0%、34.8%となっています。日中活動系は「やや不足」が25.6%と最も高くなっています。就労系、相談系、児童系は「適当」が最も高く、それぞれ41.7%、53.3%、42.9%となっています。

不足している職種は、「ホームヘルパー」が40.5%と最も高く、次いで「生活支援員」が19.8%、「保育士」が14.5%となっています。

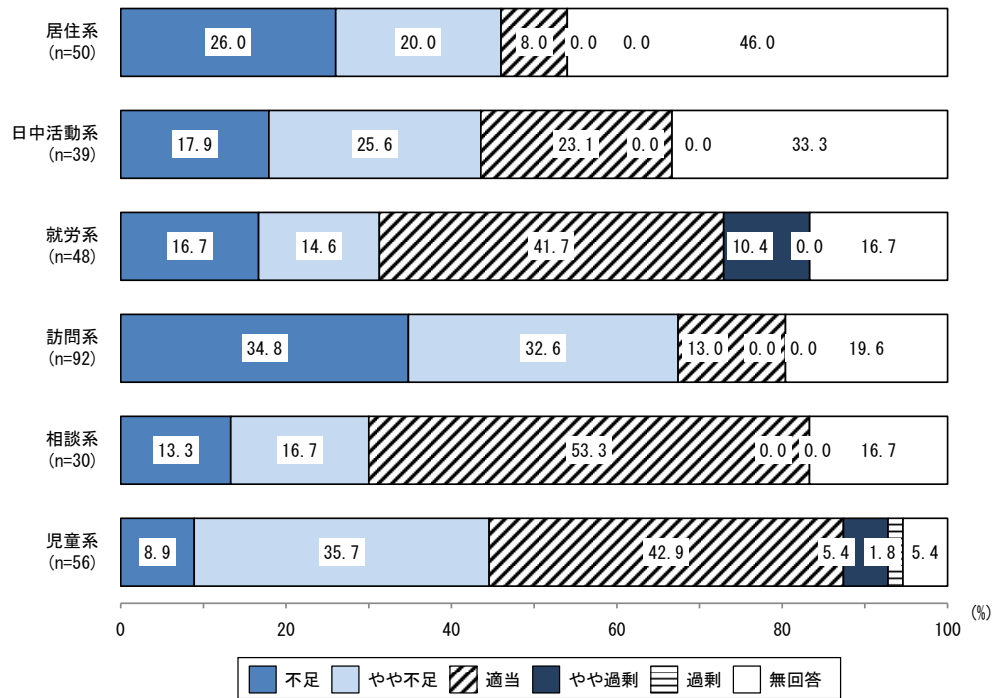
### ① 常勤職員数

	回答数	0人	1～5人	6～10人	11～20人	21～30人	31～50人	51～80人	81～100人	101人以上	無回答
居住系	50	2.0	34.0	2.0	2.0	14.0	0.0	2.0	2.0	0.0	42.0
日中活動系	39	0.0	51.3	12.8	5.1	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	20.5
就労系	48	0.0	70.8	14.6	4.2	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3
訪問系	92	0.0	68.5	8.7	5.4	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	15.2
相談系	30	0.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
児童系	56	0.0	78.6	8.9	5.4	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4

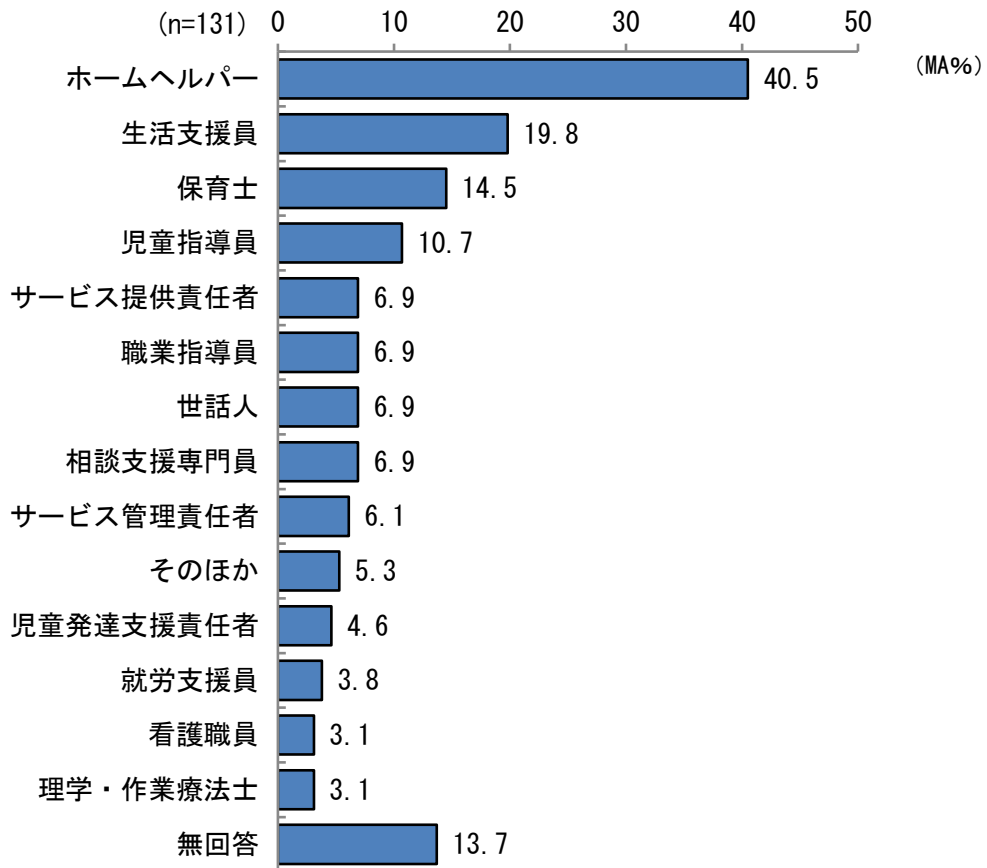
### ② 非常勤職員数

	回答数	0人	1～5人	6～10人	11～20人	21～30人	31～50人	51～80人	81～100人	101人以上	無回答
居住系	50	6.0	24.0	10.0	10.0	0.0	4.0	2.0	0.0	2.0	42.0
日中活動系	39	0.0	59.0	10.3	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	23.1
就労系	48	4.2	56.3	8.3	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	29.2
訪問系	92	4.3	30.4	25.0	13.0	5.4	4.3	2.2	0.0	1.1	14.1
相談系	30	30.0	36.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
児童系	56	12.5	42.9	26.8	3.6	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	10.7

### ③ 職員の状況



### ④ 不足している職種



### ◇不足している職種×サービスの種類の体系別

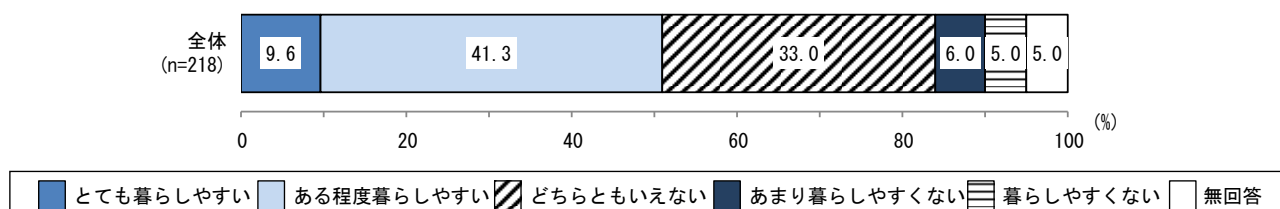
サービスの種類の体系別にみると、居住系、日中活動系、就労系は「生活支援員」が最も高く、それぞれ48.6%、60.0%、47.8%となっています。就労系は、「職業指導員」も39.1%と高い割合となっています。訪問系は「ホームヘルパー」が77.9%と最も高く、相談系は「相談支援専門員」が47.4%と最も高くなっています。児童系は「保育士」が76.0%と最も高く、「児童指導員」も56.0%と高い割合となっています。

	回答数	サービス管理責任者	サービス提供責任者	児童発達支援責任者	生活支援員	職業指導員	就労支援員	世話人
居住系	37	13.5	5.4	0.0	48.6	0.0	5.4	24.3
日中活動系	25	12.0	4.0	0.0	60.0	4.0	4.0	12.0
就労系	23	21.7	0.0	0.0	47.8	39.1	21.7	4.3
訪問系	68	2.9	13.2	1.5	5.9	1.5	1.5	2.9
相談系	19	5.3	0.0	10.5	26.3	5.3	0.0	0.0
児童系	25	0.0	0.0	24.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	回答数	看護職員	理学・作業療法士	ホームヘルパー	相談支援専門員	保育士	児童指導員	無回答
居住系	37	8.1	5.4	18.9	2.7	5.4	5.4	21.6
日中活動系	25	8.0	8.0	12.0	8.0	4.0	4.0	24.0
就労系	23	4.3	4.3	8.7	4.3	4.3	4.3	17.4
訪問系	68	1.5	1.5	77.9	2.9	1.5	1.5	11.8
相談系	19	0.0	5.3	31.6	47.4	15.8	10.5	5.3
児童系	25	8.0	8.0	0.0	8.0	76.0	56.0	16.0

## 2. 障害のある人の暮らしについて

### 1 西宮市の障害のある人の暮らしやすさ（単数回答）

西宮市の障害のある人の暮らしやすさは、「ある程度暮らしやすい」が41.3%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が33.0%、「とても暮らしやすい」が9.6%となっています。

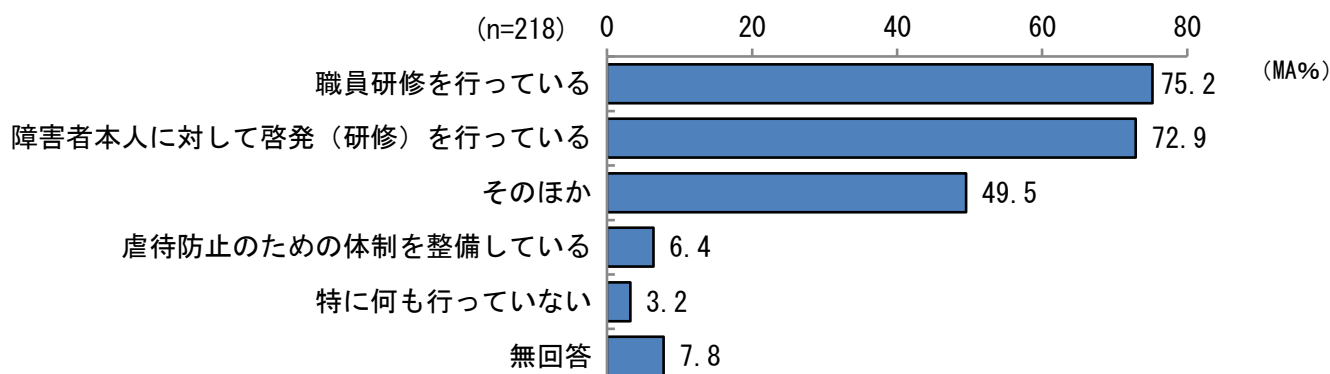


### 2 1で答えた理由（自由記述）（抜粋）

・法が整備されたことと、他市に比べて西宮市は、障害サイドの要望をしっかりと聞き、対応して下さるのを感じる。
・行政が前向きにとりくんでいる。
・福祉が充実している。
・事業所間のネットワークがある。
・サービス提供者が不足
・脳性麻痺の人たちが権利を獲得してきた歴史がある。
・市民の意識も高い。
・南部は資源が多く、利便性がよいが、北部は悪い。
・他の自治体と比較したことがない。

### 3 障害者虐待防止に関する取組（複数回答）

障害者虐待防止に関する取組は、「職員研修を行っている」が75.2%と最も高く、次いで「障害者本人に対して啓発（研修）を行っている」が72.9%、「そのほか」が49.5%となっています。



## ◇障害者虐待防止に関する取組×サービス種別

サービス種別にみると、いずれのサービス種においても割合が高い「職員研修を行っている」「障害者本人に対して啓発（研修）を行っている」が、訪問系はそれぞれ 63.0%と 61.0%、児童系はどちらも 52.0%と特に高くなっています。一方で相談系は両項目とも 30.0%未満と低い割合となっています。

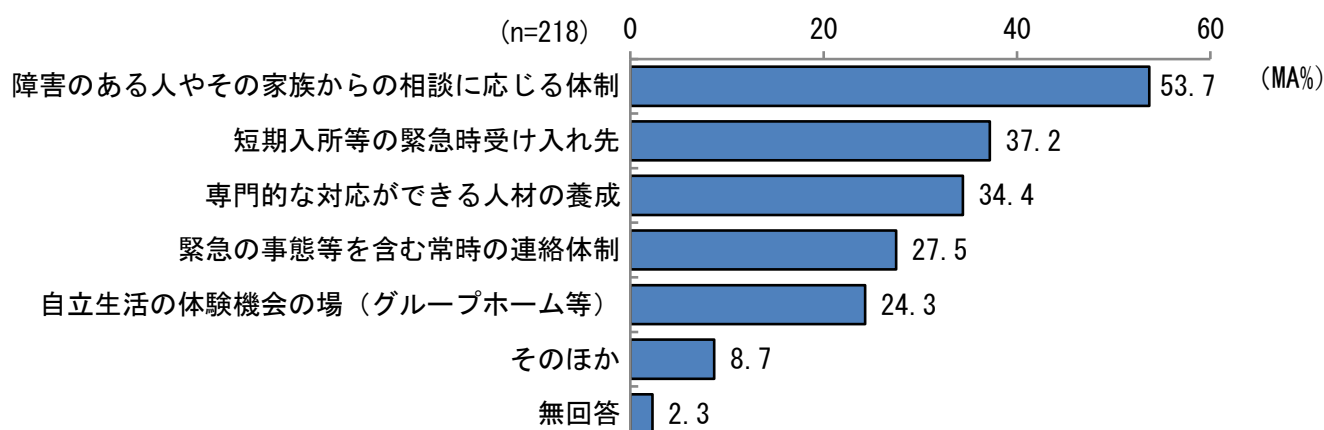
	回答数	職員研修を行っている	障害者本人に対して啓発(研修)を行っている	虐待防止のための体制を整備している	そのほか	特に何も行っていない	無回答
居住系	50	41.0	39.0	5.0	22.0	1.0	4.0
日中活動系	39	33.0	31.0	4.0	21.0	1.0	3.0
就労系	48	35.0	32.0	5.0	31.0	2.0	2.0
訪問系	92	63.0	61.0	4.0	38.0	3.0	10.0
相談系	30	25.0	24.0	1.0	19.0	1.0	1.0
児童系	56	52.0	52.0	3.0	30.0	1.0	1.0

### ・そのほか内訳（抜粋）

・研修動画にてフリーで視聴できる体制を確保
・月に1回スタッフミーティング時、ミニ研修を実施している。
・マニュアルの作成
・テレビ等の報道があった際事業所内で意見交換を行っている。
・職員に毎月1回セルフチェックをしてもらっている。

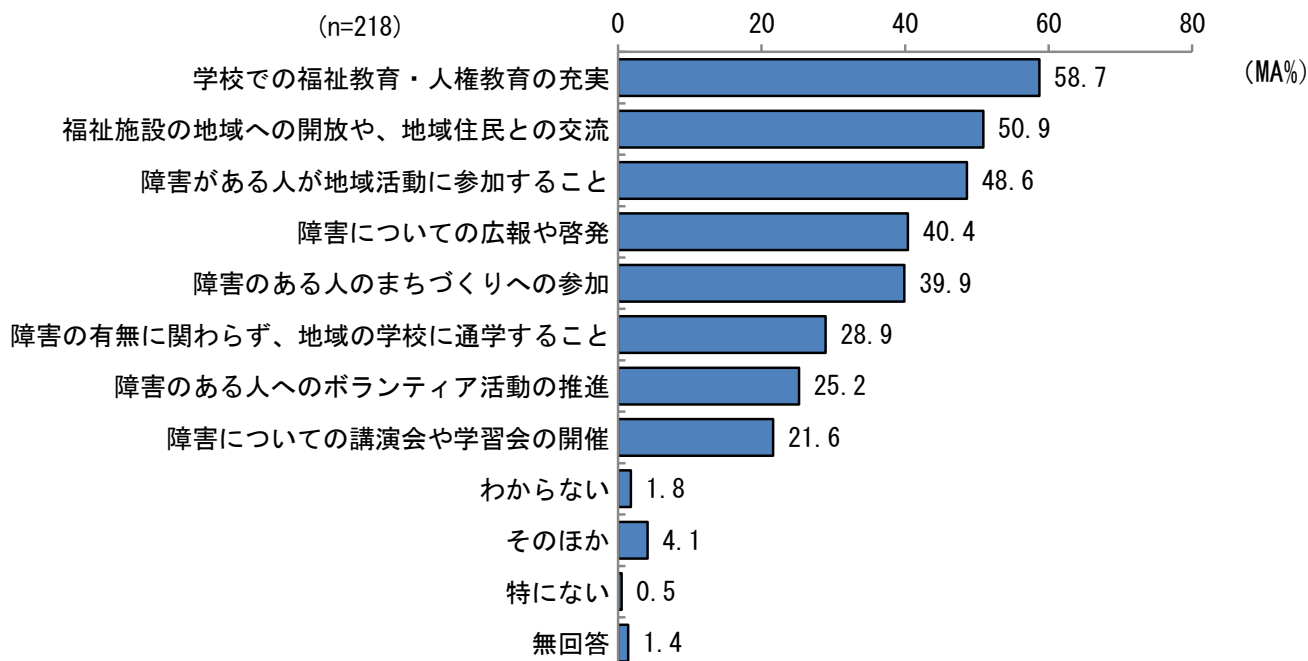
## 4 西宮市で安心して暮らしていくために、特に必要と考える支援（複数回答）

西宮市で安心して暮らしていくために、特に必要と考える支援は、「障害のある人やその家族からの相談に応じる体制」が 53.7%と最も高く、次いで「短期入所等の緊急時受け入れ先」が 37.2%、「専門的な対応ができる人材の養成」が 34.4%となっています。



## 5 市民が障害のある人への理解を深めるために必要なこと（複数回答）

市民が障害のある人への理解を深めるために必要なことは、「学校での福祉教育・人権教育の充実」が58.7%と最も高く、次いで「福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流」が50.9%、「障害がある人が地域活動に参加すること」が48.6%となっています。



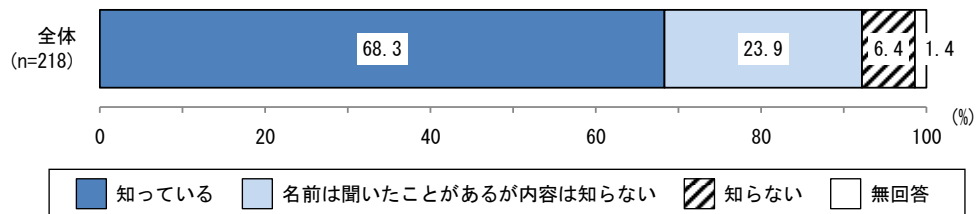
### ◇市民が障害のある人への理解を深めるために必要なこと×サービスの種類の体系

サービスの種類の体系別にみると、訪問系は複数の項目で他の体系よりも高くなっており、特に「学校での福祉教育・人権教育の充実」は51.0%と高くなっています。「障害の有無に関わらず、地域の学校に通学すること」は他の体系が10%台の中で30.0%と高くなっています。

	回答数	障害についての広報や啓発	障害のある人へのボランティア活動の推進	障害がある人が地域活動に参加すること	学校での福祉教育・人権教育の充実	障害の有無に関わらず、地域の学校に通学すること	障害についての講演会や学習会の開催
居住系	50	20.0	13.0	28.0	25.0	14.0	9.0
日中活動系	39	19.0	10.0	23.0	23.0	11.0	11.0
就労系	48	28.0	14.0	30.0	29.0	16.0	17.0
訪問系	92	30.0	24.0	41.0	51.0	30.0	13.0
相談系	30	15.0	11.0	18.0	20.0	13.0	10.0
児童系	56	22.0	14.0	23.0	38.0	18.0	15.0
	回答数	福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流	障害のある人のまちづくりへの参加	わからない	そのほか	特になし	無回答
居住系	50	30.0	20.0	1.0	4.0	1.0	0.0
日中活動系	39	27.0	14.0	1.0	3.0	0.0	0.0
就労系	48	28.0	21.0	0.0	2.0	0.0	1.0
訪問系	92	43.0	38.0	2.0	2.0	1.0	2.0
相談系	30	22.0	14.0	1.0	2.0	0.0	0.0
児童系	56	24.0	20.0	2.0	3.0	0.0	0.0

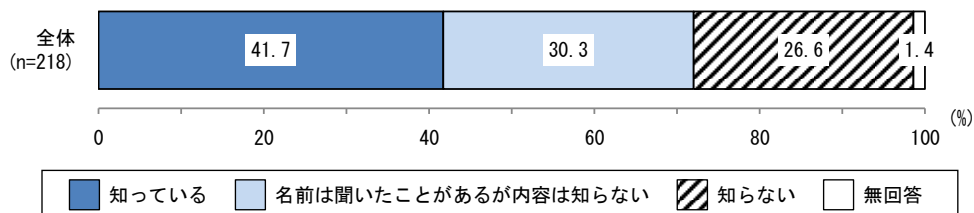
## 6 障害者差別解消法の認知度（単数回答）

障害者差別解消法の認知度は、「知っている」が68.3%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が23.9%、「知らない」が6.4%となっています。



## 7 西宮市障害を理由とする差別の解消及び誰もが暮らしやすいまちづくりの推進に関する条例（通称：障害者共生条例）の認知度（単数回答）

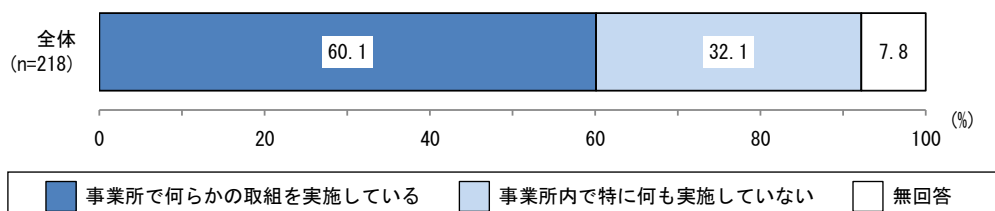
障害者共生条例の認知度は、「知っている」が41.7%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が30.3%、「知らない」が26.6%となっています。



### 3. 合理的配慮について

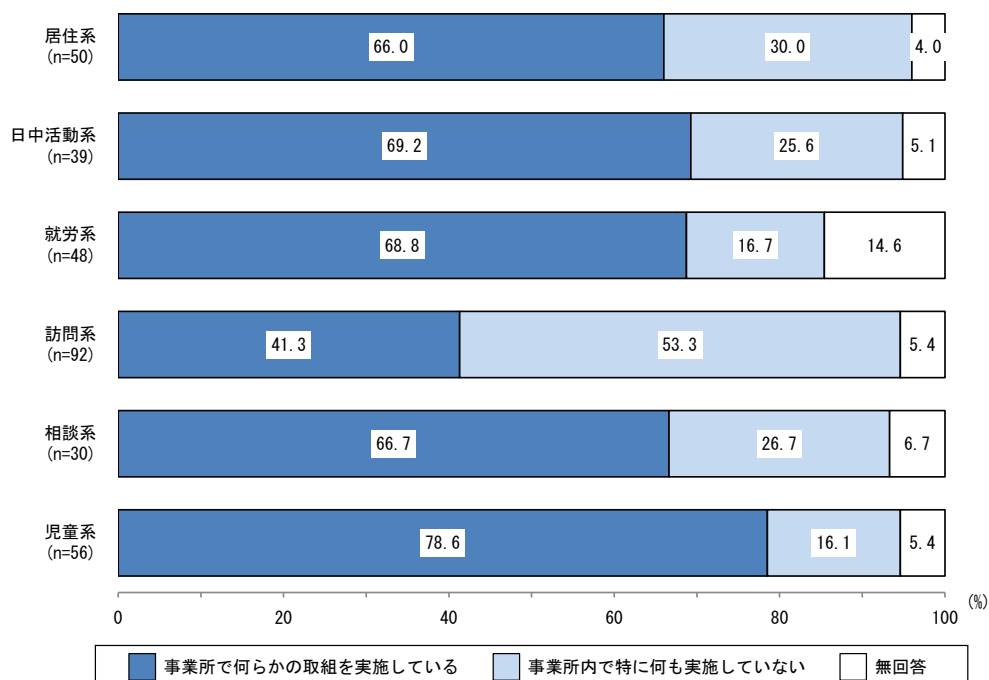
#### 1 「合理的配慮の提供」を実施しているか（単数回答）

「合理的配慮の提供」の実施は、「事業所で何らかの取組を実施している」が60.1%、「事業所内で特に何も実施していない」が32.1%となっています。



#### ◇ 「合理的配慮の提供」を実施しているか×サービスの種類の体系

サービスの種類の体系別にみると、ほとんどの体系が「事業所で何らかの取組を実施している」がおよそ6～8割の中で、訪問系のみ41.3%と低くなっています。





2 (1で「事業所で何らかの取組を実施している」を選択された方) 具体的にどのような取組を実施しているか (自由記述)

・バリアフリーの実施 (抜粋)

・バリアフリー化 (建物)、エレベータの設置
・車椅子の利用者用にトイレや浴室に手すりをつけている。

・周囲の職員等による支援 (抜粋)

・障害特性に応じて支援計画をたてる。
・当事者の声を当事者の障害特性に合わせて聞き、対応している。
・精神障害特有の個別性に配慮し、個人に合わせた対応を心掛けている。
・基本は集団だが、参加が難しい人は個別で対応している。
・介護シートを作り個々に対応したマニュアルを作っている。
・作業のマニュアルの作成 (ふりがな)
・見通しがつきやすいように全体のスケジュールや個別のスケジュールを示す。
・知的障害の方に、時間感覚を身に付けてもらうよう、わかりやすいスケジュール表を作成している。
・コミュニケーション (話をすること) が苦手な方に対しては、時間の許す限り発語を待っている。発語がなくても頷く等の仕草でも容認し、少しずつ発語を促している。
・目が見えにくい方にはしっかりフォローして歩行や介助を付く。
・障害特性に合わせ、療育室を整え、不必要な物は片付け、療育に集中出来るように環境を整備している。
・電話連絡が苦手な方との連携方法を柔軟に対応 (メールなど)
・難聴の方には、筆談で会話するようにしている。
・知的障害の作業所だが主にティーチプログラムのような視覚化や手話を通じた会話を行っている。
・絵や文字、写真を使って、視覚で活動内容や物を片付ける場所や順番を伝えられるように工夫をしている。
・わかりやすい視覚情報を使用した資料や掲示
・絵を使ったマニュアルを作成

・ツールの導入 (抜粋)

・指示書やコミュニケーションツール (絵カード) を作成し使用している。
・文字盤、UDトーク
・視線入力パソコンの導入
・ボイスセンサー

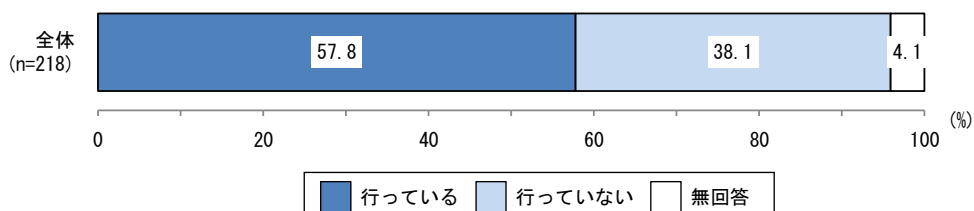
・その他

・休みがいつでもとれるようにしている。
・事業として行っていること自体がそれだと認識している。
・事業所ではなく、普通に接していれば、すでに対応は取れていると思える。

## 4. 連携・協働について

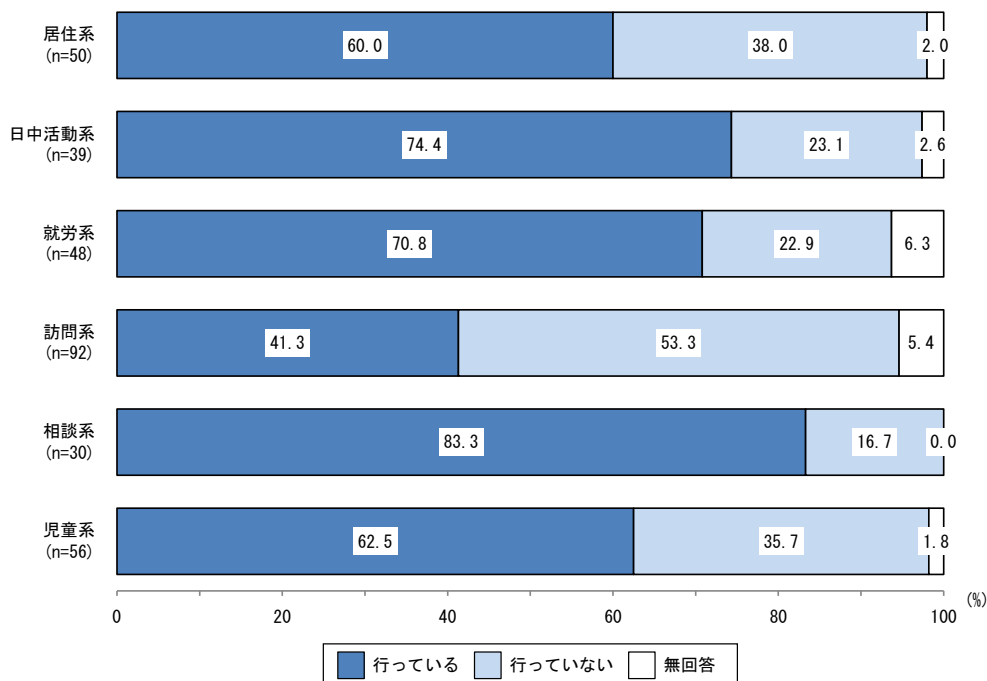
### 1 他の事業所・団体との連携を行っているか（単数回答）

他の事業所・団体との連携は、「行っている」が57.8%、「行っていない」が38.1%となっています。



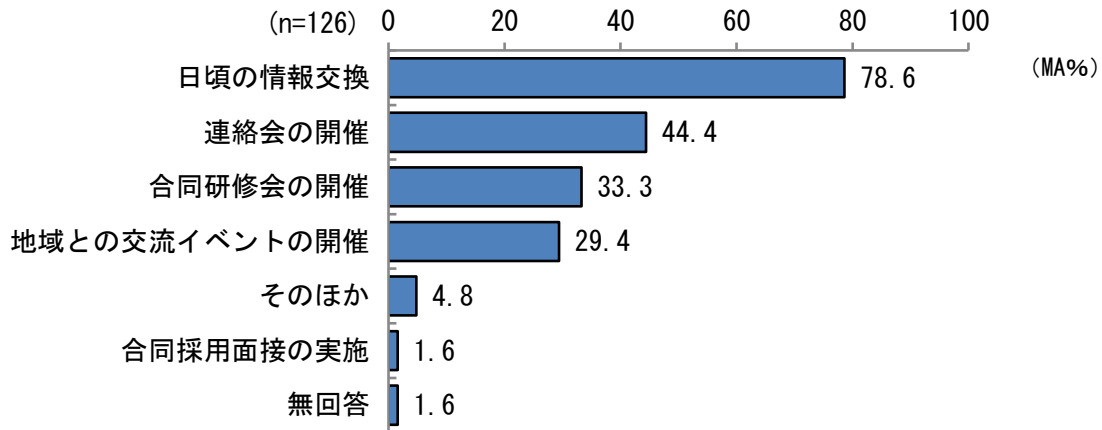
### ◇他の事業所・団体との連携を行っているか×サービスの種類の体系

サービスの種類の体系別にみると、訪問系を除くほとんどの体系が「行っている」の割合がおよそ6～8割と高く、相談系は83.3%と特に高くなっています。



## 2 (1で「行っている」を選択された方) 他事業所・団体等とどのようなことを連携しているか (複数回答)

他事業所・団体等との連携内容は、「日頃の情報交換」が78.6%と最も高く、次いで「連絡会の開催」が44.4%、「合同研修会の開催」が33.3%となっています。



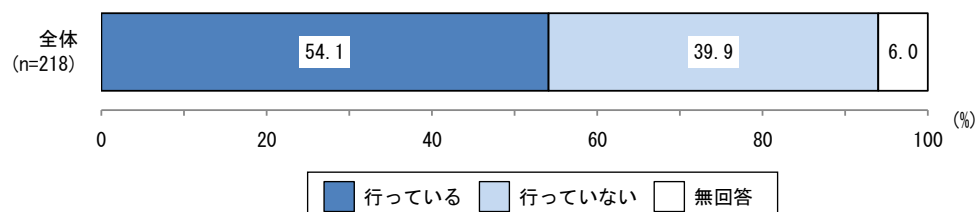
### ◇他事業所・団体等との連携内容×サービスの種類の体系

サービスの種類の体系別にみると、いずれの体系も「日頃の情報交換」の割合が高くなっています。「連絡会の開催」は訪問系が10.0%未満と他の体系より低い割合となっています。

	回答数	日頃の情報交換	連絡会の開催	合同研修会の開催	合同採用面接の実施	地域との交流イベントの開催	そのほか	無回答
居住系	30	24.0	12.0	11.0	0.0	11.0	0.0	0.0
日中活動系	29	25.0	12.0	12.0	0.0	14.0	0.0	0.0
就労系	34	28.0	16.0	10.0	2.0	16.0	0.0	0.0
訪問系	38	33.0	7.0	11.0	0.0	5.0	2.0	0.0
相談系	25	21.0	12.0	9.0	0.0	6.0	1.0	1.0
児童系	35	25.0	21.0	13.0	0.0	10.0	3.0	2.0

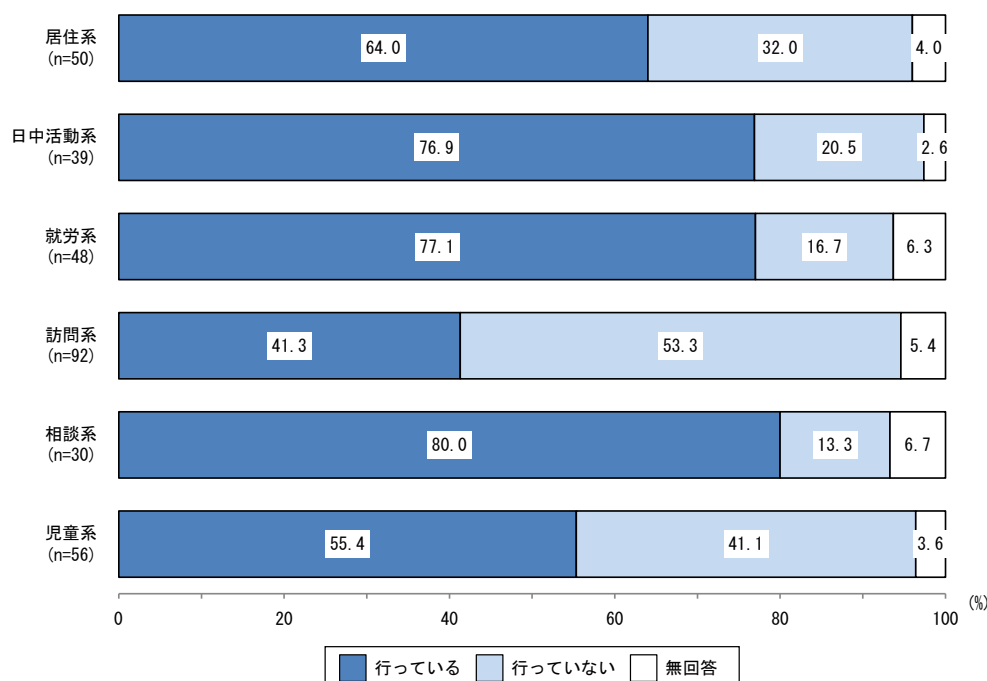
## 3 行政 (西宮市・兵庫県等) と連携を行っていることはあるか (単数回答)

行政 (西宮市・兵庫県等) との連携は、「行っている」が54.1%、「行っていない」が39.9%となっています。



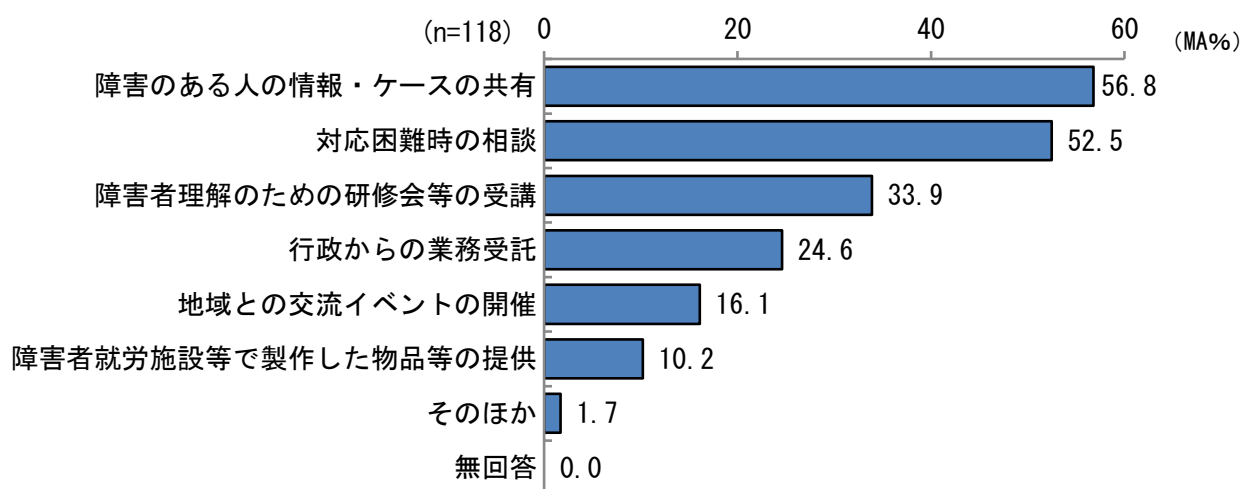
## ◇行政（西宮市・兵庫県等）と連携を行っているか×サービスの種類の体系

サービスの種類の体系別にみると、訪問系と児童系がそれぞれおよそ半数の割合となっており、相談系は「行っている」の割合が80.0%と他の体系より高くなっています。



## 4 （3で「行っている」を選択された方）行政（西宮市・兵庫県等）とどのようなことを連携しているか（複数回答）

行政（西宮市・兵庫県等）との連携内容は、「障害のある人の情報・ケースの共有」が56.8%と最も高く、次いで「対応困難時の相談」が52.5%、「障害者理解のための研修会等の受講」が33.9%となっています。



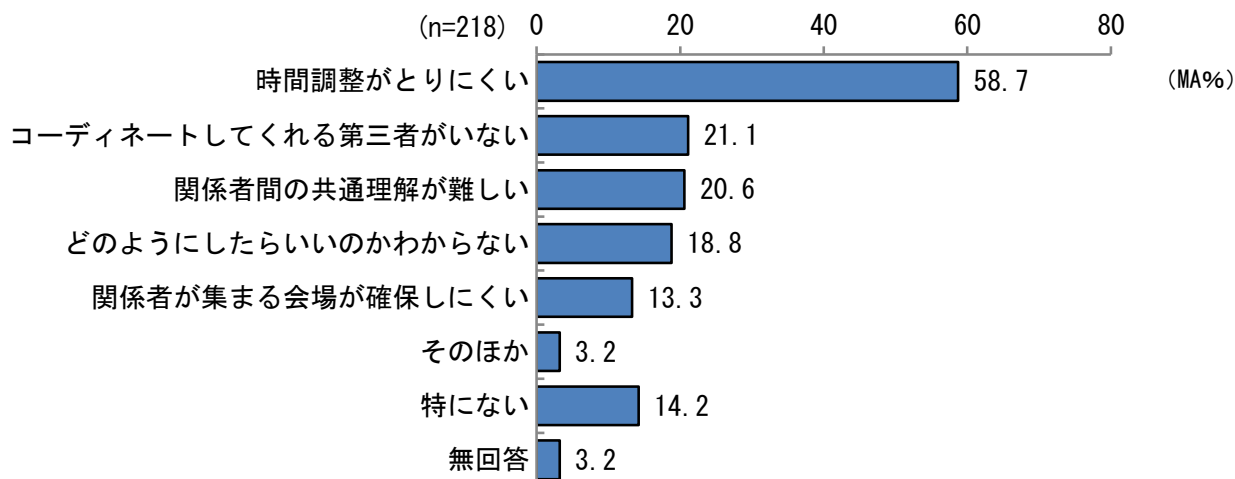
## ◇行政（西宮市・兵庫県等）との連携内容×サービスの種類の体系

サービスの種類の体系別にみると、いずれの体系も「障害のある人の情報・ケースの共有」が高い一方で、「行政からの業務委託」「障害者就労施設等で制作した物品等の提供」は10.0%未満と低い割合となっています。

	回答数	行政からの業務受託	障害者就労施設等で制作した物品等の提供	障害者理解のための研修会等の受講	地域との交流イベントの開催	障害のある人の情報・ケースの共有	対応困難時の相談	そのほか	無回答
居住系	32	7.0	6.0	11.0	10.0	17.0	15.0	0.0	0.0
日中活動系	30	9.0	7.0	10.0	11.0	17.0	17.0	1.0	0.0
就労系	37	9.0	8.0	11.0	12.0	20.0	22.0	1.0	0.0
訪問系	38	8.0	3.0	8.0	6.0	22.0	19.0	0.0	0.0
相談系	24	6.0	5.0	7.0	5.0	18.0	13.0	0.0	0.0
児童系	31	6.0	2.0	13.0	2.0	18.0	15.0	0.0	0.0

## 5 他の事業所・団体との連携に関する課題（複数回答）

他の事業所・団体との連携に関する課題は、「時間調整がとりにくい」が58.7%と最も高く、次いで「コーディネートしてくれる第三者がない」が21.1%、「関係者間の共通理解が難しい」が20.6%となっています。



## ◇行政（西宮市・兵庫県等）との連携に関する課題×サービス種別

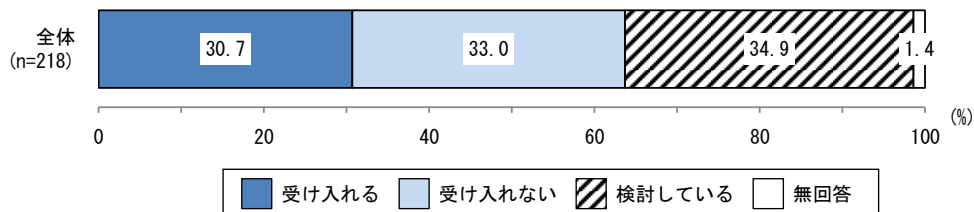
サービス種別にみると、全体で割合の高い「時間調整がとりにくい」の中でも放課後等デイサービス、児童発達支援が特に高く、それぞれ68.8%、66.7%となっています。一方で就労継続支援B型は45.7%と他のサービス種と比べて低くなっています。

	回答数	関係者間の共通理解が難しい	時間調整がとりにくい	関係者が集まる会場が確保しにくい	コーディネートしてくれる第三者がない	どのようにしたらいいかわからない	そのほか	特になし	無回答
居宅介護	87	26.4	56.3	10.3	20.7	20.7	4.6	11.5	3.4
重度訪問介護	80	25.0	57.5	10.0	18.8	22.5	5.0	11.3	2.5
移動支援	59	32.2	59.3	11.9	22.0	20.3	5.1	10.2	3.4
放課後等デイサービス	48	22.9	68.8	18.8	27.1	20.8	0.0	14.6	0.0
就労継続支援B型	35	20.0	45.7	8.6	14.3	17.1	5.7	11.4	8.6
児童発達支援	30	20.0	66.7	20.0	23.3	13.3	0.0	20.0	0.0

## 5. 防災について

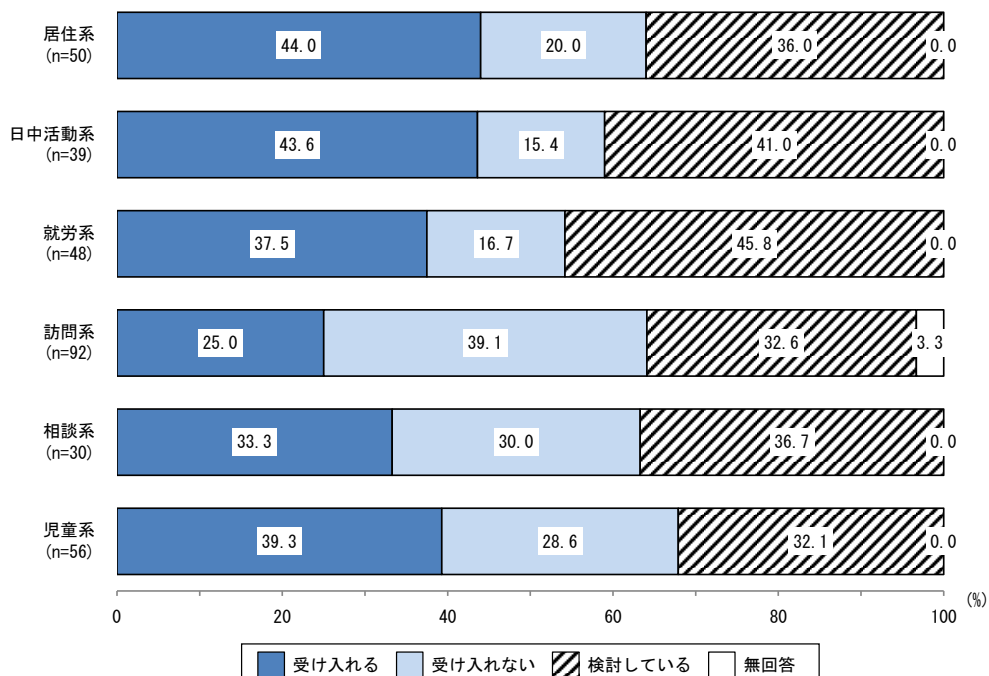
### 1 災害時に避難場所や避難所として事業所利用者や障害のある人、又は近隣の住民を受け入れるか（単数回答）

災害時の受け入れは、「検討している」が34.9%と最も高く、次いで「受け入れない」が33.0%、「受け入れる」が30.7%となっています。



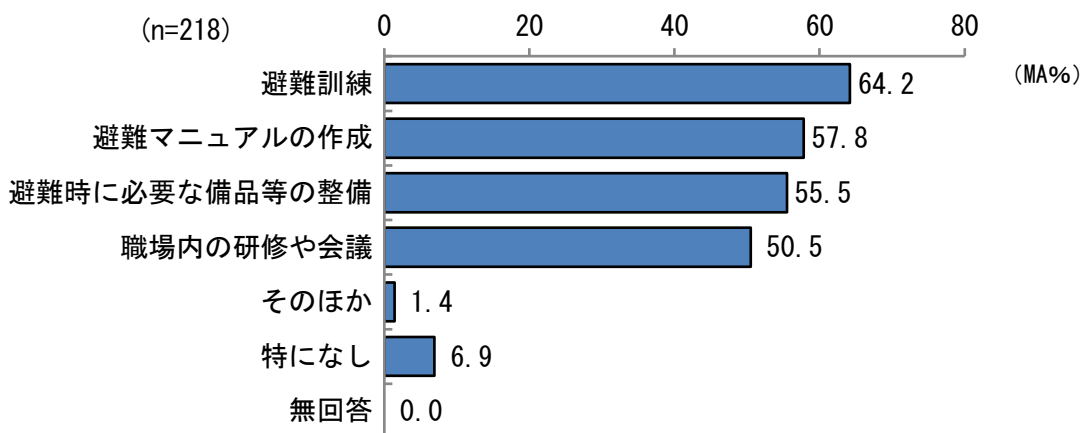
### ◇災害時に避難場所や避難所として事業所利用者や障害のある人、又は近隣の住民を受け入れるか×サービスの種類の体系

サービスの種類の体系別にみると、「受け入れる」は居住系、日中活動系が40.0%以上と高く、「受け入れない」は訪問系が39.1%と高くなっています。「検討している」は就労系が45.8%と他の体系より高くなっています。



## 2 災害時に備えてどのような準備をしているか（複数回答）

災害時に備えてどのような準備をしているかは、「避難訓練」が64.2%と最も高く、次いで「避難マニュアルの作成」が57.8%、「避難時に必要な備品等の整備」が55.5%となっています。



### ◇災害時に備えてどのような準備をしているか×サービスの種類の体系

サービスの種類の体系別にみると、児童系は「避難訓練」が55.0%と他の体系と比べて高く、他の項目の中でも最も高い割合となっています。訪問系は「避難時に必要な備品等の整備」「職場内の研修や会議」が同率で41.0%と高く、2項目ともに他の体系と比べると高くなっています。

	回答数	避難訓練	避難マニュアルの作成	避難時に必要な備品等の整備	職場内の研修や会議	そのほか	特になし	無回答
居住系	50	39.0	27.0	28.0	18.0	3.0	3.0	0.0
日中活動系	39	34.0	20.0	21.0	12.0	3.0	2.0	0.0
就労系	48	45.0	33.0	29.0	22.0	2.0	0.0	0.0
訪問系	92	26.0	38.0	41.0	41.0	1.0	14.0	0.0
相談系	30	22.0	19.0	21.0	13.0	0.0	1.0	0.0
児童系	56	55.0	49.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0

### 3 災害時に備え整備が必要と思われることについて（自由記述）

・災害時の安否確認や避難所として受け入れるための人員確保
・コロナ禍において、法人全体で、「発生時における業務継続計画」を作成しましたが、来年度は、災害時における業務継続計画を作成していこうとしている。
・職員が利用者を不安にさせることなく、落ちついて安全な場所で、安心して身の安全を確保出来るよう、日頃のシミュレーションが必要だと思います。また、地域の避難場所でもそのような配慮があればと思います。
・連絡体制の整備
・避難訓練。近隣との合同訓練など。
・近隣の高層ビルの所有者や住民の方々に、災害時に避難場所として受け入れていただけるように連携しておきたい。
・各利用者宅、通所事業所のある地域の人たちとの関わりが災害時の対応に有効だということはわかっているが、日常的に関係づくりするのが難しいケースが多いと思う。
・ライフラインの確保。ライフラインが停止したときに医療機関との連携。
・避難所となった場合の場所の使用方法、衛生面の整備。コロナウイルスの感染予防対策
・障害のある方、特に精神的の方のメンタル面の対応がすぐにできる場所等があればと思います。
・災害避難の際、利用者は優先的な避難場所の確保を行政が行ってもらえれば幸いです。
・誰でもが自由に利用できるバリアフリーの公共の建物
・整備補助金
・食料、水、排泄用品の準備。適切な使用方法
・備蓄物品（食料、飲料水、日用品等）を納めるスペースの確保に苦慮している。
・給水用のタンクや市民が自由に利用できる水源があるといい。
・とっさに持って行く災害カバン等
・利用者と共に移動する際、小さいお子様も安全に移動できるようベビーカー等の常備があるとよい。
・複数事業所が独居の方のサービスを行っている際、連絡がうまくいかなければ安否確認に重複し無駄がでる。



#### 4 西宮市障害福祉推進計画の策定について（自由記述）

<p>・とても良い計画であり、人権の基本であると思います。しかし、現実はまだまだ厳しく、市民全体で受け止めている計画であるとは言えないと思います。障害児・者に関わる人の間だけで考えるのではなく、西宮市民全員で考えられるように、より啓発活動を活発にしていきたいと思います。（幼稚園、保育所の保護者や小、中学校、高校、大学の教育現場など）いつか西宮市民全員がこの計画を知り、考えられるようになるといいなと思います。</p>
<p>・今回、直接アンケートを送っていただきありがとうございました。私は「福祉計画」や「条例」など、パブリックコメントだけで募るのではなく、このように従事している事業者や職員にも実態を聞く機会を設けることが必要だと思っています。郵送だけでなく、訪問していただくと、従業員のモチベーションがもっと上がると思います。従業員は日々、現場でご本人、ご家族と接して、もっとこんなことができたらと歯がゆい思いをしています。それが行政に意見がつながり改善につながっていくというPDCAの仕組みができると、計画が生きてくるのではないのでしょうか。実行する従業員としてそう思います。</p>
<p>・障害当事者の意見を聞き取るために、まずはわかりやすい情報提供が必要だと思う。すべての人にわかりやすい体制づくりはむずかしいと思うので、周りの者が説明し、聞き取る力を持つ必要があると自覚している。</p>
<p>・計画が決まれば、全事業所に明確な周知をはかっていただきたい。</p>
<p>・生活介護対象利用者の数値目標と取り組みがあれば良いと思う。（強度行動障害の方の受け入れ人数の増と、それに向けた市としての取り組みなど）</p>
<p>・障害のある人を支える人手（ボランティアや施設職員、ヘルパー等）の不足は深刻です。事業所や一法人の努力では限界ではないでしょうか。計画の中で、そういった情報や、啓発につながるようなことがあれば良いと思います。</p>
<p>・ヘルパー不足を理由に、新規の利用者を受け入れられないことが多いため、新しい事業所、新規募集している事業所の情報を事業所間や相談支援員と共有できるシステムがあれば良いと思いました。</p>
<p>・人材育成のための研修会等の開催（各サービスに必須の資格取得の機会が狭き門なので県・市で開催して欲しい）。担当者の専門員がついていない利用者が多すぎて、利用者の言うままのサービス提供になってしまっている現状があるように思う。本人主体が自立支援につながることを望ましいと思う。</p>
<p>・相談支援事業の拡大を希望します。セルフプランの利用者が多く、他施設や学校等との連携が取りにくい。</p>
<p>・市民の理解は啓発活動ではあまり進まないと思うので、学校教育と絡んでいくことが重要かと思います。</p>
<p>・学齢期、特に中学卒業後の進路の選択肢のなさ。公立高校に支援級を作るなど特別支援学校以外の選択肢を作ってください。安心して進学を楽しみにポジティブに進めるようにしてください。</p>
<p>・市の職員も福祉関係について知らない人達が多く、障害のある方、または、障害に関して理解が薄いのが気になる。公共の機関の方々も、もっと知ってもらいたい。バス、電車、警察等。</p>
<p>・行政の中の連携をしっかりとってほしい。教育、保育、子育て、できれば県（教育委員会・こども家庭センター）との連携もしていきたい。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害の方に対応する福祉サービスの提供の現状が、身体の方に比べて不親切に感じる。特に重度、行動障害がある方に対する福祉サービス基準が厳しく感じる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害福祉サービス以外で地域住民との交流や、各企業との交流を図るのが計画的に実行できるように考えていけると良い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校がしんどい子も増えているので、教育現場の人員体制や、福祉的アプローチの考え方を考えてほしい。中高生向きの就労や、その先を見据えた取り組みが充実してほしい。(そこに特化した放課後等デイサービスが増えてもいいと感じる)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅での生活にあたって、利用者やその家族にも、心構えや学び、ヘルパーとどう共同していくか等の学びが必要だと思う。在宅のみにこだわらず、緊急時などは施設や病院をつかうなど、総合的にみていく必要がある。在宅での生活は、例え障害があっても、病院であっても、自分らしく生きたいという自立を促すものだと思う。また、自立できるようなプログラムがあればよい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後等デイサービスの質の向上、重度対応ができる専門性がある事業所の評価。専門性の低い事業所への指導。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度訪問の場合、どこまで支援をしたらよいか線引きがむずかしい。利用者の要望に応えるあまり、ヘルパーに無理がくることもしばしばある。その明確な判断がほしい。介護でやるべきこと、その他の資源でやるべきことなどがはっきりした方がわかりやすいと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・西宮市、兵庫県、できれば、全国の福祉ネットワークで、作業所製品の販路を広げていただけたらと思います。製品の売上げが利用者の工賃アップにつながり、自立への道を開くことになるので、作業所としての取り組み方など横の連携ができる場を作っていただけたらと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・西宮市は補助金などもスピード感のある対応をしてくれるので助かっていますが、基本的なサービス利用にかかる報酬が低いことや基準が厳しいことがあり、運営が大変です。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・西宮市からの資金援助制度</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・申請、届出等行政手続きの ICT 化推進</li> </ul>

## VII 調査結果（関係団体）

### 1. 団体について

#### 1 主な活動内容

・難病患者の支援（生活・医療に関する）
・視覚障害者、車椅子利用者の外出支援、重度訪問、居宅介護支援、聴覚障害者のコミュニケーション支援、視覚障害・聴覚障害・肢体障害の3協会の活動支援ほか
・福祉の啓発活動及び同障害者との親睦、交流
・カラオケ、卓球、ダンスなどを企画
・精神障害者を持つ家族の支え合い、学び合い、社会への働きかけ
・機能回復訓練として軽スポーツ、社会参加の食事会等
・知的障害者に対する支援事業（啓発、研修、本人活動支援、余暇支援）

#### 2 活動における課題

・新型コロナウイルス感染症のため、スポーツ大会・福祉大会・研修会等が開催できなかった。
・高齢化に伴い活動リーダーの減少が起きている。若い世代が入ってこない。平日の会議があるため、働いている人が役員になりにくい。
・会員の高齢化等に伴う退会者がある一方、若い会員の入会が減少しており、会員数が減少し、活動量が低下する傾向にあります。従来出席していた諸会合への参加を辞退せざるを得なくなる事例がでてきました。特に他障害団体との連携の退潮を心配しています。
・会員の高齢化、減少、入会者の減少、高齢化に伴い、会員自身の暮らし、障害を持つ子の世代の親亡き後の暮らしが課題。地域生活を望む場合、地域での生活援助（ケア）の体制への不安。
・外出の支援が少なく、イベントに参加したくても来られない人がいる。

## 2. 地域での生活について

### 1 課題解決のための方策・必要な支援

・コロナが収束したら活動を再開させたい。
・障害の啓発活動
・手話や要約筆記の普及活動
・外出の支援について、市への要望を行っていく。絶えず市とコンタクトをとっていききたい。
・対象となる方に当団体のことが知られておりません。現在、案内チラシを作成し、行政を通じ、配布しているが、反応がほとんどありません。チラシを一般にも配布していますが、経費や手間の問題で配布が限られています。行政には各種の広報での支援をお願いします。チラシの改訂やホームページの開設などを計画中です。
・団体の認知度が低いために新規入会者が少ないと思われる。認知度を高め、活動内容を市民に周知していただけるよう市の広報等で積極的に紹介していただきたい。
・所得の保障、医療の保障、就労および日中活動の場の保障、文化・娯楽の機会、権利擁護、日常の援助（ケア）の保障の必要性を訴え、よりよい暮らしにつながる活動を重視したい。障害者個々に問題は様々であるが、西宮で暮らしていて良かったと思えるスタイルを作りたい。そのためには協力団体と共に話し合い形にしてほしい。

### 2 サービスや支援の不足、充実を求む点

・公共施設の駐車場代の無料化
・合理的配慮を基に障害者支援を充実していただきたい。
・手話通訳、要約筆記者の派遣を柔軟にしていきたい。
・要約筆記や手話サービスを病院等、公的機関が配置する。
・社会福祉に従事する人の意識の改善と障害者への接し方
・ガイドヘルパー、ホームヘルパーをもっと使いたい。
・精神障害者の就労は増えつつあるが、短時間就労をさらに促進して就労定着率を上げることに協力してほしい。
・自宅に引きこもりの多数の精神障害者に対し、多職種チームによる家庭訪問を実現して欲しい。
・精神障害者に対して、公共交通機関や公共料金等の割引、助成の対象を拡大してほしい。
・下肢障害、内部障害の移動手段への支援を充実してほしい。福祉タクシーやタクシー料金の軽減、利用券の枚数増、利用目的の範囲拡大など。
・事業所の数やヘルパーが不足していること、重度の障害者の受入ができない、送迎がないことにより、サービスが利用できない。（短期入所、生活介護、グループホーム、移動支援、計画相談支援）
・老後、介護保険での入所施設に障害者理解のある事業所があればよい。

### 3 西宮市の障害福祉サービス等の提供の充実の程度とその理由

<ul style="list-style-type: none"><li>・関連のある部署（手当・制度・子供など）がワンストップでつながる手続き</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ほぼ充分だと思う。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・障害の部位により、明らかに福祉サービスに格差ある。見てわかる障害または知名度の高い障害者の意見に引っ張られがちになっている。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・立派な政策（計画）だが、困っている人が多い。市はお金がないから手が回らないというが、日常生活用具、補装具についても高額なので助成額を増やしてほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・精神障害者には、自宅に引きこもり無職の方も多。本人だけではなく家族に長年かかっている過剰の負担を減らす方向で福祉サービス等を考えていただきたいです。まず、経済的な助成における障害間格差を是正し、国に対しては家族ぐるみで精神障害者の生活改善を支援するようにはたらきかけてほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・障害者本人や家族がはたらきかけないと受けられないサービスや制度がある。利用できるサービスを誰にもわかるように知らせてほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・充分ではありません。事業所の不足と職員不足を理由にサービスが受けられません。希望がない訳ではなく、ないので半ば諦めている状況です。</li></ul>

### 4 就労や社会参加で困っている点と必要な支援

<ul style="list-style-type: none"><li>・病気への理解・通院のため休むことへの配慮など</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・聴覚に障害があり、働きたくても働けない人がいる。パソコンができなければ採用してもらえない現実をよく聞く。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・聴覚障害者には手話や要約筆記が必要ということ</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・就労支援について要求していきたい。仕事へ行くときにガイドヘルパーが必要。仕事中に文字を書くサポート、申請書の代筆など。西宮市でも職場での支援をして欲しい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・精神障害者の社会参加は極めて乏しいのが現状です。精神障害の特性から来るものとのみ見られがちですが、地域環境の改善によってもっと参加はできると考えます。教育によって偏見や差別が減少し、そこから地域環境が改善されることを期待します。精神障害教育の充実を市独自に図ってください。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・社会参加については知的障害者、特に重度の人は選択肢が少なく、高齢化した家族や支援者と一緒に参加することが多く、ガイドヘルパーが利用できない場合、参加できないことが多い。地域生活の中で参加できるお稽古などの趣味があればと思う。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・就労に関しては障害のある本人が適切に収入を得ること、配慮の充実を願う。</li></ul>

## 5 相談支援体制の充実の程度と必要な取り組み

<ul style="list-style-type: none"><li>・身体障害者相談員制度があり、当団体からも多くの障害者が委嘱されている。相談員の存在を周知してほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・聴覚障害のことを知らない相談支援者がいるから、聞こえない人はほとんど相談支援施設に行かない。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・相談支援の実態がわからない。当事者が相談に来るといっているのはある。相談場所があれば教えてほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・精神障害者の相談支援は量的にも増やす必要がありますが、支援者の質的な向上が必要です。障害者が何に悩み、何を求めているかをよく知り、本人の自由な意思決定を導くための技量の更なる向上が必要です。そのための研修が必要です。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・まずは相談員を増やし、事業所が経営を苦にされて廃止しているところが多いため、赤字になる要因と解決をしてほしい。高齢化、介護保険への移行・利用時にどのように相談を受けてもらえるのか分かりやすく仕組み作りをしてほしい。</li></ul>

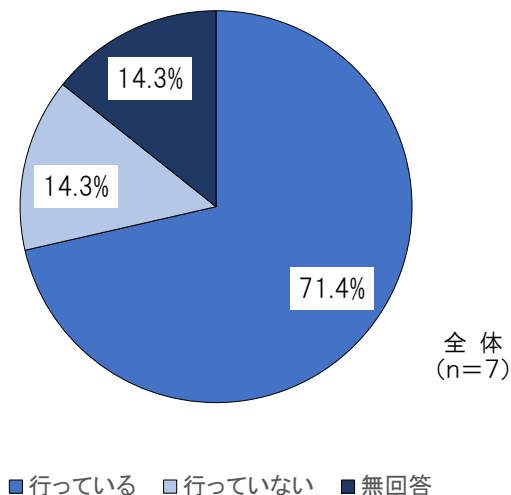
## 6 災害や防災に関して望むこと

<ul style="list-style-type: none"><li>・医療機器のバッテリーの補助金、避難所での配慮（病気の理解が必要）</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・夜間や緊急時の助成、介護の充実</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・アナウンスのみではなく、目で見てわかる災害、防災情報を発信してほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・一人暮らしになった時はどうするのか不安になる。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・災害マップはあるが、いざというときの具体的なマニュアルがない。市に身元確認、安否確認のネットワークがあるので災害時に活用してほしい。1人暮らしの人には民生委員に見回り続けてほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・大災害があった場合、避難所へ避難するとしても、多くの精神障害者は落ち着いてそこに居るのが難しい。何らかの対策が必要です。パーテーションの設置や、介助者としてのスキルのある民生委員やボランティア方の支援の準備が欲しいと思います。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・個人情報の規制があるが、身近な所に障害者が暮らしていることを近隣の人に知っていてほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・福祉避難所の充実、周知。地域での防災意識を高める分かりやすい防災方法を提供願いたい。慣れた場所で暮らし、安心した空間を望む本人達をどのように守るかは日々培い、家族は考えているので、話をよく聞いていただき、一緒に防災に向き合っていきたいと思う。</li></ul>

## 7 他団体との連携有無とその内容

すでに連携を行っている団体が71.4%となっています。

### 他団体との連携の有無



### 具体的な実施内容

・他団体との会合を年4回開催し、FMで番組枠を設けている。
・兵庫県団体、全国団体と情報交換
・年1回、阪神地区7市町の同団体と合同で研修会を開催
・構成団体と連携して活動している。
・あいサポート運動
・行っていないが、課題として感じている。

## 8 連携における課題と連携によって可能となる活動

・例えば聴覚障害の方とコミュニケーションをとりたい場合、聴覚障害者自身が手話通訳や要約筆記を依頼しなければならないが、コミュニケーションの相手である立場からも依頼できる制度がほしい。双方向での依頼があれば活動の幅が広がると思う。
・バリアフリーへの取り組み
・わからない。それぞれの団体のニーズが違う。
・各市町の同団体は、当団体と同様、会員の高齢化などで活動の困難が増えています。地区研修会開催時の広報、同研修会への行政の積極的な参加などで支援が受けられれば有難いです。
・連携すること、できることは常に望むところです。啓発活動を行っておりますが、学校、職場などにかかわらず、どこへでも出動します。

## 9 その他の要望

・活動資金が欲しい。
・西宮市を通じ、国に要望を出してもらったこともあるが、その結果について、その都度ご報告をいただきたい。

---

---

西宮市障害者等実態調査【結果報告書】

発行 西宮市 障害福祉課  
〒662-8567 西宮市六湛寺町 10 番 3 号  
電話 0798-35-3147 FAX 0798-35-5300

発行年月 令和 5 年 8 月

---

---